

白川笹塚遺跡
白岩浦久保遺跡
白岩民部遺跡

北陸新幹線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

2000

群馬県教育委員会
財群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

白川笹塚遺跡
白岩浦久保遺跡
白岩民部遺跡

北陸新幹線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

2000

群馬県教育委員会
群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

序

上越新幹線の東京駅～高崎駅間を經由し、高崎市下小島町から分岐して長野駅まで行く「長野行き新幹線」は、平成9年10月1日に開業しました。同新幹線は、北陸新幹線建設工事の名称のもとに、群馬県では平成2年度から工事が着工されました。工事区域内には、23ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されたため、その発掘調査が当事業団に委託されました。

当事業団では平成3年2月より平成7年9月にかけて、新幹線通過市町村の高崎市、箕郷町、榛名町、安中市において埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施しました。箕郷町で確認された白川笹塚遺跡は平成4年12月1日から6年7月31日にかけて、また榛名町で確認された白岩浦久保遺跡は平成5年10月14日から6年12月18日、白岩民部遺跡は平成5年10月14日から7年3月31日にかけて発掘調査を行いました。3遺跡の調査報告書を刊行するために整理業務は平成9年度から始め、この度それが終了しましたので、3遺跡の報告書を上梓したく存じます。

本報告書には、縄文時代の住居13軒、古墳1基、平安時代の住居5軒、水田等貴重な遺構、出土品資料が報告されています。隣接する白川傘松遺跡、高浜向原遺跡の調査報告書と共に、箕郷町、榛名町の歴史を明らかにする上で大いに活用できる報告書と思います。

本報告書の刊行をもって、白川笹塚、白岩浦久保、白岩民部の3遺跡の発掘・整理の業務は全て終了しました。発掘調査から調査報告書刊行に至るまで日本鉄道建設公団、群馬県教育委員会、箕郷町教育委員会、榛名町教育委員会、地元関係者等には、大変お世話になりました。これら関係者の皆様に、衷心より感謝申し上げます。

平成12年3月24日 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例言

- 1 本書は、北陸新幹線建設事業にともなう事前調査として、日本鉄道建設公団が群馬県教育委員会に委託し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成4年度から平成6年度にかけて発掘調査を実施した遺跡及び北陸新幹線に並行する町道部分の調査についてまとめた報告書である。
- 2 整理事業は平成9年度から3カ年計画で日本鉄道建設公団が群馬県教育委員会に委託し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 3 本報告書の整理期間は、平成9年4月1日から平成12年3月31日である。
- 4 整理関係職員は以下の通りである。

事務担当職員

平成9年度	常務理事	菅沼 清	事務局長	原田恒弘
	管理部長	渡辺 健	総務課長	小淵 淳
	調査研究第一部長	赤山容造	調査研究第3課長	真下高幸
平成10年度	常務理事	菅沼 清	事務局長	赤山容造
	管理部長	渡辺 健	総務課長	坂本敏夫
	調査研究第二部長	神保侑史	調査研究第3課長	真下高幸
平成11年度	理事長	小野宇三郎	常務理事兼事務局長	赤山容造
	管理部長	住谷 進	総務課長	坂本敏夫
	調査研究第一部長	神保侑史	調査研究第2課長	真下高幸

事務担当 笠原秀樹、小山建夫、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、岡島伸昌、片岡徳雄、大友友治、吉田恵子、並木綾子、今井もと子、松井美智代、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子

整理担当 飯塚卓二・下城 正・関根愼二

整理補助員 平野照美・六反田達子・狩野君江・平林照美・堀米弘美・岸 佳子
吉田文子・丸橋富美子・阿久津久子・狩野芳子

- 5 本書の編集は、飯塚卓二・下城 正・関根愼二が担当した。その分担は次の通りである。

平成9年度 飯塚卓二（主幹兼専門員） 遺跡全体の構成、遺構図、写真レイアウト。
遺構原稿、古墳時代の遺物原稿。

平成10年度 下城 正（主幹兼専門員） 石器の整理。石器原稿。

平成11年度 関根愼二（主幹兼専門員） 報告書編集。縄文土器原稿。

執筆分担は、以下の通りである。

第1章1節～4節、第2章1節、第3章1節、第4章1・2節 関根愼二。第2章2節、第3章2節 飯塚卓二。第4章3節 関口美枝。第5章2節 石守 晃。

- 6 旧石器時代の整理・遺物観察を本事業団主任調査研究員関口美枝、人骨の分析を主幹兼専門員石守 晃、陶磁器については主幹兼専門員大西雅広が担当した。
- 7 遺物写真撮影は普及課佐藤元彦が担当した。

- 8 縄文時代土器の実測の一部については、平成9年度に飯塚卓二が原始文化研究所新井和之氏に依頼した。発掘調査時の地層・プラントオパール分析については、株式会社古環境研究所に依頼した。
- 9 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 10 発掘調査にあたっては地元箕郷町をはじめとして、高崎市、安中市、群馬町、榛名町、前橋市等から多くの方々に発掘作業に従事していただいた。
- 11 本書において下記の方々にご協力、ご教授をいただいた。
金子直行 川崎 保 木下哲夫 鈴木徳雄 田口一郎 大工原豊 寺崎裕助 手島美香
土肥 孝 戸田哲也 賛田 明 細田 勝 宮崎朝雄 山下歳信 錦田弘実

凡例

- 1 挿図中に使用した方位は、座標北を表示している。
- 2 本書での遺構番号は発掘調査時から変更した。本書による遺構番号で遺物等は収納してある。
- 3 遺構図に使用したスクリーントーンは焼土・灰を示している。
- 4 遺物の縮尺は、原則として土器は3分の1、それ以外の遺物については図中に記しスケールを掲載した。
- 5 本報告書で使用した地形図は下記の通りである。
国土地理院 地形図 1/25,000 「下室田」
1/200,000 「宇都宮」「長野」

目次

第1章 調査の経緯	1
1節 調査に至る経緯	1
2節 遺跡の名称・調査区の設定	1
3節 発掘調査の経過	2
4節 基本層序	4
第2章 白川笹塚遺跡の調査	8
1節 遺跡の環境と調査の概要	8
2節 発見された遺構と遺物	11
第3章 白岩浦久保遺跡の調査	169
1節 遺跡の環境と調査の概要	169
2節 発見された遺構と遺物	172
第4章 白岩民部遺跡の調査	243
1節 遺跡の環境と調査の概要	243
2節 発見された遺構と遺物	246
3節 旧石器時代の調査	262
第5章 火山灰分析と出土人骨について	340
1節 白岩民部遺跡の火山灰分析	340
2節 白川笹塚遺跡出土人骨について	344

挿図目次

白川警察道課

第1図	基本順序	5
第2図	道跡位置図	6
第3図	周辺道路図	7
第4図	白川警察道跡調査区と周辺の地形	9
第5図	白川警察道跡遺構図	10
第7図	1号住居址・伊	12
第7図	1号住居址出土遺物-1	13
第8図	1号住居址出土遺物-2	14
第9図	2号住居址	16
第10図	2号住居址ビット・伊	17
第11図	2号住居址出土遺物-1	18
第12図	2号住居址出土遺物-2	19
第13図	3号住居址・伊	21
第14図	3号住居址出土遺物-1	22
第15図	3号住居址出土遺物-2	23
第16図	3号住居址出土遺物-3	24
第17図	3号住居址出土遺物-4	25
第18図	3号住居址出土遺物-5	26
第19図	4号住居址	28
第20図	4号住居址伊・埋裏	29
第21図	4号住居址出土遺物-1	30
第22図	4号住居址出土遺物-2	31
第23図	5号住居址	32
第24図	5号住居址出土遺物	33
第25図	6号住居址	35
第26図	6号住居址伊	36
第27図	6号住居址出土遺物	36
第28図	7号住居址・伊	37
第29図	7号住居址出土遺物	38
第30図	8号住居址	40
第31図	8号住居址出土遺物	40
第32図	9号住居址	42
第33図	9号住居址伊・ビット	43
第34図	9号住居址出土遺物-1	44
第35図	9号住居址出土遺物-2	45
第36図	9号住居址出土遺物-3	46
第37図	10号住居址	47
第38図	11号住居址・伊	50
第39図	11号住居址出土遺物-1	51
第40図	11号住居址出土遺物-2	52
第41図	11号住居址出土遺物-3	53
第42図	11号住居址出土遺物-4	54
第43図	11号住居址出土遺物-5	55
第44図	12号住居址	56
第45図	12号住居址出土遺物	57
第46図	13号住居址	59
第47図	13号住居址伊・埋裏	60
第48図	13号住居址出土遺物-1	61
第49図	13号住居址出土遺物-2	62
第50図	13号住居址出土遺物-3	63
第51図	13号住居址出土遺物-4	64
第52図	1～5号土坑	68
第53図	6～20・23号土坑	69
第54図	21・22・24～34・37・51号土坑	70
第55図	35・36・38～46号土坑	71
第56図	47～50・52～60号土坑	72
第57図	61～71号土坑	73
第58図	72～83・88号土坑	74
第59図	84～87・89～95号土坑	75
第60図	96～104号土坑	76
第61図	105～113号土坑	77
第62図	114～120号土坑	78
第63図	121～126号土坑	79
第64図	127～134号土坑	80
第65図	135～144号土坑	81
第66図	145～150号土坑	82
第67図	151～157号土坑	83
第68図	158～162号土坑	84
第69図	163～165号土坑	85
第70図	166～171号土坑	86
第71図	土坑出土遺物-1	90
第72図	土坑出土遺物-2	91
第73図	土坑出土遺物-3	92
第74図	土坑出土遺物-4	93
第75図	土坑出土遺物-5	94
第76図	土坑出土遺物-6	95
第77図	土坑出土遺物-7	96
第78図	土坑出土遺物-8	97
第79図	1号獨立柱礎物趾	98
第80図	1号古墳全体図-1	99
第81図	1号古墳全体図-2	100
第82図	1号古墳石室全体図-3	101
第83図	1号古墳石室セクション・エレベーション図-4	102
第84図	1号古墳石室展開図-5	103
第85図	1号古墳出土遺物-1	104
第86図	1号古墳出土遺物-2	105
第87図	1・2号溝	106
第88図	3・4号溝	107
第89図	5・6号溝	108
第90図	7号溝	109
第91図	道伏遺構	110
第92図	I地区3区ビット群	111
第93図	II地区ビット群	112
第94図	溝・ビット出土遺物	115
第95図	1号集石出土遺物	116
第96図	1号埋設出土遺物	117
第97図	2号埋設出土遺物	117
第98図	3号埋設出土遺物	118
第99図	I地区1区グリッド出土遺物	124
第100図	I地区2区グリッド出土遺物-1	125
第101図	I地区2区グリッド出土遺物-2	126
第102図	I地区2区グリッド出土遺物-3	127
第103図	I地区2区グリッド出土遺物-4	128
第104図	I地区2区グリッド出土遺物-5	129
第105図	I地区3区グリッド出土遺物-1	130
第106図	I地区3区グリッド出土遺物-2	131
第107図	I地区3区グリッド出土遺物-3	132
第108図	I地区3区グリッド出土遺物-4	133
第109図	I地区3区グリッド出土遺物-5	134
第110図	I地区3区グリッド出土遺物-6	135
第111図	I地区3区グリッド出土遺物-7	136
第112図	II地区グリッド出土遺物-1	144
第113図	II地区グリッド出土遺物-2	145
第114図	II地区グリッド出土遺物-3	146
第115図	II地区グリッド出土遺物-4	147
第116図	II地区グリッド出土遺物-5	148
第117図	II地区グリッド出土遺物-6	149
第118図	II地区グリッド出土遺物-7	150
第119図	II地区グリッド出土遺物-8	151
第120図	II地区グリッド出土遺物-9	152
第121図	II地区グリッド出土遺物-10	153
第122図	II地区グリッド出土遺物-11	154
第123図	II地区グリッド出土遺物-12	155
第124図	II地区グリッド出土遺物-13	156
第125図	II地区グリッド出土遺物-14	157
第126図	II地区グリッド出土遺物-15	158
第127図	II地区グリッド出土遺物-16	159
第128図	II地区グリッド出土遺物-17	160
第129図	II地区グリッド出土遺物-18	161
第130図	町道開闢出土遺物-1	164
第131図	町道開闢出土遺物-2	165
第132図	町道開闢出土遺物-3	166
第133図	表探出土遺物-1	167
第134図	表探出土遺物-2	168

白岩溝久保遺跡

第135図	白岩溝久保遺跡と周辺の地形	170
第136図	白岩溝久保遺跡遺構図	171
第137図	1号住居址	172
第138図	1号住居址カマド	173
第139図	1号住居址出土遺物	174
第140図	2号住居址	176
第141図	2号住居址カマド	177
第142図	2号住居址出土遺物-1	178
第143図	2号住居址出土遺物-2	180
第144図	3号住居址	181
第145図	3号住居址カマド・貯蔵穴	182
第146図	3号住居址掘り方	183
第147図	3号住居址出土遺物	184
第148図	3・4号住居址関係図	185
第149図	4号住居址	187
第150図	4号住居址カマド・カマド掘り方	188
第151図	5号住居址遺物出土状況	190
第152図	5号住居址	191
第153図	5号住居址カマド・カマド掘り方	192
第154図	5号住居址出土遺物-1	193
第155図	5号住居址出土遺物-2	194
第156図	1～6号土坑	196
第157図	7～10・12・51号土坑	197
第158図	11・13～17号土坑	198
第159図	18～23号土坑	199
第160図	24～28号土坑	200
第161図	29～34号土坑	201
第162図	35～41号土坑	202
第163図	42～50号土坑	203
第164図	土坑出土遺物-1	207
第165図	土坑出土遺物-2	208
第166図	土坑出土遺物-3	209
第167図	土坑出土遺物-4	210
第168図	土坑出土遺物-5	211
第169図	土坑出土遺物-6	212
第170図	土坑出土遺物-7	213
第171図	土坑出土遺物-8	214
第172図	土坑出土遺物-9	215
第173図	土坑出土遺物-10	216
第174図	1～3号独立柱建物址	218
第175図	耕作痕	219
第176図	1号溝	220
第177図	2号溝	221
第178図	3号溝	222
第179図	4・5号溝	223
第180図	6～9号溝	224
第181図	10～12号溝	225
第182図	溝出土遺物-1	228
第183図	溝出土遺物-2	229
第184図	溝出土遺物-3	230
第185図	グリッド出土遺物-1	235
第186図	グリッド出土遺物-2	236
第187図	グリッド出土遺物-3	237
第188図	グリッド出土遺物-4	238
第189図	グリッド出土遺物-5	239
第190図	グリッド出土遺物-6	240
第191図	グリッド出土遺物-7	241
第192図	グリッド出土遺物-8	242

白岩長部遺跡

第193図	白岩長部遺跡と周辺の地形	244
第194図	白岩長部遺跡と遺構図	245
第195図	1号住居址	247
第196図	1～9号土坑	248
第197図	10～14号土坑	249
第198図	15～20号土坑	250
第199図	21～26号土坑	251
第200図	日軽石水田	252

第201図	日軽石水田セクション・エレベーション図	253
第202図	1～3号溝	254
第203図	3号溝・4号溝	255
第204図	5号溝・4号溝	256
第205図	出土遺物-1	259
第206図	出土遺物-2	260
第207図	出土遺物-3	261
第208図	試掘トレンチ位置図	262
第209図	石堀出土位置図	263
第210図	石堀実測図	263
第211図	ブロック設定図	265
第212図	北壁セクション図	266
第213図	階色帯上面地形推定図	267
第214図	1ブロック 竪横別石堀分布図	269
第215図	2ブロック 竪横別石堀分布図	270
第216図	3ブロック 竪横別石堀分布図	271
第217図	4ブロック 竪横別石堀分布図	271
第218図	5ブロック 竪横別石堀分布図	272
第219図	6ブロック 竪横別石堀分布図	272
第220図	7ブロック 竪横別石堀分布図	273
第221図	8ブロック 竪横別石堀分布図	273
第222図	9ブロック 竪横別石堀分布図	273
第223図	石堀実測図-1	276
第224図	石堀実測図-2	277
第225図	石堀実測図-3	278
第226図	石堀実測図-4	279
第227図	石堀実測図-5	280
第228図	石堀実測図-6	281
第229図	石堀実測図-7	282
第230図	石堀実測図-8	283
第231図	石堀実測図-9	284
第232図	石堀実測図-10	285
第233図	石堀実測図-11	286
第234図	石堀実測図-12	287
第235図	石堀実測図-13	288
第236図	石堀実測図-14	289
第237図	石堀実測図-15	290
第238図	接合資料分布図-1	292
第239図	接合資料分布図-2	293
第240図	接合資料分布図-3	294
第241図	接合資料分布図-4	295
第242図	接合資料分布図-5	296
第243図	接合資料分布図-6	297
第244図	接合資料分布図-7	298
第245図	接合資料分布図-8	299
第246図	接合資料分布図-9	300
第247図	接合資料分布図-10	301
第248図	接合資料分布図-11	302
第249図	接合資料1	304
第250図	接合資料1	305
第251図	接合資料2	306
第252図	接合資料2	307
第253図	接合資料3	308
第254図	接合資料3・4	309
第255図	接合資料5	310
第256図	接合資料6	312
第257図	接合資料6・7	313
第258図	接合資料8	314
第259図	接合資料9・10	316
第260図	接合資料11・12	317
第261図	接合資料12～14	318
第262図	接合資料15	320
第263図	接合資料16～20	321
第264図	接合資料21～28	322
第265図	接合資料29～39	324
第266図	接合資料40	325
第267図	接合資料40・41	326
第268図	接合資料42～45	327

写真図版目次

白川発掘遺跡

- P.L. 1 1・2号住居址
 P.L. 2 2・3号住居址
 P.L. 3 3～5号住居址
 P.L. 4 5・6号住居址
 P.L. 5 7～9号住居址
 P.L. 6 9～11号住居址
 P.L. 7 11～13号住居址
 P.L. 8 13号住居址
 P.L. 9 1～4号土坑
 P.L. 10 5～8号土坑
 P.L. 11 9～11・15・16号土坑
 P.L. 12 12～14・17～20・22・23号土坑
 P.L. 13 21・24～27・37号土坑
 P.L. 14 28～32号土坑
 P.L. 15 33～36・38・39・51号土坑
 P.L. 16 39～42号土坑
 P.L. 17 43～47号土坑
 P.L. 18 47・49・50・52・53号土坑
 P.L. 19 54～59号土坑
 P.L. 20 59～63・79・80・88号土坑
 P.L. 21 63・65～69号土坑
 P.L. 22 68～72号土坑
 P.L. 23 75～78・81・82・87号土坑
 P.L. 24 83～86・89号土坑
 P.L. 25 89～94号土坑
 P.L. 26 95～98号土坑
 P.L. 27 99～106号土坑
 P.L. 28 107～112号土坑
 P.L. 29 113～119号土坑
 P.L. 30 120～124号土坑
 P.L. 31 124～129号土坑
 P.L. 32 130～135号土坑
 P.L. 33 135～139号土坑
 P.L. 34 139～144号土坑
 P.L. 35 145～148号土坑
 P.L. 36 149～150号土坑
 P.L. 37 156～161号土坑
 P.L. 38 161～165号土坑
 P.L. 39 165～168号土坑
 P.L. 40 169～171号土坑
 P.L. 41 1号獨立柱建物址・ビット群
 P.L. 42 1号古墳-1
 P.L. 43 1号古墳-2
 P.L. 44 1号古墳-3
 P.L. 45 1号古墳-4
 P.L. 46 1号古墳-5
 P.L. 47 1・2号溝
 P.L. 48 3・4号溝
 P.L. 49 5～7号溝
 P.L. 50 7号溝・道状遺構
 P.L. 51 1号集石・1～3号埋設土器
 P.L. 52 遺構外
 P.L. 53 1地区1・2区旧石器トレンチ
 P.L. 54 1地区2・3区旧石器トレンチ
 P.L. 55 Ⅱ地区旧石器試掘・トレンチ
 P.L. 56 1号住居址出土遺物
 P.L. 57 2号住居址出土遺物
 P.L. 58 3号住居址出土遺物
 P.L. 59 3号住居址出土遺物
 P.L. 60 3・4号住居址出土遺物
 P.L. 61 4・5号住居址出土遺物
 P.L. 62 6～9号住居址出土遺物
 P.L. 63 9号住居址出土遺物
 P.L. 64 11号住居址出土遺物
 P.L. 65 11号住居址出土遺物
 P.L. 66 11・12号住居址出土遺物

- P.L. 67 13号住居址出土遺物
 P.L. 68 13号住居址出土遺物
 P.L. 69 土坑出土遺物
 P.L. 70 土坑出土遺物
 P.L. 71 土坑出土遺物
 P.L. 72 土坑出土遺物
 P.L. 73 1号古墳出土遺物
 P.L. 74 溝・ビット・1号集石出土遺物
 P.L. 75 1～3号埋設土器
 P.L. 76 1地区1区グリッド出土遺物
 P.L. 77 1地区2区グリッド出土遺物
 P.L. 78 1地区2・3区グリッド出土遺物
 P.L. 79 1地区3区グリッド出土遺物
 P.L. 80 1地区3区グリッド出土遺物
 P.L. 81 1地区3区グリッド出土遺物
 P.L. 82 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 83 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 84 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 85 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 86 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 87 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 88 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 89 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 90 Ⅱ地区グリッド出土遺物
 P.L. 91 町道関係出土遺物
 P.L. 92 町道関係出土遺物・表探遺物
 P.L. 93 表探遺物
 白鹿溝久保遺跡
 P.L. 94 1号住居址
 P.L. 95 1・2号住居址
 P.L. 96 2号住居址
 P.L. 97 2号住居址
 P.L. 98 3号住居址
 P.L. 99 3・4号住居址
 P.L. 100 5号住居址
 P.L. 101 5号住居址
 P.L. 102 1・2号土坑
 P.L. 103 3～7号土坑
 P.L. 104 7～11号土坑
 P.L. 105 11～19号土坑
 P.L. 106 20～26号土坑
 P.L. 107 27～31号土坑
 P.L. 108 31～37号土坑
 P.L. 109 38～44号土坑
 P.L. 110 45～50号土坑
 P.L. 111 1～3号獨立柱建物址
 P.L. 112 耕作痕
 P.L. 113 1号溝
 P.L. 114 2・3号溝
 P.L. 115 5号溝
 P.L. 116 6～9号溝
 P.L. 117 10～12号溝
 P.L. 118 包含層
 P.L. 119 旧石器グリッド・試掘
 P.L. 120 1・2号住居址出土遺物
 P.L. 121 2・3号住居址出土遺物
 P.L. 122 5号住居址出土遺物
 P.L. 123 土坑出土遺物
 P.L. 124 土坑出土遺物
 P.L. 125 土坑出土遺物
 P.L. 126 土坑出土遺物
 P.L. 127 溝出土遺物
 P.L. 128 溝・グリッド出土遺物
 P.L. 129 グリッド出土遺物
 P.L. 130 グリッド出土遺物

- P.L. 131 グリッド出土遺物
 P.L. 132 グリッド出土遺物
 白狐民部遺跡
 P.L. 133 1～4・11・12号土坑
 P.L. 134 15・20～25号土坑
 P.L. 135 25・26号土坑・1号埋設
 4号溝・3・4号道状遺構
 P.L. 136 4・5号溝・3号道状遺構
 B区石下水田
 P.L. 137 B区石下水田
 P.L. 138 B区石下水田
 P.L. 139 B区石下水田・町道試掘
 P.L. 140 町道・B区・2区・調査区
 P.L. 141 出土遺物
 P.L. 142 出土遺物
 P.L. 143 第1・Ⅱ文化層
 P.L. 144 第Ⅱ文化層石器出土状況
 P.L. 145 石器-1
 P.L. 146 石器-2
 P.L. 147 石器-3
 P.L. 148 石器-4
 P.L. 149 石器-5
 P.L. 150 石器-6
 P.L. 151 石器-7
 P.L. 152 石器-8
 P.L. 153 石器-9
 P.L. 154 石器-10
 P.L. 155 石器-11
 P.L. 156 石器-12
 P.L. 157 石器-13
 P.L. 158 石器-14
 P.L. 159 石器-15
 P.L. 160 接合資料1
 P.L. 161 接合資料1
 P.L. 162 接合資料2
 P.L. 163 接合資料2
 P.L. 164 接合資料3
 P.L. 165 接合資料3・4
 P.L. 166 接合資料5
 P.L. 167 接合資料6
 P.L. 168 接合資料6・7
 P.L. 169 接合資料8
 P.L. 170 接合資料9・10
 P.L. 171 接合資料11・12
 P.L. 172 接合資料12～14
 P.L. 173 接合資料15
 P.L. 174 接合資料16～20
 P.L. 175 接合資料21～28
 P.L. 176 接合資料29～39
 P.L. 177 接合資料40
 P.L. 178 接合資料40・41
 P.L. 179 接合資料42～45
 P.L. 180 白川坂厚遺跡168-169号土坑人骨

第1章 調査の経緯

1節 調査に至る経緯

北陸新幹線の発掘調査に至る経緯は、「行力春名社遺跡—北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1集」に詳しいので、詳細はこれを参照していただきたい。

群馬県埋蔵文化財調査事業団が直接の発掘調査事業に関わるのは、平成3年2月の高崎市行力春名社遺跡を端緒として、平成7年10月の下芝五反田遺跡まで続くのである。

平成3年には、冬季長野オリンピックの開催も正式となり、北陸新幹線の開業が待たれるようになった。平成4年になると、冬季オリンピック開催前の新幹線開通に向けて事業が進められていくようになった。そのため、用地買収が済み調査の開始できる部分から調査するという、こと発掘調査に関しては、何ともやりにくい状況で遺跡を部分的に調査するようになったのである。一つの遺跡を虫食い状態で、担当も入れ替わりながらの調査となった。そのため、遺跡全体としての統一的な調査方法を採用しながらも調査の引継の間に時間的なブランクのため、調査の齟齬をきたしてしまったという弊害が認められた。

2節 遺跡の名称・調査区の設定

白川笹塚・白岩浦久保・白岩民部遺跡は、群馬郡箕郷町・榛名町に所在する。遺跡名称は、群馬県埋蔵文化財調査事業団でおこなっている遺跡命名の慣例に従い大字、小字名から遺跡名称とした。遺跡調査範囲は、北陸新幹線起点（高崎駅）距離程で白川笹塚遺跡9.85～10.12km、白岩浦久保遺跡10.12～10.37km、白岩民部遺跡10.39～10.83kmの区間の工事に関わる範囲を調査対象とした。

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査事業では、発掘調査に先立ち事業に関連する各遺跡に略号を附すこととした。遺跡の略号によって、調査・整理の効率化と同一事業における遺跡間の位置関係を明確にすることを目的としている。

略号は、事業名称についてはローマ字表記の「HS（HOKURIKU SINKANSEN）」、遺跡名称については、3桁の数字によって示した。各桁の数字は、次の通りである。

3桁目 遺跡所在地市町村とし、高崎市……0、箕郷町……1、榛名町……2、安中市……3で表記する。

2桁目 調査対象遺跡を同一市町村内毎に起点の高崎駅から安中市に向かって1、2、3と附した。

1桁目 既存の調査対象遺跡には0を附し、事業開始後に遺跡が分割されたり、あるいは確定していた遺跡間に新たに遺跡と認定された場合に、調査開始順に1、2、3と附していくこととした。

以上の規則により、白川笹塚遺跡は「HS140」、白岩浦久保遺跡は「HS210」、白岩民部遺跡は「HS220」の略号が附された。

遺跡内の測量座標及び基本杭は、国家座標により設定した。国家座標による設定は、北陸新幹線建設に伴う発掘事業全体を通してのものである。この国家座標を基に各遺跡についてグリッドを設定した。グリッドの設定方法については、「行力春名社遺跡—北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第1集」（群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第183集 1994）に詳細が掲載されているので概略を記す。

本事業全体の区画設定にあたっては発掘調査対象地全体を覆うように1km四方の大グリッドを設定した。

第1章 調査の経緯

これは、北陸新幹線の起点である高崎駅の南東、国家座標 $X = +35.000\text{km}$ ・ $Y = -73.000\text{km}$ を起点とし北陸新幹線の路線に沿い高崎から安中方面に向けて、1km四方の枠を順次25ヶ所設定した。これを「地区」(大区画)と呼称する。なお、使用した国家座標は第IX系である。白川笹塚遺跡は大14区、白岩浦久保遺跡は大14、15区、白岩民部遺跡は大15、16区に入る。

次に大区画の1km四方を一辺100m四方の区画に100等分し、これを「区」(中区画)と命名した。この「区」は、各地区の東南隅を基準とし、東から西を優先し、南から北の順に1区～100区までを設定した。

さらに、この100m四方の中グリッドを、一辺5mの小グリッドで区切り、各グリッドラインのX軸をアルファベットを用い東から西にA～T、Y軸には数字を用い南から北に1～20とした。小グリッド南東隅の交点をA-1からT-20グリッドと呼称することとした。

3節 発掘調査の経過

本報告の三遺跡については、複数年度にわたり調査がおこなわれた。そのため調査担当者も多く遺跡を部分的に調査することとなった。以下に発掘担当者や調査地区について概要を記す。

白川笹塚遺跡

☆ 第一次調査 調査担当 洞口正史、徳江秀夫、南貴芳昭

調査期間 平成4年12月1日～平成5年3月31日

12月 白川傘松遺跡担当者による事前の表土掘削により、遺構確認を行う。近・現代の溝を検出。

1月 倒木痕・縄文時代土坑・古墳の調査。下旬 旧石器の試掘調査。

2月 前月に引き続き旧石器試掘調査。古墳周囲の調査。中旬 2区古墳石室調査。

3月 古墳調査。縄文包含層調査。下旬 古墳調査終了。

☆ 第二次調査 調査担当 岩崎泰一、津島秀章、中東耕志、洞口正史、大竹正隆

調査期間 平成5年4月1日～平成5年6月30日

4月 2区縄文包含層調査。3区B軽石面確認。近・現代のイモ穴調査。3区道路上遺構調査。

5月 I・II区風倒木痕調査。II・III区浅間C軽石層混じり黒色土を掘削・縄文時代以降確認作業。
II区旧石器試掘調査。III区縄文時代遺物取り上げ。

6月 3区住居址・土坑・風倒木等調査。3区旧石器調査。

☆ 第三次調査 調査担当 相京建史、池田政志、小林裕二、井川達雄、麻生敏隆、飯塚卓二

調査期間 平成5年10月1日～平成5年11月29日

10月 西側斜面部調査始める。縄文時代住居址・土坑調査。町道下調査始める。

11月 縄文時代住居址・土坑調査。下旬 旧石器試掘調査始める。

☆ 第四次調査 調査担当 岩崎泰一、津島秀章、大竹正隆

調査期間 平成6年4月1日～平成6年7月31日

4月 白岩浦久保遺跡と並行して調査を始める。距離程10.15kmから西側部分表土掘削。遺構確認。

5～6月 中・近世の遺構調査。江戸時代の墓坑、縄文時代遺構調査。

7月 旧石器試掘。

白岩浦久保遺跡

☆ 第一次調査 調査担当 松田 猛、関根慎二、山本光明

調査期間 平成5年10月14日～平成5年12月27日

10～11月 遺跡西側部分調査。縄文時代土坑・奈良時代住居址等調査。

12月 旧石器試掘。

☆ 第二次調査 調査担当 岩崎泰一、津島秀章、大竹正隆

調査期間 平成6年4月1日～平成6年7月31日

4～5月 白川笹塚遺跡と並行して表土掘削。遺構確認。溝、道路状遺構、古墳時代後期の住居址調査。

7月 旧石器試掘。

☆ 第三次調査 調査担当 岩崎泰一、津島秀章、大竹正隆

調査期間 平成6年9月29日～平成6年12月18日

10～11月 表土掘削。遺構確認。古墳時代後期住居址。縄文時代土坑調査。

12月 旧石器試掘。

白岩民部遺跡

☆ 第一次調査 調査担当 木津博明、飯森康広、橋本 淳

調査期間 平成5年10月14日～平成5年10月19日

10月 遺構確認のための試掘調査。B軽石下水田を確認。

☆ 第二次調査 調査担当 松田 猛、関根慎二、山本光明

調査期間 平成5年11月9日～平成5年12月27日

11月 白岩浦久保遺跡と並行して、調査を始める。平安時代のB軽石下水田調査。

12月 平安時代のB軽石下水田調査。B軽石下水田下を試掘。

☆ 第三次調査 調査担当 木津博明、岩崎泰一、飯森康広、大竹正隆、追川佳子

調査期間 平成6年7月1日～平成7年3月31日

7月 表土掘削。遺構確認。

8～10月 1区旧石器試掘開始。2区溝調査。

11月 D区表土掘削。遺構確認。D区溝調査。

12月 C区表土掘削。土坑調査。D区風倒木調査。下旬 D区旧石器試掘。

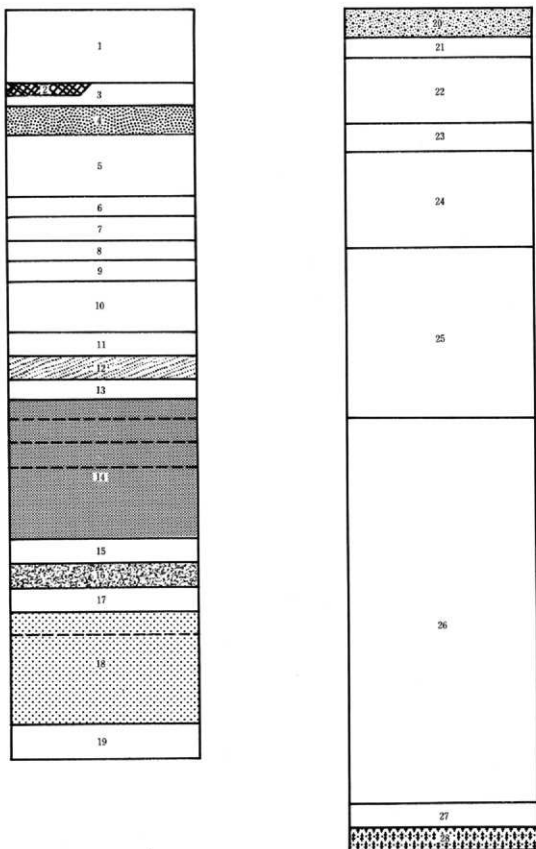
1月 C・D区旧石器試掘。中旬 C・D区旧石器調査。

2～3月 B区旧石器調査。

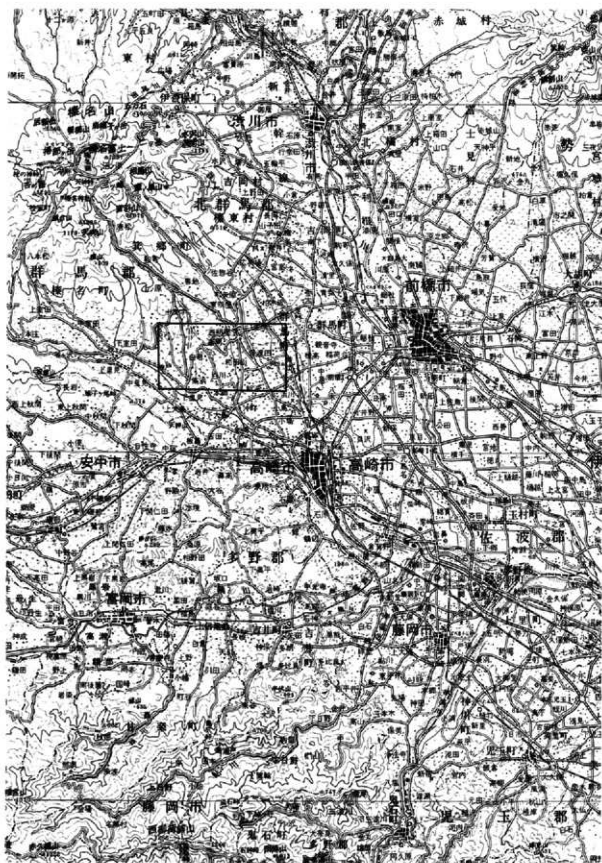
4節 基本層序

本遺跡群は、樺名山麓にある扇状地が展開し、丘陵と小河川などの浸食による開析谷を含む地域である。堆積状況の違いから谷地部分と丘陵上の堆積土層は、異なる部分が認められる。谷地部分では、歴史時代以後の遺構の確認のみで、それ以前の遺構・遺物については、ローム層の堆積している丘陵上で発見されている。そのため基本的な層序は、旧石器遺物の発見されている白川民部遺跡を代表として示すこととする。

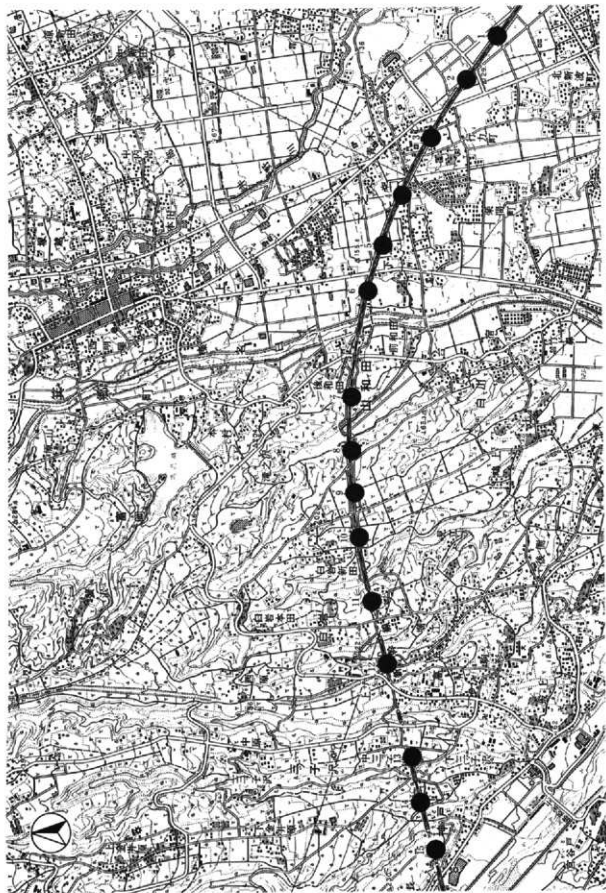
- 1層 表土。
- 2層 As-A層 (1783年浅間山噴火による火山灰)。
- 3層 黒色土 中近世遺構の文化層。
- 4層 As-B層 (1108年浅間山噴火による火山灰)。
- 5層 黒色土。As-C軽石を含む。
- 6層 黒色土。As-C混じり黒色土と淡色黒ボク土の漸移層。
- 7層 淡色黒ボク土。
- 8層 黒ボク土。
- 9層 ローム漸移層。
- 10層 ソフトローム層。
- 11層 ハードローム層。
- 12層 As-Y P層 (浅間一板鼻黄色軽石層)。
- 13層 a 軟質ローム層。
b As-Sr (浅間一白糸軽石) 混入のローム層。
c 灰褐色ローム層。
- 14層 As-B P層 (板鼻黄褐色)。
- 15層 B PとMPの間層。
- 16層 As-MP (室田軽石)。
- 17層 ローム層間層。
- 18層 暗色帯。
- 19層 ローム層。
- 20層 火砕流堆積物 (標名八崎軽石Ag-H Pによる)。
- 21層 ローム層。
- 22層 暗褐色土。
- 23層 ローム層。
- 24層 粘土化した固くしまっている層。
- 25層 粘土化した固くしまっている層。
- 26層 粘土化した固くしまっている層。
- 27層 水を大量に含む白色粒 ($\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$)、黒色粒 ($\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$) を多量に含む。
- 28層 YoP. 2 (横川第2テフラ: 130,000年前)。



第1図 基本層序



第2図 遺跡位置図



1. 赤川高田道線 2. 赤川長町道線 3. 行方香名社道線 4. 下芝五反田道線 5. 下芝天神道線
6. 下芝上田原道線 7. 和田山天神前道線 8. 白川津の道線 9. 白川津塚道線 10. 白村津久保道線
11. 白岩尾原道線 12. 高橋広神道線 13. 高衣向原道線 14. 三ツ子中道線 15. 南戸宮山道線

第3図 周辺道線図

第2章 白川笹塚遺跡の調査

1節 遺跡の環境と調査の概要

1 遺跡の立地

標名山は、標高1,449mを誇る裾岳を最高峰に抱く複合成層火山で、標高400m前後を境に傾斜を緩め大きくすそ野を広げ扇状地が展開している。山麓の東には火山活動による土石流、火砕流による扇状地が広がるほか、標名白川と烏川にまたがる南東麓には典型的な丘陵性台地が発達している。本遺跡は、その一つの丘陵に立地しており、遺跡の両端には、やや深い谷が南北に延びて境界としている。遺跡の標高は、190m付近を頂部として両端の谷とは、約15mの比高差を測る。遺跡の中央部を南北に走る町道により行政上、箕郷町と標名町に分割されているが遺跡としては同一のものとして捉えている。

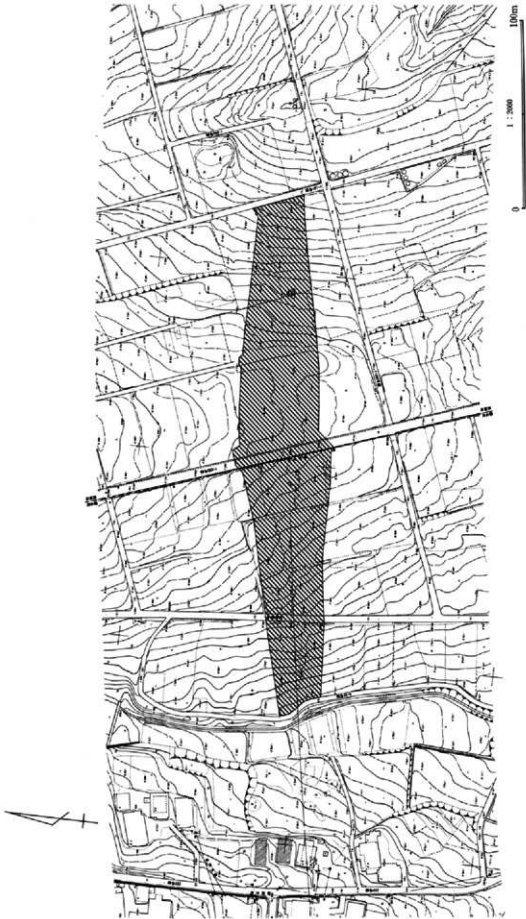
2 調査の概要

遺構分布 本遺跡からは、縄文時代、古墳、近世を主とした遺構が検出されている。縄文時代の住居址は、前期中葉3軒、中期中葉2軒、中期後葉8軒が確認されている。住居は、丘陵頂部の比較的平坦な所から南西側斜面に集中する傾向にある。土坑は、住居のある周辺に分布する傾向を示す。谷を挟んで東隣の白川傘松遺跡では、比較的大規模な集落が作られている。土器型式で数世代連続された集落で、台地の縁辺部に住居址を作りその内側に土坑が展開する様子を示したのに対して、本遺跡の縄文時代集落は、継続期間の短いものである。そのため遺構の分布が散発的で白川傘松遺跡に比べ集落としての形態が整わない規模の小さいものとなっている。住居址の形態や特徴については、2節に譲るが丘陵頂部の土層堆積が比較的薄いため掘り込みがはっきり確認されたものが少なく、柱穴列や炉址により住居址と認定したものがあつた。土坑は、円形に近い形のものも多く出土遺物も小片が多いことから、墓穴より貯蔵穴としての利用が考えられる。

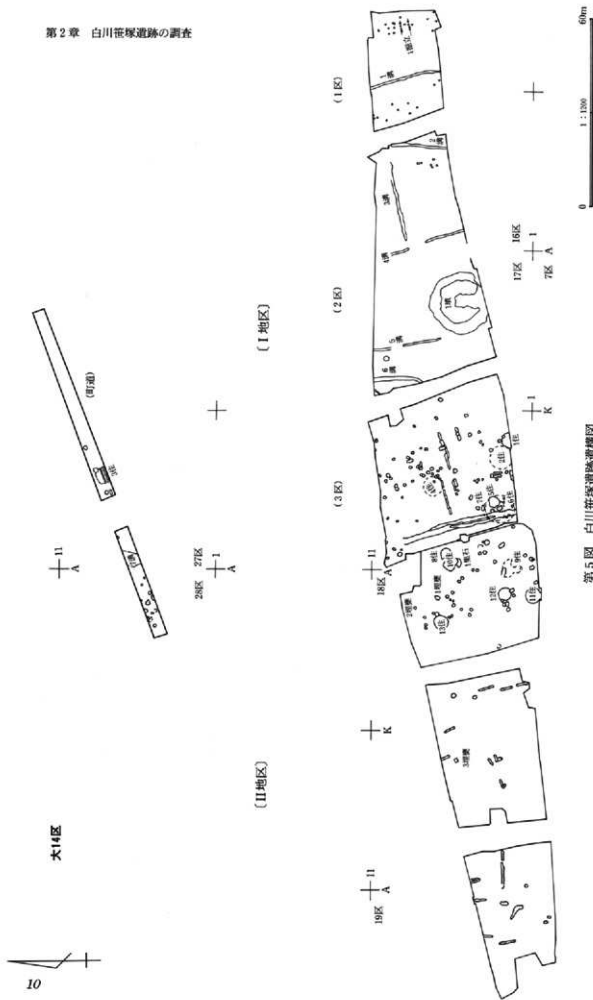
古墳は、西側斜面に小円墳1基が確認されている。周辺に小円墳による古墳群が作られていたうちの1基であるが、近世の開墾により消滅したものがあつた。近世の土坑は、耕作のための長方形のイモ穴や貯蔵のための土坑で西側斜面に分布している。このことから、近世には、遺跡を含む周辺は、農耕地であることが伺い知れる。

土層の堆積状況 現地表から縄文時代の遺構確認面までの堆積層が薄いため、現代の耕作による攪乱を多く受けている。浅間A・B・C軽石は混じり合った状態であった。また、台地中央部は黒色土の堆積自体が少ないため掘り込みの浅い住居については、覆土がローム漸移層になっており遺構と地山との区別が困難なものもあつた。調査地の東側では、比較的緩やかな傾斜面になっており、黒色土が深く堆積している。そのため、古墳が検出された周辺では、浅間B軽石の堆積が確認された。

遺物出土状況 縄文時代遺物については、遺跡の立地する丘陵頂部では、遺構の残存状況が悪く土器などの小破片となり原位置を止めているものが少ない。西側斜面にある住居址については、比較的遺構内の遺物として認定されたものがあつた。また、包含層から出土している土器についても東側斜面より西側斜面に多く出土している。古墳前庭部からは、須臾器が出土している。その他、近世のイモ穴や溝から陶磁器類の破片が僅かであるが出土している。



第4図 白川郷遺跡調査区と周辺の地形



第5図 白川笹塚遺跡構図

2節 発見された遺構と遺物

1 住居址と遺物

1号住居址（6図 PL1）

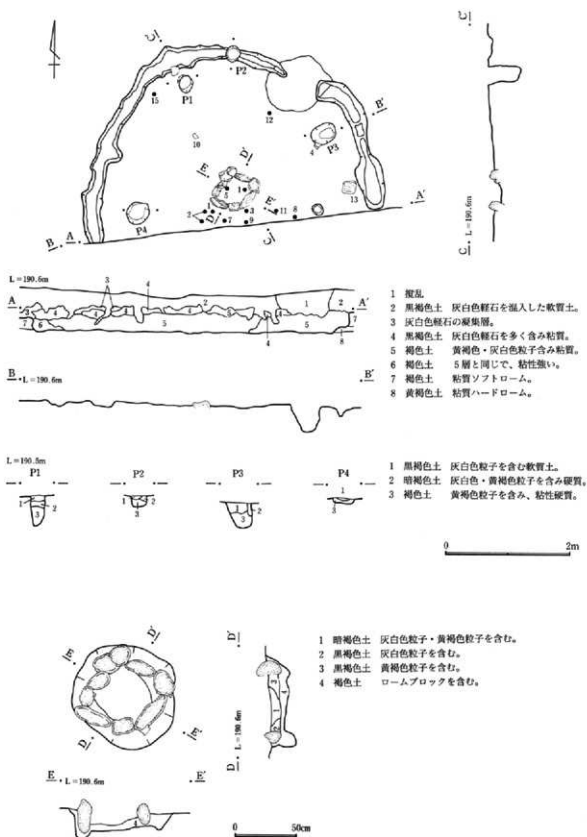
地山と住居埋没土の識別が困難であったため、床面付近での確認である。壁周溝の形態からすると、平面形は円形であると考えられる。なお、住居南側部分の半分弱が調査区域外である。

床面は若干凹凸が存在するものの、概して平坦である。床面に掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。壁周溝は幅約30cm、深さ10cm前後であるが、底面にはかなりの凹凸がある。柱穴の可能性のあるピットは4基発見されている。そのうちの1基については壁周溝上である。また南側調査区境界壁近く、住居中央部と東側壁周溝とのほぼ中間にもピットが1基存在する。このピットは、直径18cm、深さ7cmの小規模なものである。

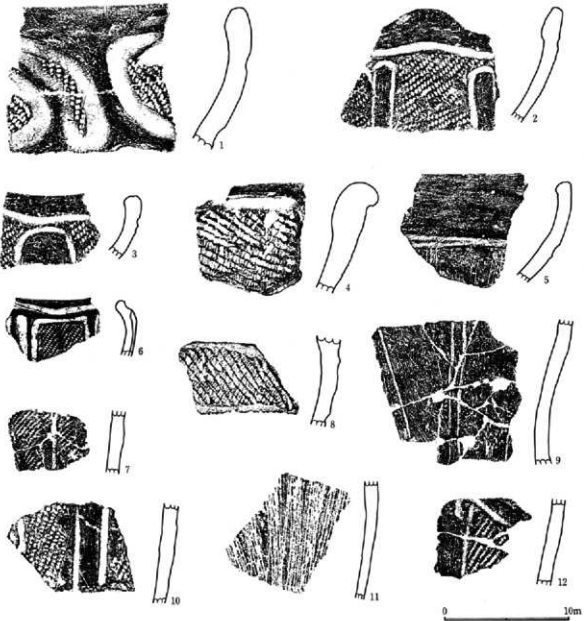
炉は、石組炉である。直径80cm前後、深さ10～15cmの深さの掘り込みを設け、この中に河原石を円形に並べて炉が造られている。なお炉石には石皿、磨石等に使用されたと思われる石の破片も存在する。

1号住居址出土土器観察表（7図 PL58）

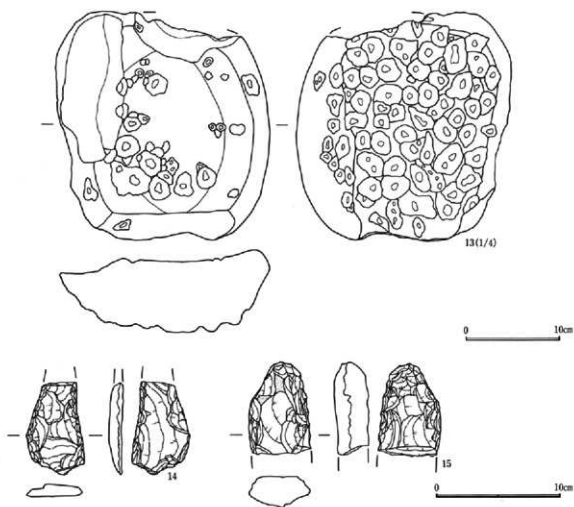
番号	種類・形	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	ぶい黄褐色	10YR	φ2～5mmの小石、費母が多い、φ3～5mmの小石、費母	普通 不良	RL縦位施文。隆帯と沈線による楕円区画。LR横位施文。口縁部横方向のナデ。太さ8mmの沈線による横位の区画線。胴部は太さ6mmの沈線による区画線。
3	深鉢	ぶい黄褐色	10YR	φ3～5mmの小石、費母	不良	2と同一個体。
4	深鉢	ぶい黄褐色	10YR	白色砂粒	良	RL縦位施文。口縁部に太い隆帯と沈線による区画。
5	深鉢	ぶい赤褐色	2.5YR	φ3～5mmの小石	良	口縁部無文、横位のナデ。凹線による横位の区画。胴部は縦位の条線。
6	深鉢	ぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒	良	RL縦位施文。太さ5mmの隆帯で文様帯を区画する。
7	深鉢	赤褐色	5YR	φ1～3mmの小石	良	太さ6mmの沈線が縦位に施文される。
8	深鉢	灰黄褐色	10YR	細かい砂粒	普通	RL縦位施文。太さ6mmの沈線で文様区画。
9	深鉢	ぶい褐色	7.5YR	細かい砂粒	普通	地文は細かい条線。縦位に太さ3mmの沈線が2本対になり区画する。
10	深鉢	ぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒	良	RL縦位施文。太さ8mmの浅い沈線を2本対にして縦位の区画線を作る。
11	深鉢	ぶい褐色	7.5YR	φ1～3mmの白色の小石、費母	良	細かい条線を地文に持つ。
12	深鉢	明黄褐色	10YR	細かい砂粒	不良	RL縦位施文。太さ6mmの沈線で文様区画。



第6図 1号住居址・跡



第7図 1号住居址出土遺物-1



第8図 1号住居址出土遺物-2

1号住居址出土石器観察表(8図 PL56)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
13	多孔石	粗粒輝石 安山岩	一部欠損	24.2	22.7	8.6	4400	不整形円形の河原石を使用。片面使用の石皿を転用。表面は側縁部に沿って凹みが連続する。裏面は全面に凹みがある。
14	打製石片	細粒輝石 安山岩	基部欠損	7.3	4.6	1.1	38.7	薄身でやや楕形をなす。刃部は丸く使用により割れている。
15	打製石片	硬質泥岩	刃部欠損	7.3	4.9	2.8	133.3	形態は不明であるが厚身で基部は丸い。僅かに自然面を残す。

2号住居址(9・10図 P L 1)

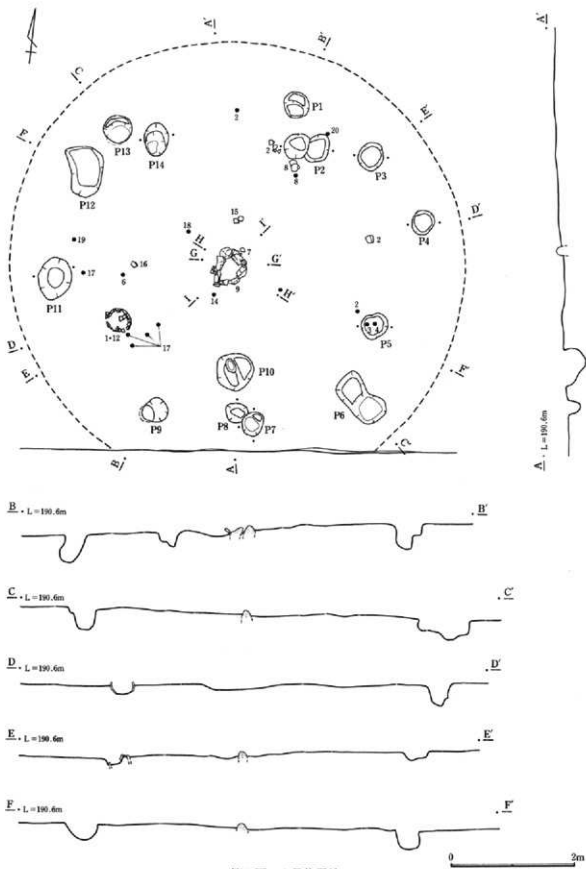
地山と住居埋没土との識別が困難であったため、床面付近での確認である。柱穴と推定されるピットの位置関係から平面形は円形と考えられ、住居南側の一部は調査区域外へと延びているものと思われる。なお推定による住居の規模は、直径7.5mである。

床面については、住居中央付近を除いて明確ではなく、床面位置を確認できた範囲を破線で示した。また床に掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。ピットについては、その存在する位置から柱穴が多くを占めると考えられる。ピットの規模については、直径、深さも30～45cmのものが多い。

炉は石組炉であり、内径約30cmである。炉内に焼土は残されていなかった。石組炉は、約1.5m×1m、深さ約25cmの掘り方内に造られているが、この掘り方は石組に比べてはるかに大きい。この掘り方が石組炉の掘り方であるのか、あるいは他の土坑が含まれているのかについては確認出来なかった。

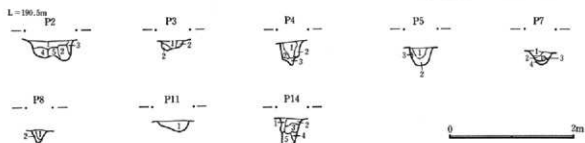
2号住居址出土土器観察表(11・12図 P L 57)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1～5mmの白色小石、雲母	良	RL縦位施文。二単位の橋状把手。口縁部横文、横位のミガキ。太さ8mmの沈線で胴部文様を描く。
2	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	良	LR縦位施文。口縁部は太さ8mmの沈線と沈線で楕円区画を作る。胴部は沈線による「U」字状の文様。口縁部にスス付着。
3	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	良	LR横位施文。口縁部を太さ10mmの沈線で楕円区画する。
4	深鉢	黒褐	10YR	細かい砂粒	良	RLを横・縦に施文。太さ6mmの沈線で口縁部を楕円区画する。
5	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	Lr縦位施文。隆線で渦巻を描く。
6	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	普通	RL縦位施文。太さ5mmの沈線を渦巻状に施文する。
7	深鉢	明赤褐	5YR	φ1～3mmの小石・軽石粒、雲母	不良	LR縦位施文。太さ5～6mmの沈線を2本対にして縦位の区画を作る。
8	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	LR縦位施文。太さ8mmの沈線を2本対にして縦位の区画を作る。
9	深鉢	黒褐	5YR	φ2～5mmの小石、雲母	良	前段に太さの異なる原体で単施RLを作り、縦位に施文。太さ6～8mmの沈線を2本対にして縦位の区画を作る。
10	深鉢	明黄褐	10YR	細かい砂粒、雲母	不良	RL縦位施文。太さ6mmの沈線2本を対にして縦位の区画を作る。
11	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ2～5mmの小石、砂粒、雲母	普通	LRを斜位に施文。太さ5mmの沈線で縦位区画。
12	深鉢	灰褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	LR縦位施文。太さ6～8mmの沈線を2本対にして縦位の区画を作る。
13	深鉢	にぶい黄褐	7.5YR	φ1～3mmの砂粒、雲母	普通	LR縦位施文。太さ5～7mmの沈線を2本対にして縦位の区画を作る。
14	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	良	巾10mmに6本の条線で波状に施文。
15	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	条線を地文にする。
16	深鉢	橙	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	LR縦位施文。太さ5～7mmの沈線を2本対にして縦位の区画を作る。
17	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	RLを横位施文。太さ5mmの沈線で縦位の区画を作る。

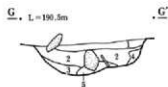
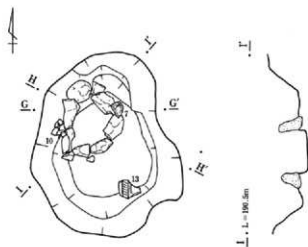


第9図 2号住居址

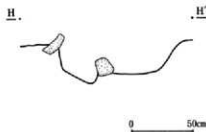
2節 発見された遺構と遺物



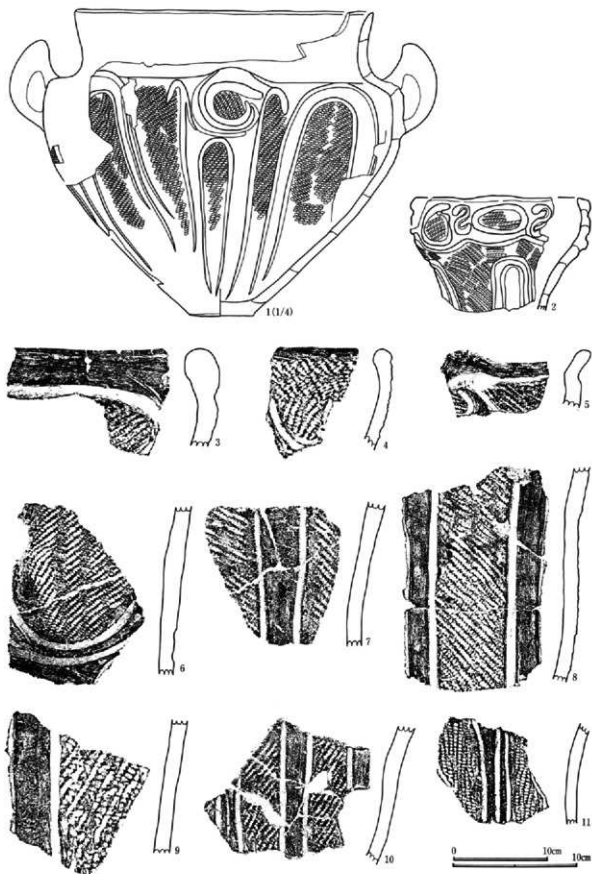
- 1 暗褐色土 灰褐色粒子を含む軟質土。
- 2 暗褐色土 灰白色・黄褐色粒子を含む。粘性・硬質。
- 3 暗褐色土 2層に類似、やや褐色を帯びる
- 4 褐色土 ロームと黒色土の混合層。粘質・硬質。
- 5 褐色土 灰白色粒・ローム粒を含む。粘性・硬質。



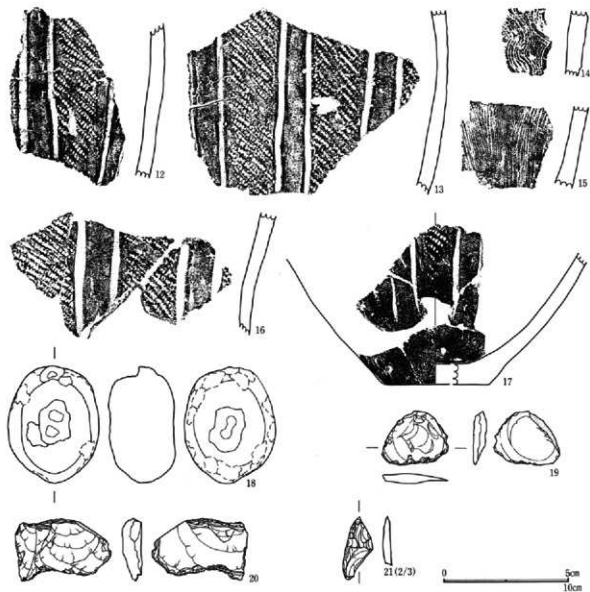
- 1 黒褐色土 灰白色粒子を含む硬質土。
- 2 黒褐色土 灰白色粒子・ローム粒を含む硬質土。
- 3 黒褐色土 灰白色粒子を含む硬質土。
- 4 黒褐色土 YPを多量に含む硬質土。
- 5 黒褐色土 灰白色粒子・黄白色粒子を含む粘性硬質土。



第10図 2号住居址ピット・炉



第11図 2号住居址出土遺物-1



第12図 2号住居址出土遺物-2

2号住居址出土石器観察表 (12図 P L 57)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
18	凹石	粗粒輝石安山岩	完存	9.2	7.3	5.3	410	精円形の河原石を使用。表裏面には2個ずつの浅い凹み、側縁部全周に敲打痕。
19	ステレイパー	黒色安山岩	完存	4.2	5.2	1.0	19.0	底辺に両面からの剝離により刃部を作る。
20	ステレイパー	黒色頁岩	完存	4.9	7.6	1.5	41.0	底辺に両面からの剝離による刃部を作る。
21	石鏃	黒色頁岩	完存	2.5	1.1	0.3	1.0	無茎鏃で基部に挿入がある。

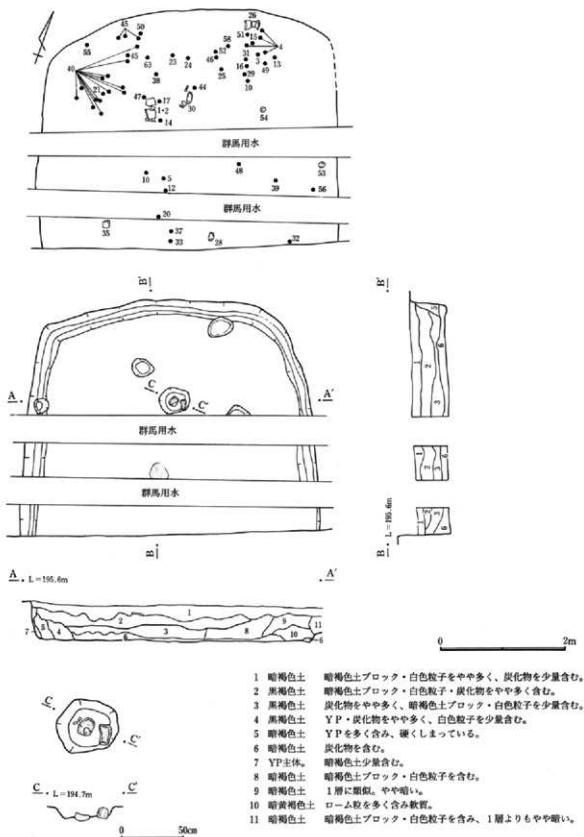
第2章 白川笹塚道路の調査

3号住居址 (13図 P L 2・3)

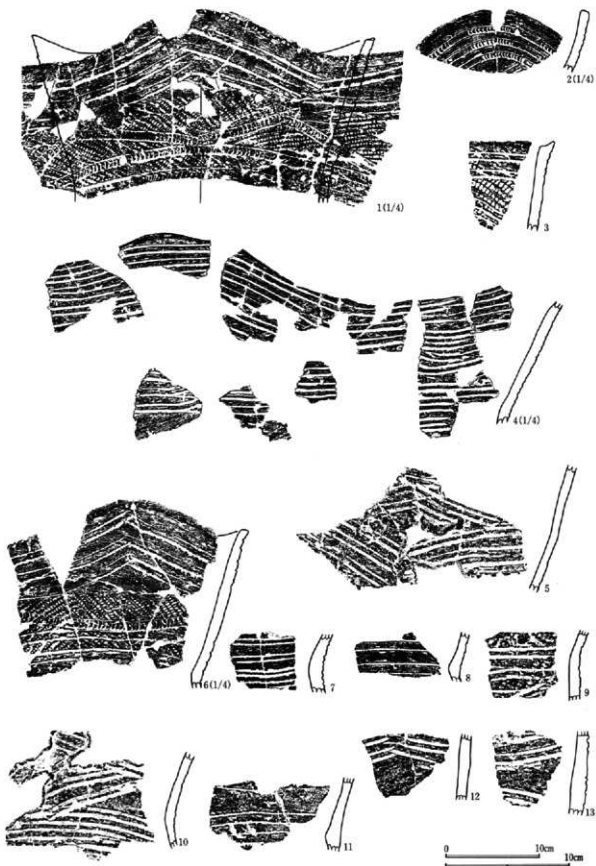
住居は2本の用水路によって削られ、南側部分は調査区域外となっている。住居の平面形については、検出された部分から隅丸方形と推定される。床面は平坦でよく踏み固められている。床に掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。東壁の南寄りを除いて壁周溝がある。壁周溝は幅20～30cm、深さ約4cmである。

3号住居址出土土器観察表 (14～16図 P L 58・59)

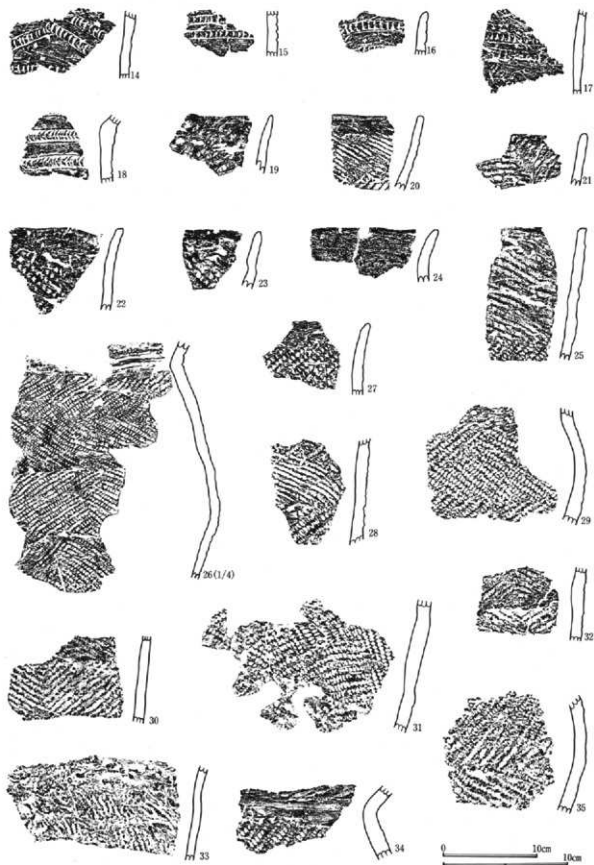
番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	灰黄	2.5YR	φ1～2mmの小石、織維	不良	RL・LRの羽状縄文。巾10mmの平行沈線と爪形で口縁部に変形の文様を描く。
2	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、織維	良	巾7mmの平行沈線に連続爪形文を交互施文。
3	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒、織維	良	RL横位施文。巾7mmの平行沈線で三角形を描く。
4	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1～2mmの小石、織維	普通	巾10mmの平行沈線で口縁に沿って施文。
5	深鉢	橙	7.5YR	φ1～2mmの砂粒、織維	不良	巾8mmの平行沈線で変形を描く。
6	深鉢	灰黄	2.5YR	φ1～3mmの小石、軽石粒、織維	不良	LR・RL横位施文の羽状縄文。巾10mmの並行沈線で口縁部に山形の文様を描く。
7	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1～2mmの小石、織維	不良	巾6mmの平行沈線を横位に施文。
8	深鉢	暗褐	10YR	φ1～3mmの小石、織維	普通	巾9mmの平行沈線を横位に施文。
9	深鉢	橙	5YR	φ1～2mmの小石、織維	不良	巾8mmの平行沈線を横位に施文。
10	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1～2mmの小石、織維	普通	巾10mmの平行沈線で変形を描く。
11	深鉢	明褐	7.5YR	φ2～3mmの小石、織維	普通	巾10mmの平行沈線。
12	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒、織維	普通	巾8mmの平行沈線。
13	深鉢	黄灰	2.5YR	φ1～2mmの小石、織維	普通	巾9mmの平行沈線に三角形に施文。
14	深鉢	橙	5YR	細かい砂粒、織維	普通	巾10mmの平行沈線に垂直に爪形文を施文。
15	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、織維	良	巾7mmの平行沈線に爪形文を施文。
16	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、織維	普通	巾9mmの平行沈線と爪形文を描く。
17	深鉢	橙	7.5YR	細かい砂粒、織維	普通	巾9mmの平行沈線に垂直に爪形文を施文。
18	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、織維	良	巾10mmの平行沈線に爪形文を施文。
19	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	普通	Lr横位施文。
20	深鉢	黒褐	10YR	細かい砂粒、織維	良	RLとLrの羽状縄文。
21	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、織維	普通	Lr横位施文。
22	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	良	RLの縄文。
23	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、織維	良	R横位施文。
24	深鉢	暗褐	10YR	細かい砂粒、織維	普通	無文。
25	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、織維	普通	RlとLRの羽状縄文。
26	深鉢	灰褐	2YR	φ1～3mmの小石、織維	不良	RL・LRの羽状縄文。頸部に巾8mmの平行沈線が走る。
27	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	普通	Lr横位施文。
28	深鉢	橙	2.5YR	細かい砂粒、織維	普通	Rlと0段多条のRLで羽状縄文を施文。
29	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、織維	普通	0段多条のRLとLRの羽状縄文。
30	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、織維	普通	RL・LRの羽状縄文。
31	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	良	RL・LRの羽状縄文。
32	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	普通	Rl・Lrの羽状縄文。
33	深鉢	橙	7.5YR	細かい砂粒、織維	良	RL横位施文。
34	深鉢	褐	7.5YR	細かい砂粒、織維	良	0段多条のRLを施文。
35	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	普通	RL・LRの羽状縄文。
36	深鉢	明赤褐	5YR	φ1～2mmの小石、織維	普通	RL・LRの羽状縄文。
37	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	普通	Lrの縄文、横位施文。スス付着。
38	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、織維	普通	Lrの縄文、横位施文。
39	深鉢	にぶい黄	2.5YR	細かい砂粒、織維	普通	Lr・Rlの羽状縄文。
40	深鉢	赤褐	5YR	φ1～2mmの小石、織維	普通	縄文、横位のナデ。
41	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	普通	Rl・Lrの羽状縄文で変形を作る。
42	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1mmの軽石粒、織維	普通	LR横位施文。
43	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1～3mmの小石、織維	普通	Lr横位施文。
44	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、織維	普通	Rl・Lrの羽状縄文。
45	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、織維	普通	RL施文。
46	深鉢	褐	7.5YR	φ1～3mmの小石、織維	普通	0段多条のRL。



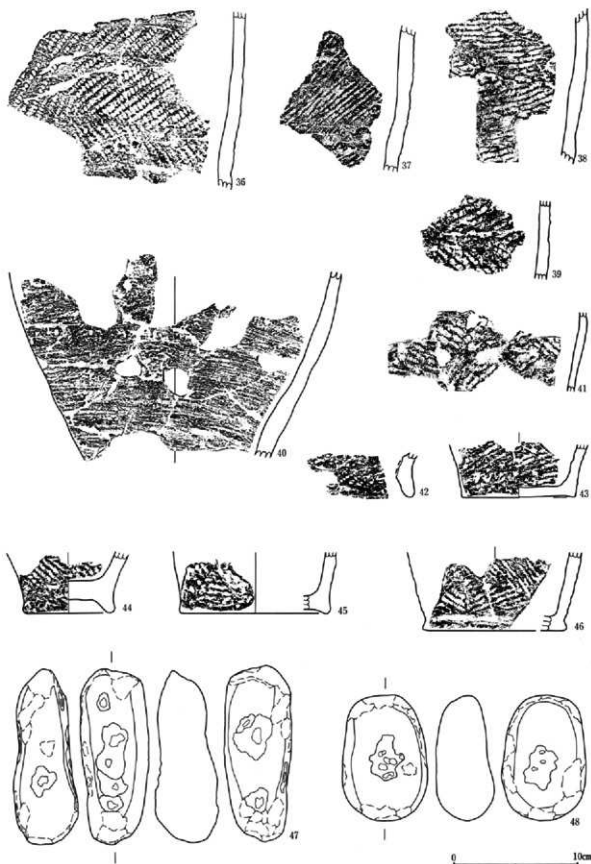
第13図 3号住居址・竈



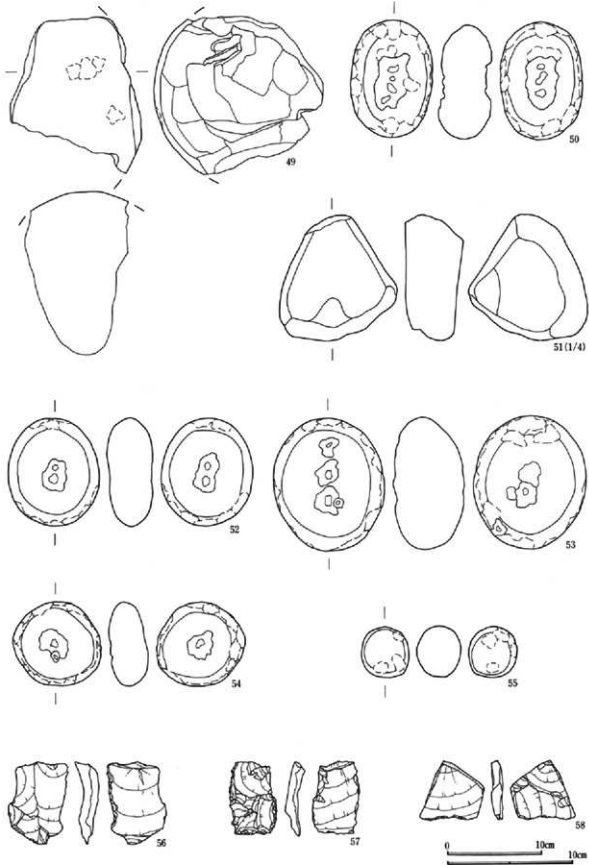
第14図 3号住居址出土遺物-1



第15図 3号住居址出土遺物-2

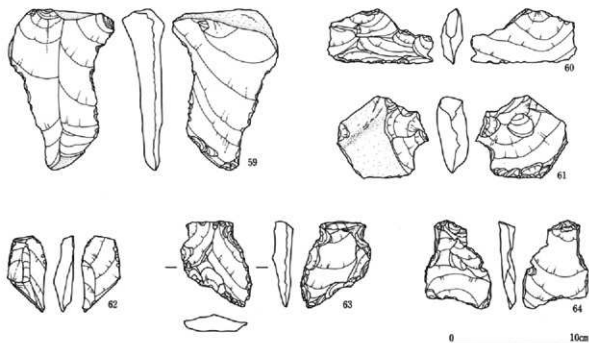


第16図 3号住居址出土遺物-3



第17図 3号住居址出土遺物-4

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第18図 3号住居址出土遺物-5

3号住居址出土石器観察表 (16~18図 P L59・60)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
47	凹石	石英閃緑岩	完存	13.8	5.3	5.0	490	長楕円形の河原石。表裏面は浅い凹みが連続しており、側縁にも浅い凹みがある。両端部に敲打痕が集中し、一方の端部は割れている。
48	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	10.0	6.6	4.5	440	楕円形の河原石。全面が良く磨かれている。表裏面中央と両端・側縁に敲打痕がある。
49	磨石	粗粒輝石 安山岩	大きく欠損	12.3	10.4	13.4	1850	大型の磨石と考えられる。大部分の表面が剝離している。表面はやや磨けている。
50	凹石	石英閃緑岩	完存	9.3	6.5	4.1	360	楕円形の河原石。表裏面とも良く磨れており、中央に3・4個の凹みがある。両端部・側縁部に多くの敲打痕がある。
51	台石	粗粒輝石 安山岩	一部欠損	13.1	12.5	6.2	1180	表裏面が平坦に磨れている。
52	凹石	石英閃緑岩	完存	8.5	7.3	3.7	340	楕円形の河原石。表裏面とも良く磨かれており、中央に2個ずつの浅い凹みがある。両端部には多くの敲打痕がある。
53	凹石	石英閃緑岩	完存	10.5	9.0	5.6	760	楕円形の河原石を使用。表裏面とも磨かれており、中央に3・4個の浅い凹みがある。両端・側縁に多くの敲打痕がある。
54	凹石	石英閃緑岩	完存	6.1	7.0	3.1	190	不整形の河原石。表裏面は良く磨れており、中央に1・2個の浅い凹みがある。側縁部には多くの敲打痕がある。
55	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	4.0	3.8	3.5	62.3	小型で球形の河原石を使用。全面がやや磨れており、散在的に敲打痕がある。
56	剥片石器	黒色頁岩	完存	6.6	4.3	1.9	37.3	不定形の剥片で、2側縁部に剝離を加え1側縁部に使用痕がみられる。

2節 発見された遺構と遺物

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
57	製片石器	黒色頁岩	完存	5.7	3.7	1.6	22.9	長方形をなす製片で、3側縁に粗い刻離を加え刃部としている。
58	製片石器	黒色頁岩	完存	4.7	5.1	0.9	21	不定形製片を使用。一部に自然面を残す。一個縁部に片面より刻離を加え刃部とする。
59	製片石器	黒色頁岩	完存	12.7	8.4	3.4	200	大型の縦長製片で、一部に自然面を残す。V字状をなす側縁部に粗い刻離を加え刃部としている。
60	製片石器	黒色頁岩	一部欠損	4.4	8.4	1.7	40.9	不定形の横長製片で自然面を残す。一個縁部に片面より刻離を加え刃部とする。
61	製片石器	黒色頁岩	完存	6.1	7.3	2.5	117	自然面を残す不定形製片。1側縁に片面より粗い刻離を加え刃部としている。
62	製片石器	黒色頁岩	完存	6.0	3.0	1.5	24.3	不定形の製片。一部に自然面を残す。四側縁部に粗い刻離が加えられ、鏃状に突る先端部も使用。
63	石匙	黒色頁岩	完存	6.8	4.5	1.6	49	縦型の石匙で、掴み部はわずかに挟れ込んでいる。刃部は両面より粗い刻離で作り出されている。
64	製片石器	黒色頁岩	完存	7.0	5.3	1.3	31.7	不定形の製片で、L字形の2側縁部に縦らに刻離を加え刃部としている。

4号住居址 (19・20図 P L 3)

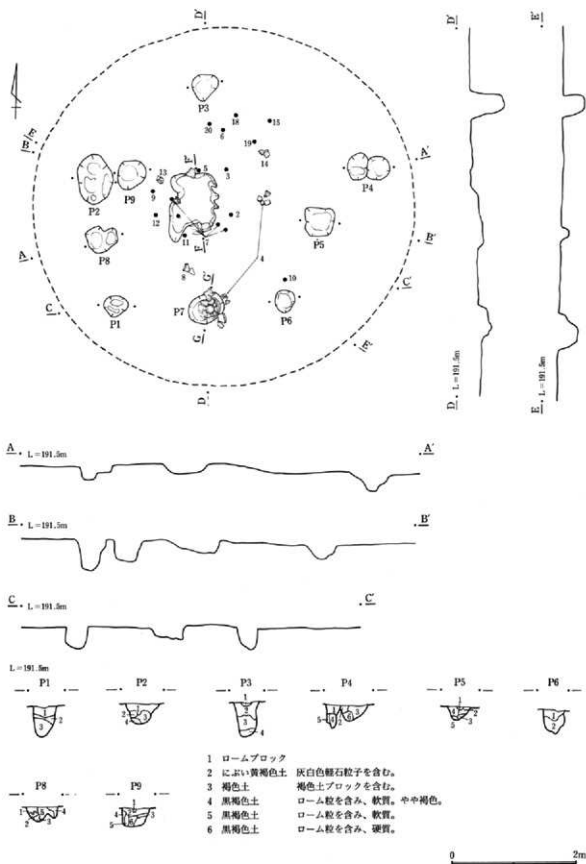
地山と住居埋没土との識別が困難であったため、住居の壁は確認出来ていない。住居の推定範囲を破線で示したが、直径は6m前後となるものと考えられる。床面は平坦であるものの比較的軟弱である。掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。

ピットについては10基確認されている。なお南側に位置するピットには、底部を除去した伏壁がみられる。この伏壁の存在するピットは、中央部が凹んでいることから、設置にあたって柱穴を掘り直していることが考えられる。坪は約80cm×約60cmの不整形の掘り方をもち、南側に河原石の炉石がみられる。住居廃絶時の使用面は床面より約5cm下方で、焼土が若干残されていた。

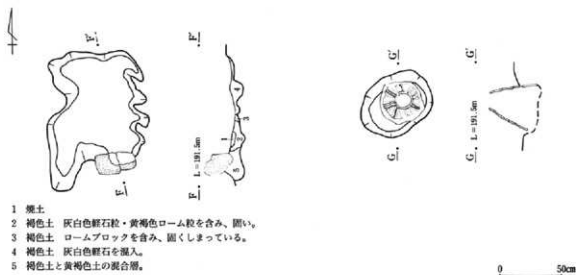
4号住居址出土土器観察表 (21・22図 P L 60・61)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	ぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの白色小石	普通	太さ10mmの沈線で口縁に横円区画を作る。区画間には同じ原体で円形の刺突を加える。胴部は3本単位の沈線で縦位の区画を作る。地文の縄文はLrを縦位に施文。
2	深鉢	褐	10YR	細かい砂粒、雲母	良	Lr縦位施文。太さ10~15mmの隆線で文様を描く。
3	深鉢	ぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、雲母	良	RL縦位施文。太さ5~6mmの沈線で縦位の区画と溝書きを描く。
4	深鉢	浅黄橙	10YR	φ1~2mmの小石多い	不良	LR縦位施文。太さ8mmの沈線で胴部に長楕円形の区画を作る。
5	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~2mmの小石、雲母多い	良	RL横位施文。太さ8~12mmの隆線で横円区画を作る。
6	深鉢	橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	RLL縦位施文。太さ4mmの沈線を縦位に区画する。
7	深鉢	橙	7.5YR	φ1~2mmの小石多い	普通	RL縦位施文。太さ5~6mmの沈線を縦位に区画する。
8	深鉢	褐	10YR	φ1~3mmの小石	普通	RL縦位施文。太さ6mmの沈線2本単位で縦位区画。
9	深鉢	明赤褐	5YR	φ1~2mmの小石	良	LR縦位施文。太さ4~6mmの沈線で縦位区画。
10	深鉢	褐	10YR	砂粒多い	普通	巾8mmに5本の沈線で曲線を描く。
11	深鉢	赤	10R	φ1~2mmの小石、雲母	良	巾2~3mmの糸線を縦位に施文。
12	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~2mmの小石	良	Lr縦位施文。

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第19図 4号住居址

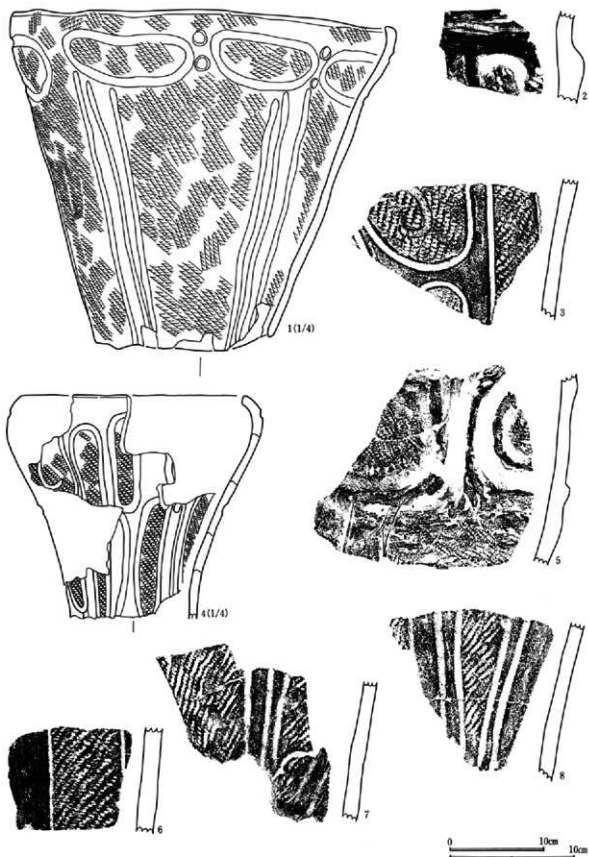


- 1 焼土
- 2 褐色土 灰白色軽石粒・黄褐色ローム粒を含み、固い。
- 3 褐色土 ロームブロックを含み、固くしまっている。
- 4 褐色土 灰白色軽石を混入。
- 5 褐色土と黄褐色土の混合層。

第20図 4号住居址炉・埋壁

4号住居址出土石器観察表 (22図 P L 61)

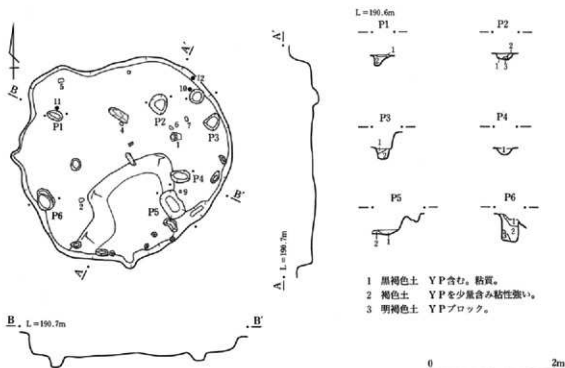
番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
13	台石	粗粒輝石 安山岩	破片	13.8	11.6	11.8	2160	形状は不明であるが、表面面が磨れ、表面中央に敲打痕が集中している。側縁部にもわずかに敲打痕がある。
14	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	10.0	7.5	3.8	400	楕円形の河原石を使用。表面面には1・2個の浅い凹みがあり、良く磨れている。側縁部全周に敲打痕があり、一方の端部は敲打痕により大きく割れている。
15	割片石鏃	黒色頁岩	完存	7.5	4.0	2.1	62.1	長方形をなす割片で、一部に自然面を残す。側縁部全周に細かい刻磨を加え刃部としている。
16	打製石斧	頁岩	基部欠損	6.9	4.2	1.8	51.2	短冊形と考えられ、刃部は斜めで非常に良く厚減している。また、身部中央も一部厚減している。
17	打製石斧	珪質頁岩	基部欠損	8.5	4.9	1.4	69.5	薄身の短冊形。刃部は丸く、使用により厚減している。
18	打製石斧	硬質泥岩	刃部欠損	8.4	4.4	2.3	80.3	短冊形と考えられ、基部は平ら。
19	打製石斧	頁岩	基部欠損	10.4	5.6	1.8	130	刃部が広がる楕形。刃部に刃こぼれがある。
20	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	基部欠損	9.3	5.8	1.8	92	短冊形。表面に自然面を残す。刃部に刃こぼれ。



第21図 4号住居址出土遺物-1



第22図 4号住居址出土遺物-2



第23図 5号住居址

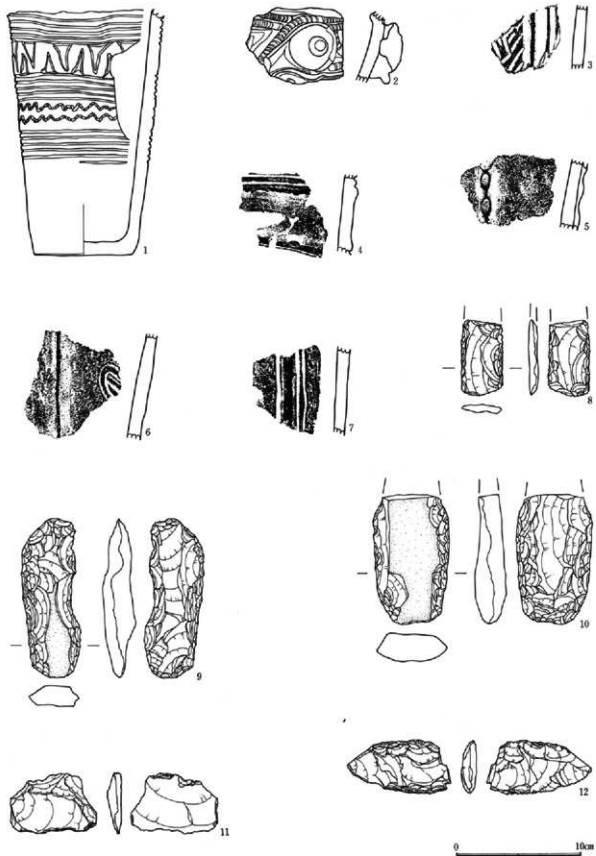
5号住居址 (23図 PL 3・4)

住居は直径約3.3mの不整形円形を呈する。住居壁は北側で約30cm残存していた。床面はほぼ平坦であるが、軟弱である。住居内南側には、床面が約6cmほど低くなった部分がある。掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。

確認されたピットのうちピット1～3については柱穴であると考えられるが、その他のピットについては、はっきりしない。炉址は確認されなかった。

5号住居址出土土器観察表 (24図 PL 61)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	明赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	巾7mmの平行沈線で横位の区画。区画内に上段は三角の印形で刺繍文を作る。下段は押し引きの刺繍で波状文を描く。
2	深鉢	赤褐	5YR	φ1～2mmの金雲母	良	太さ6mmほどの押し引きによる爪形文と縁帯張り付け。
3	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	隆線を垂下させ縦位の区画を作る。沈線を斜位に施文。
4	深鉢	灰赤	10R	細かい砂粒	良	上下に隆線と沈線が横位に施文される。
5	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1～2mmの小石多い	普通	巾6mmの指頭圧痕のある隆線。
6	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、スス	良	隆線を垂下させ、巾6mmの平行沈線で文様を描く。内面スス付着。
7	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	太さ8mmの隆線が垂下し沈線を施文。



第24図 5号住居址出土遺物

第2章 白川管塚遺跡の調査

5号住居址出土石器観察表 (24図 PL61)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
8	打製石斧	頁岩	基部欠損	5.8	3.2	0.8	21.4	薄身の短冊形で、刃部は平らで使用により細かく削られている。
9	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	完存	12.5	4.7	2.7	139.4	細身の短冊形で表面に自然面を残す。刃部は丸く基部は斜めとなっている。
10	打製石斧	硬質泥岩	基部欠損	11.7	6.7	2.5	210	短冊形。御縁部が欠れ込んでいる。大きく自然面を残し、刃部は平ら。
11	スクレイパー	黑色頁岩	完存	4.7	6.9	1.2	34.0	横長刺片の底辺を片面から剝離して刃部としている。
12	スクレイパー	細粒輝石 安山岩	完存	4.2	8.3	1.2	10.0	横長刺片の側辺を剝離して刃部としている。

6号住居址 (25・26図 PL4)

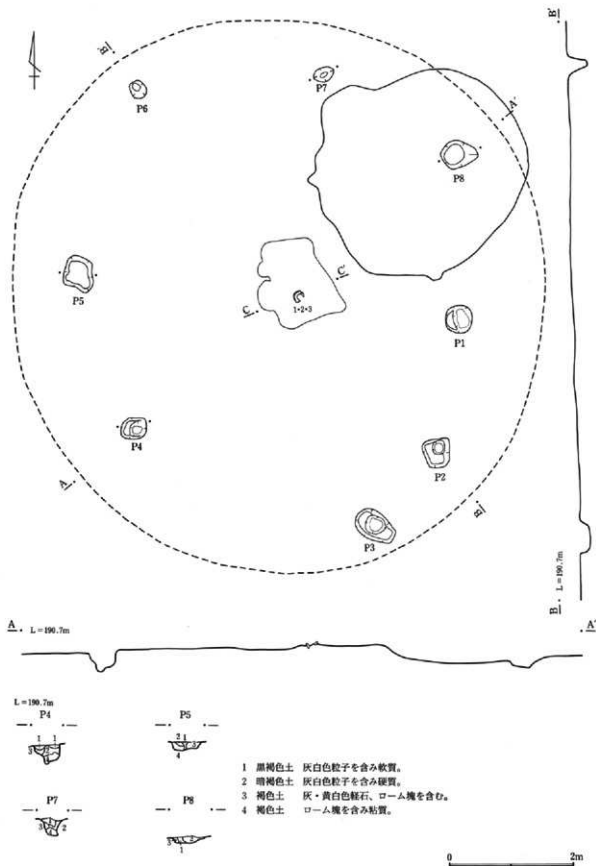
地山と住居埋没土との識別が困難であったため、住居の壁は確認出来ていない。住居の推定範囲を破線で示したが、直径は8.5～9mとなる大型の住居址である。住居の北東部分は、5号住居跡址によって床面の一部を削られている。また多くの部分において7号住居址と重複しており、7号住居址の埋没土中に造られている。

床面はほぼ平坦で比較的しっかりしている。掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としているが、以前に存在していた7号住居址の床面部分まで掘り下げているとみられる。ピットについては、ピット3を除きほぼ等間隔に位置しており、柱穴となるものと考えられる。

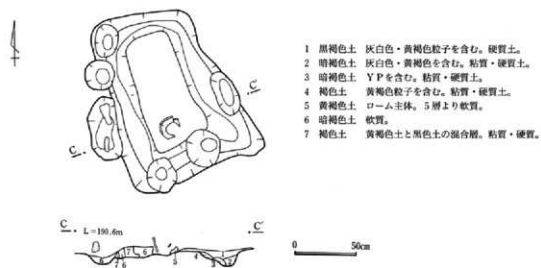
炉は埋没炉である。住居の中央と推定される位置にあり、台形状の大きな掘り方を持つ。なお、炉内に焼土は残されていなかった。

6号住居址出土石器観察表 (26図 PL62)

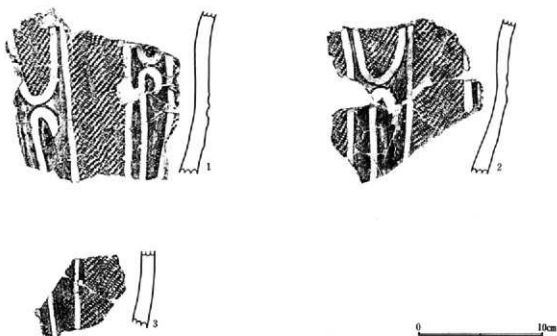
番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1～3mmの小石、雲母	良	RL線位施文。太さ6mmの沈線で線位の区画と楕円区画等を描く。
2	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1～3mmの小石、雲母	良	RL線位施文。太さ6mmの沈線で線位の区画と楕円区画を描く。外面スス付着。
3	深鉢	にぶい橙	2.5YR	φ1～2mmの小石	良	RL線位施文。太さ5mmの沈線で線位区画を作る。



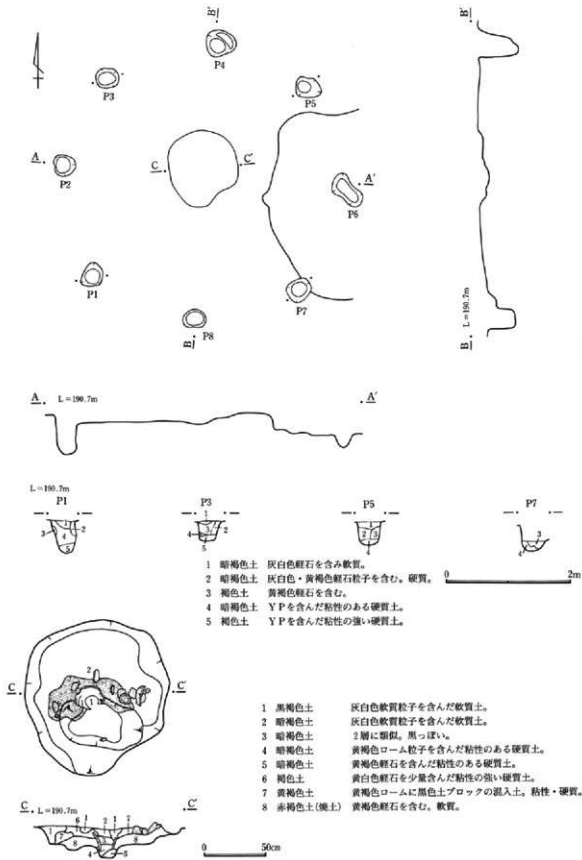
第25図 6号住居址



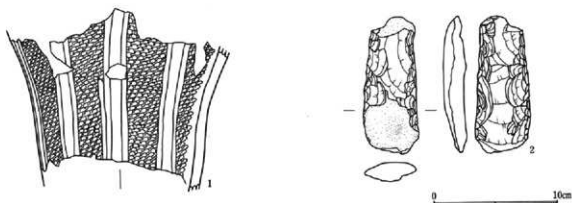
第26図 6号住居址跡



第27図 6号住居址出土遺物



第28図 7号住居址・炉



第29図 7号住居址出土遺物

7号住居址 (28図 P L 5)

地山と住居埋没土との識別が困難であったため、住居の壁は確認出来ていない。住居は床面での確認であるが、住居東部分を5号住居址によって削られており、また中央付近の多くの部分を6号住居址によって床面付近まで削られている。

床面に掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で比較的しっかりしている。ピットは8基検出されているが、その位置から柱穴である可能性が高い。

炉址については、住居中央と推定される位置に発見されており、埋燬炉である。この埋燬炉は直径約1.1m、深さ約15cmの大きな掘り方をもつが、燬直下の掘り方については、約22cmとさらに深くなっている。なお、炉掘り方については、床面より7.5cmほど埋めた部分に炉竈を中心に焼土の広がりが見られる(第28図下)。その後、燬付近を粘性の強い褐色土で固定し、床面付近まで埋めている。

7号住居址住居址出土土器観察表 (29図 P L 62)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	橙	5YR	φ1~5mmの小石	良	RL縦位羅文。太さ4~6mmの沈線をもつ2本対にして縦位に区画する。

7号住居址住居址出土石器観察表 (29図 P L 62)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
2	打製石斧	黒色頁岩	完存	10.8	4.5	1.8	96.1	矩形形で裏面に自然面を残す。刃部・基部とも使用による摩滅が多い。

8号住居址 (30図 PL5)

楕円形を呈する比較的小規模な住居と考えられる。住居は西側部分が不明瞭となっており、10号住居址と重複している可能性が考えられるが、新旧関係については不明である。

床面は平坦であるが軟弱である。ピットについては4基みられるが、いずれも5~10cmと浅い。炉址については、調査区域内からは確認されなかった。

8号住居址出土土器観察表 (31図 PL62)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、繊維	良	0段多条。RL・LRの羽状縄文。
2	深鉢	灰褐	5YR	φ1~3mmの小石多い、繊維	普通	LRLの複距横位撫文。

8号住居址出土石器観察表 (31図 PL62)

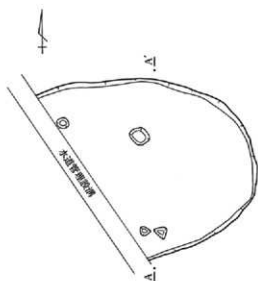
番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
3	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	7.6	4.8	2.5	140	小型で楕円形の河原石を使用。表面面とも良く磨れ表面中央に浅い敲打痕がある。両端部に敲打痕が集中し、側縁部にもわずかに敲打痕がある。
4	剥片石器	黒色頁岩	完存	6.6	4.4	1.7	46.6	やや長方形をなす剥片を使用。3側縁部に粗い剝離を加え刃部としている。
5	剥片石器	チャート	完存	2.1	3.0	0.9	5.7	不整形をなす小型の剥片で、3側縁部に細い剝離を縁らに加え刃部としている。

9号住居址 (32・33図 PL5・6)

本遺構は、敷石を持つ柄鏡形の住居と考えられる。北側で若干の掘り込みを確認する事ができたが、その他の部分では、掘り込みを確認出来なかった。住居床面は、角の取れた礫を疎らに敷いたものである。敷石の間の床面は黒色土混じりでやや柔らかめである。

柱穴は、敷石の外側に見られる。直径30cm前後、深さ25~40cmである。柄鏡住居の先端と壁際奥部に対になるように比較的大きな土坑が見られた。

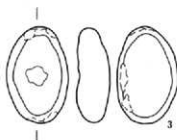
第2章 白川笹塚遺跡の調査



- 1 黒褐色土 浅間C軽石を含み、やわらかい。
- 2 黒褐色土（木炭跡） 浅間C軽石を少量含み、やわらかい。
- 3 暗褐色土 暗褐色土ブロックをやや多く、白色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 暗褐色土ブロック・白色粒子・ローム粒を少量含む。
- 5 暗褐色土 暗褐色土ブロックをやや多く、白色粒子を僅かに含む。

0 2m

第30図 8号住居址



0 5cm 10cm

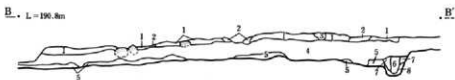
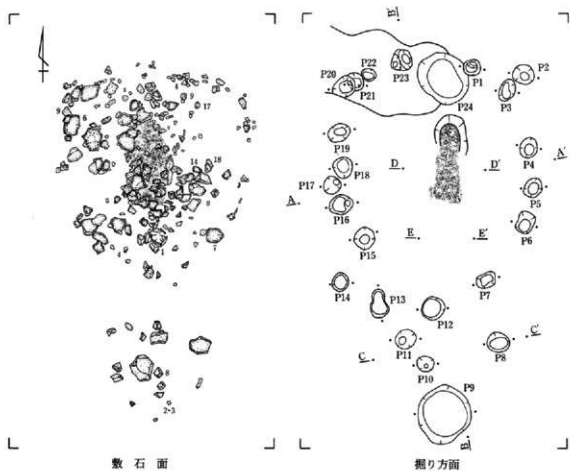
第31図 8号住居址出土遺物

9号住居址出土石器観察表 (34図 P L 62・63)

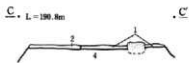
番号	種類/器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	褐色	7.5YR	φ1~5mmの小石	普通	細かい条線。口縁部に粘土層による隆帯を巡らす。
2	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	φ1~2mmの小石	良	太さ6mmの沈線が波状に垂下させる。地文は条線。
3	深鉢	にぶい橙	5YR	φ1~2mmの小石	良	LR縦位施文。巾2mmの沈線で口縁部を区画。口縁部にφ3mmの刺突を巡らす。胴部は沈線で文様を描く。外面スス付着。
4	深鉢	明赤褐色	2.5YR	φ1~2mmの小石	普通	LR縦位施文。太さ3mmの沈線で縦位の区画。

9号住居址出土石器観察表 (34~36図 P L 62・63)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
5	石皿・台石	粗粒輝石 安山岩	破片	12.8	9.0	6.1	1040	扁平な自然石を使用。表裏面とも非常によく磨れている。
6	台石	粗粒輝石 安山岩	完存	30.0	26.2	10.8	13500	扁平な自然石を使用。表面は平坦でわずかに磨れており、中央部に2個の孔が穿たれている。またススと思われるものが付着している。裏面も使用している可能性がある。
7	台石	粗粒輝石 安山岩	完存	26.6	23.5	9.2	8900	扁平な河原石を使用。表裏面が良く磨れている。
8	多孔石	粗粒輝石 安山岩	破片	11.0	7.8	8.3	850	表面に4個の孔が穿たれている。
9	石皿	粗粒輝石 安山岩	破片	14.2	17.2	5.4	1800	表面は即状をなして低い縁を持ち、裏面は平坦で両面とも磨れている。裏面には多孔石状の小孔が7個ある。
10	多孔石	粗粒輝石 安山岩	完存	13.9	17.9	10.8	3300	不定形の自然石を使用。頂部に5個の孔が穿たれ、側面にも1孔ある。
11	多孔石	粗粒輝石 安山岩	完存	16.6	9.7	7.4	1400	不定形の自然石を使用。表面に2個、裏面に5個の孔が穿たれている。
12	多孔石	粗粒輝石 安山岩	一部欠損	13.7	11.0	4.4	690	扁平な自然石を使用。表面中央に2個の孔がある。
13	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	14.2	6.1	5.4	685	長楕円形の河原石を使用。表裏面と両端部に敲打痕が集中している。全面がやや磨れている。
14	凹石	粗粒輝石 安山岩	一部欠損	14.1	6.5	4.5	660	長楕円形の河原石を使用。表裏面は良く磨れ2個ずつの凹みを持つ。側縁部や両端部に多くの敲打痕がある。
15	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	14.9	6.1	4.0	545	長楕円形の河原石を使用。表裏面は良く磨れている。表面は敲打痕、裏面に凹みを持つ。
16	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	11.6	9.4	5.0	890	楕円形の河原石を使用。表裏面の中央に2個ずつの浅い凹みがあり、側縁部には敲打痕がある。表裏面が良く磨かれている。
17	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	9.8	9.5	5.4	670	楕円形の河原石を使用。表裏面は良く磨かれている。側縁に敲打痕がある。
18	打製石斧	黒色頁岩	完存	12.4	5.2	2.1	100	表面の一部に自然面を残す。刃部・基部とも丸い。
19	砥石	砂岩	完存	12.0	10.7	1.5	245	扁平で三角形をなす河原石を使用。表裏面とも非常に良く磨れており、表面中央は浅い溝状に磨れている。
20	石鏃	黒曜石	先端部欠損	2.0	1.8	0.3	1.1	無茎の石鏃。薄身に基部の湾入はやや深い。



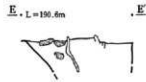
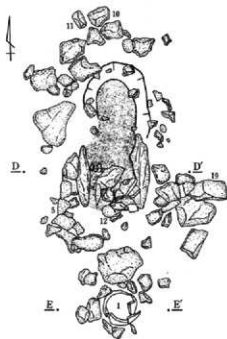
- 1 暗褐色土 やや粘質でしまっている。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒を含む。
- 3 黒褐色土 木根による攪乱。
- 4 黒褐色土 ローム粒・赤褐色粒子を少量含む、固い。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 硬質の黒色土ブロック・白色粒子・黄色粒子を少量含む。
- 7 暗褐色土 4層に類似するが、ローム粒・赤褐色粒子が少ない。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む、YPを少量含む。



0 2m

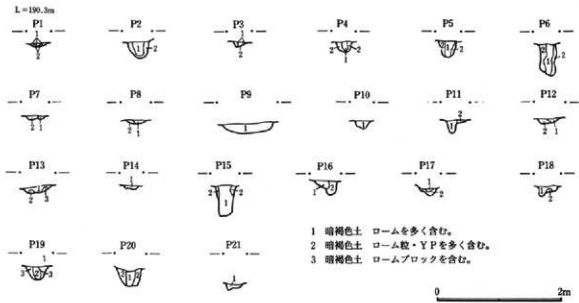
第32図 9号住居址

2節 発見された遺構と遺物



- 1 黒褐色土 焼土粒子・白色粒子を僅かに含み固い。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロック・褐色粒子を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 白色粒子を僅かに含む。
- 4 茶褐色土 ロームブロック・褐色粒子を含む。

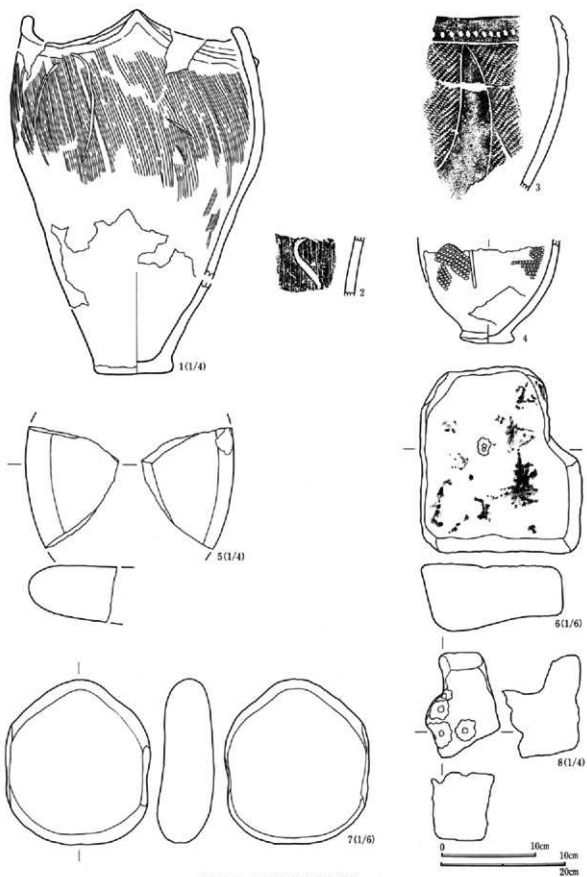
0 50cm



- 1 暗褐色土 ロームを多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・YPを多く含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。

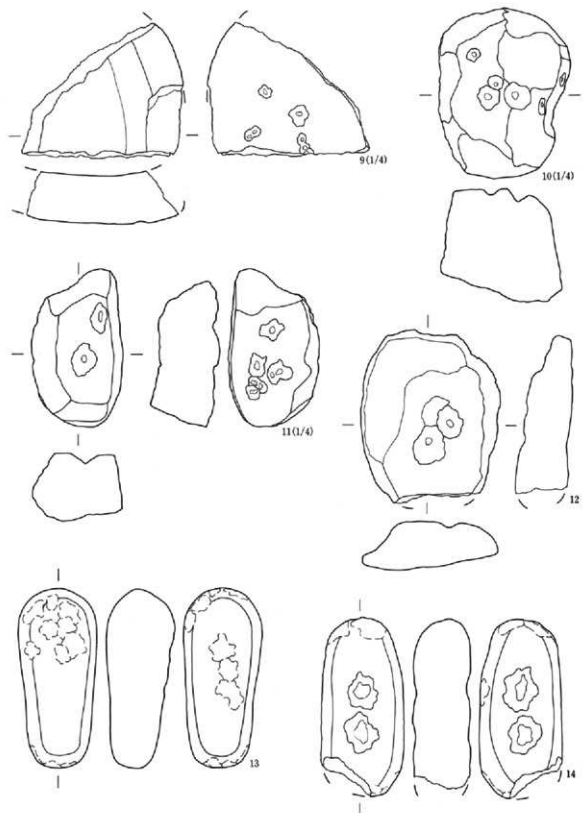
0 2m

第33図 9号住居址炉・ピット

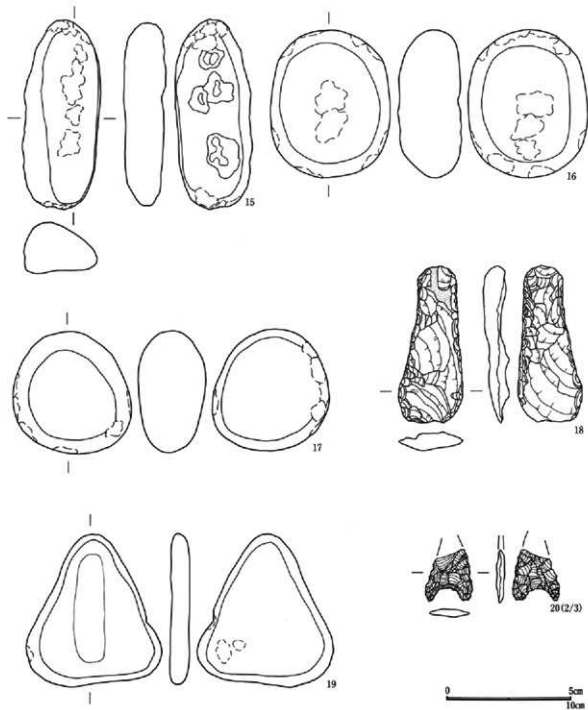


第34図 9号住居址出土遺物-1

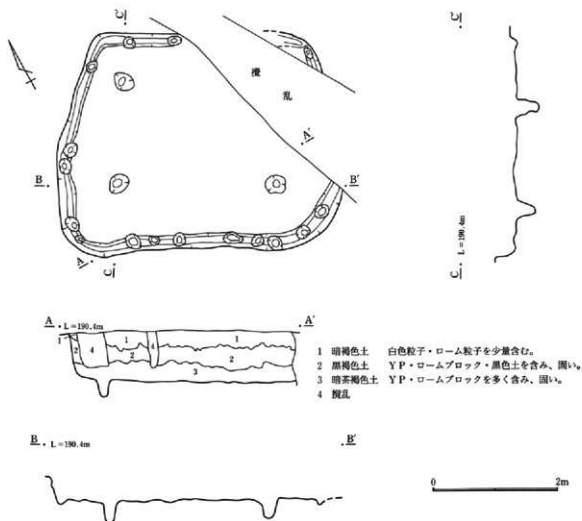
2節 発見された遺構と遺物



第35図 9号住居址出土遺物-2



第36図 9号住居址出土遺物-3



第37図 10号住居址

10号住居址 (37図 P L 6)

住居は、西壁および東壁の一部が変形した隅丸長方形である。8号住居址と一部で重複の可能性があるが、新旧関係については不明である。

住居床面は平坦で比較的しっかりしている。掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。壁周溝は幅18～25cmで、床面から3～5cmの深さである。また攪乱部分を除いた全面に壁周溝がみられる。

柱穴は床面と壁周溝部分にみられる。床面の柱穴は住居のほぼ対角線上に位置しており、直径約30cm、深さは25～30cmである。壁周溝部分の柱穴は攪乱部分を除いて16基存在する。これらの壁周溝に存在する柱穴は直径20cm前後、深さ15cm前後で、床面に存在する柱穴よりも一回り小さい。炉については確認されなかった。

第2章 白川笹塚遺跡の調査

11号住居址 (38図 P L 6・7)

住居は円形を呈する。住居床面は平坦で比較的しっかりしている。掘り方は存在せず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。壁周溝は存在しない。

ピットは8基確認されている。いずれも比較的浅く、深いピットでも25cmである。住居中央付近に存在するピット8は、その位置と掘り方が浅いことから柱穴ではない可能性がある。炉址は住居中央よりやや南寄りに確認された。炉址は直径約90cmのやや歪んだ円形で、住居床面からの深さは約20cmである。炉内に焼土は全く残されていない。

11号住居址出土土器観察表 (39~42図 P L 64・65)

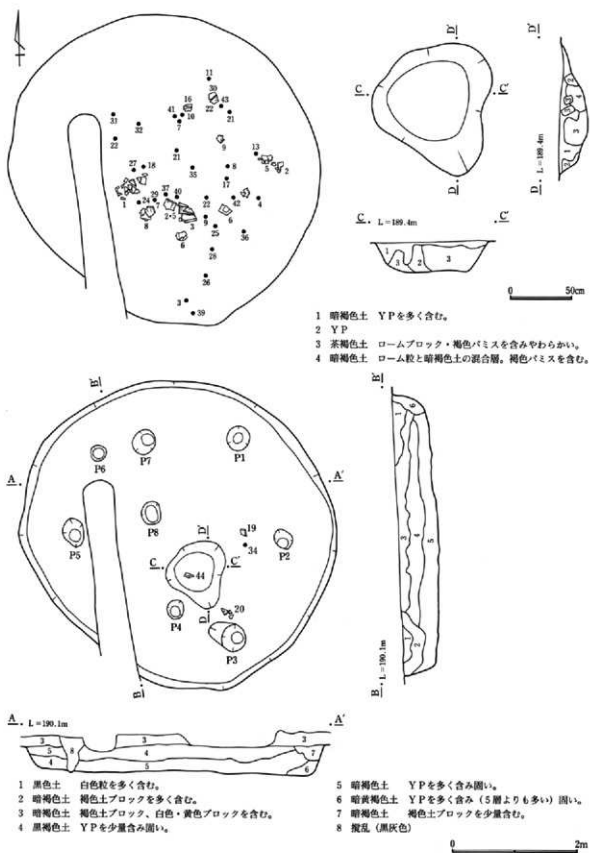
番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、金雲母	良好	無文。
2	深鉢	赤褐	2.5YR	φ1~2mmの砂粒	普通	口縁部を沈線と隆線と二段に区画。上段に沈線で鋸歯状に施文。下段は隆線が垂下する。胴部には隆線で凸帯を作る。
3	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	隆線により胴部上段を横円区画、胴下半部区画間を横帯に繋ぐ。地文に斜位の沈線。
4	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	太さ10mmの隆線を曲線的に貼り付ける。指頭痕を残す。外面にスス付着。
5	深鉢	赤褐	5YR	φ1~7mmの小石	良	口縁部を隆線で区画する。胴部は隆線が垂下する。胴部内外面にスス付着。胴部に指頭痕を残す。
6	深鉢	赤褐	5YR	φ2~7mmの小石・片岩多い	良	口縁に巾6mmの平行沈線で文様を描く。胴部に凸帯を持つ。内面スス付着。
7	深鉢	明赤褐	5YR	φ1~2mmの小石	普通	口唇部を肥厚させ外反する。内面に稜を持つ。
8	深鉢	明赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	隆線と沈線を組み合わせる胴部に横円区画を作る。区画内には爪形文が施文される。
9	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	細かい砂粒	良	巾7mmのキヤタピラ文と角押文。良く磨かれている。
10	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	口縁部に太さ4mmの沈線が横位に巡る。横位のナブ。内面黒色。
11	深鉢	褐灰	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	RL横位施文。太さ3mmの隆線が横位に区画し指突を加える。
12	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	太さ3mmの押し引きの沈線で文様を描く。
13	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	細かい砂粒	良	隆線を貼り付ける。2と同一か。
14	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	不良	粘土紐による貼り付けで突起を作る。
15	深鉢	にぶい橙	5YR	細かい砂粒多い	不良	粘土紐による貼り付けで突起を作る。
16	深鉢	明黄褐	10YR	φ1~2mmの小石	普通	太さ8mmの隆線を横円形に区画。区画内に斜線を充填する。上部に鋸歯状の沈線。
17	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、金雲母	良	巾7mmの平行沈線で文様を区画する。区画内には波状の沈線が横位に施文される。
18	深鉢	明黄褐	2.5Y	φ1~2mmの小石、雲母	普通	隆線により文様を区画し、それに沿って平行沈線を施文する。区画内には爪形文を施文。
19	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ10~12mmの隆線で文様を描く。外面スス付着。
20	深鉢	赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	巾10mmの隆線と太さ4mmの沈線で文様を描く。25・26と同一個体。
21	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、金雲母	良	22・30と同一個体。
22	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、金雲母	良	太さ7mmの隆線が波状に施文される。隆線に沿って巾6mmの平行沈線が施文される。横位に波状の平行沈線が施文される。スス付着。21・30と同一個体。

2節 発見された遺構と遺物

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
23	深鉢	赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	上下に隆線で文様帯を区画し、区画内に沈線が充塞される。外面ス付着。24と同一個体。
24	深鉢	黒褐	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	巾10mmの隆線で横位の区画。区画内に沈線を斜位に充塞する。下部に沈線による扇曲文。23と同一個体。
25	深鉢	明赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ4mmの沈線で横位区画。区画内に新線を充塞。20・26と同一個体。
26	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1mmの小石・ローム粒・雲母	普通	太さ10mmの隆線を横位に施し、その下に沈線で横位の区画を作る。区画内は斜線が充塞される。20・25と同一個体。
27	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1～2mmの小石、金雲母	良	隆線が貼り付けられ凸帯状になる。
28	深鉢	灰褐	5YR	φ1～2mmの小石を含む	良	隆線と太さ6mmの沈線で文様を描く。
29	深鉢	褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	隆線と沈線で横位の区画。隆線に沿って押し引きの爪形文が施文される。
30	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、金雲母	良	21・22と同一個体。
31	深鉢	黒褐	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ6mmの沈線で曲線を描く。
32	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1～3mmの小石	良	隆線による横位区画と押し引きによる爪形文。
33	深鉢	橙	2.5YR	細かい雲母	普通	粘土粒による貼り付けで文様を描く。
34	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1～2mmの小石、砂粒	良	隆線による突起。
35	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1～2mmの小石、金雲母	良	背面に刻みを施す。

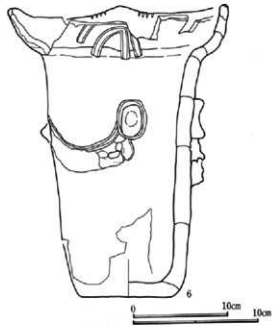
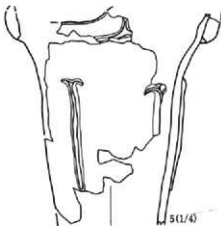
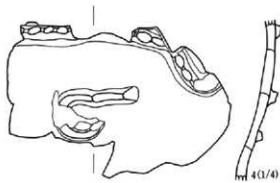
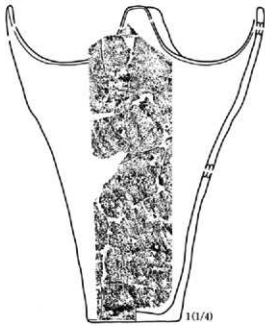
11号住居址出土石器観察表(42・43図 P L 65・66)

番号	種類	石質	残存状態	寸法			重量(g)	特徴・その他
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
36	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	11.6	7.2	5.0	470	楕円形の河原石を使用。表面面はやや磨れ、多くの敲打痕がある。両端部と側縁部にも多くの敲打痕がある。
37	磨石	粗粒輝石 安山岩	破片	6.6	7.5	4.5	400	楕円形と思われる河原石を使用。表面面とも良く磨かれ、中央部に浅い敲打痕が集中している。端部にも敲打痕が集中している。
38	石棒	黒色片岩	破片	12.3	4.3	3.5	310	円柱状の片岩系河原石で、石棒の破片と考えられる。
39	打製石斧	黒色頁岩	完存	11.6	4.8	2.8	150	短冊形をなし、一部に自然面を残す。刃部は丸く、基部は平ら。
40	打製石斧	黒色頁岩	刃部欠損	10.2	4.5	3.0	165	表面に自然面を残す。短冊形で身が厚く、基部は尖る。
41	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	刃部欠損	8.9	5.2	2.3	107	表面の一部に自然面を残す。短冊形と考えられ、基部は丸い。
42	打製石斧	黒色頁岩	刃部欠損	9.0	4.1	2.2	97.2	短冊形と考えられ、基部は丸い。
43	打製石斧	黒色頁岩	基部欠損	7.9	4.5	1.7	61.3	基部をわずかに欠損する。表面と側縁部に大きく自然面を残す。小型の短冊形で、刃部は斜めとなっており表面だけが良く磨滅している。
44	製片石器	珪質頁岩	完存	12.0	3.8	1.7	72.0	断面三角形の狭長製片を使用。弧状をなす2割縁に両面より細かい割縁を加え刃部としている。
45	製片石器	粗粒輝石 安山岩	完存	3.2	2.5	0.5	5.5	半円形をなす小型の製片で、弧状をなす側縁部に細かい割縁を加え刃部としている。
46	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	4.4	4.0	3.0	49.9	小型でやや球形の河原石を使用。全面がやや磨れている。
47	丸石(小玉)	珪質頁岩	完存	2.1	1.8	1.6	8.1	黄褐色の小円礫を使用。自然の磨きはややある。

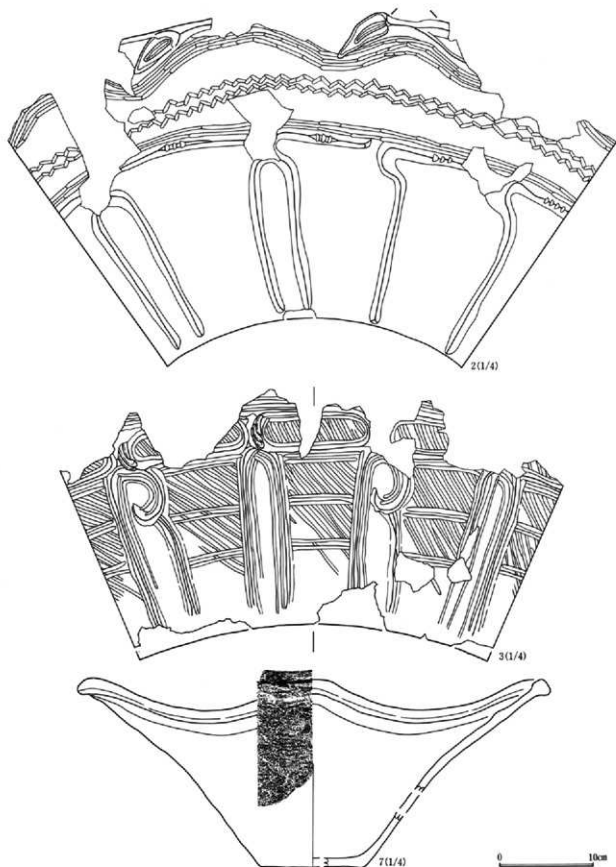


第38図 11号住居址・炉

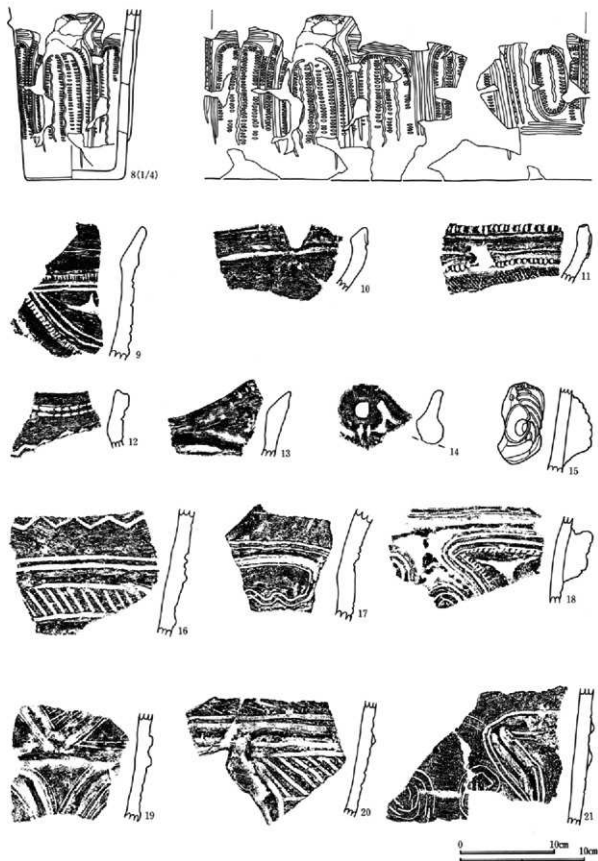
2節 発見された遺構と遺物



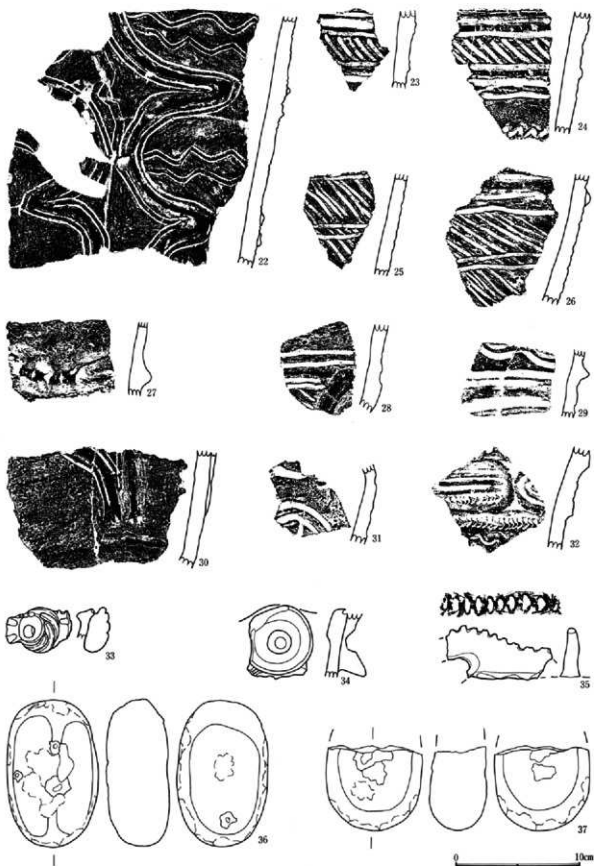
第39図 11号住居址出土遺物-1



第40図 11号住居址出土遺物-2

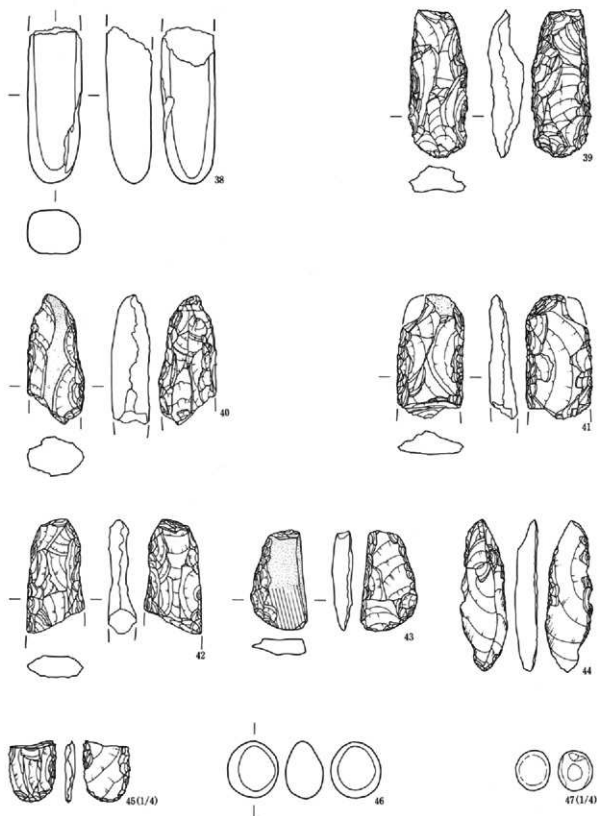


第41図 11号住居址出土遺物-3



第42図 11号住居址出土遺物-4

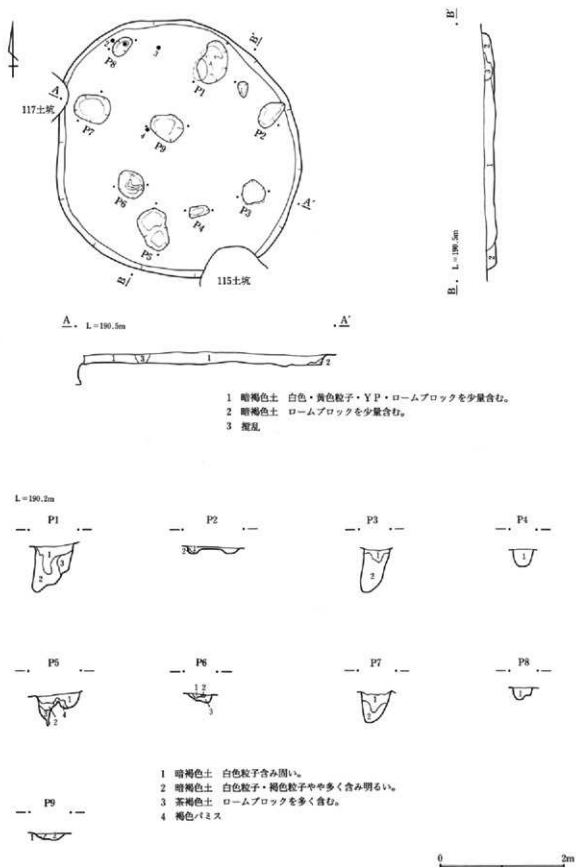
2節 発見された遺構と遺物



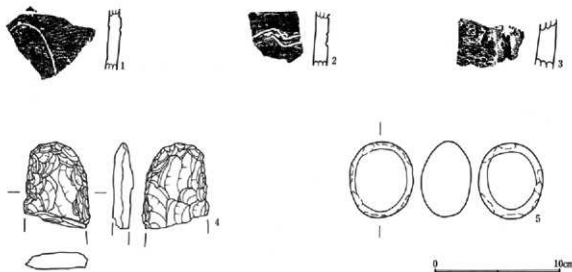
0 5cm 10cm

第43図 11号住居址出土遺物-5

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第44図 12号住居址



第45図 12号住居址出土遺物

12号住居址 (44図 P L 7)

住居は円形である。115号土坑と117号土坑によって西側と南側の一部を破壊されている。住居床面は平坦で比較的しっかりしているが、やや凹凸がある。掘り方は存在せず、床面を掘り込んだ面をそのまま床面としている。ピットについては10基確認されており、柱穴も含まれていると考えられるが、特定は難しい。また、ピットは床面上での確認が難しく、やや床面を掘り込んだ状態での確認である。

炉址については明確ではない。住居中央やや北寄りに位置するピットが炉址の可能性が考えられなくもないが、焼土は全く確認されていない。

12号住居址出土土器観察表 (45図 P L 66)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	橙	7.5YR	φ1~2mmのローム粒	不良	LR斜位施文。太さ2mmの沈線で文様を描く。
2	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	太さ2mmの沈線を平行させて蘭歯文を作る。
3	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	良	太さ5mmの沈線が垂下する。

12号住居址出土石器観察表 (45図 P L 68)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
4	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	刃部欠損	6.8	5.3	1.7	68.2	基部は丸く細かい割離が加えられている。
5	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	6.0	5.0	3.9	130	小型で楕円形の河原石を使用。表裏面はやや磨れ、両端部や側縁部に敲打痕がある。

第2章 白川笹塚遺跡の調査

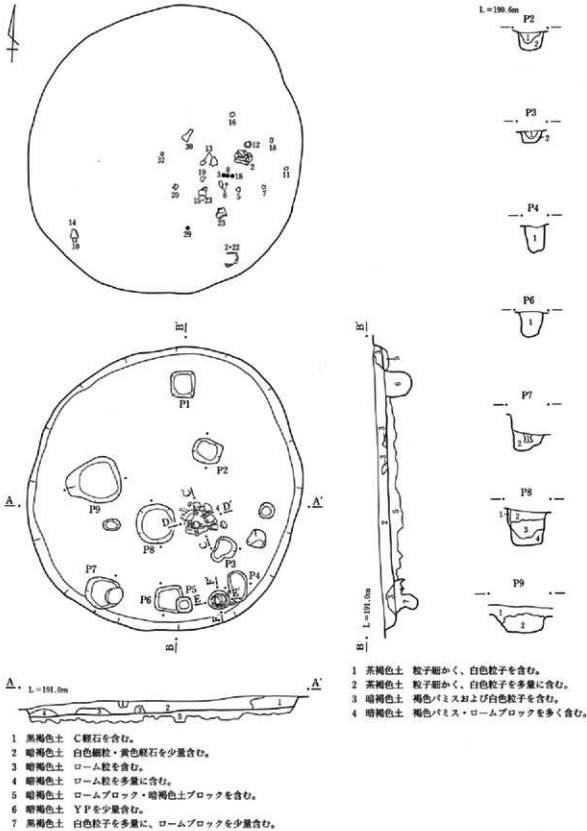
13号住居址 (46・47図 P L 7・8)

住居は円形を呈する。床面は平坦であり比較的軟弱である。また、床面は貼り床で東北から南西方向へ3.5度の傾斜を持っている。掘り方は凹凸があり、床面から5～15cm下方である。ピットは床面精査の段階では検出できなかったが、掘り方の調査で12基のピットと埋堦が検出されている。これらのピットについては、床面から掘り込まれた柱穴の可能性のあるものも存在するが、特定することは難しい。

炉は石組炉で、石皿・凹石・土器等の破片を組んで造られている。炉の内径は30cmで、直径40cm前後、深さ12cmの深皿状の掘り込みをもって造られている。炉覆土には、焼土粒・焼土ブロックが含まれており、底面は焼土化していた。

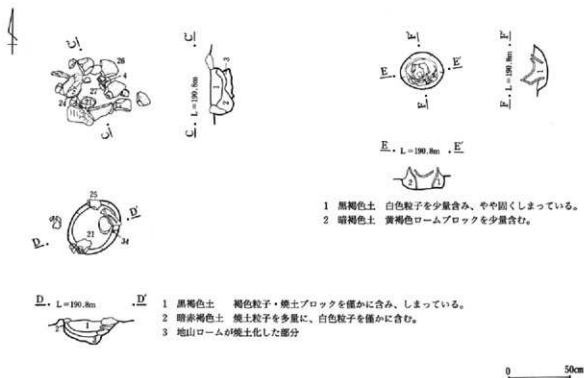
13号住居址出土土器観察表 (48～50図 P L 67・68)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	文様
1	深鉢	明赤褐	5YR	φ1～3mmの小石	普通	RL・LR縦位施文。口縁部を隆線と沈線で楕円区画。胴部には太さ8mmの沈線2対で縦位の区画を作る。RL縦位施文。口縁部を隆線と沈線で楕円区画と渦巻き。胴部には太さ5mmの2対の沈線が重下する。RL横位施文。太さ12～15mmの隆線で楕円区画と渦巻きを描く。
2	深鉢	ぶい橙	7.5YR	φ1～3mmの小石	普通	RL縦位施文。口縁部を隆線と沈線で楕円区画と渦巻き。胴部には太さ5mmの2対の沈線が重下する。RL横位施文。太さ12～15mmの隆線で楕円区画と渦巻きを描く。
3	深鉢	ぶい黄褐	10YR	φ1～2mmの小石	良	RL横位・縦位施文。隆線と沈線で楕円区画。
4	深鉢	ぶい赤褐	5YR	φ1～4mmの小石、雲母	良	RL斜位施文。太さ6mmの沈線で楕円区画。
5	深鉢	黒褐	5YR	細かい砂粒	良	RL縦位施文。口縁部に沈線で楕円区画。
6	深鉢	ぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	良	LR横位施文。太い沈線と隆線で口縁部文様区画を作る。
7	深鉢	ぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	良	RL斜位・縦位施文。太さ6～8mmの沈線で楕円区画と縦位の沈線が施文される。
8	深鉢	ぶい橙	5YR	細かい砂粒、雲母	良	口縁下に太さ5mmの沈線が走る。胴部には太さ6本の条線が波状に施文される。
9	深鉢	赤褐	5YR	φ1～3mmの小石	良	口縁部に太さ6～7mmの沈線が走る。胴部には条線が波状に施文される。
10	深鉢	ぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	RL斜位施文。口縁部に3mmの沈線が走る。
11	深鉢	黒褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	RL縦位施文。太さ7～10mmの沈線で胴部を二段に区画し文様を描く。
12	深鉢	ぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、雲母	普通	太い沈線と隆線で楕円区画と渦巻きを描く。RL横位施文で胴部には条線が施文される。
13	深鉢	ぶい黄橙	10YR	φ1～2mmの小石	普通	太さ5mmの沈線で縦位施文。沈線間に条線。
14	深鉢	ぶい黄橙	10YR	φ1～3mmの軽石、雲母	良	RL横位施文。太さ6～8mmの沈線で口縁部文様と胴部に縦位の区画を作る。内面に横位の隆線がある。
15	深鉢	赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	Lrの懸糸。太さ6mmの沈線が波状に施文。
16	深鉢	ぶい褐	7.5YR	φ1～2mmの小石、雲母	普通	16と同一個体。
17	深鉢	橙	2.5YR	φ1～2mmの小石、雲母	普通	RL縦位施文。太さ5mmの沈線で楕円形の文様区画を作り、同じ施文員で割突。
18	深鉢	ぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	太さ8～12mmの隆線で口縁部を文様区画。区画内はRLの隅文が充ち、胴部は条線施文。
19	深鉢	ぶい褐	7.5YR	φ1～5mmの小石、雲母	普通	Lr縦位施文。太さ5mmの沈線で縦位の区画。
20	深鉢	ぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	RLRを縦位施文。太さ3～4mmの沈線2本と3本を交互に対にして縦位の区画を作る。
21	深鉢	橙	5YR	細かい砂粒、雲母	良	太さ4mmの沈線2条を対にして縦位の区画を作る。
22	深鉢	ぶい橙	7.5YR	φ1～2mmの小石、雲母	良	RL縦位施文。太さ10mmの隆線で口縁部と胴部を区画する。胴部には太さ8mmの沈線が縦位の区画を作る。
23	深鉢	明褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	



第46図 13号住居址

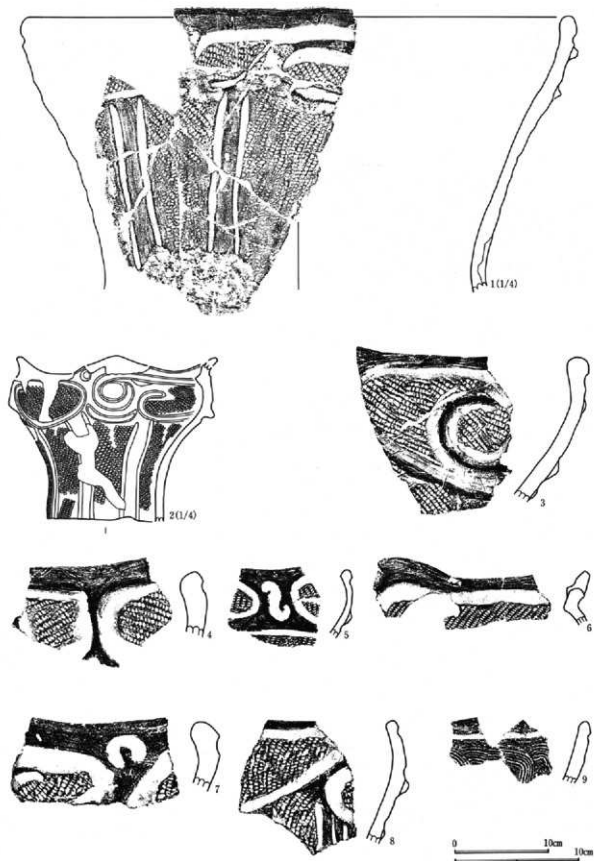
第2章 白川笹塚遺跡の調査



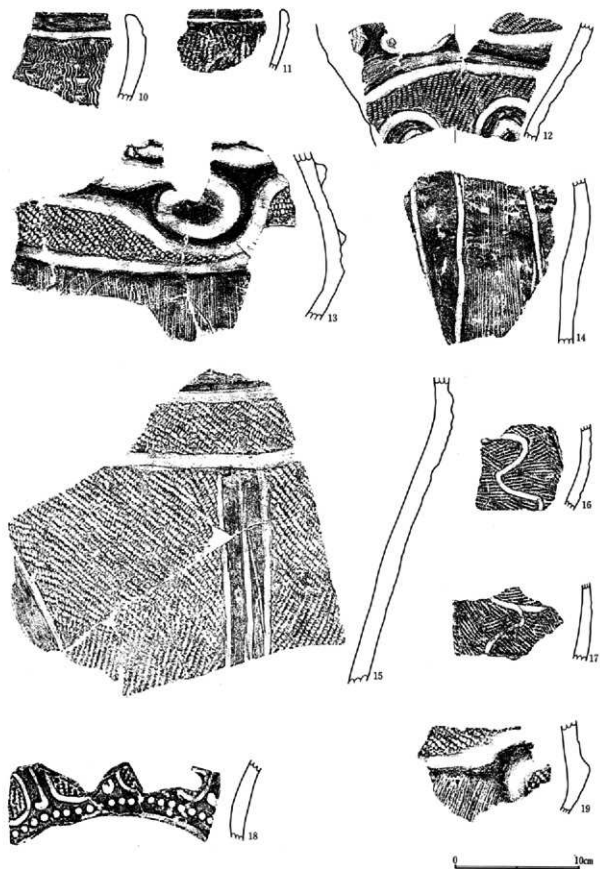
第47図 13号住居址炉・埋壺

13号住居址出土石器観察表 (50・51図 P L68)

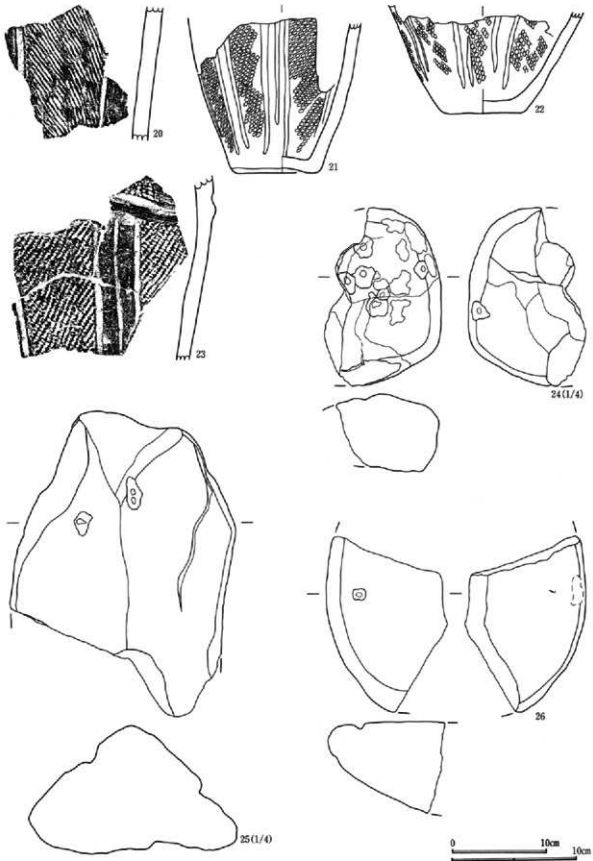
番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
24	多孔石	粗粒輝石 安山岩	破片	18.8	12.4	8.2	2190	不定形の自然石を使用。表面上半部に残い孔が4個あり、敲打痕もみられる。裏面には1孔だけ側縁部寄りにある。伊の礫石。
25	多孔石	粗粒輝石 安山岩	一部欠損	32.1	23.8	13.5	9600	伊の礫石として使用されていた。大型で不定形の河原石で孔が2個穿たれている。
26	台石	粗粒輝石 安山岩	破片	18.5	12.8	9.6	2320	表面面がやや磨れている。表面の側縁部寄りに孔が1個あり、裏面には敲打痕がある。伊の礫石。
27	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	13.7	9.3	5.2	1100	楕円形の河原石を使用。表面面とも良く磨れており、複数の敲打痕がある。両端部や側縁部には連続した敲打痕がある。
28	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	7.5	4.2	3.4	170	小型で楕円形の河原石を使用。全面が磨れており、表面面の一部には敲打痕があり、両端部には敲打痕が集中している。
29	磨石	粗粒輝石 安山岩	一部欠損	11.4	8.6	4.3	600	表面面とも良く磨かれており、表面には敲打痕とともに打撃による刻痕が見られる。側縁部は部分的に敲打痕がある。
30	石鏃	粗粒輝石 安山岩	完存	19.2	8.9	2.8	445	表面に大きく自然面を残し、削い作りである。刃部は平らで幅広く、基部は丸い。弥生時代の所産であると考えられる。
31	打製石片	黑色頁岩	刃部欠損	5.0	4.5	1.7	45.4	一部に自然面を残す。基部は平ら。
32	打製石片	黑色頁岩	基部欠損	5.8	4.2	1.6	38.8	短冊形と考えられ、刃部は丸くわずかに摩滅している。
33	削片石器	黑色頁岩	完存	3.5	6.3	0.9	18.9	不定形の狭長削片を使用。側縁部のほぼ全周に細かい刻痕が増えられている。
34	石鏃	黑色頁岩	完存	2.1	1.6	0.4	1.3	無茎の石鏃でハート形をなし、基部はやや湾入。



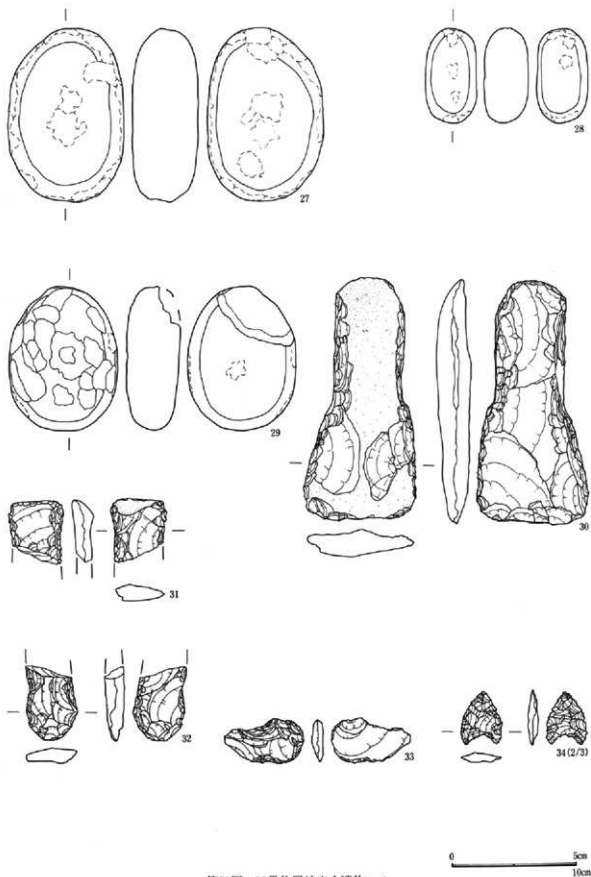
第48図 13号住居址出土遺物-1



第49図 13号住居址出土遺物-2



第50図 13号住居址出土遺物-3



第51図 13号住居址出土遺物-4

2土坑と遺物(52~72図 P.L.9~40)

土坑	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物	備考	グリッド
1	円形	1.64	1.55	0.90	縄文			17KG-10
2	不明	1.70	1.53	0.28	縄文			17KJ-10
3	不整形円形	1.29	0.97	0.21	縄文中期	縄文土器		17KJ-10
4	楕円形	1.20	0.88	0.40	縄文中期	縄文土器・石器		17KJ-5
5	楕円形	0.98	0.76	0.31	縄文		掘り方2段	17KK-7
6	不整形円形	0.64	0.55	0.45	縄文			17KK-8
7	円形	0.91	0.90	0.19	縄文	縄文石器		17KL-2
8	円形	0.85	0.80	0.15	縄文中期中葉	縄文土器		17KL-2
9	不整形	0.75	0.66	0.32	縄文			17KL-4
10	円形	0.11	0.15	0.44	縄文中期	縄文土器	袋状	17KL-4
11	不整形円形	0.75	0.59	0.50	縄文			17KL-4
12	長方形	1.60	0.66		近代		耕作用貯蔵穴	17KL-5
13	円形	0.92	1.00		近代		耕作用貯蔵穴	17KL-5
14	長方形	1.56	0.80		近代		耕作用貯蔵穴	17KL-5
15	長方形	2.16	0.70		近代		耕作用貯蔵穴	17KL-6
16	長方形	1.80	1.02		近代		耕作用貯蔵穴	17KL-6
17	不整形長方形	0.86	0.67	0.20	縄文			17KL-10
18	楕円形	0.63	0.45	0.28	縄文			17KL-10
19	不整形円形	1.14	1.00	0.42	縄文中期中葉	縄文土器・石器		17KM-3
20	円形	0.50	0.50	0.21	縄文			17KM-4
21	不整形長方形	3.02	0.72		近代		耕作用貯蔵穴	17KM・N-6
22	不整形	1.60	1.20		近代		耕作用貯蔵穴	17KM-6
23	長方形	1.54	0.92					17KM-4
24	長方形	1.84	0.72		近代		耕作用貯蔵穴	17KM・N-6
25	不整形円形	1.00	0.81	0.21	縄文			17KM-7
26	楕円形	0.69	0.50	0.38	縄文			17KM-7
27	不整形円形	0.72	0.68	0.25	縄文			17KM-8
28	不整形楕円形	1.17	0.67	0.26	縄文			17KN-8
29	円形	1.15	1.15	0.34	縄文前期	縄文土器		27KN-9
30	円形	0.35	0.28	0.75	古墳時代前期			17KM-10
31	楕円形	1.15	0.73	0.16	縄文中期中葉	縄文土器		17KN-2
32	不整形	1.62	0.70	0.10	縄文中期	縄文土器		17KN-O-2
33	長方形	2.72	0.46		近代		耕作用貯蔵穴	17KO-3
34	長方形	1.24	0.84		近代		耕作用貯蔵穴	17KO-3
35	不整形	1.26	1.02	0.47	縄文			17KN-5
36	不整形円形	0.46	0.31	0.19	縄文			17KN-5
37	長方形	3.00	0.52		近代		耕作用貯蔵穴	17KM・N-6
38	円形	0.84	0.79	0.44	縄文前期後葉	縄文土器		17KN-6
39	円形	0.50	0.43	0.17	縄文			17KN-6
40	円形	1.19	0.94	0.28	縄文前期中葉	縄文土器		17KN-7
41	円形	0.87	0.79	0.41	縄文前期中葉	縄文土器		17KN-O-7
42	円形	1.14	0.85	0.38	縄文			17KN-O-7
43	円形	1.38	1.26	0.28	縄文中期後葉	縄文土器		17KN-7-8
44	円形	1.67	0.90	0.21	縄文前期後葉	縄文土器・石器		17KN-7-8
45	不整形円形	1.67	0.68	0.16	縄文			17KN-7-8
46	不整形	2.09	0.83	0.21	縄文中期	縄文土器		17KN-8
47	円形	0.95	0.84	0.08	縄文中期中葉	縄文土器		17KN-8
48	不整形円形	1.62	1.11	1.25	縄文			27KN-8
49	円形	0.75	0.75	0.12	縄文			17KN-9
50	不明	1.71	0.50	0.30	縄文			17KO-2
51	長方形	2.58	0.54		近代		耕作用貯蔵穴	17KO-3
52	不整形	1.03	0.52	0.38	縄文			17KO-3
53	楕円形	0.51	0.44	0.17	縄文前期後葉	縄文土器		17KO-4
54	不整形	0.68	0.47	0.20	縄文			17KO-4
55	楕円形	0.37	0.33	0.35	縄文			17KO-4
56	楕円形	0.53	0.52	0.13	縄文			17KO-4
57	長方形	2.54	0.64		近代		耕作用貯蔵穴	17KO-5
58	長方形	3.22	0.56		近代		耕作用貯蔵穴	17KO-5

第2章 白川笹塚遺跡の調査

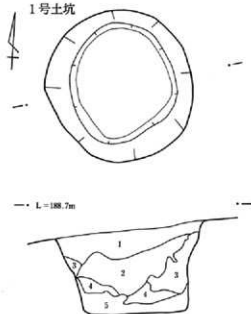
土坑	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物	備考	グリッド
59	円形	0.70	0.60	0.17	縄文中期中葉	縄文土器		17区P-5
60	不整形円形	0.57	0.47	0.18	縄文			17区O-6
61	長方形	2.24	0.46		近代		耕作用貯蔵穴	17区O-6
62	不整形	1.95	0.74	0.35	縄文中期中葉	縄文土器・石器		17区O-7
63	不整形	1.44	0.64	0.13	縄文			17区O-7
64	隅丸三角形	0.33	0.24	0.28				17区O-7
65	円形	0.80	0.68	0.18	縄文中期中葉	縄文土器		17区O-8
66	円形	0.85	0.78	0.30	縄文中期中葉	縄文土器		17区O-8-9
67	円形	0.75	0.74	0.46	縄文			17区O-9
68	円形	0.99	0.87	0.29	縄文			17区O-9
69	円形	1.13	0.95	0.11	縄文			17区O-9
70	不整形円形	1.21	1.08	0.42	縄文			17区O-9-10
71	円形	0.93	0.89	0.38	縄文			17区O-10
72	円形	0.76	0.64	0.39	縄文			17区O-10
73	楕円形	0.67	0.39	0.18	縄文			17区P-2
74	円形	0.50	0.45	0.21	縄文			17区P-2
75	円形	0.72	0.70	0.21	縄文			17区Q-2
76	不整形楕円形	1.19	0.75	0.70	縄文		掘り方2段	17区P-4
77	円形	0.61	0.53		縄文			17区P-Q-4
78	長方形	0.90	0.48		近代		耕作用貯蔵穴	17区P-5
79	長方形	2.80	0.42		近代		耕作用貯蔵穴	17区P-6
80	長方形	3.06	0.48		近代		耕作用貯蔵穴	17区Q-6
81	不明	1.70		0.50	縄文前期中葉	縄文土器		27区P-7
82	不整形	1.06	0.83	0.26	縄文			27区P-7-8
83	円形	0.45	0.40	0.25	縄文中期中葉	縄文土器		17区P-9
84	円形	0.90	0.84	0.38	縄文			17区P-10
85	隅丸方形	0.52	0.48	0.14	縄文			17区Q-2
86	不整形円形	0.45	0.35	0.28	縄文			17区Q-2
87	不整形長方形	1.72	0.78		近代		耕作用貯蔵穴	17区Q-4
88	長方形	2.26	0.56		近代		耕作用貯蔵穴	17区Q-6
89	不整形円形	0.43	0.44	0.28	縄文中期後葉	縄文土器		17区Q-8
90	不整形円形	0.35	0.25	0.65	縄文			17区Q-R-9
91	不整形円形	0.62	0.50	0.53	縄文			17区Q-10
92	円形	0.86	0.73	0.45	縄文		約半分が袋状	17区R-2
93	楕円形	0.61	0.46	0.20	縄文			27区R-S-7
94	円形	1.03	0.95	0.18	縄文			17区S-T-1
95	楕円形	2.21	1.18	0.38	縄文			17区S-2-3
96	円形	1.56	1.39	0.18	縄文			17区S-3
97	円形	1.09	1.04	0.27	縄文中期後葉	縄文土器		17区S-3-4
98	不整形	0.56	0.22	0.16	縄文			17区S-4
99	不整形長方形	1.11	0.50	0.54	縄文			17区S-4
100	円形	0.97	0.95	0.25	縄文			17区S-T-4
101	円形	0.45	0.35	0.26	縄文			17区S-9
102	円形	0.95	0.80	0.31	縄文			17区S-9
103	不整形円形	1.58	1.40	0.12	縄文			17区S-T-9
104	不整形円形	0.76	0.60	0.41	縄文			17区S-10
105	円形	1.08	0.98	0.36	縄文中期中葉	縄文土器・石器	一部袋状	17区T-1
106	楕円形	1.36	1.16	0.15	縄文中期中葉			17区T-1
107	不整形	1.48	1.19	0.32	縄文			17区T-1
108	円形	1.08	0.93	0.44	縄文中期中葉	縄文土器		17区T-3
109	円形	0.96	0.78	0.38	縄文			18区T-A-4
110	円形	0.83	0.81	0.23	縄文			18区T-A-4
111	楕円形	1.20	0.42	0.12	縄文			17区T-9-10
112	不整形円形	1.23	0.93	0.17	縄文			8区A-20
113	円形	0.83	0.83	0.43	縄文中期中葉		やや袋状	18区A-5
114	円形	0.93	0.85	0.30	縄文中期中葉	縄文土器		18区A-5
115	楕円形	1.56	1.04	0.25	縄文			18区B-2
116	円形	1.01	0.95	0.25	縄文中期中葉	縄文土器・石器		18区B-2
117	円形	0.82	0.80	0.50	縄文中期中葉	縄文土器・石器	袋状	18区B-2
118	不明	1.60	0.43	0.61	縄文中期	縄文土器・石器		28区B-4-5
119	円形	0.98	0.90	0.14	縄文			28区B-5
120	隅丸方形	0.54	0.27	0.60	縄文		袋状	18区B-C-5

2節 発見された遺構と遺物

土坑	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物	備考	グリッド
121	円形	0.85	0.79	0.30	縄文中期中葉	縄文土器		18区B-5/6
122	円形	0.93	0.45	0.34	縄文中期後葉	縄文土器	袋状	18区B-6
123	円形	1.01	0.91	0.65	縄文中期中葉	縄文土器	袋状	18区B-6
124	不整形	2.34	0.70	0.28	縄文中期中葉	縄文土器		18区B-6
125	不整形円形	1.21	1.15	0.25	縄文中期後葉	縄文土器		18区C-2
126	円形	1.10	0.85	0.60	縄文中期中葉	縄文土器	約半分袋状	18区C-2
127	円形	1.19	1.04	0.61	縄文中期中葉	縄文土器	約2/3袋状	18区C-2
128	不整形円形	0.95	0.87	0.24	縄文			18区C-4
129	円形	0.57	0.85	0.34	縄文			28区C-4
130	円形	0.85	0.77	0.13	縄文中期中葉	縄文土器		18区C-4
131	円形	0.88	0.85	0.13	縄文			28区C-5
132	楕円形	1.01	0.90	0.40	縄文		掘り方2段	18区C-5
133	円形	1.21	0.94	0.49	縄文中期中葉	縄文土器		18区C-5
134	不整形円形	0.88	0.47	0.23	縄文			18区C-5/6
135	不整形	0.79	0.49	0.32	縄文			18区C-6
136	円形	1.35	1.21	0.41	縄文			18区C-6/7
137	円形	0.84	0.76	0.64	縄文中期	縄文土器	袋状	18区C-7
138	円形	0.87	0.83	0.70	縄文	縄文土器・石器	袋状	18区C-D-7
139	不整形円形	0.80	0.67	0.25	縄文			28区D-4
140	不整形	0.91	0.36	0.30	不明			28区D-5
141	楕円形	0.89	0.52	0.23	縄文			28区D-5
142	円形	0.89	0.70	0.96	縄文中期	縄文石器		18区D-7
143	円形	0.70	0.63	0.51	縄文中期後葉	縄文土器		18区D-7
144	不明	2.19	1.34	0.51	不明			18区E-2
145	長方形	3.79	0.49	0.12	近代		耕作用貯蔵穴	18区H-1
146	長方形	3.22	0.58	0.12	近世	陶磁器	耕作用貯蔵穴	18区H-2
147	長方形	4.96	0.49	0.11	近世	縄文土器	耕作用貯蔵穴	18区H-3/4
148	円形	1.25	1.08	0.18	縄文			18区H-4
149	円形	1.50	1.40	0.28	縄文			18区H-5
150	隅丸長方形	3.50	0.37	0.04	近代		耕作用貯蔵穴	18区J-5/6
151	不整形	1.67	0.53	0.71	近代		耕作用貯蔵穴	18区L-2/3
152	長方形	1.18	0.46	0.43	近代		耕作用貯蔵穴	18区L-2/3
153	長方形	2.31	0.61	0.51	近代		耕作用貯蔵穴	18区L-3
154	隅丸長方形	2.57	0.46	0.50	近代	縄文土器・石器	耕作用貯蔵穴	18区L-3
155	長方形	3.04	0.61	0.49	近代		耕作用貯蔵穴	18区L-6
156	長方形	2.57	0.64	0.56	近代		耕作用貯蔵穴	18区N-2
157	長方形	1.05	0.47	0.64	近代		耕作用貯蔵穴	18区N-2
158	長方形	3.08	0.56	0.25	近世	陶磁器	耕作用貯蔵穴	18区R-2
159	長方形	不明	0.52	0.33	近世	縄文土器		18区S・T-2
160	長方形	8.25	0.57	0.28	近世	縄文土器		18区S・T-2
161	不整形長方形	2.33	0.31	0.07	近世		耕作用貯蔵穴	18区T-4
162	不整形長方形	0.72	0.44	0.35	近世			18区T-4
163	不明	5.57	0.60	0.20	近世			19区A・B-1
164	隅丸長方形	2.41	0.86	0.34	近世		耕作用貯蔵穴	19区A-2
165	隅丸長方形	3.95	0.38	0.64	近世			19区A-3/4
166	長方形	3.03	0.57	0.96	近世		耕作用貯蔵穴	19区C-3
167	長方形	5.12	0.59	0.29	近世		耕作用貯蔵穴	19区D-2
168	円形	1.03	0.96	0.94	近世	陶器	墓穴	18区T-1
169	不整形円形	1.38	0.68	0.14	近世	陶器	墓穴	9区B-19
170	隅丸長方形	1.13	0.65	0.17	近世	陶器	墓穴	9区B-19
171	不明	2.39	1.39					不明

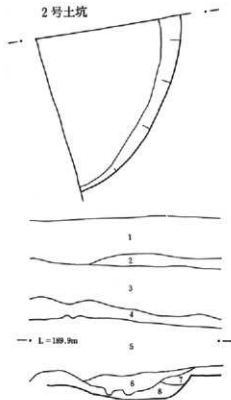
第2章 白川笹塚遺跡の調査

1号土坑



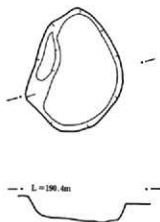
- 1 黒褐色土 YPを多量に、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 YPを含み、炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土 YP・ローム小ブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土 大粒のYPを含む。
- 5 暗褐色土 茶褐色土主体。黒褐色土を含み粘質。

2号土坑

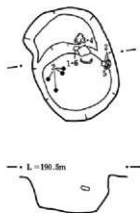


- 1 表土
- 2 浅間B軽石純層
- 3 黒色土 粒子細かく浅間C軽石を多量に含む。
- 4 暗褐色土 粒子細かく白色粒子を含む。
- 5 黒褐色土 粒子細かくYP・炭化物を少量含む。
- 6 暗褐色土 黒褐色土主体。YPを含む。
- 7 暗褐色土 やや明るく大粒のYPを含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒・YPを含む。

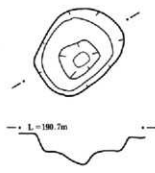
3号土坑



4号土坑

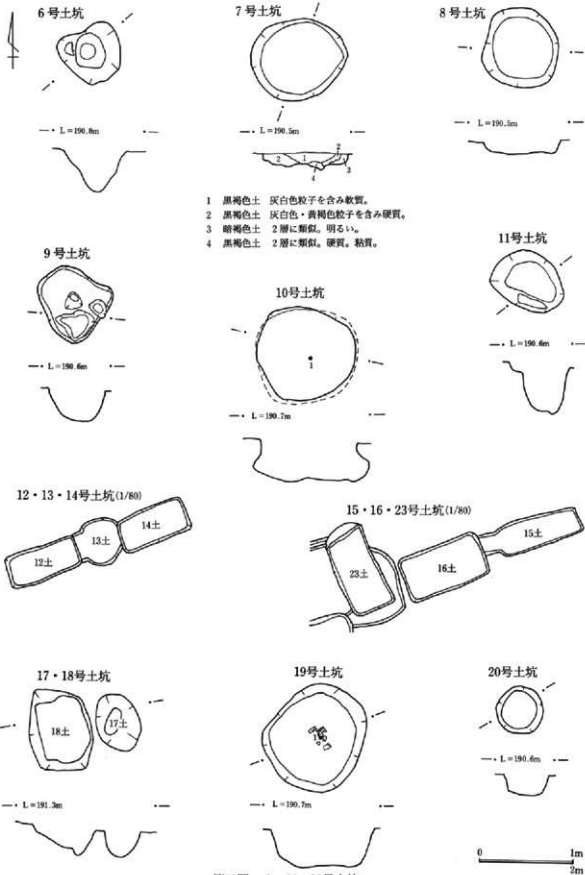


5号土坑



第52図 1～5号土坑

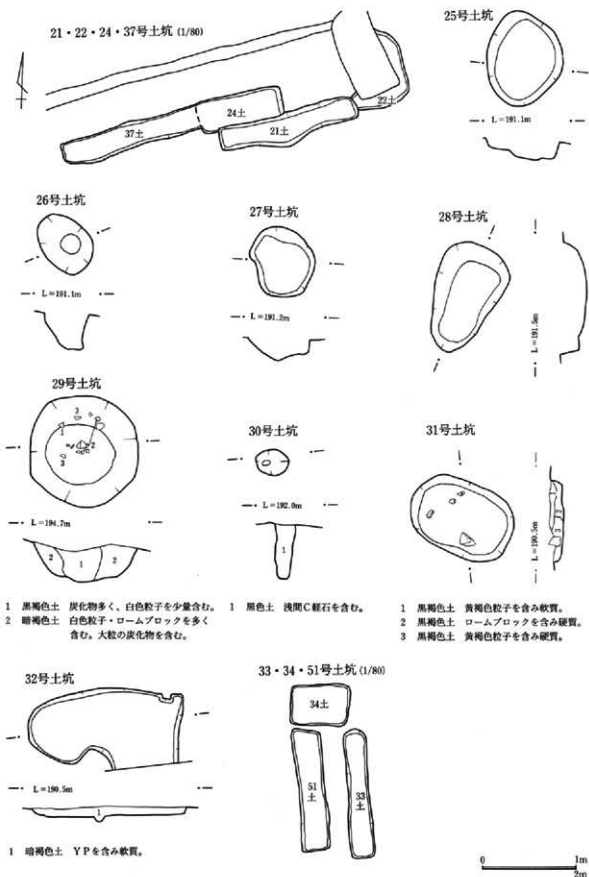
2節 発見された遺構と遺物



- 1 黒褐色土 灰白色粒子を含み軟質。
- 2 黒褐色土 灰白色・黄褐色粒子を含み硬質。
- 3 暗褐色土 2層に類似。明るい。
- 4 黒褐色土 2層に類似。硬質。粘質。

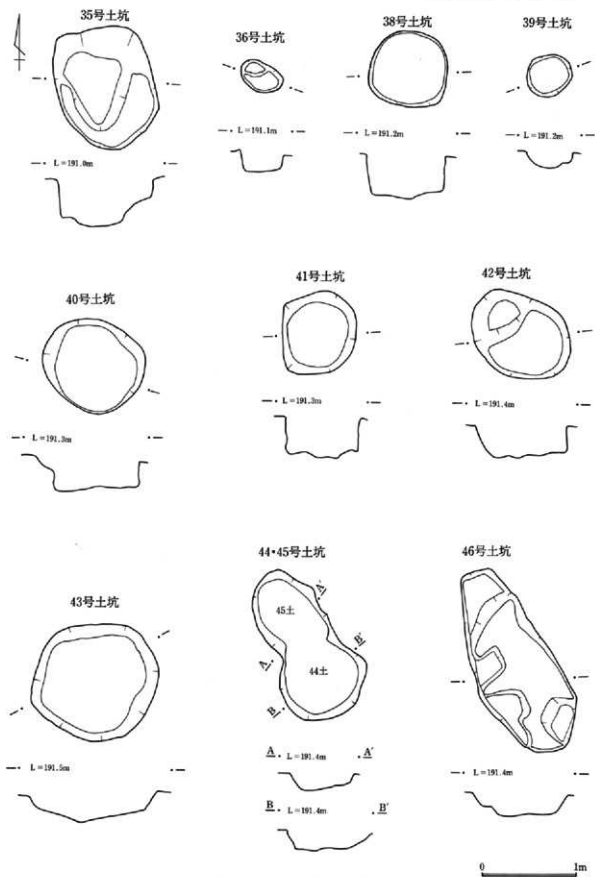
第53図 6～20・23号土坑

第2章 白川笹塚遺跡の調査



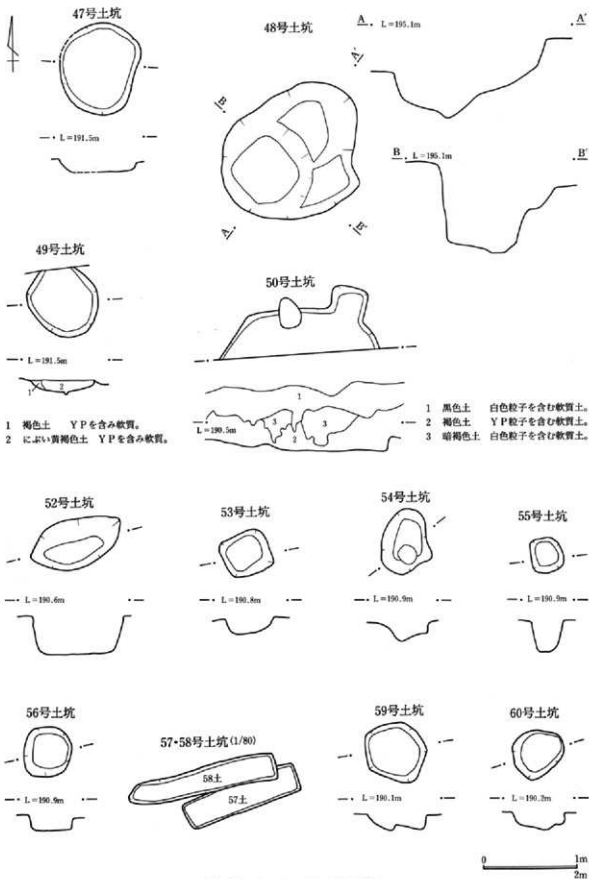
第54図 21・22・24～34・37・51号土坑

2節 発見された遺構と遺物



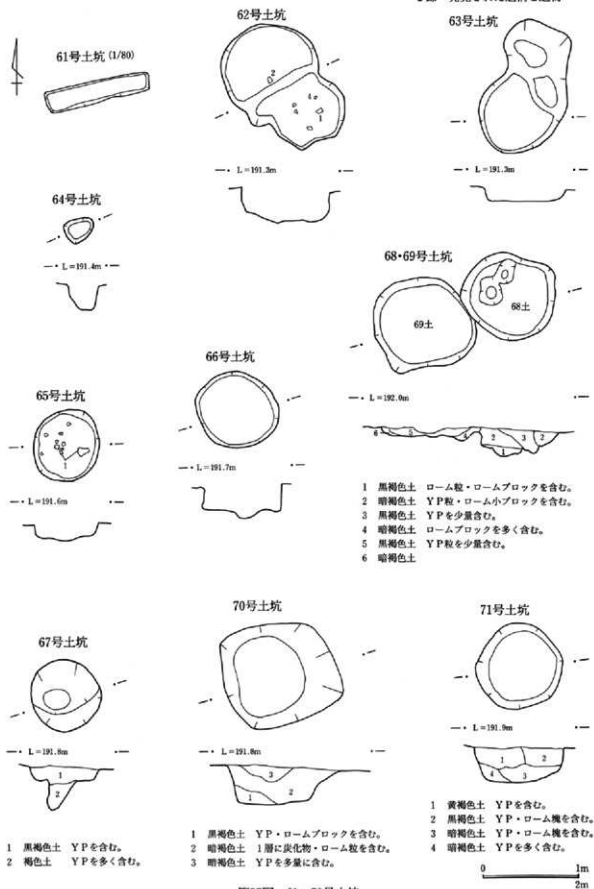
第55図 35・36・38～46号土坑

第2章 白川笹塚遺跡の調査



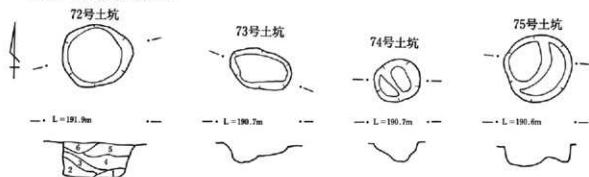
第56図 47~50・52~60号土坑

2節 発見された遺構と遺物

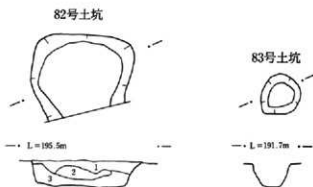
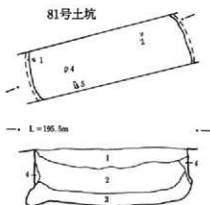
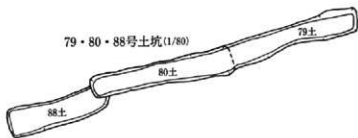
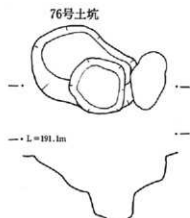


第57図 61~70号土坑

第2章 白川密塚遺跡の調査



- 1 黒褐色土 YPを少量含む。
- 2 暗褐色土 YPを含む。
- 3 暗褐色土 YPを少量含む。
- 4 暗褐色土 YP・ローム塊を多く含む。
- 5 暗褐色土 YPを少量含む。
- 6 褐色土 YPを含む。



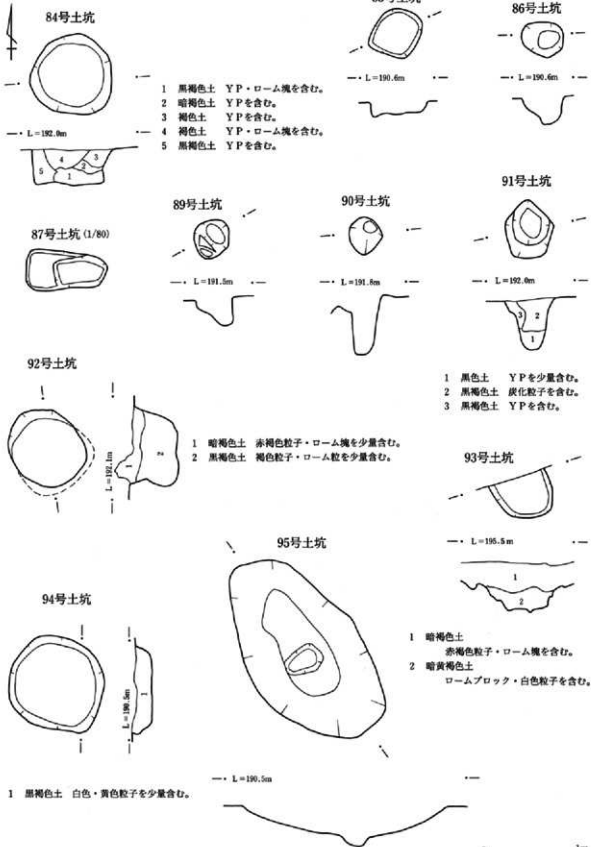
- 1 暗褐色土 暗褐色土ブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 YP・暗褐色土塊を含む。
- 3 黒褐色土 YP・明褐色土塊を多く含む。
- 4 暗褐色土 YPをやや多く含む硬い。

- 1 暗褐色土 暗褐色土ブロックをやや多く、白色粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 YP・白色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 YPを多く含む。

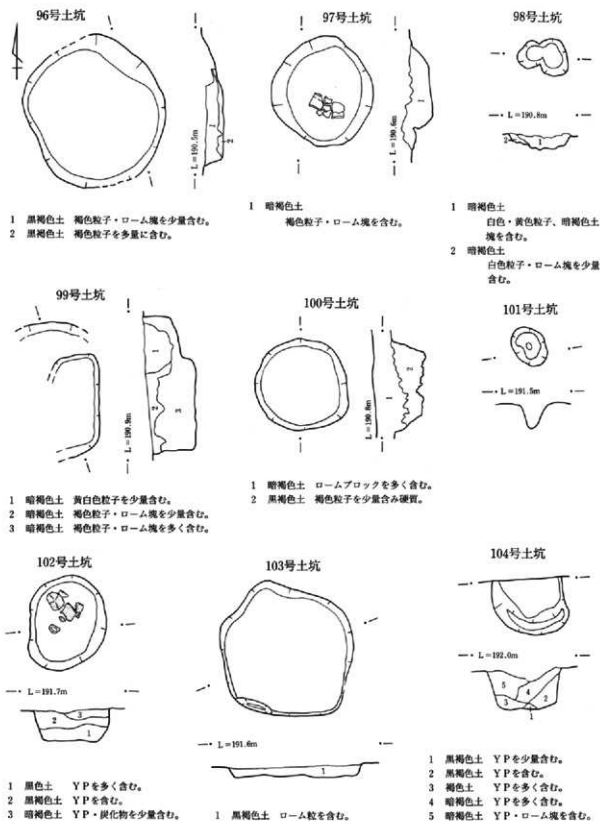


第58図 72～83・88号土坑

2節 発見された遺構と遺物

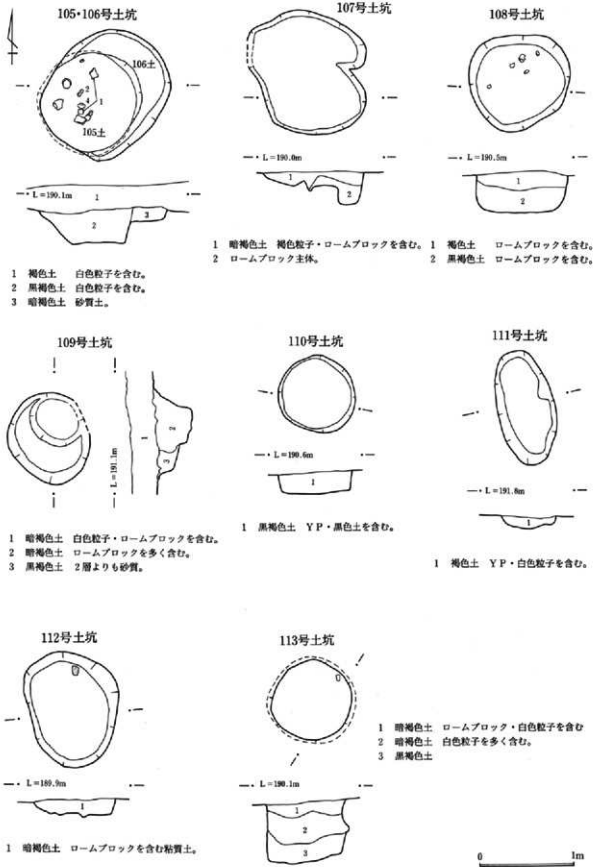


第59図 84～87・89～95号土坑



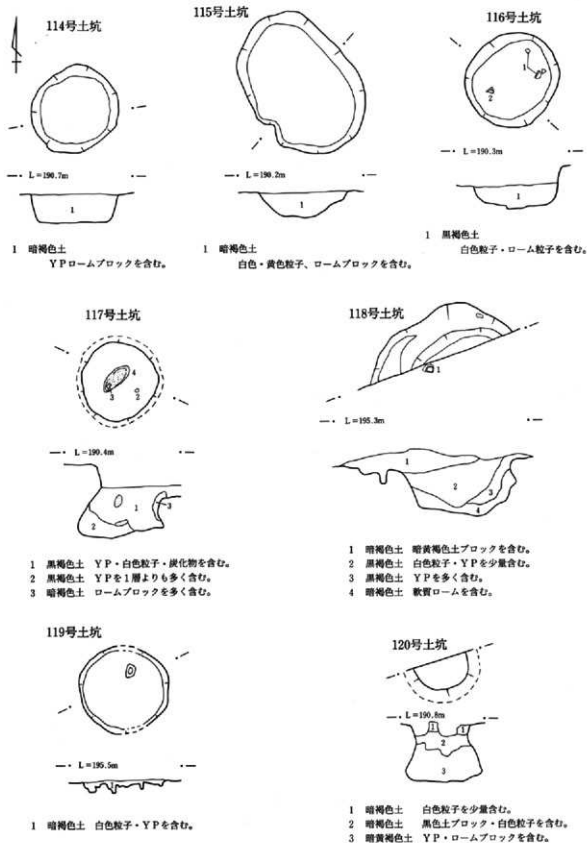
第60図 96～104号土坑

2節 発見された遺構と遺物



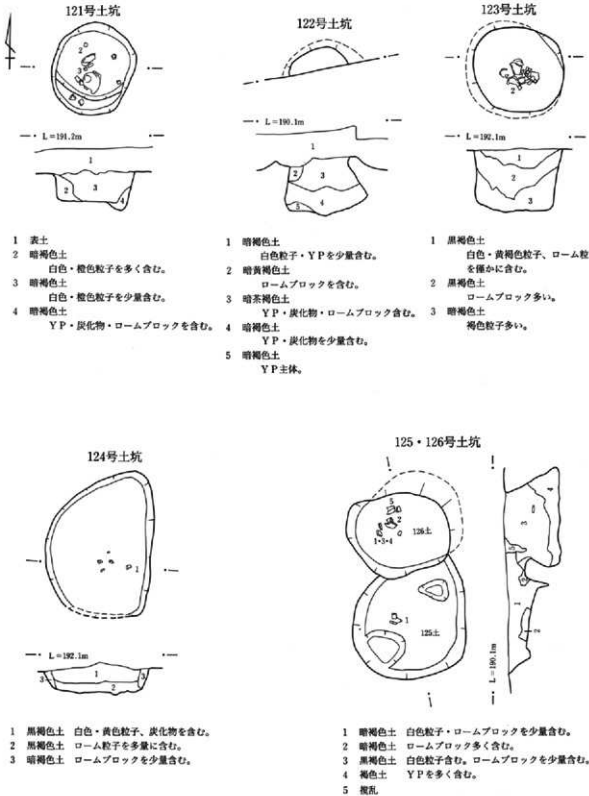
第61図 105～113号土坑

第2章 白川征塚遺跡の調査



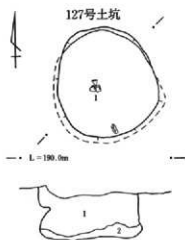
第62図 114~120号土坑

2節 発見された遺構と遺物

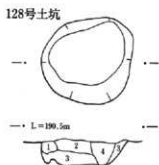


第63図 121～126号土坑

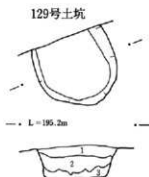
第2章 白川笹塚遺跡の調査



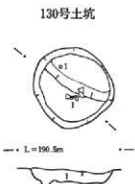
- 1 暗茶褐色土 YP多く、炭化物少ない。
- 2 暗褐色土 YPを少量含む。



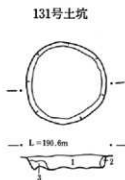
- 1 暗茶褐色土
- 2 暗茶褐色土 白色粒子を多く含む。
- 3 暗茶褐色土 白色粒子・YP含む。
- 4 雑土



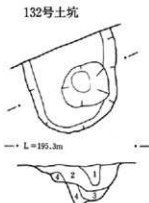
- 1 暗褐色土 YP・白色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 YPを多く含む硬質。
- 3 YP主体



- 1 暗茶褐色土 白色粒子・炭化物を含む。



- 1 暗褐色土 白色粒子・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。



- 1 暗褐色土 YPを多く含む。
- 2 暗褐色土 YPを含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 4 YP層



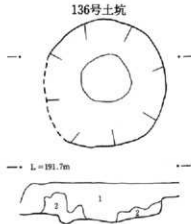
- 1 暗褐色土 白色粒・棕色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 YPを含む。
- 3 暗褐色土 YPを多く含む。



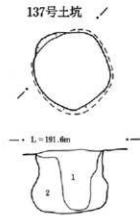
第64図 127～134号土坑



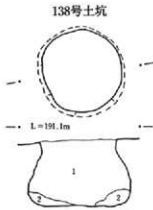
- 1 暗褐色土 YP・炭化物を含む。
2 暗褐色土 YP・炭化物を少量含む。



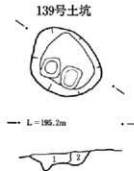
- 1 暗褐色土 YP・軽石を少量含む。
2 茶褐色土 YPを少量含む。



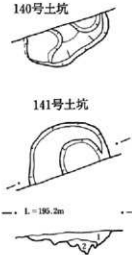
- 1 暗褐色土 炭化物を多く含む。
2 暗褐色土 炭化物・ローム粒を多く含む。



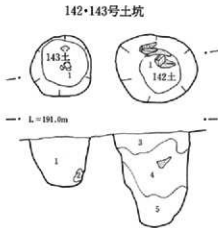
- 1 暗褐色土 白色・橙色・炭化物を含む。
2 茶褐色土 褐色粒子を含む。



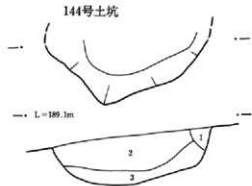
- 1 黒褐色土 YPを少量含む。
2 黒褐色土 硬化ブロックを含む。



- 1 黒褐色土 YPを少量含む。
2 黒褐色土 YPを多く含む。



- 1 暗褐色土 白色粒子・炭化物を多く含む。
2 茶褐色土 褐色粒子を含む。
3 暗褐色土 白色粒子を多く含む。
4 暗褐色土 褐色粒子・炭化物を多く含む。
5 暗褐色土 褐色粒子・炭化物を少量含む。

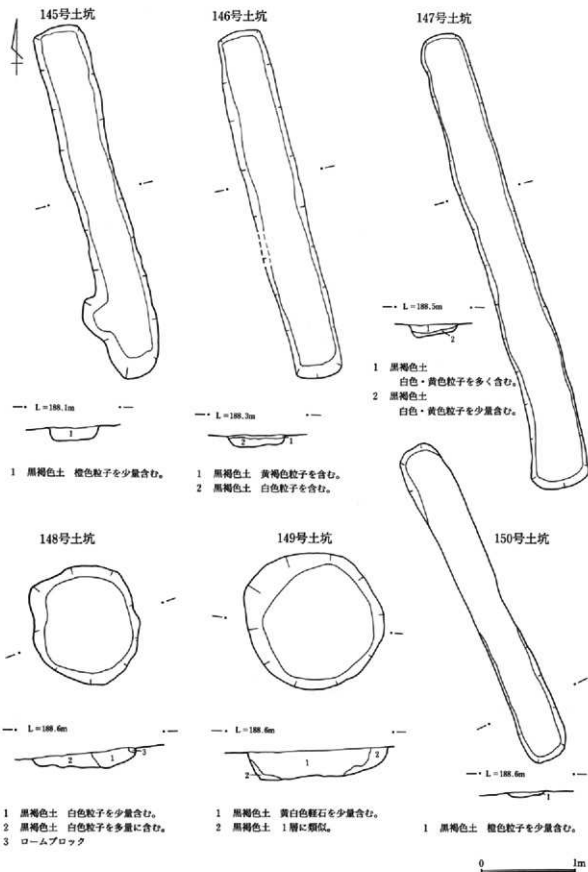


- 1 暗褐色土 YP粒を含む。
2 明褐色土 白色・YP粒を含む。
3 暗黄褐色土 YP粒・ロームブロック含む。

0 1m

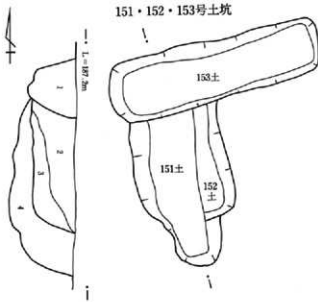
第65図 135~144号土坑

第2章 白川笹塚遺跡の調査



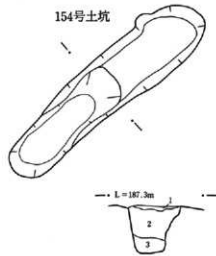
第66図 145～150号土坑

2節 発見された遺構と遺物



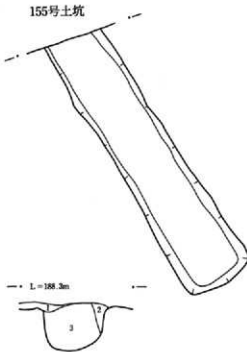
151・152・153号土坑

- 1 暗褐色土 黄白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄白色軽石を多く含む。
- 3 黒褐色土 黄白色軽石を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄白色軽石を多く含む。



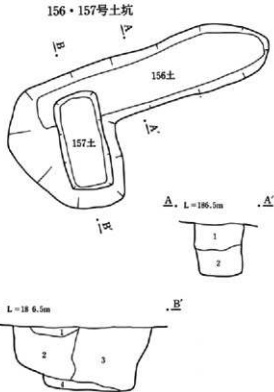
154号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒子・黄色粒子を含む。
- 2 黒褐色土 白色粒子を含む。
- 3 暗褐色土 褐色粒子を少量含む。



155号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒・黄色粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 Y Pを多く含む。
- 3 黒褐色土 白色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色粒子を少量含む。



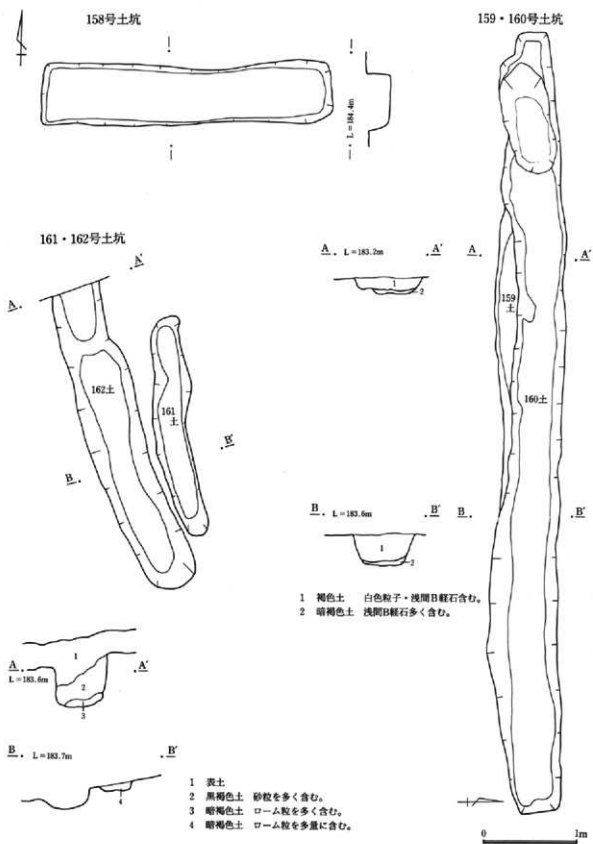
156・157号土坑

- 1 暗褐色土 Y Pを含む。
- 2 暗褐色土 Y Pを多く含む。
- 3 黒褐色土 軽石を少量含む。
- 4 黄褐色土 Y Pを多量に含む。

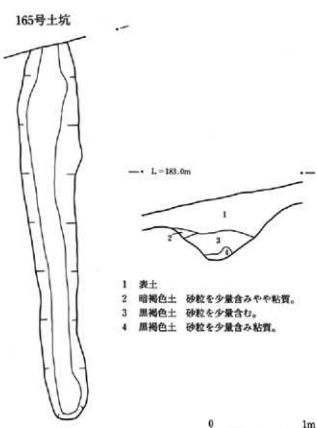
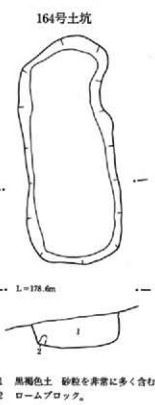
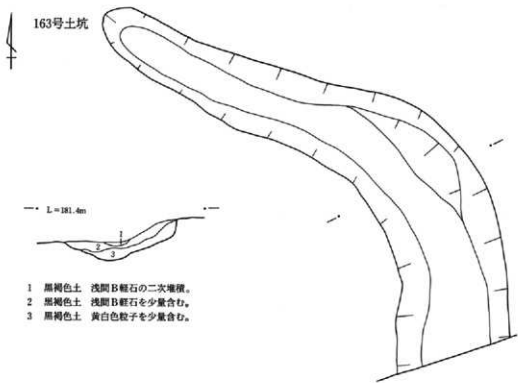
0 1m

第67図 151～157号土坑

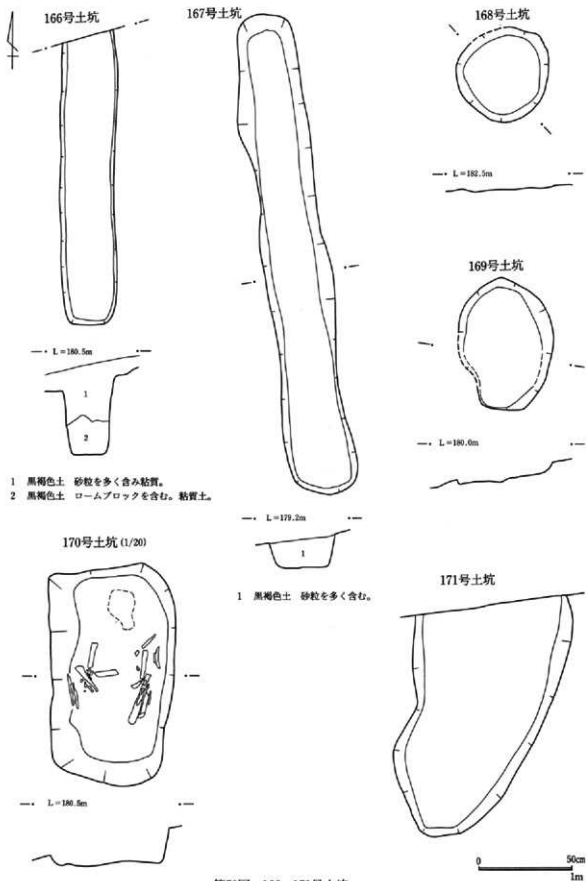
第2章 白川笹塚遺跡の調査



第68図 158~162号土坑



第69図 163~165号土坑



第70図 166～171号土坑

土坑出土土器観察表(71~78回 PL69~72)

土坑	番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
3	1	深鉢	明褐色	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	粘土紐を棒状に貼り付ける。
3	2	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石、 軽石多い	良	無文。
4	1	深鉢	にぶい赤褐色	2.5YR	φ1~2mmの小石	普通	頸部に巾7mmの平行沈線が通る。無文部は 縦位のナデ。
4	2	深鉢	暗褐色	10YR	細かい砂粒、雲母	良	隆線による口縁部文様の区画と渦巻状の 突起。口縁区画内に巾5mmの平行沈線が施 文される。
4	3	深鉢	灰褐色	5YR	細かい砂粒、雲母	良	2と同一個体。
4	4	深鉢	橙	7.5YR	φ1~3mmの小石、 雲母	良	RL縦位施文。太さ3~4mmの沈線を縦位区 画。
4	5	深鉢	にぶい橙	5YR	φ1~2mmの小石	良	RL縦位施文。太さ3mmの沈線による文様区 画。
4	6	深鉢	にぶい橙	5YR	φ1~2mmの小石、 雲母多い	普通	LR縦位施文。太さ6mmの隆線を縦位に施文。 2と接合。
8	1	深鉢	褐色	10YR		良	巾7mmの平行沈線横位に施文。沈線の両側 にへら状の削突を加える。外面スス付着。
8	2	深鉢	灰黄褐色	10YR	細かい砂粒	良	口唇部を肥厚させて突起を作る。口縁部は 横位に浅い沈線が5通る。
10	1	深鉢	にぶい赤褐色	5YR	細かい砂粒	普通	口縁部に4単位の把手とそれに続く隆線で 胴部を区画。胴部にも突起を4単位作る。口 唇直下には巾10mmの爪形文が通る。胴部 にも同様に爪形文が施文される。
19	1	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石、 雲母	普通	0段多条のRL。φ1cmの補修孔を持つ。
29	1	深鉢	褐色	10YR	φ1~2mmの小石、 繊維	良	0段多条のRL・LRの羽状縦文で菱形を作る。
29	2	深鉢	橙	5YR	φ1~3mmの小石、 繊維	不良	0段多条のRL。
29	3	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	φ1~2mmの小石、 繊維	普通	0段多条のRL。
31	1	深鉢	にぶい赤褐色	5YR	細かい砂粒	良	太さ8mm断面三角形の隆線が横位に通る。 胴面に指頭圧痕が残る。
31	2	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	細かい砂粒	良	巾5mmの爪形文。
32	1	深鉢	褐色	7.5YR	細かい砂粒	良	RL縦位施文。太さ6mmの沈線で縦位の区画 を作る。
38	1	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒	普通	巾4mmの平行沈線で矢羽状に施文。
40	1	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾7mmの爪形文。
41	1	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石	良	巾3mmのベン先状と半円形の押し引き爪形 文。
43	1	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1mmの砂粒、雲母	良	LR縦位施文。太さ2mmの微隆起線が縦位に 区画。
43	2	深鉢	橙	7.5YR	φ1mmのローム粒、雲母	良	LR縦位施文。太さ5mmの沈線で横内区画を 作る。
44	1	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	巾5mmの細部浮線と刻みを持つ浮線を交互 に施文。
46	1	深鉢	灰褐色	7.5YR	細かい砂粒	良	太さ15mmの凹みを持つ隆線が横位に貼付さ れる。
47	1	深鉢	黒褐色	10YR	細かい砂粒、雲母	良	太さ15mmの凹みを持つ隆線が横位部から垂 下する。口唇部には刻み。押し引きの爪形 文施文。
47	2	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	細かい砂粒	良	巾6mmの平行沈線で縦線を描く。巾4mmの 爪形文が縦線に沿って施文される。
53	1	深鉢	にぶい赤褐色	5YR	細かい砂粒が多い	良	条線が縦位に施文される。
59	1	深鉢	にぶい赤褐色	5YR	細かい砂粒	良	無文。

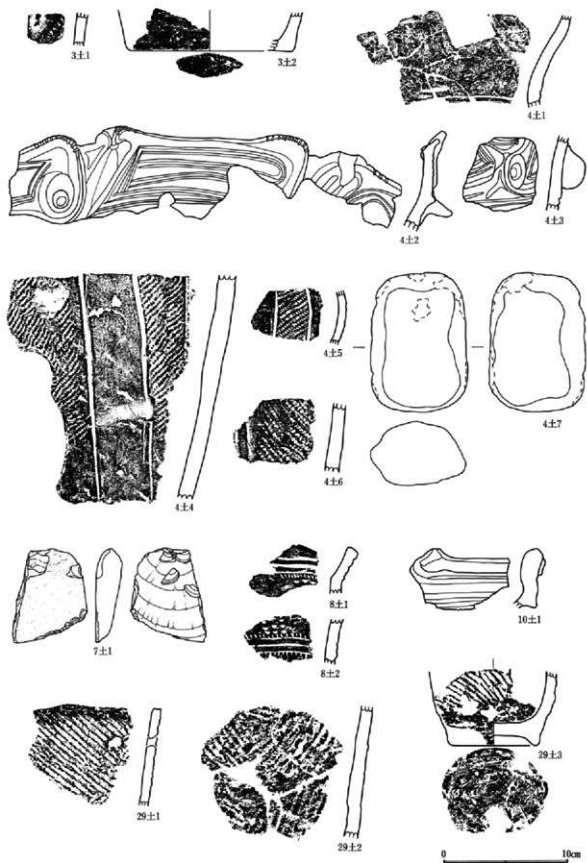
第2章 白川笹塚遺跡の調査

土坑	番号	種類・器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
62	1	深鉢	灰褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	口唇部に刻みを持つ。外面に横位のミガキ。
62	2	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒、雲母	良	口唇部に刻みを持つ。外面に横位のミガキ。
62	3	深鉢	褐灰	7.5YR	φ1～3mmの小石、雲母	普通	無文。横位のナデ。
62	4	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1～3mmの小石	良	口唇部に刻みを持つ。外面横位のナデ。
65	1	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1～3mmの小石、雲母	普通	巾12mmの隆線が波状に施文。隆線に沿って爪形文が施文される。
65	2	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1～3mmの小石、雲母	普通	太さ4mm押し引きの沈線が施文する。
66	1	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1～3mmの石英、雲母	良	太さ3mmの沈線が波状に施文される。
66	2	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒	良	無文。横位のナデ。
81	1	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、繊維	良	巾6mmの平行沈線と爪形文。
81	2	深鉢	黒褐	2.5YR	細かい砂粒、繊維	良	巾11mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。
81	3	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、繊維	良	Lr横位施文。
81	4	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1～3mmの小石、雲母	普通	巾6mmの平行沈線を側面状に施文して菱形を作る。胴部はRlの横位施文。外面にスス付着。
81	5	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1～2mmの小石、繊維	普通	RlとLrの横位施文の両方を菱形に構成する。
83	1	深鉢	明赤褐	2.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ3mmの単沈線と粘土組による縦状突起。
83	2	深鉢	暗褐	10YR	φ1mmの雲母	普通	巾15mmの爪形文。
83	3	円盤	黒褐	10YR	細かい砂粒、雲母	普通	無文。
89	1	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	Lrの断糸を縦位に施文。微隆起線で縦位の区画を作る。
89	2	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1～2mmの小石、雲母	良	RLを斜位に施文。太さ4mmの沈線が縦位の区画を作る。
89	3	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	良	LRを縦位に施文。太さ4mmの沈線が縦位の区画を作る。
97	1	深鉢	橙	2.5YR			2と同一個体。
97	2	深鉢	橙	2.5YR	φ1～2mmの小石	普通	RL横位施文。巾10mm以上の沈線と隆線による横円区画と横巻き。頸部は無文帯を持つ。外面にスス付着。
105	1	深鉢	暗赤褐	5YR	φ1～3mmの小石、雲母	普通	隆線で口縁部に横長の横円区画を作り、それ以下に太さ3mmの沈線が波状や横線を施文する。
105	2	深鉢	黒褐	10YR	φ1～3mmの小石、雲母	普通	太い凹みを持つ隆線を張り付け、縦長い爪形文を施文。
108	1	深鉢	橙	5YR	φ1～2mmの小石	普通	巾4mmの平行沈線で長方形に文様帯を区画し、押し引きの結節沈線で文様を細く。
108	2	深鉢	橙	5YR			1と同一個体。
113	1	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1～3mmの小石	普通	RL横位施文。太さ6mmの沈線で文様を細く。円形の刺突も同じ工具による。
114	1	深鉢	黒褐	10YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ3mmの沈線で押し引きの結節を作る。
116	1	深鉢	明赤褐	2.5YR	φ1～2mmの小石、砂粒	普通	太さ3mmの沈線で長方形の区画を作る。
117	1	深鉢	褐	7.5YR	細かい砂粒	良	太さ3mmの沈線と隆線で文様を細く。
117	2	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ8mmの隆線と巾7mmの平行沈線。押し引きの刺突。
117	3	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ3mmの押し引きの沈線。
118	1	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	横位のナデ、上げ底。
121	1	浅鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1～3mmの小石	普通	無文。内面口縁にスス付着。
121	2	深鉢	褐灰	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	巾6mmの平行沈線が縦位に施文される。口唇下と沈線に沿って爪形文が施文される。

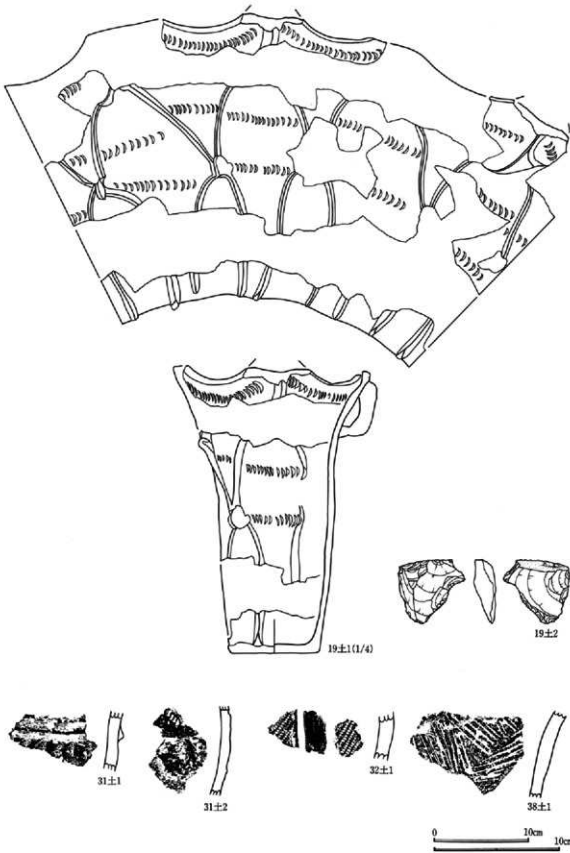
2節 発見された遺構と遺物

土坑	番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
121	3	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~2mmの小石、 雲母	良	隆線を張り付け、弧を描く。
122	1	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石、 雲母	普通	RL斜位施文。太い沈線と隆線で横円区画を作る。
122	2	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、 雲母	普通	太さ5~6mmの沈線を縦位に施文。器面は横位のナデ。
122	3	深鉢	赤黒	10R	φ1~3mmの小石	普通	微隆起線による文様施文。
123	1	浅鉢	灰褐	5YR	細かい砂粒	普通	隆線による渦巻きで口縁に突起を作る。内面にスス付着。
123	2	深鉢	褐	10YR	φ1~2mmの小石、 金雲母	普通	隆線を弧状に貼り付ける。外面スス付着。
124	1	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~2mmの砂粒	普通	巾5mmの平行沈線を横位に区画し、斜位に充填する。
125	1	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石	不良	Lr縦位施文。巾6mmの沈線で長楕円形に区画する。
126	1	深鉢	暗赤褐	5YR	φ1~2mmの小石多い、 雲母	不良	Lr横位施文。隆線と沈線による口縁部文様を描く。
126	2	深鉢	暗赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	良	巾2mmの沈線で文様を描く。把手の縁には刻みが施される。 1と同一個体。
126	3	深鉢				不良	太い沈線と隆線により帯状の突起を作る。
126	4	深鉢	暗褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	不良	Lrを縦位に施文し羽状施文を作る。隆線で粘土層を貼り付ける。
126	5	深鉢	暗褐	10YR	細かい砂粒多い	不良	Lrを縦位に施文し羽状施文を作る。隆線で粘土層を貼り付ける。
127	1	深鉢	赤	10R	細かい砂粒	良	太さ12mmの隆線で横円区画を作り、ロ字形の爪形文を押し引きする。中に斜線を充填。 巾5mmの平行沈線で文様を描き、ペン先状の刺突を加える。
130	1	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、 雲母	普通	巾5mmの平行沈線と隆線で縦位に区画し、その間に爪形文や平行沈線が施文される。 太さ8mmの隆線が指頭圧され貼付される。 巾6mmの平行沈線で数条横位に施文される。 太さ3mm、巾15mmの沈線を施文する。
133	1	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾7mmの平行沈線と隆線で縦位に区画し、その間に爪形文や平行沈線が施文される。 太さ8mmの隆線が指頭圧され貼付される。 巾6mmの平行沈線で数条横位に施文される。 太さ3mm、巾15mmの沈線を施文する。
137	1	深鉢	灰褐	7.5YR	細かい砂粒	普通	太さ3mm、巾15mmの沈線を施文する。
138	1	深鉢	灰褐	7.5YR	細かい砂粒	良	太さ3mm、巾15mmの沈線を施文する。
143	1	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~2mmの砂粒	普通	太さ3mm、巾15mmの沈線を施文する。
146	1	陶器皿					
147	1	深鉢	褐	7.5YR	φ1~2mmの小石	良	RL縦位施文。口縁に太さ6mmの沈線が一条通る。
147	2	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、 軽石粒	不良	RL縦位施文。太さ10mmの沈線で縦位の区画。
154	1	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、 雲母	普通	巾3mmの平行沈線を波状に施文。
154	2	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、 雲母	良	巾3mmのペン先状の押し引き爪形文。
154	3	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~5mmの小石、 片岩含む	普通	太さ6mmの粘土層が縦位に貼付される。
154	4	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾8mmの粘土層が縦位に貼付される。
154	5	深鉢	にぶい褐	2.5YR	細かい砂粒	良	Lrの燃余文。
158	1	焙烙	にぶい黄橙	10YR	精製された土	良	文様施文。焙烙の底部片。
159	1	深鉢	赤橙	10R	細かい砂粒	良	太さ3mmの浮線を横位に貼付し、RLの縄文を横位に施文。
160	1	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	良	口縁に太い沈線が横位に通る。
163	1	陶器碗	黄褐	2.5Y	細粒	良	底部片。褐色の釉がかかる。
168	1	陶器皿	淡黄	5Y	細粒	良	高台灰釉。江戸時代。
169	1	陶器皿	灰白	5Y	細粒	良	高台灰釉。江戸時代。
170	1	陶器皿	灰白	5Y	細粒	良	高台灰釉。江戸時代。
170	2	陶器皿	灰白	5Y	細粒	良	高台灰釉。江戸時代。

第2章 白川笹塚遺跡の調査

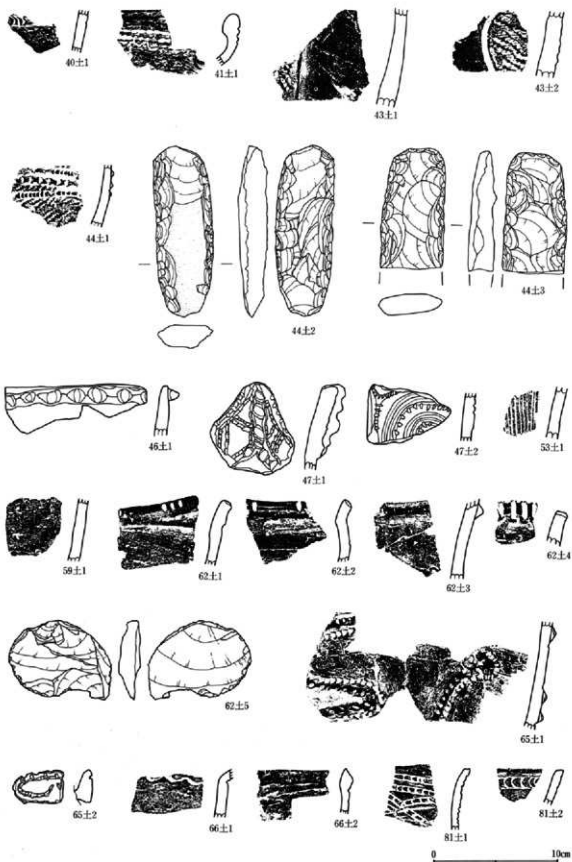


第71図 土坑出土遺物-1



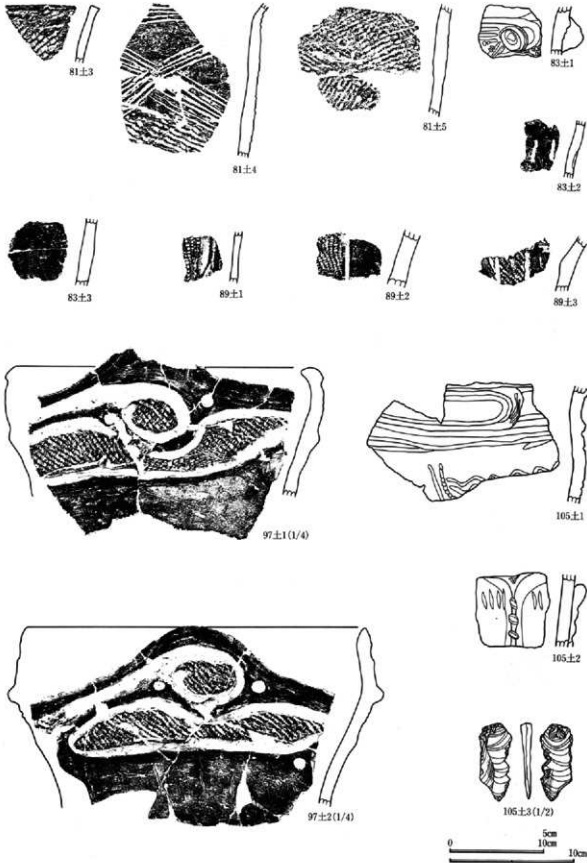
第72図 土坑出土遺物-2

第2章 白川笹塚遺跡の調査

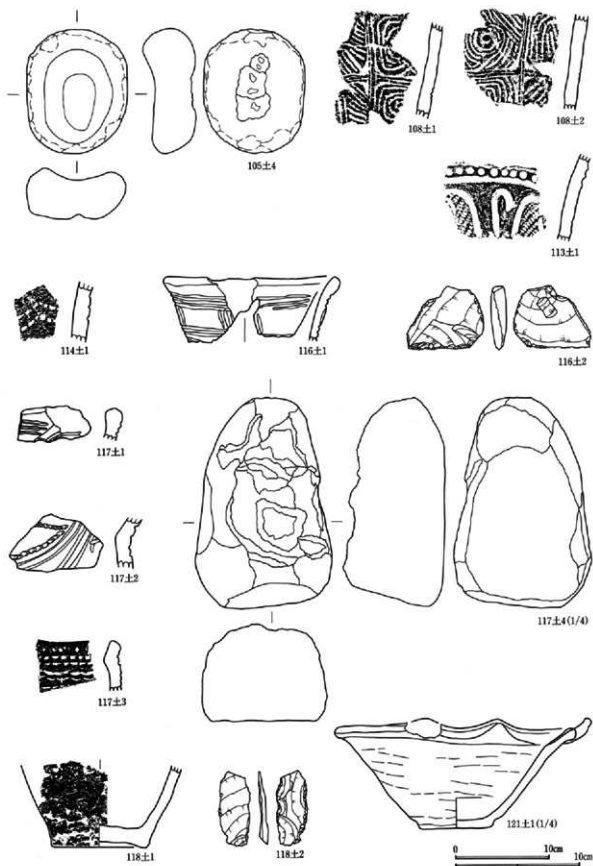


第73図 土坑出土遺物-3

2節 発見された遺構と遺物

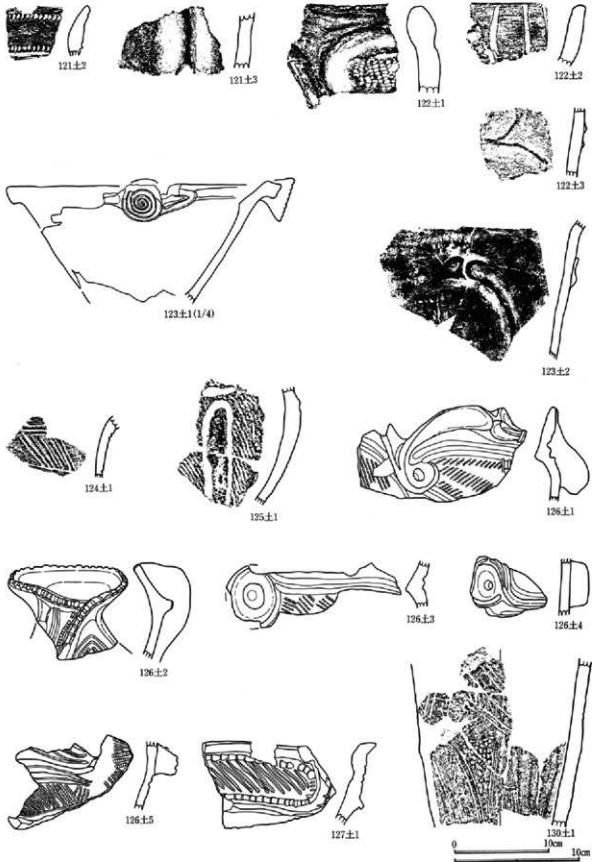


第74図 土坑出土遺物-4



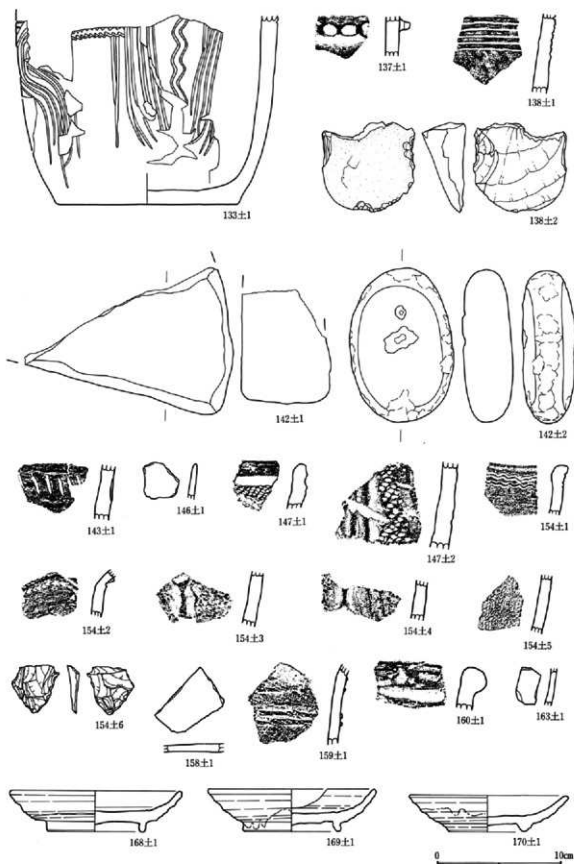
第75図 土坑出土遺物-5

2節 発見された遺構と遺物



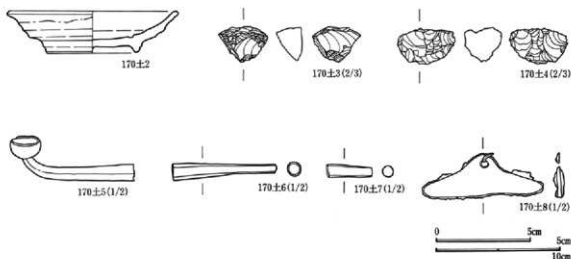
第76図 土坑出土遺物-6

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第77図 土坑出土遺物 - 7

2節 発見された遺構と遺物



第78図 土坑出土遺物- 8

土坑出土石器観察表(71図~78図 PL69~72)

土坑	番号	種類	石質	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・その他
					(cm)	(cm)	(cm)		
4	7	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	11.0	7.7	5.1	605	片面に残い凹み、裏面は磨られている。
7	1	剥片石器	黒色頁岩	完存	7.4	6.0	2.1	91.3	不整形をなす剥片で、表面に大きく自然面を残す。1側縁部に刻線を加え刃部としている。
19	2	剥片石器	黒色頁岩	完存	5.0	5.2	1.7	34.4	不定形の剥片で、V字状をなす2側縁部に細かい刻線を加えて刃部としている。
44	2	打製石器	変玄武岩	完存	13.5	4.8	2.3	186.4	短冊形をなし、表面に大きく自然面を残す。刃部・基部とも丸い。
44	3	打製石器	黒色頁岩	刃部欠損	9.6	5.1	2.1	136.9	短冊形をなし基部は平ら。
62	5	剥片石器	黒色頁岩	完存	6.2	8.1	1.7	85.2	不定形の剥片で、一部の側縁部に細かい刻線を加えほとんどの側縁部に使用痕がみられる。
105	3	剥片石器	黒曜石	一部欠損	4.1	1.7	0.6	2.9	小型の縦長剥片で、両側縁部に細かい連続した刻線や使用痕が見られる。
105	4	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	9.8	8.0	4.2	420	楕円形の河原石を使用。表面は石皿状に大きく窪んでいる。裏面は磨れており、中央部に刻みをなして5個の凹みがある。両端部や側縁部には敲打痕が連続している。
116	2	剥片石器	黒色頁岩	完存	4.4	6.1	1.2	38.8	不整形をなす剥片で、3側縁部に細かい刻線を加え刃部としている。
117	4	台石	粗粒輝石 安山岩	完存	22.1	14.5	10.8	5092	表面に敲打痕。
118	2	剥片石器	黒色頁岩	完存	5.8	2.5	0.8	7.7	やや長方形をなす薄い剥片を使用。平行する2側縁部に片面より細かい刻線を加え刃部としている。
138	2	剥片石器	変玄武岩	一部欠損	7.1	7.4	3.5	150	表面に大きく自然面を残す大型の剥片で、弧状をなす側縁部に片面より細かい刻線を加え刃部としている。
142	1	台石	粗粒輝石 安山岩	剥片	15.3	11.7	7.2	1400	表面は平坦でやや磨れている。
142	2	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	12.2	8.3	4.4	610	楕円形の河原石を使用。表面とも非常に良く磨かれており、表面中央部寄りに大小の凹みがある。両端部や側縁部に連続した敲打痕がある。
154	6	剥片石器	黒色頁岩	完存	3.7	3.7	1.0	9.8	三角形をなす剥片で、V字状をなす2側縁部に刻線を加え刃部としている。
170	3	火打石	玉ずい	完存	1.4	1.9	1.0	4.9	台盤形をなす小型高で、上端面に打撃痕。
170	4	火打石	玉ずい	完存	1.4	2.3	1.4	4.9	台盤形をなす小形高で、下端面に打撃痕。

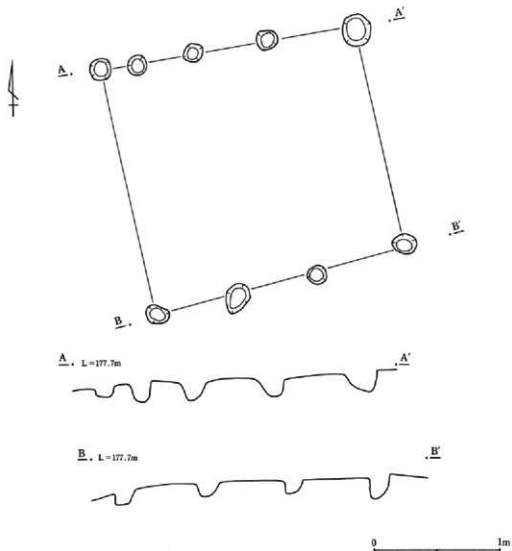
土坑出土鉄器観察表 (78図 P L72)

土坑番号	番号	種類	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
170	5	羅首	完存	7.8			8	羅首受けはφ1.5cm。羅字側のφ9mm。
170	6	吸い口	完存	4.4			2	羅字側のφ8mm。吸い口φ3mm。
170	7	羅字 (管)	黒色頁岩	2.2			1	吸い口に接続する部分。
170	8	火打ち石	完存	6.4	2.4	4.0	7	携帯用の火打ち金で握み部に紐を通す孔を持つ。

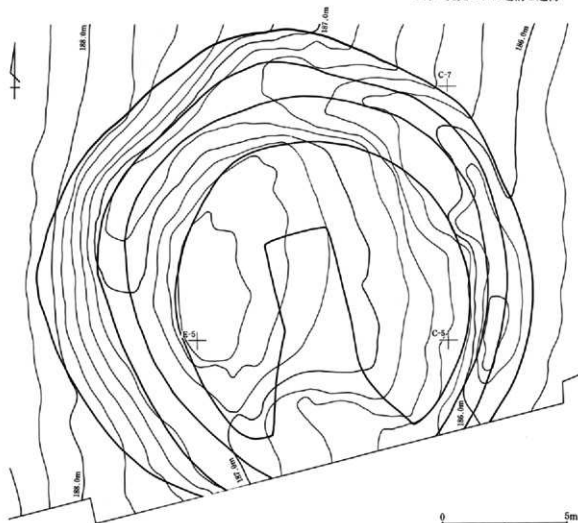
3 掘立柱建物址

1号掘立柱建物址 (79図 P L41)

1号掘立柱建物址は、東西方向に北側で4間5穴、南側で3間4穴、南北1間2穴の柱穴による建物である。規模は、東西2m。南北は、西側で2m、東側で1.8mを測る。東側が若干狭くなる台形を呈する。柱穴の規模は、確認面で径16~22cm、深さ12~20cmとほぼ等質の柱穴である。遺物は確認されなかった。



第79図 1号掘立柱建物址



第80図 1号古墳全体図-1

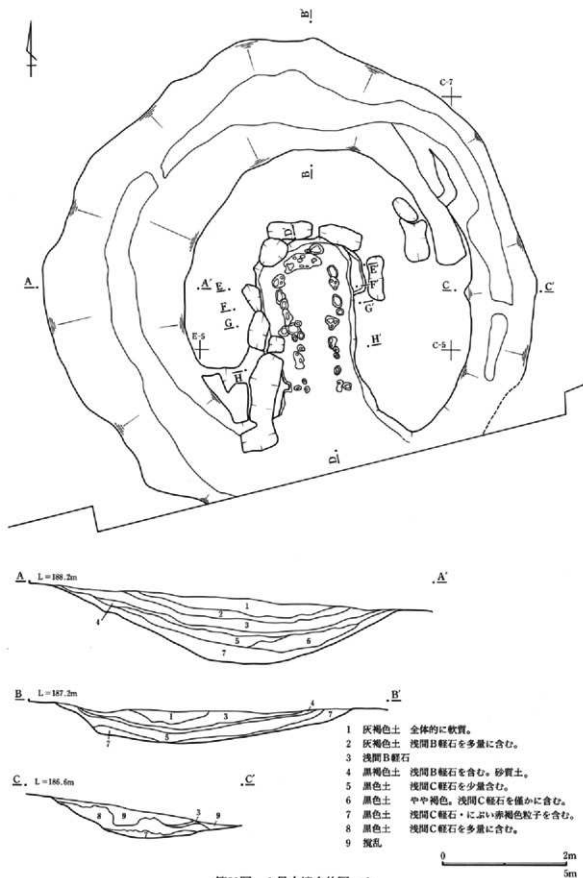
4 古墳

1号古墳 (80～84図 PL42～46)

古墳は、北から南へと傾斜しながら延びる馬の背状の低い尾根に位置している。したがって、西・南・東方向からは見上げる位置にある。古墳の墳丘は殆ど痕跡をとどめないほどに削平されていた。昭和10年の群馬県下古墳再調査の際にも確認されておらず、それ以前に削平されていた可能性も考えられる。本古墳は表土の除去時点で確認されたが、残存していたのは石室最下段の石組と周堀である。

墳丘・周堀 墳丘が削平されているので、墳丘の高さは不明である。墳形は円墳で直径11.5mである。周堀は南側の一部が調査区域外となっており、この部分については不明であるが、その他の部分は全周している。周堀の幅は一定ではなく、最も狭い東側で2.3m、広い西側は5.5mである。東側から北側、西側にかけて幅が広がっていく傾向がある。断面は深皿状を呈する。深さは浅い東側で40cm、北側で55cm、最も深い西側では1mとなっている。

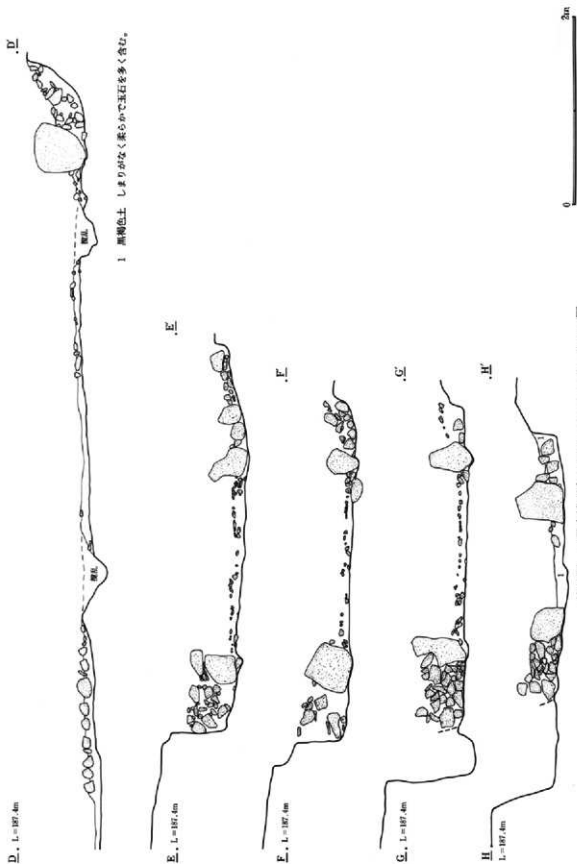
石室 すでに削平されており、最下段の石組と裏込め、および前庭部の確認である。主軸はN-11°-Wで、ほぼ南側に開口する。



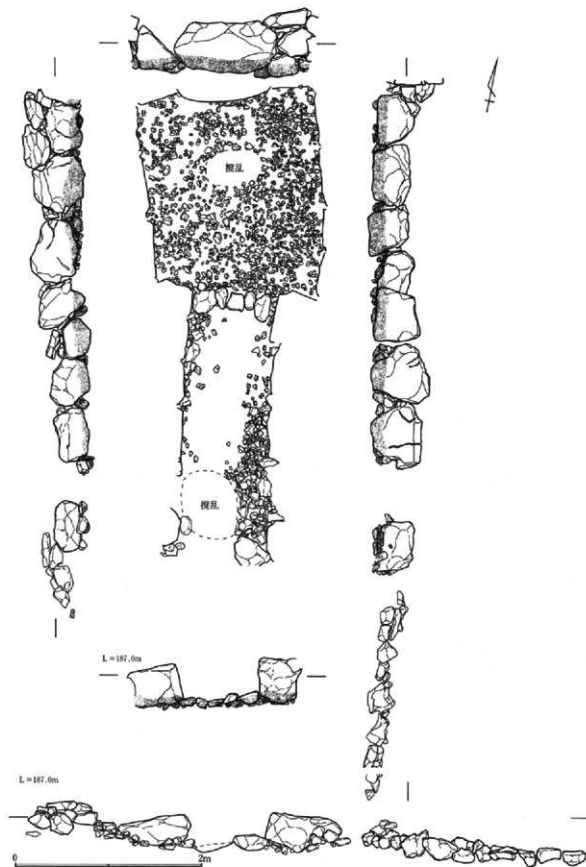
第81図 1号古墳全体図-2



第82図 1号古墳石室全体図

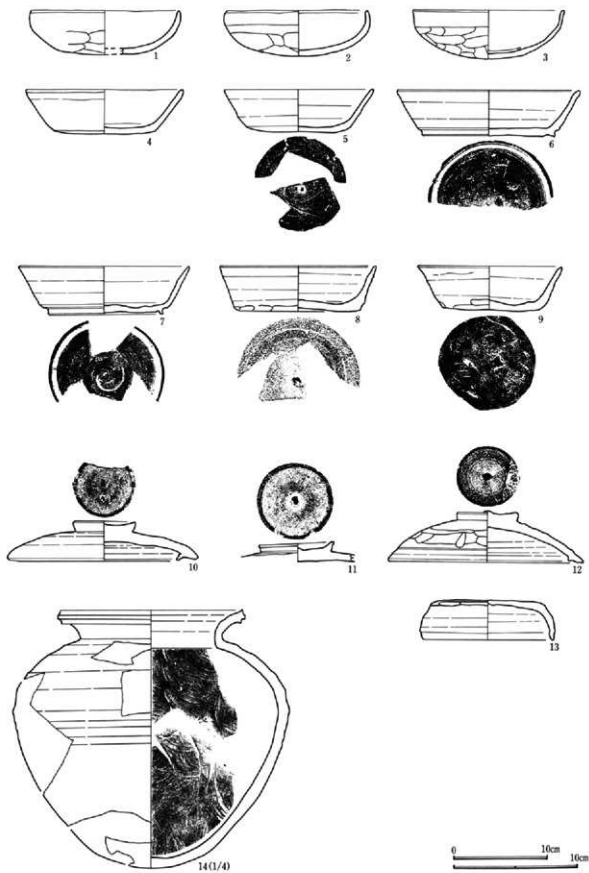


第83図 1号古墳石室セクション・エレベーション図

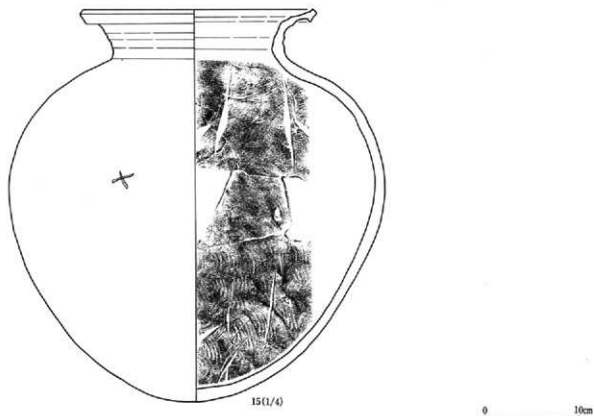


第84図 1号古墳石室展開図

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第85図 1号古墳出土遺物-1

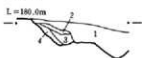


第86図 1号古墳出土遺物-2

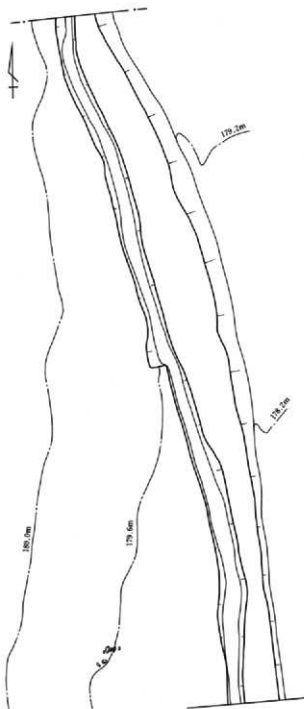
1号古墳出土遺物観察表(85-86図 PL73)

番号	種類器種	色調	記号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	焼成	特徴・その他
1	土師器環	にぶい 橙	7.5YR	11.8	3.5		砂粒を多く含む	良好	口縁部は短くわずかに内反。底体部は丸く深い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面ヘラケズリ。
2	土師器環	橙	5YR	11.3	3.7		砂粒を多く含む	普通	口縁部は短くわずかに内反。底体部は丸く浅い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面ヘラケズリ。
3	土師器環	にぶい 褐	7.5YR	12.0	3.9		砂粒を多く含む	良好	口縁部は短く外反して開く。底体部は丸く深い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面ヘラケズリ。
4	土師器環	橙	7.5YR	12.5	3.5	8.0	砂粒を多く含む	普通	体部へ口縁部は外傾して開く。平底。口縁部内外面横ナデ。体部へ底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。
5	須恵器環	灰	5Y	12.0	3.3	7.2	砂粒を含む	軟質	体部へ口縁部は外傾して開く。底部平底。ロクロ成形。底部回転ヘラ切り。
6	須恵器環	灰	N	14.6	3.6	10.5	砂粒を含む	硬質	体部へ口縁部は外傾して直線的に開く。ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後削り出し高台。
7	須恵器環	灰	5Y	13.6	3.9	9.0	砂粒を含む	硬質	体部へ口縁部は外傾して開く。底部平底。ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後削り出し高台。
8	須恵器環	灰	5Y	12.5	3.6	10.0	砂粒を含む	硬質	体部へ口縁部は外傾して開く。ロクロ成形。
9	須恵器環	灰	N	11.6	3.4	7.8	砂粒を多く含む	硬質	体部へ口縁部は外傾して開く。底部平底。ロクロ成形。底部ヘラ切り後ナデ。
10	須恵器蓋	灰黄	2.5Y	15.3	3.1	孤み 5.0	砂粒を多く含む	硬質	天井部は浅く、口縁部は斜め下方に開く。返りは短く内傾する。ボタン状孤み。ロクロ成形。天井部外面上半回転ヘラ切り。
11	須恵器蓋	灰黄	2.5Y			孤み 5.8	砂粒を多く含む	軟質	ボタン状孤み。ロクロ成形。天井部外面上半回転ヘラ切り。
12	須恵器蓋	灰白	5Y	15.5	4.6	孤み 4.9	砂粒を含む	軟質	天井部はやや低く、口縁部は斜め下方に開く。返りは内傾してわずかに突出する。ボタン状孤み。ロクロ成形。天井部外面一部ヘラ削り後、ナデ。
13	須恵器蓋	灰黄	2.5YR	10.5	3.1	天井 8.2	砂粒を多く含む	軟質	天井部は平坦で、口縁部上半は斜めに開き、下半は内反する。ロクロ成形。天井部外面ヘラ削り。
14	須恵器壺	黄灰	2.5Y	19.2	27.3		砂粒を多く含む	軟質	底部は丸底。内面に青陶液痕。表面一部剥落。ロクロ成形。
15	須恵器壺	灰白	5Y	25.2	41.3		砂粒含む	軟質	底部丸底。内面に青陶液痕。ロクロ成形。

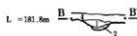
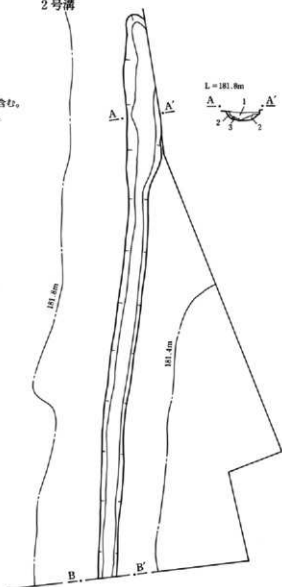
1号溝



- 1 表土
- 2 黒褐色土 全体的に砂質。
- 3 灰褐色土 浅間A・B軽石を含む。
- 4 黒褐色土 浅間B軽石を含む。



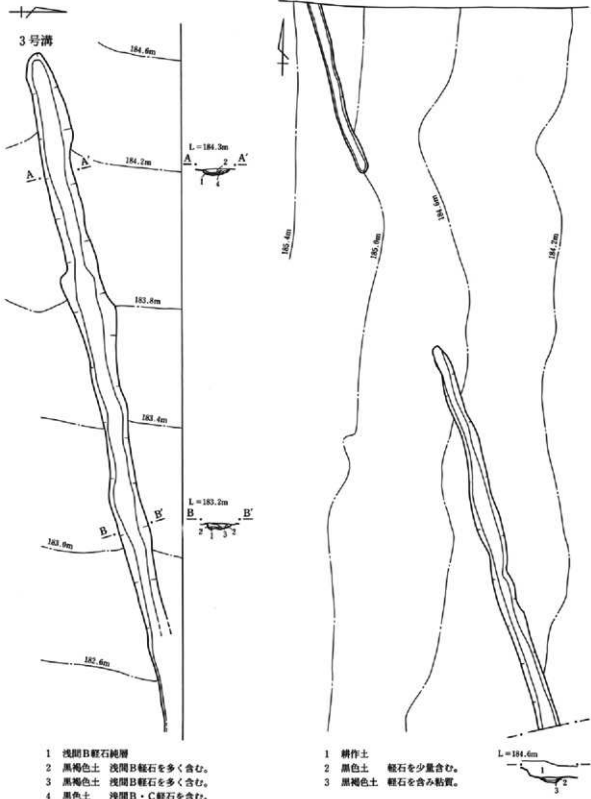
2号溝



- 1 黒褐色土 浅間B軽石を多量に含む。
- 2 黒色土 浅間B・C軽石を含む。
- 3 黒色土 浅間B・C軽石を少量含む。
- 4 耕作土



第87図 1・2号溝

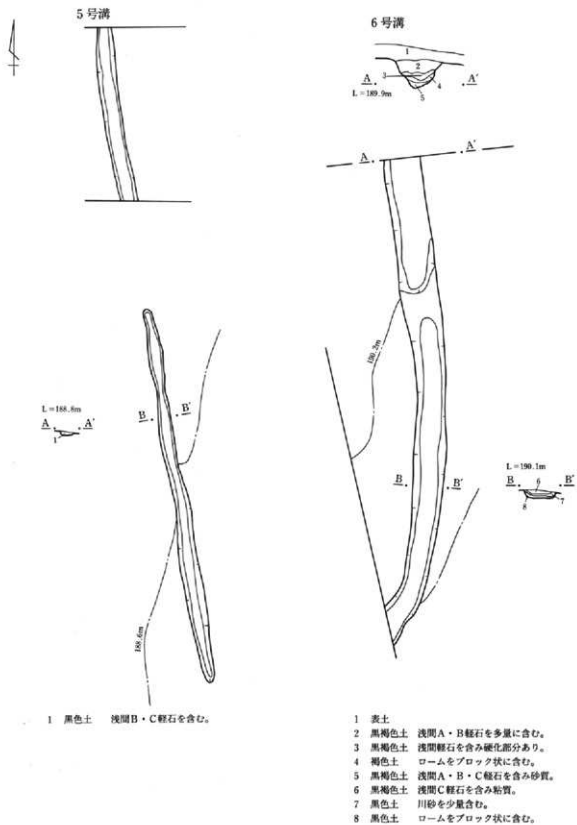


- 1 浅間B軽石純層
- 2 黒褐色土 浅間B軽石を多く含む。
- 3 黒褐色土 浅間B軽石を多く含む。
- 4 黒色土 浅間B・C軽石を含む。

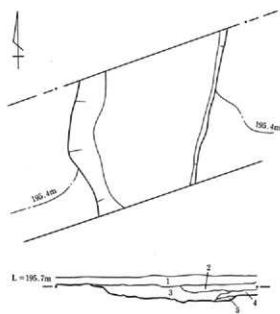
- 1 耕作土
- 2 黒色土 軽石を少量含む。
- 3 黒褐色土 軽石を含み粘質。

第88図 3・4号溝

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第89図 5・6号溝



- 1 耕作土
- 2 黒色土 浅間C軽石を多量に含む。
- 3 黒褐色土 白色・黄色粒を多量に含む。
- 4 黒褐色土 3層より粒子が少ない。
- 5 暗褐色土 ロームブロック・白色粒を含む。

第90図 7号溝

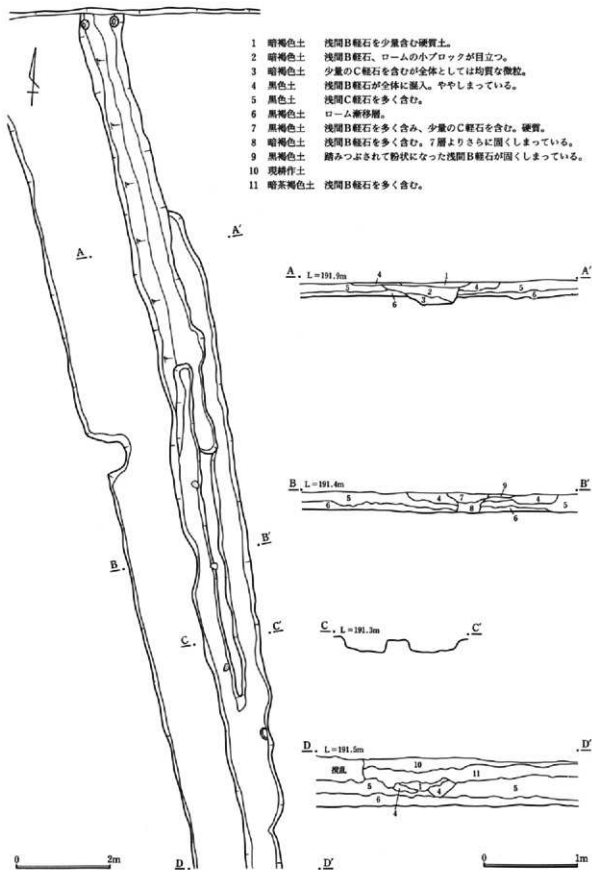
5 その他の遺構 (87~93図 P.L.47~52)

溝 1号溝は、覆土中にB軽石を含む。2号溝はC軽石、B軽石を含む。3号は溝底面にB軽石の純層が堆積し、上層にC軽石混じりの土が堆積する。4・5・6号溝はC・B軽石混じりの黒色土が堆積する。7号溝は、C軽石とローム粒が混入する。1~6号溝は比較的浅く、断面が皿状を呈し、幅が狭く短いことから、耕作地の地境あるいは、耕作に関係する溝と考えられる。また、A軽石が混じった土の堆積状況から近世以降のものとして推定される。7号溝は巾広で浅い皿状の断面形を呈することから自然地形上の傾斜面にできた自然の窪地とも考えられる。

道状遺構 道状遺構は、溝状に凹み、底面のB軽石を踏み固めていることからB軽石降下以降の道と考えられる。

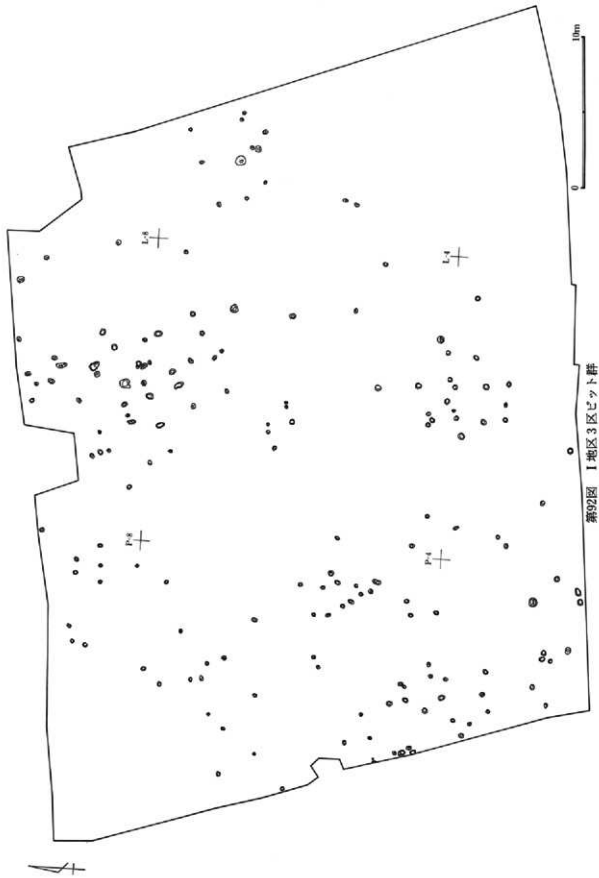
ピット群 遺跡内から小ピットが集中して確認されたところがある。掘立柱建物の柱穴列のような規則性はない。近世の耕作による小穴と考えられる。

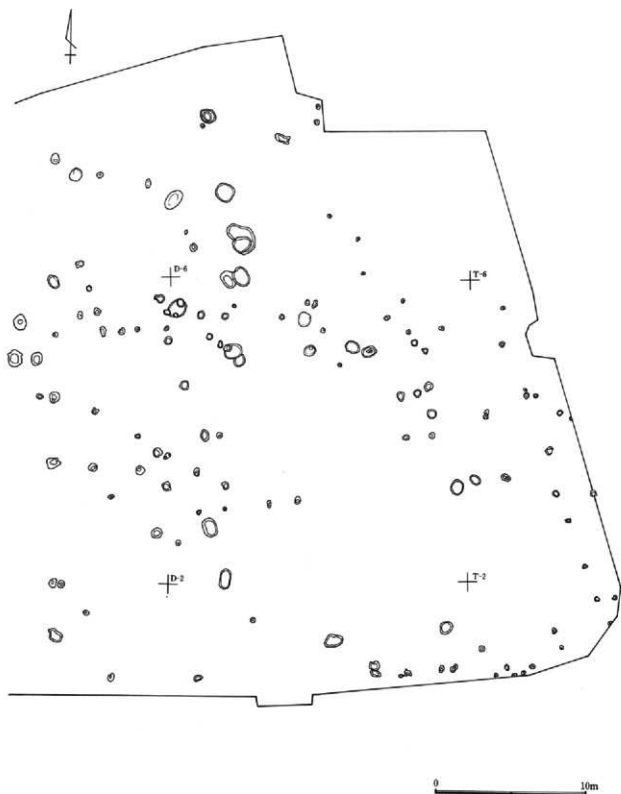
第2章 白川笹塚遺跡の調査



第91図 遺状遺構

2節 発見された遺構と遺物





第93図 II地区ピット群

溝・ピット・埋設出土土器遺物観察表(94～98図 PL74-75)

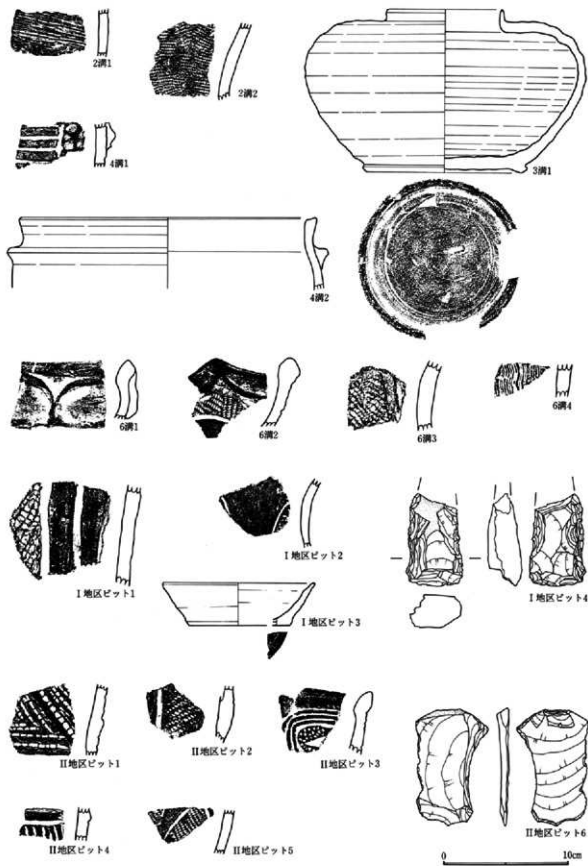
遺構	番号	種類器種	色調	記号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	焼成	特徴・その他
2溝	1	深鉢弥生	にぶい橙	7.5YR	9.4	12.9	12.4	細かい砂粒	普通	目紋条線が横位に施文される。
2溝	2	深鉢弥生	にぶい赤褐	5YR				細かい砂粒	普通	LR斜位施文。
3溝	1	須恵器形 煎釜	灰	7.5Y				細かい砂粒	軟質	口縁部は短く直立し、胴部は上半部が強く外湾。底部には高台が付く。指頭直を持つ粘土紐と沈線施文。
4溝	1	深鉢	赤褐	10R			φ1～2mmの 小石	普通		
4溝	2	羽釜	浅黄	2.5Y						口縁部外反気味に立ち上がる。
6溝	1	深鉢	にぶい褐	7.5YR			φ1～3mmの 小石、雲母	良		隆線で楕円区画を作る。
6溝	2	深鉢	褐灰	10YR			φ1～3mmの 小石	普通		隆線を口縁に沿って波状に施文。RLを縦・横に施文して羽状施文を作る。
6溝	3	深鉢	にぶい赤褐	5YR			φ1～2mmの 小石、軽石	普通		LR横位施文。沈線で縦位に区画。
6溝	4	深鉢	黄灰	2.5Y			φ1～2mmの 小石	普通		条線を波状に施文。
I地区 ピット	1	深鉢	灰黄褐	10YR			φ1～2mmの 小石	普通		RL縦位施文。太さ7mmの沈線による縦位の区画。無文帯は縦の寛ミガキ。
I地区 ピット	2	深鉢	にぶい黄橙	10YR			細かい砂粒	普通		太さ2mmの沈線による楕円区画。区内は施文が施文される。
I地区 ピット	3	須恵器形 煎釜	青灰	5B	12.0	3.4	8.0	細かい砂粒	軟質	ロクロ成形。
II地区 ピット	1	深鉢	にぶい褐	7.5YR			φ1～2mmの 小石	普通		太さ3mmの押し引きによる結節沈線。
II地区 ピット	2	深鉢	にぶい褐	7.5YR			細かい砂粒	普通		RL縦位施文。太さ3mmの沈線による縦位の区画。
II地区 ピット	3	深鉢	灰褐	7.5YR			φ1～2mmの 小石	普通		巾5mmの平行沈線による楕円の区画内に円形の刺突と印刻を加える。
II地区 ピット	4	深鉢	黒褐	7.5YR			細かい砂粒	良		巾10mmの平行沈線を横位に区画。その下を沈線が縦位に施文される。
II地区 ピット	5	深鉢	にぶい橙	5YR			φ1～2mmの 小石	良		LR縦位施文。太さ2mmの沈線による楕円区画。
1号 埋設	1	深鉢	にぶい黄橙	10YR	27.7	26.0		φ1～5mmの 小石	普通	口縁部に太い沈線と隆線で両巻きと楕円区画。円形の刺突。胴部に沈線で縦位の区画と波状線。地文に条線。
1号 埋設	2	深鉢	にぶい橙	7.5YR			φ1～2mmの 小石	普通		太さ3mmの沈線で縦位の区画。区画間に半截竹管による平行線の刺突。
2号 埋設	1	深鉢	にぶい赤褐	5YR	31.5	28.0	5.5	φ1～3mmの 小石、軽石	普通	LRを縦位施文。無文帯は縦の寛ミガキ。
2号 埋設	2	深鉢	明赤褐	2.5YR			φ1～2mmの 小石、雲母	良		LR縦位区画。太さ6mmの沈線で楕円区画を作る。
2号 埋設	3	深鉢	赤	10R			φ1～2mmの 小石	不良		RLの擦余文。太さ6mmの沈線による縦位区画。
2号 埋設	4	深鉢	黒褐	10YR			細かい砂粒	普通		RL縦位施文。太さ4mmの沈線で縦位の区画。
2号 埋設	5	深鉢	にぶい褐	7.5YR			φ1～2mmの 小石	良		太さ6～8mmの沈線で縦・横の区画。RLの擦余。
2号 埋設	6	深鉢	灰褐	7.5YR			細かい砂粒	良		巾6mmの平行沈線で縦位に区画。区内を半截竹管の両端で刺突。
3号 埋設	1	深鉢	にぶい橙	7.5YR		14.3	12.2	φ1～2mmの 小石	普通	RL横位施文。矢羽状に両方を持つ浮線による横位の区画。

第2章 白川笹塚遺跡の調査

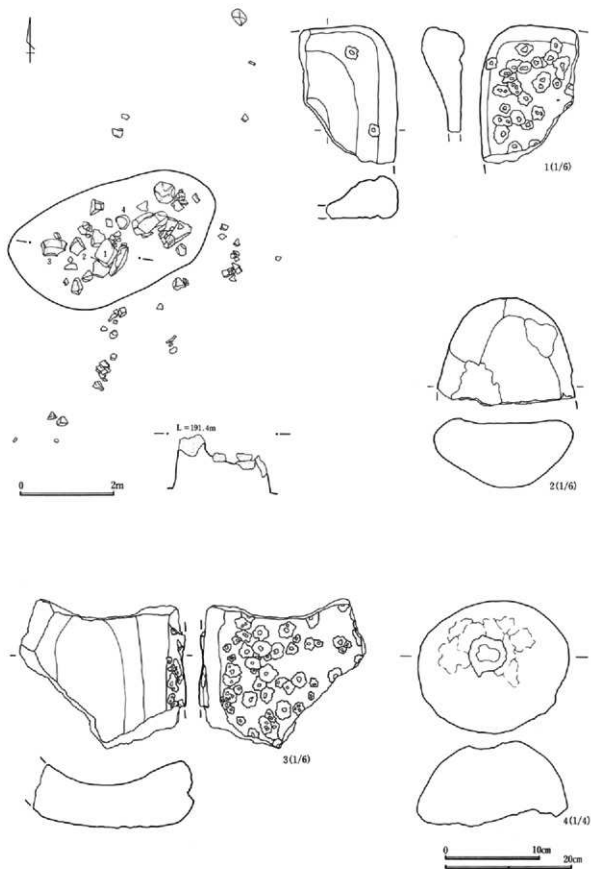
ビット・集石・埋設出土石器観察表(94～98図 PL74・75)

遺構	番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
I地区 ビット	4	打製石片	粗粒輝石 安山岩	基部欠損	7.3	4.4	2.6	96.3	厚身の短冊形で表面の一部に自然面を残す。刃部は平らで使用により割れている。側縁部がやや摩滅している。
II地区 ビット	6	剥片石器	珪質頁岩	完存	9.3	5.7	1.0	3.5	長方形をなす剥片。一部に自然面を残す。平行する2側縁に細かい刻線を加え刃部とする。
1号 集石	1	石皿	牛伏砂岩	破片	21.5	15.6	6.7	2700	表面は板状に磨り減り、縁に2個の孔がある。裏面は平坦で多くの孔が全面に広がっている。
1号 集石	2	台石	粗粒輝石 安山岩	破片	16.8	21.7	10.9	5100	表面は皿状に窪みよく磨れている。一部に敲打によるとみられる斜擦痕がある。
1号 集石	3	石皿・多 孔石	粗粒輝石 安山岩	破片	23.3	26.2	10.4	4900	表面は深く窪み磨かれている。裏面は湾曲し多孔石状が全面に広がっている。
1号 集石	4	台石	粗粒輝石 安山岩	完存	14.0	16.0	8.5	2500	頂部に敲打による凹みや斜擦痕がある。
3号 埋設	2	石皿	粗粒輝石 安山岩	完存	25.0	36.1	10.2	14500	自然面の片面を丁寧に磨いている。
3号 埋設	3	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	39.8	8.5	5.1	650	表裏面とも磨れており、2個ずつの凹みがある。側縁部はほぼ全周に敲打痕がある。

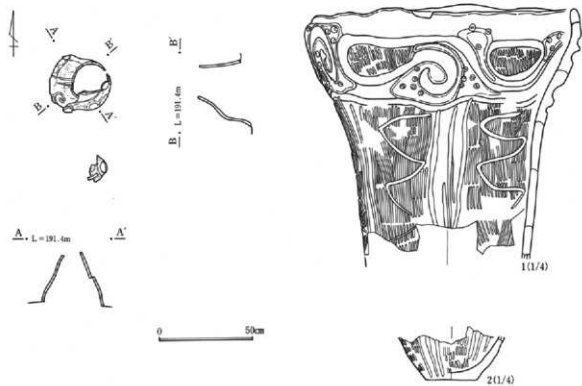
2節 発見された遺構と遺物



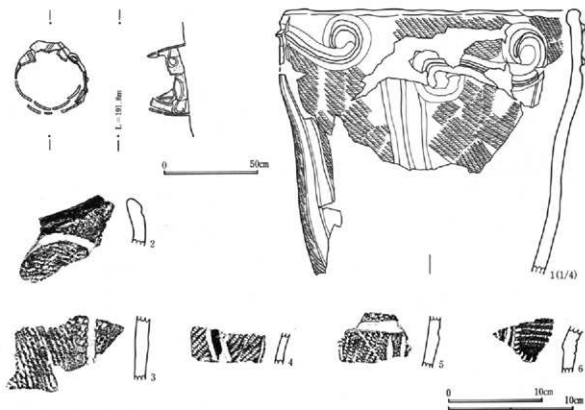
第94図 溝・ピット出土遺物



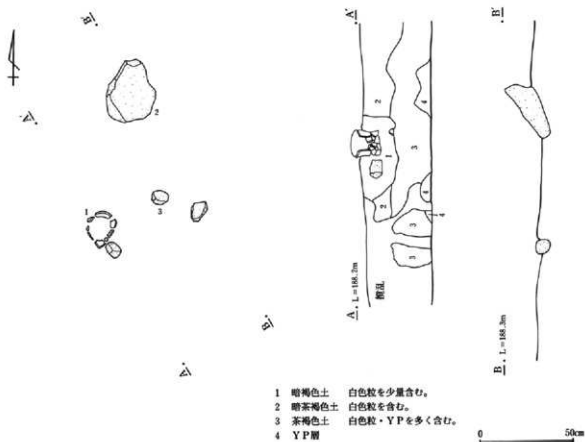
第95図 1号集石・出土遺物



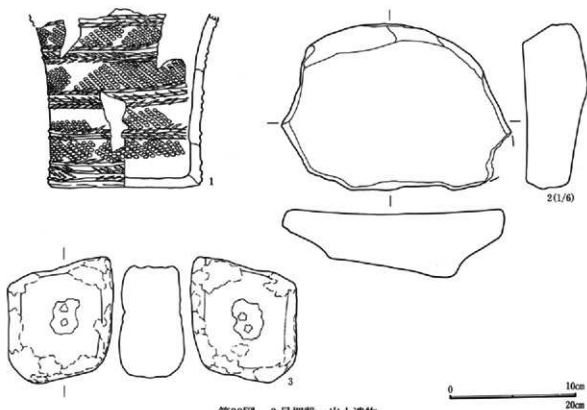
第96図 1号埋設・出土遺物



第97図 2号埋設・出土遺物



- 1 暗褐色土 白色粒を少量含む。
 2 暗茶褐色土 白色粒を含む。
 3 赤褐色土 白色粒・YPを多く含む。
 4 YP層



第98図 3号埋設・出土遺物

1 地区 1 区グリッド出土土器観察表(99図 PL75)

番号	種類器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
1	深鉢	橙	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	RL横位施文。巾4mmの半軟竹管。
2	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	巾7mmの爪形文とベン先状の刺突。
3	深鉢	赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	RL横位施文。隆線と沈線で横帯区画。
4	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RI横位施文。
5	深鉢	橙	7.5YR	1~3mmの軽石粒	普通	RL横位施文。太い凹線で横帯区画。
6	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒	良	RL・LRの羽状刺突。
7	弥生深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1mmの小石	良	口縁下につき2mmの沈線が通る。口縁部にはLrの刺突。
8	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	太い凹線による横帯区画。区画内の刺突は摩滅して不明。
9	深鉢	褐灰	10YR	細かい砂粒、雲母	普通	RL横・縦施文。隆線で口縁部に横帯区画。
10	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~2mmの小石	良	条状。
11	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	RL横位施文。太さ3mmの沈線で縦位の区画。
12	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石	良	巾8mmの平行沈線を横位に施文。

1 区グリッド出土古銭 (99図 PL75)

番号	種類	残存状態	特徴
13	古銭	1/4残存	文字は「開***」と1文字認識された。比較的錆は少ない。

1 地区 1 区グリッド出土土器観察表(99図 PL75)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
14	磨石	粗粒輝石 安山岩	ほぼ完存	12.9	11.4	9.5	1880	ほぼ球形の河原石を使用。全面が良く磨れており、表面に彫りによる刺突が見られる。
15	打製石片	安山岩	完存	11.9	5.5	2.3	150	矩形形を打した表面の一部に自然面を残す。刃部は丸く基部は斜め。
16	磨石	粗粒輝石 安山岩	破片	6.7	9.1	4.3	360	扁平な河原石を使用。表裏面とも良く磨かれており、表裏面中央と側縁部に彫り痕がある。

1 地区2区グリッド出土土器観察表(100~102図 PL76・77)

番号	種類器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
1	深鉢	灰褐	5YR	φ1~2mmの小石、金雲母	良	口唇部に割みを持つ。口唇部には巾8mmの半軟竹管の角による刺突。胴部には巾20mmの爪形文。外面にスス付着。
2	深鉢	灰褐	5YR	φ1~3mmの小石、金雲母	良	隆線が口縁部を横帯区画し、上下に巾10mmの爪形文施文。胴部に凸部を持つ。
3	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	太さ4mmの角押し文が施文される。
4	深鉢	明赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	良	口唇部に衝刺の張り付け文。
5	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	隆線による瘤状突起。巾5mmの角押し文。
6	深鉢	黒褐	10YR	φ1~2mmの小石	良	RL横位施文。凹線による口縁部の文様区画。
7	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	口縁部に隆線で瘤状突起や曲線を描く。隆線に沿ってベン先状の角押し文。
8	深鉢	明赤褐	2.5YR	φ1~2mmの小石、金雲母	良	波状口縁から隆線が垂下する。巾6mmの半軟竹管の角による角押し文。
9	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、金雲母	良	隆線による瘤状突起と文様帯区画。隆線に沿って爪形文が施文される。
10	深鉢	赤褐	10YR	細かい砂粒	良	隆線による横帯区画。隆線内を沈線による押し引き。
11	深鉢	明赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	隆線が波状口縁から垂下し、口縁に沿って横帯区画を作る。外面にスス付着。
12	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、金雲母	良	隆線による瘤状の把手。
13	深鉢	褐灰	10YR	φ1~2mmの小石、金雲母	良	隆線による横帯区画。区画内を巾7mmの半軟竹管による角押し文。
14	深鉢	灰褐	5YR	細かい砂粒	良	巾6mmの平行沈線が斜めに施文される。
15	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	隆線による横帯区画と巾5mmの平行沈線。
16	深鉢	にぶい橙	5YR	細かい砂粒、雲母	普通	巾5mmの平行沈線。

第2章 白川登峯道跡の調査

番号	種類器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
17	深鉢	暗褐	7.5YR	細かい砂粒、金雲母	普通	巾12mmの外側施文による爪形文。
18	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒、金雲母	普通	太い凹凸のある隆線と巾6mmの平行沈線による波状線。
19	深鉢	明赤褐	5YR	細かい砂粒	良	隆線区画と角押し文。
20	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1～3mmの小石、雲母	普通	隆線による文様施文と角押し文。外面にスス付着。
21	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1～3mmの小石	良	隆線による文様施文、隆線間に浅く爪形文が施文される。内面スス付着。
22	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1～3mmの小石、金雲母	普通	太さ3mmの角押し文。
23	深鉢	にぶい橙	5YR	φ1～2mmの小石	普通	巾5mmの平行沈線施文。
24	深鉢	にぶい橙	2.5YR	φ1～2mmの小石、雲母	良	隆線による横位の区画、横位の擦痕。
25	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1～3mmの小石多い	普通	口唇部がわずかに外反する。横位の擦痕。
26	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	細かい砂粒、雲母	良	太さ5mmの沈線を縦位に施文。
27	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1～2mmの小石	普通	RL横位施文。太さ8～20mmの凹線による柵目区画。
28	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	普通	太さ7mmの沈線で文様帯を区画。Lrの擦余文。
29	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	良	Lr擦余と条線。
30	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1～3mmの小石、軽石	普通	隆線で口唇部と胴部を区画する。LRを縦・横に施文して羽状施文を作る。
31	深鉢	赤褐	5YR	細かい砂粒	普通	巾5mmの平行沈線による凹線。
32	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	普通	無文。φ7mmの孔が焼成前にあけられている。
33	深鉢	にぶい橙	2.5YR	細かい砂粒、雲母	良	太さ2mmの沈線で長柵目の区画を作る。区画内はRL縦位施文。区画外を磨く。
34	深鉢	にぶい褐	5YR	細かい砂粒、金雲母	良	深鉢把手。側線に刻みを持つ。
35	深鉢	明赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	深鉢把手部。押し引きの沈線や刻みが施文される。
36	深鉢	橙	7.5YR	φ1～3mmの小石	普通	太さ3mmの沈線による文様区画。区画内はLrの縦位施文。

1地区2区グリッド出土石器観察表(102～104区 PL77-78)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
37	凹石	石英閃緑岩	完存	8.0	6.8	5.6	340	不整楕円形の河原石を使用し、ほとんど磨れておらず、全面に多くの凹みや敲打痕がある。
38	多孔石	粗粒輝石 安山岩	破片	12.2	6.6	3.5	240	大小の孔が密集している。
39	転用磨石	玄武武岩	完存	6.9	5.8	3.4	234.3	定角式磨製石斧の身を転用。破断面が割れ、一部に敲打痕がある。
40	磨石	石英閃緑岩	完存	12.7	7.3	5.5	870	長楕円形の河原石を使用。全面が良く磨れている。表裏面の中央に浅い敲打痕があり、両端部に敲打痕が集中している。特に下端部は敲打による割れが生じている。
41	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	11.6	7.9	6.0	670	全面がやや磨れており、表面と両端部、一方の側縁部に敲打痕が集中している。
42	磨石	粗粒輝石 安山岩	破片	7.1	7.3	3.3	200	扁平な河原石を使用。表裏面とも良く磨かれている。裏面中央と側縁部に敲打痕がある。
43	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	11.0	7.2	3.5	520	楕円形の河原石を使用。全面が良く磨かれている。表面中央と両端部に敲打痕があり、一方の側縁部には溝状の敲打痕がある。
44	打製石斧	緑色片岩	完存	13.1	7.1	1.5	220	分銅形をなし両刃部は丸く、両側縁部中央で緩やかに折れている。
45	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	基部欠損	7.8	5.6	2.2	143.9	厚身の短冊形と考えられ、表面に大きく自然面を残す。刃部は平らでやや摩滅している。
46	打製石斧	珪質頁岩	基部欠損	9.4	4.4	1.3	698	薄身の短冊形をなす。刃部は平らで非常に良く摩滅している。
47	打製石斧	硬質泥岩	刃部欠損	10.1	4.8	2.6	179.6	短冊形をなし表面に自然面を大きく残す。基部は平ら。

2節 発見された遺構と遺物

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
48	打製石斧	黒色頁岩	完存	9.2	7.0	2.0	108.4	楕形をなし刃部はやや丸い。
49	打製石斧	灰色安山岩	破片	10.7	4.1	2.2	105.8	短冊形をなし表面に大きく自然面を残す。刃部は丸く基部は平ら。
50	打製石斧	黒色頁岩	完存	9.0	3.7	1.3	50	短冊形をなし表面の一部に自然面を残す。基部は丸い。
51	打製石斧	珪質頁岩	完存	9.3	4.4	2.2	103	厚身の短冊形で表面の一部に自然面を残す。刃部は丸く基部は斜め。
52	打製石斧	黒色頁岩		7.2	5.3	2.1	84.5	短冊形と考えられ表面に大きく自然面を残す。刃部は丸く使用により摩滅している。
53	打製石斧	黒色頁岩	完存	9.3	4.0	2.5	96.5	短冊形をなし刃部・基部とも平ら。粗い作りである。
54	削片石器	黒色頁岩	破片	7.0	10	1.8	86.6	不定形の削片で自然面を残す。側縁部以外は粗い側縁が加えられ、刃部としている。
55	削片石器	融流輝石 安山岩	完存	6.0	7.7	1.6	74.0	三角形の削片で、底辺部に粗い側縁を加え刃部としている。
56	削片石器	珪質頁岩	完存	7.4	5.1	0.95	26.6	不定形の削片で、側縁部全局に疎らで細かい側縁を加え刃部としている。
57	削片石器	黒色頁岩		4.5	4.8	1.0	17.0	削片の周縁部に粗い側縁を加え刃部としている。
58	石鏃	チャート	基部欠損	3.2	1.9	0.4	1.8	無茎の石鏃で長身の二等辺三角形をなす。基部は深く湾入。
59	石鏃	黒曜石		2.4	1.6	0.4	1.0	無茎の石鏃で基部が深く湾入。
60	石鏃	黒曜石	刃部欠損	2.1	1.5	0.3	0.5	無茎の石鏃で二等辺三角形をなし、基部は浅く湾入。
61	石鏃	チャート		2.5	1.6	0.5	1.6	有茎の石鏃でやや長身の二等辺三角形をなす。
62	石鏃	融流輝石 安山岩	残存状態	2.1	1.5	0.35	2.0	柄み部があり、先端部を両端から側縁して刃部としている。

I地区3区グリッド出土土器観察表(105~108図 P.L.78~80)

番号	種類器種	色調	色調記号	出土	焼成	特徴・その他
1	深鉢	灰黄	2.5Y R	φ1~3mmの小石、繊維	普通	附加条縄文のR.LとL.R施文。
2	深鉢	明黄褐	10Y R	φ1~2mmの小石、繊維	普通	巾8mmの平行比線内に爪形文を施文。
3	深鉢	にぶい黄褐	10Y R	φ1~2mmの小石、繊維	良	L.Rの縄文。
4	深鉢	にぶい褐	7.5Y R	φ1~2mmの小石、繊維	不良	無文。
5	深鉢	にぶい褐	7.5Y R	細かい砂粒	良	巾10mmの平行比線と隆起線爪形文とベン先状の刺突文が加えられている。
6	深鉢	にぶい黄	2.5Y R	φ1~2mmの小石	良	巾4mmの平行比線を横位に施文。
7	深鉢	にぶい黄褐	10Y R	φ1~3mmの小石	良	巾3mmの平行比線を横位に集合化されて施文。
8	深鉢	にぶい褐	7.5Y R	φ1~2mmの小石、金賀母	良	口縁部を楕円形に隆起線で区画する。区画内は比線が結節状に施文される。
9	深鉢	灰褐	7.5Y R	φ1~3mmの金賀母多い	良	隆起線による曲線と環状の把手。比線と押し引きの爪形文を施文。
10	深鉢	褐灰	10Y R	φ1~2mmの小石、雲母	良	押し引きの結節比線で文様を描く。
11	深鉢	にぶい褐	7.5Y R	細かい砂粒	良	無文地に突起が付く。
12	深鉢	にぶい褐	7.5Y R	φ1~2mmの小石、雲母	良	巾10~12mmの爪形文。R.L施文。
13	深鉢	にぶい橙	7.5Y R	細かい砂粒	良	巾10mmの平行比線と隆起線に爪形の刻みを持つ。
14	深鉢	灰褐	7.5Y R	φ1~2mmの小石、雲母	普通	巾7mmの平行比線による彫文。
15	深鉢	明赤褐	5Y R			19と同一個体。
16	深鉢	明赤褐	2.5Y R			19と同一個体。
17	深鉢	褐	7.5Y R	φ1~3mmの小石	普通	太さ3mmの比線による刻み。

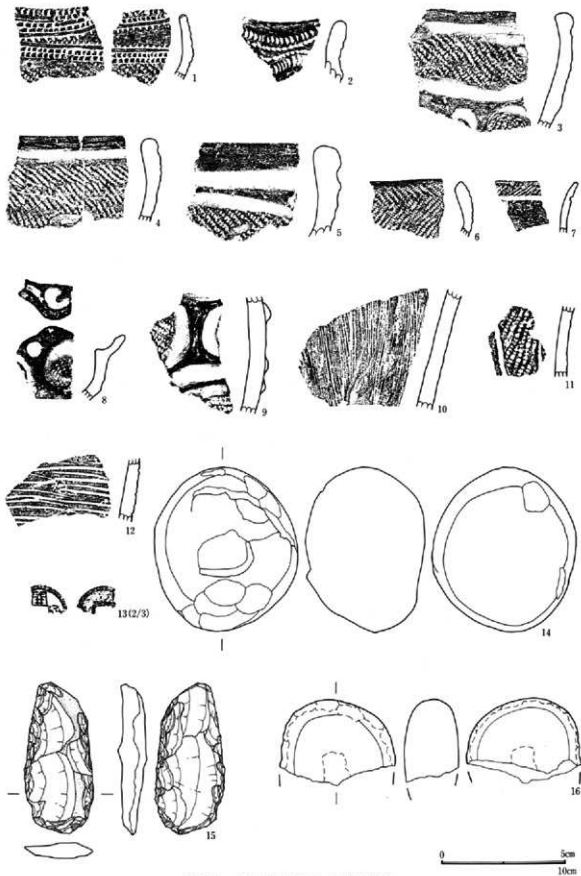
第2章 白川笹塚遺跡の調査

番号	種類器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
18	深鉢	赤褐	5Y R	φ1~2mmの小石、雲母	良	口唇部を横位に磨く。胴部は条線が施文される。
19	深鉢	灰褐	7.5Y R	φ1~3mmの小石、雲母	良	太さ10~12mmの羽目のある隆線が横・縦に施文。地文は条線。
20	深鉢	オリブ色	5Y	φ1~2mmの小石、雲母	普通	巾12mmを単位とする条線を施文。
21	深鉢	にぶい褐	7.5Y R	細かい砂粒	良	太さ6mmの沈線による文様と同じ工具による刺突。
22	深鉢	灰黄褐	10Y R	φ1~3mmの小石	普通	L R縦位施文。口縁部横位区画と縦位の区画線。
23	深鉢	にぶい黄橙	10Y R	細かい砂粒	良	R L縦位施文。巾5mmの強い沈線を2本対にして縦位に施文する。
24	深鉢	明褐	7.5Y R	φ1~3mmの小石	普通	L R縦位施文。隆線が2本対になり縦位の区画を作る。無文帯を縦位のナデ。
25	深鉢	明褐	7.5Y R	φ1~2mmの小石	普通	L R縦位施文。太さ10mmの沈線を縦位施文。
26	深鉢	橙	7.5Y R	φ1~3mmの小石	普通	L R縦位施文。隆線による縦位の区画。無文帯を縦位のナデ。
27	深鉢	にぶい橙	7.5Y R	φ1~2mmの小石、雲母	普通	L R縦位施文。太さ10~12mmの沈線を縦位施文。
28	深鉢	明褐	7.5Y R	細かい砂粒	良	R L縦位施文。太さ5~6mmの沈線を縦位の施文。
29	深鉢	にぶい黄橙	10Y R	φ1~3mmの小石、雲母	普通	R L縦位施文。沈線と隆線で曲線を描く。
30	深鉢	黄褐	10Y R	細かい砂粒、雲母	良	R Lを縦・横に施文。口縁部を隆起線で区画。太さ4mmの沈線で曲線を施文。文様間を磨いている。
31	深鉢	灰黄	2.5Y R	φ1~3mmの小石、雲母	普通	太さ3mmの沈線で曲線を描く。R Lの縦文施文部と無文帯を沈線間に作る。
32	深鉢	赤橙	10R	φ1~2mmの小石、雲母	普通	R L横位施文。隆線と沈線による横帯区画と帯状突起。
33	深鉢	にぶい橙	7.5Y R	φ1~2mmの小石	良	R L横位施文。隆線による横帯区画。
34	深鉢	にぶい赤褐	2.5Y R	φ1~2mmの小石、雲母	良	R L横位施文。隆線による横帯区画。
35	深鉢	にぶい黄橙	10Y R	細かい砂粒	普通	L R縦位施文。太い隆線と沈線による区画。
36	両耳壺	明黄褐	10Y R	φ1~3mmの小石	普通	口縁部無文帯になり横状把手が付く。胴部は太さ4mmの沈線による横帯区画。R Lの縦文が充填される。
37	深鉢	にぶい赤褐	2.5Y R	φ1~2mmの小石	良	無文。
38	深鉢	灰褐	7.5Y R	φ1~2mmの小石、雲母	良	R L縦文横位施文。
39	深鉢	にぶい橙	7.5Y R	φ1~3mmの小石、雲母	良	太い沈線による横帯区画。L Rが充填される。
40	深鉢	にぶい赤褐	5Y R	細かい砂粒	普通	口縁部に一条の沈線。R L横位施文。
41	深鉢	にぶい黄橙	10Y R	細かい砂粒	良	太い沈線による横帯区画。区画内にR Lを横位施文。
42	深鉢	明黄褐	10Y R	φ1~3mmの小石	不良	太さ3mmの沈線による文様施文。口縁部に無文帯を持つ。R Lの縦文。内外面にスス付着。
43	深鉢	明赤褐	10Y R	細かい砂粒	不良	太さ2mmの沈線による文様区画。R Lの縦文。
44	深鉢	灰褐	5Y R	φ1~2mmの細かい砂粒、雲母	良	R L横位施文。太さ3mmの沈線による文様区画。
45	深鉢	明黄褐	10Y R	細かい砂粒	普通	無文。
46	深鉢	にぶい黄橙	10Y R	φ1~2mmの小石、雲母	良	太い沈線で3本単位の縦位区画。R L Rを縦位区画。
47	深鉢	にぶい黄橙	10Y R	φ1~5mmの小石	普通	無文。内面スス付着。

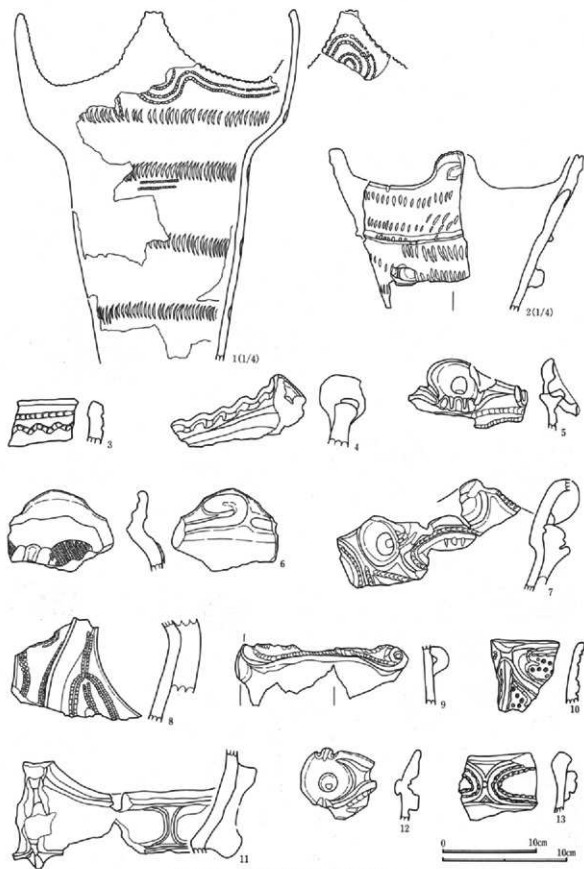
I地区3区グリッド出土石器観察表 (100図～111図 P.L.80・81)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
48	石皿	粗粒輝石 安山岩	破片	8.7	10.5	5.6	530	全面に多くの凹みや敲打痕がある。
49	台石	粗粒輝石 安山岩	完存	20.7	16.3	8.4	4800	扁平で大型の河原石を使用。破損後も再利用している。表裏面とも良く磨かれており、表面や側縁部に敲打痕がある。
50	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	25.2	7.8	7.8	2460	円柱状の大型の河原石を使用。全面がやや磨れており、全面に敲打痕が広がっている。
51	石棒	粗粒輝石 安山岩	破片	26.4	9.6	8.8	3040	角柱状の河原石を使用。火を受け割れている。石棒と考えられる。
52	凹石	粗粒輝石 安山岩	完存	17.4	16.0	13.1	5260	片面に凹みを持つ。裏面は、磨り面と若干の敲打痕が見られる。
53	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	10.8	7.8	3.8	490	楕円形の河原石を使用。全面が良く磨れている。両端部と一方の側縁部に敲打痕が集中し、特に下端部は割れが生じている。
54	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	15.1	7.9	5.9	970	長楕円形の河原石を使用。表裏面とも良く磨かれており、両端部に敲打痕が集中している。
55	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	15.6	5.6	4.2	650	棒状の河原石を使用。全面が良く磨れ、特に側縁面は砥石状に磨られ平坦となっている。右側面以外は敲打痕が散在し、特に両端部に集中している。
56	凹石	石英閃緑岩	完存	11.6	8.3	4.0	520	不整形の河原石を使用。表裏面とも良く磨れており、中央に浅い凹みが連続している。両端部とも側縁部にわずかに敲打痕がある。
57	磨石	粗粒輝石 安山岩	完存	10.2	9.3	4.4	630	楕円形の河原石を使用。表裏面とも良く磨れており、両端部や側縁部に部分的に敲打痕がある。
58	石棒	デサイト	完存	13.7	7.3	5.5	970	長楕円形の河原石を使用。全面が良く磨かれている。表裏面の中央に浅い凹みがあり、両端部に敲打痕が集中している。
59	打製石斧	安質玄武岩	刃部欠損	10.5	5.6	2.6	174.6	分割形をなし表面に自然面を残す。刃部は丸く側縁部は緩やかに鈍れる。
60	打製石斧	緑色片岩	完存	9.4	3.7	1.0	52.1	薄身の短冊形で、刃部は平らで基部は斜め。
61	打製石斧	デサイト	完存	10.4	5.4	2.75	161.7	厚手で短冊形をなし、刃部は斜めに丸く、基部も丸い。
62	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	完存	7.1	4.5	2.0	82.7	短冊形をなし表面に自然面を残す。刃部は丸く基部は平ら。
63	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	完存	12.3	4.9	2.1	155.4	短冊形をなし表面の一部に自然面を残す。刃部は斜めに丸く、基部も斜め。
64	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	刃部欠損	10.3	4.8	1.5	79.4	薄身の短冊形をなし、刃部・基部とも丸い。
65	打製石斧	硬質泥岩	基部欠損	5.7	5.3	1.8	69.9	短冊型と考えられ、表面に自然面を残す。刃部は平らでやや摩滅している。
66	打製石斧	デサイト	完存	10.5	4.7	1.8	103.5	短冊形をなし、表面に大きく自然面を残す。刃部は丸く基部は尖る。
67	打製石斧	黒色頁岩	破片	6.8	4.6	0.9	29.6	刃部よりの部分が割れたものと考えられる。
68	打製石斧	粗粒輝石 安山岩	基部欠損	6.5	4.9	2.1	76.4	短冊形と考えられ表面に自然面を残す。刃部は丸く使用により摩滅している。
69	打製石斧	黒色頁岩	完存	10.1	5.0	1.8	78.2	異形の楕形で基部が極端に小さい。刃部は丸く基部は尖る。
70	磨製石斧	安質蛇紋岩	基部欠損	7.8	5.2	2.6	204.8	定角式をなし、全面に製作時の細い研磨痕が走る。刃部は丸く使用痕が斜めに走る。
71	打製石斧	黒色頁岩	完存	10.4	4.5	1.8	82.3	短冊形をなし表面に大きく自然面を残す。刃部・基部とも丸い。刃部はやや摩滅している。
72	石製円盤	黒色頁岩	完存	6.7	6.8	1.2	65.6	表面に自然面を残す。側縁部全周に細かい刻線を加え調整し磨いている。用途不明。

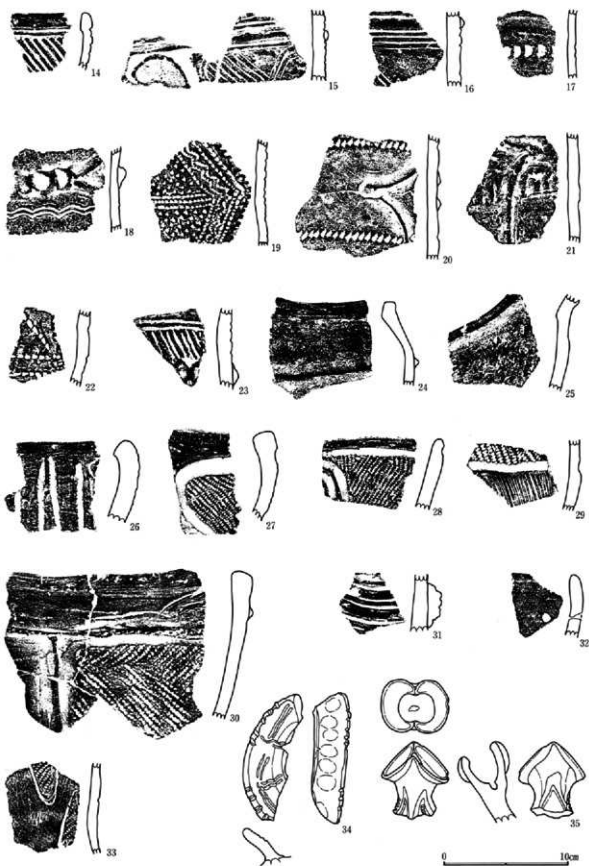
第2章 白川笹塚遺跡の調査



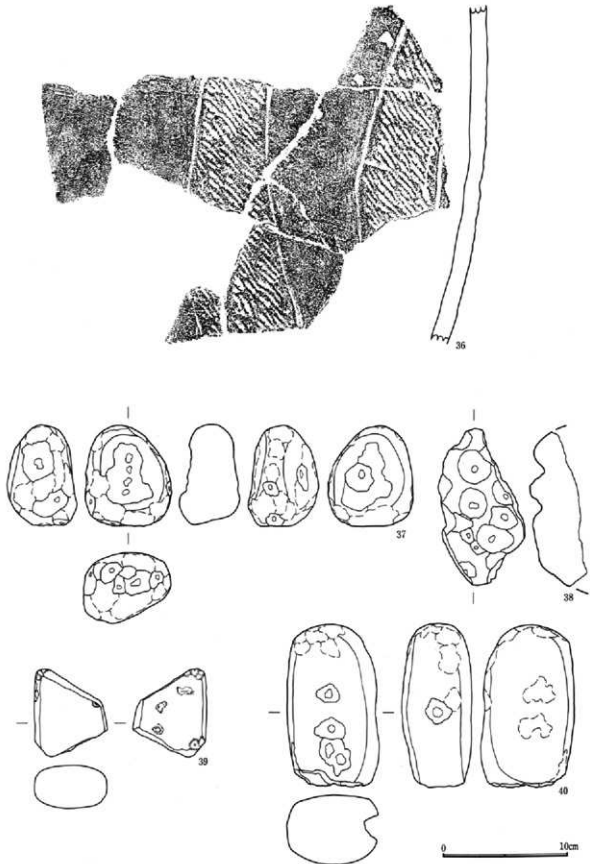
第99図 1地区1区グリッド出土遺物



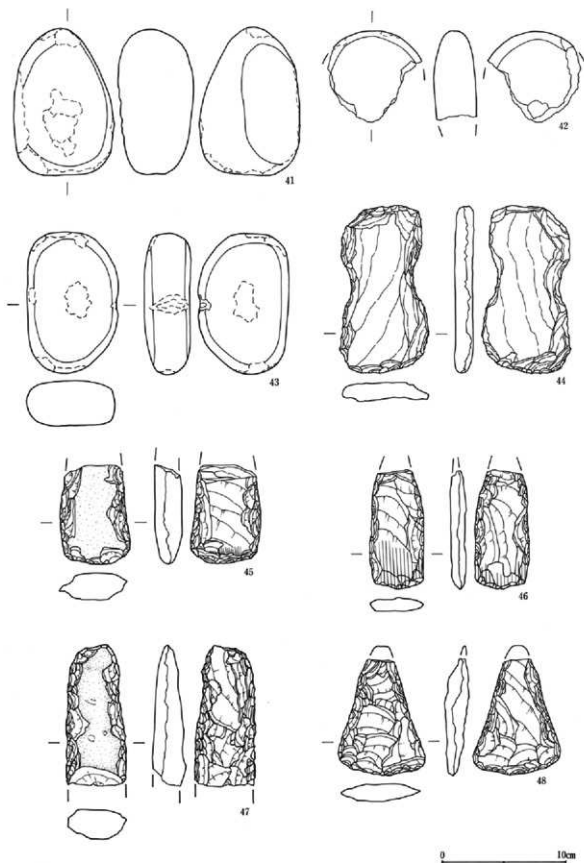
第100図 1地区2区グリッド出土遺物-1



第101図 I地区2区グリッド出土遺物-2

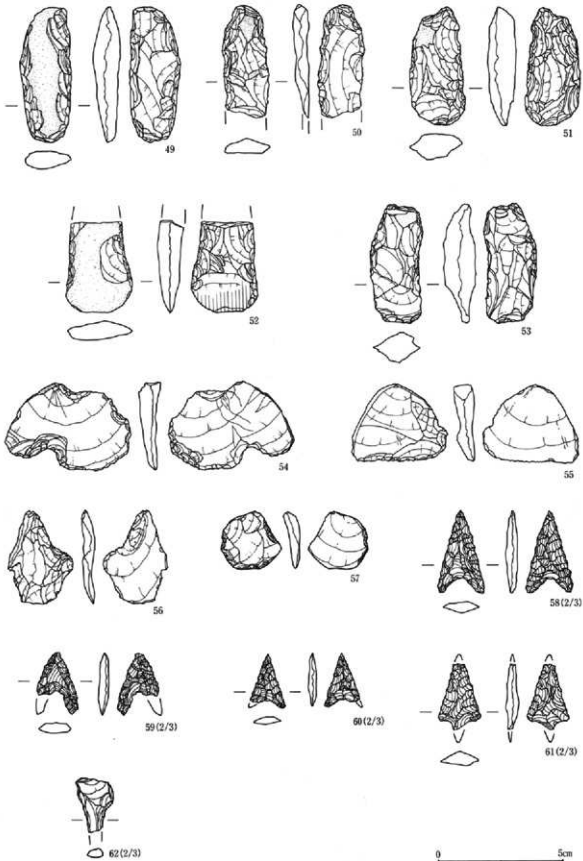


第102図 1地区2区グリッド出土遺物-3



第103図 I地区2区グリッド出土遺物-4

2節 発見された遺構と遺物

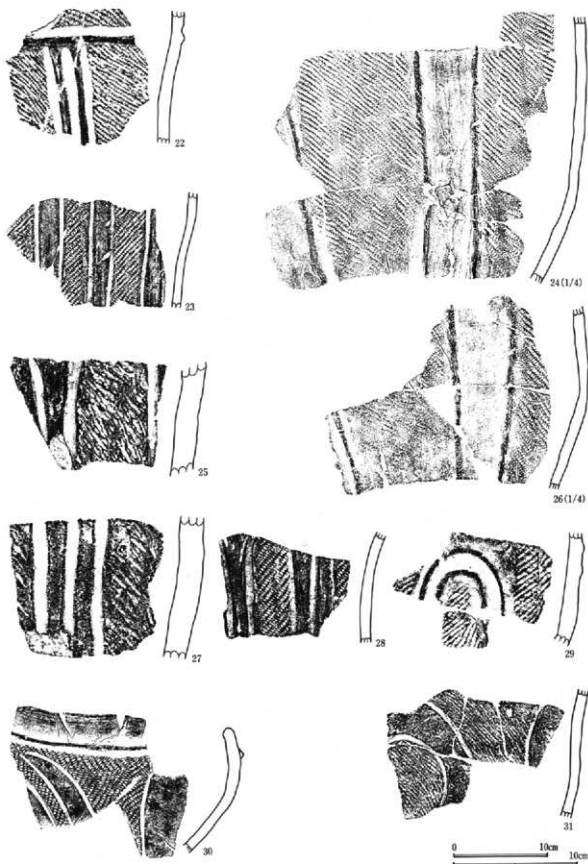


第104図 1地区2区グリッド出土遺物-5

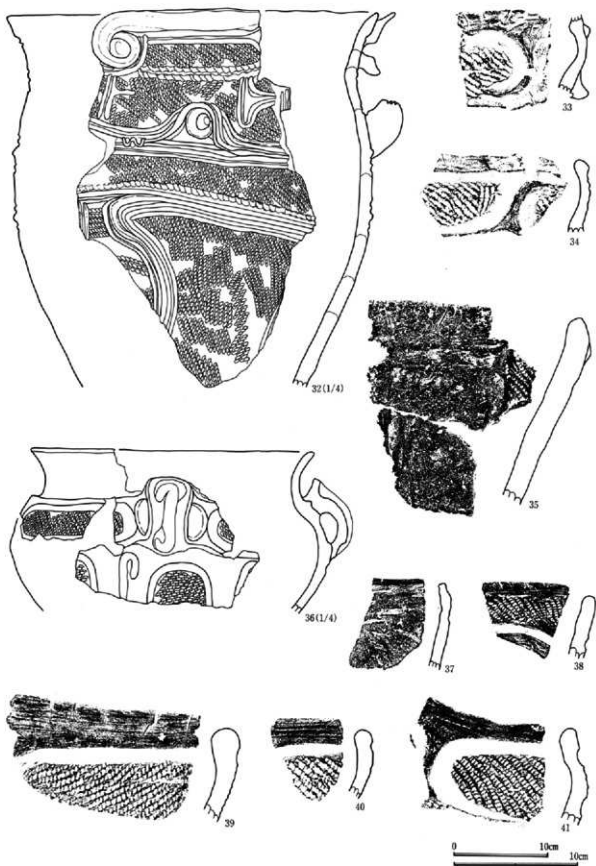
第2章 白川笹塚遺跡の調査



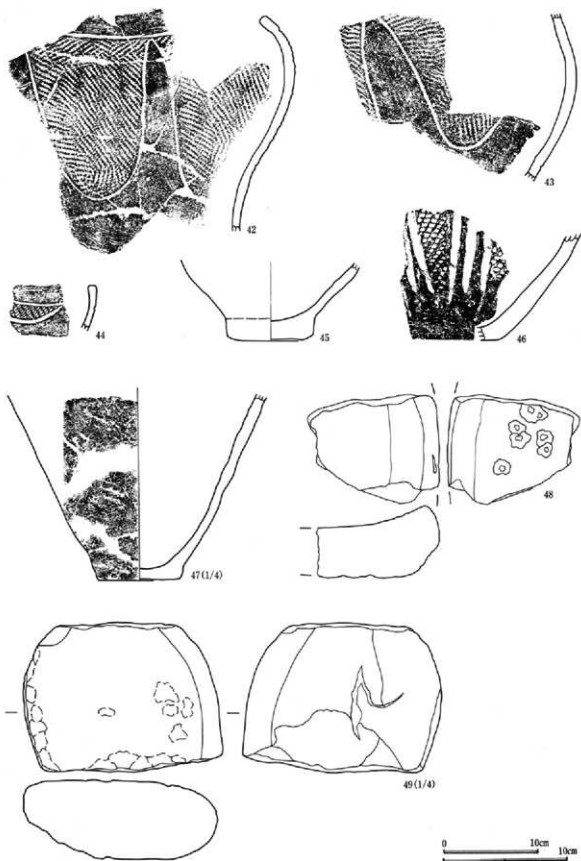
第105図 1地区3区グリッド出土遺物-1



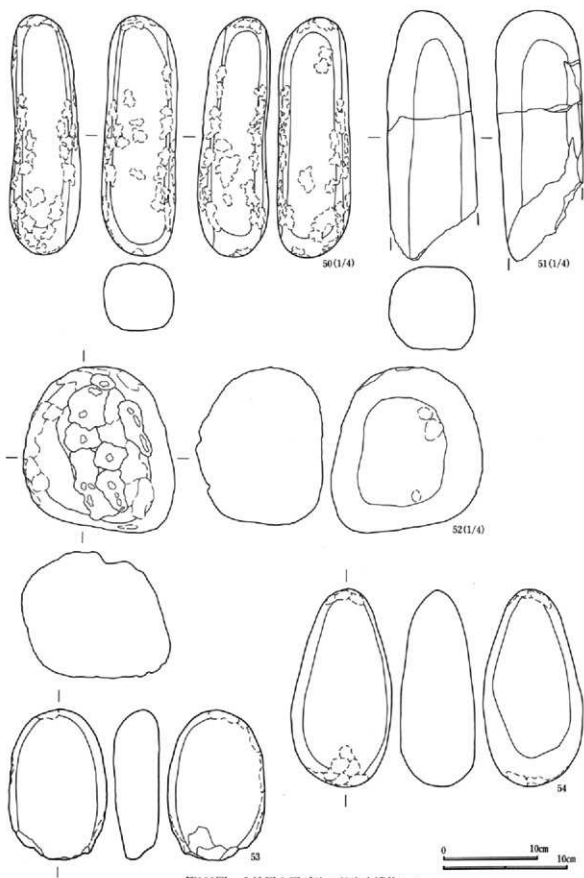
第106図 1地区3区グリッド出土遺物-2



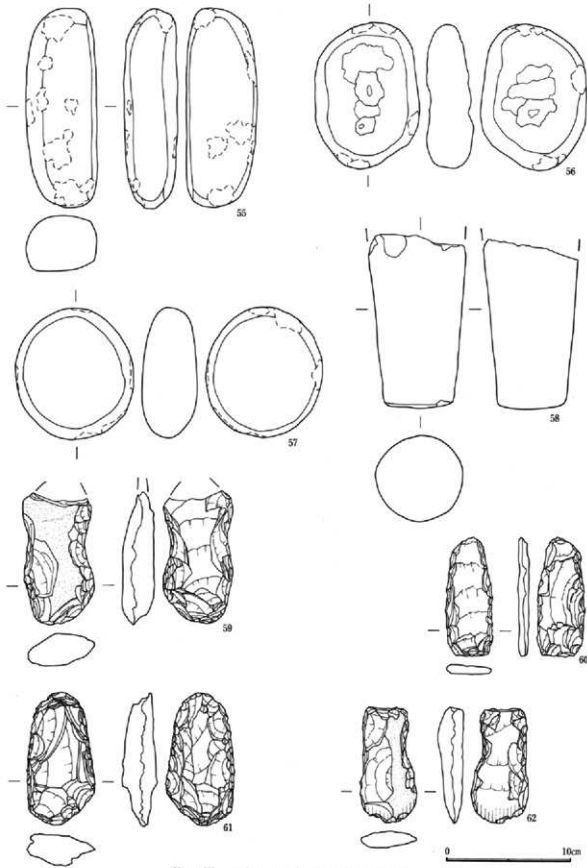
第107図 I地区3区グリッド出土遺物-3



第108図 1地区3区グリッド出土遺物-4

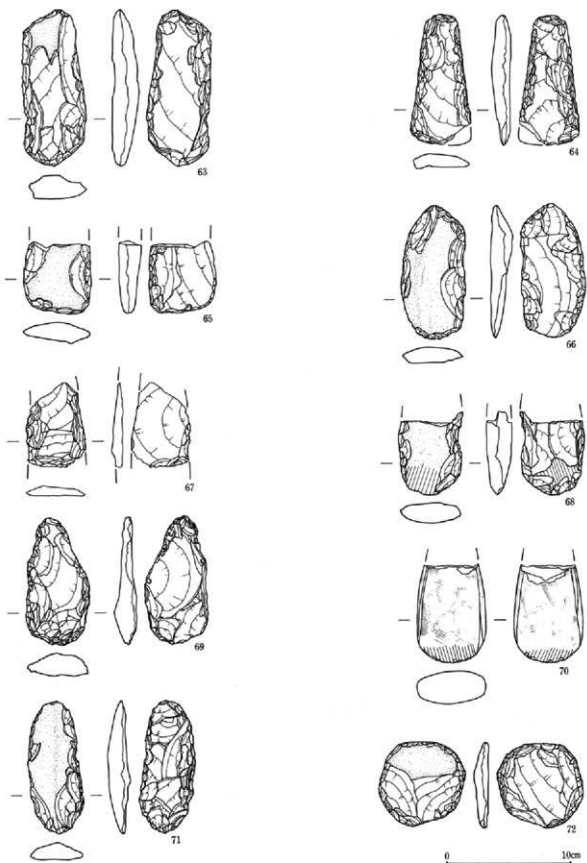


第109図 I地区3区グリッド出土遺物-5



第110図 I地区3区グリッド出土遺物-6

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第111図 I地区3区グリッド出土遺物-7

II 地区グリッド出土土器観察表(112~120図 PL42~46)

番号	種類器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
1	深鉢	橙	2.5YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文で菱形を描く。
2	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石、繊維	不良	巾9mmの平行沈線を引きしきで施文する。
3	深鉢	褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	良	LR・RLの羽状麗文。
4	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、繊維	不良	RI・LIの羽状麗文。
5	深鉢	赤褐	10YR	細かい砂粒	普通	浮線を横位施文後、RLを横位施文。
6	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	良	RL施文。浮線を横位に施文する。浮線に刻みを持つ。
7	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	巾5mmの平行沈線で鋸歯状に施文。
8	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	巾5mmの結節沈線で口縁部と胴部文様を描いた後、ボタン状の貼付と結節浮線が施文される。
9	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RL横位施文。刻みを持つ浮線を横位に施文。
10	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石	普通	扁平な刻みを持った浮線を施文。
11	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、小石	良	浮線を横位に施文後、RLを横位に施文。
12	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	普通	刻みを持った浮線を横位に施文。
13	深鉢	灰褐	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	巾5mmの平行沈線を横位に施文。
14	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1~2mmの小石	良	巾4mmの平行沈線で尚巻きを作る。
15	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石	普通	RL横位施文。巾3mmの平行沈線で横位に区画し、区画内に斜線を引く。
16	深鉢	赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RL横位施文。巾3mmの平行沈線を横位に施文。
17	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石	良	巾3mmの平行沈線で曲線を描く。
18	深鉢	暗赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	巾5mmの平行沈線を横位に施文。
19	深鉢	褐灰	7.5YR	細かい砂粒	普通	巾4mmの平行沈線による縦位と横位の区画。区画内に印刷・刺突が加えられる。
20	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒	普通	太さ12mm程度の隆線で口縁を楕円区画。区画内と頂部に巾5mmの平行沈線を鋸歯状に施文。内外面にスス付着。
21	深鉢	橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	20と同一個体。
22	深鉢	褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	太い隆線で楕円区画を作る。区画内を押し引きの沈線が充塞される。
23	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	普通	隆線による区画と爪形文による渦巻き状の施文。
24	浅鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	隆線で瘤状の突起を持つ。
25	深鉢	明赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	普通	隆線による楕円区画と突起。区画内を巾6mmの平行沈線が長方形に充塞される。
26	深鉢	明赤褐	5YR	細かい砂粒	良	隆線による文様区画と隆線に沿ってキャクピラ文が施文。
27	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、金雲母	良	巾5mmの平行沈線による施文。突起の縁には刻み。
28	深鉢	黒褐	5YR	φ1~3mmの小石、金雲母	良	隆線による突起と巾5mmの押し引きの結節沈線。
29	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	良	太さ2mmの単沈線を押し引きする。
30	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	巾15mmの爪形文。
31	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	巾3mmの結節沈線を2本平行させる。
32	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~2mmの小石	普通	巾12~15mmの指頭圧痕のある隆線。横位の圧痕。
33	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	隆線による楕円区画に沿って巾2mmの沈線が施文される。
34	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	指頭圧痕のある巾の広い隆線が施文される。
35	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~3mmの小石、金雲母	良	巾2~3mmの沈線を2本対にして波状に施文。

第2章 白川笹塚道跡の調査

番号	種類/器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
36	深鉢	橙	5YR	φ1~2mmの小石	普通	巾10mmの隆線に爪形文が施文される。隆線に沿って巾7mmの平行沈線が施文される。
37	深鉢	赤黒	2.5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾5mmの平行沈線を側面状に施文。下半部には圧痕を持つ。
38	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾6mmの平行沈線を縦位に施文し、刺突を加える。
39	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石、金雲母	良	巾3mmの結節沈線が側面状に施文される。
40	深鉢	明黄褐	10YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	巾6mmの平行沈線によるコンパス文。外面にスス付着。
41	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾7mmの平行沈線で文様帯を区画し、波状の沈線を加える。
42	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~2mmの小石、金雲母	良	巾10mmの刻みを施す。
43	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~2mmの小石	普通	巾6mmの平行沈線による方形区画。区画内に円形の刺突が充填される。
44	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	口縁下に巾3mmの沈線が流る。胴部には条線が流る。
45	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~3mmの小石	普通	条線を縦位に施文。
46	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	条線を縦位・波状に施文。
47	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~3mmの小石、黒雲母	普通	RLを縦・横に施文。太さ10~15mmの沈線で口縁部を楕円区画する。胴部は太さ7mmの沈線が3本対になり重下する。
48	深鉢	にぶい橙	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	LRを縦・横に施文。太さ5mmの沈線で文様を描く。
49	深鉢	にぶい橙	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	不良	LR横・縦施文。太さ6mmの沈線で楕円区画を作る。
50	陶耳壺	明褐	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	隆帯による橋状の把手。沈線で楕円区画を作り、LRを充填。
51	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	隆線による口縁部を区画する。区画内は太い縦位の沈線。
52	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~3mmの小石	普通	RLを縦・横に施文。太さ10mmの沈線と隆線によって口縁部を区画する。胴部は方形区画と渦巻き文を持つ。
53	深鉢	赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	良	隆線による楕円区画と沈線による斜線。
54	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	隆線で口縁を楕円に区画する。RLを区画内に充填する。
55	深鉢	明赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石	普通	RL横位施文。太さ10mmの沈線による楕円区画。浅い沈線3本対になり縦位に施文される。
56	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~2mmの小石、黄色軽石粒	普通	RL横位施文。太さ16mmの沈線による文様区画。
57	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石、黄色軽石粒	普通	RL横位施文。太さ10~15mmの沈線による渦巻き、楕円区画。スス付着。
58	深鉢	黒褐	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RLを横・縦に施文。太い隆線による文様区画。
59	深鉢	黒褐	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	太さ4mmの沈線による曲線とRLを縦横に施文して羽状渦文を描く。
60	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	太い隆線で口縁部を楕円区画を作る。区画内にはLRの渦文が充填される。
61	深鉢	褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RL横位施文。隆線で楕円区画を作る。
62	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RL横位施文。太さ8mmの沈線が口縁に施文される。
63	深鉢	明赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	普通	RL横位施文。隆線により口縁部と胴部を区画する。
64	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~3mmの小石	普通	R縦位施文。太さ8mmの沈線で楕円区画を作る。
65	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~5mmの小石	普通	太い沈線による渦巻き。
66	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~3mmの小石	普通	L縦位施文。隆線が口縁部を走る。
67	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石、黄色軽石粒	普通	太さ6mmの沈線による曲線。RLを縦・横に施文して羽状渦文を作る。

2節 発見された遺構と遺物

番号	種類器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
68	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	口縁部を微隆起線で区画し、RLの縄文を横位に施文。
69	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	LR横位施文。太さ4mmの沈線が波状に施文。
70	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1~5mmの小石、黄色軽石	普通	LR縦位施文。太さ6mmの隆線で口縁と胴部を区画する。
71	深鉢	黄褐	2.5YR	細かい砂粒	普通	太さ3mmの沈線による文様区画。細かい捺糸を横位に施文。
72	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	LR横位施文。太さ3mmの沈線が口縁に落ちる。スス付着。
73	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒	普通	RL横位施文。微隆起線で口縁部を区画。胴部に太さ3mmの沈線。
74	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石	普通	LR縦位施文。微隆起線で口縁部と胴部を区画する。
75	深鉢	橙	5YR	φ1~3mmの小石、黄色軽石粒	不貞	RL縦位施文。太さ3mmの沈線による縦位の区画。
76	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	RL縦位施文。太さ6mmの沈線を2本対して縦位の区画を作る。
77	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石	普通	太さ6mmの沈線が縦位の区画。区画間に縦位捺糸。
78	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~2mmの小石	普通	太さ10mmの沈線が縦位に施文される。
79	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	太さ5mmの沈線が縦位に施文される。スス付着。
80	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	指面凹のある隆線を垂下させる。太さ3mmの捺糸。
81	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	太さ5mmの沈線を縦位に施文する。
82	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	太さ12mmの隆線で横位区画する。巾7mmの平行沈線が斜位に施文される。スス付着。
83	深鉢	明赤褐	2.5YR	細かい砂粒	普通	LRの捺糸縦位施文。太さ4~6mmの沈線による渦巻き文。
84	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	良	RL縦位施文。太さ10~12mmの沈線3本単位で縦位区画。沈線間ほゞガキ。
85	深鉢	明赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石	良	1の捺糸を横位に施文。
86	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	LR縦位施文。太さ12mmの沈線2本を対して縦位区画を作る。
87	深鉢	褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	太さ6mmの沈線による縦位の区画。LR縦位区画。
88	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~3mmの小石、軽石粒	不貞	細かい隆起線2本を対して縦位の区画を作る。
89	深鉢	明褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、軽石粒	普通	LR縦位施文。太さ3mmの沈線による縦位区画。
90	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~3mmの小石、軽石粒	普通	LRを縦・横位施文。太さ4mmの沈線による楕円区画。
91	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RL縦位施文。太さ5mmの縦位施文。
92	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	太い隆線で楕円区画。区画内はRL施文。胴部は捺糸施文。
93	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	LR縦位施文。太さ6mmの隆線が縦位の区画。
94	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~2mmの小石	普通	RLを縦位施文。太さ6mmの沈線で楕円形を作る。
95	深鉢	赤褐	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	太さ8~12mmの沈線による渦巻き。RLを縦・横に施文して羽状にする。スス付着。
96	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	普通	太さ3mmの沈線による文様区画。区画内にLRを縦・横に施文。
97	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	太さ8mmの沈線が横位区画。上段はRL、下段は捺糸を波状に施文。
98	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	RL斜位施文。太さ4mmの沈線による縦位区画。
99	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒、金雲母	普通	太さ6mmの隆線で横位区画と楕円の区画。
100	深鉢	褐	7.5YR	細かい砂粒	良	RLの縄文を上段では正位にし、下段で縦位施文。太さ5mmの沈線による縦位の区画。
101	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~3mmの小石、軽石粒	普通	RL縦・横位施文。隆線で口縁部を区画。胴部は太さ6mmの沈線が縦位区画と波状の捺糸。
102	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒	良	太さ6mmの沈線で文様を描く。文様内はRL縦位施文。
103	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~3mmの小石	普通	0段多糸のRLを横位施文し、RLを縦位施文して羽状縄文を作る。太さ6mmの沈線施文。

第2章 白川笹塚遺跡の調査

番号	種類器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
104	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒、雲母	良	大き5mmの沈線施文。
105	深鉢	褐色	7.5YR	細かい砂粒	良	LR横位施文。大き5mmの工具で沈線と刺突を加える。
106	深鉢	にぶい褐色	5YR	細かい砂粒	良	大き3mmの沈線による横円区画。LR縦位施文。区画内は磨り消している。内面スス付着。
107	深鉢	黄褐色	10YR	細かい砂粒、雲母	普通	大き3mmの沈線で横円区画を作る。区画内をLrで縦位に施文。
108	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒	普通	大き4mmの沈線による文様区画。区画内にLRを縦位施文。内面スス付着。
109	深鉢	褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	大き5mmの沈線による横円区画。区画内にLR施文。
110	深鉢	橙	5YR	φ1~3mmの小石、片岩	不良	大き5mmの沈線による縦位区画。条線。
111	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	φ1~3mmの小石	良	条線施文。
112	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~5mmの小石、軽石粒	良	条線。
113	土製円盤	褐色	7.5YR	細かい砂粒	良	条線。
114	深鉢	灰黄褐色	10YR	φ1~5mmの小石	普通	大き5mmの沈線による縦位施文。細い条線を縦位に施文。
115	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒	普通	巾12mmを単位とする条線で渦巻きを描く。
116	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	無文。
117	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	φ1~3mmの小石、軽石	普通	隆線による横円区画。区画内にLR施文。
118	深鉢	灰褐色	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	口縁部無文。大き8mmの沈線による横円区画内LR横位施文。
119	深鉢	明赤褐色	2.5YR	φ1~2mmの小石、軽石	普通	大き8mmの隆線を垂下させる。3mmの沈線縦位施文。
120	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	Lr擦示。
121	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	φ1~2mmの小石	良	LR・RL施文。
122	深鉢	橙	5YR	細かい砂粒	普通	沈線によるワラビ手状文。把手表面に彩色。
123	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	波状口縁から取れを持つ隆線が垂下する。口縁部には粘土肥が貼付される。大き4mmの沈線による方形区画。区画内にLRを縦・横位に施文。
124	両耳壺	橙	5YR	φ1~5mmの小石、軽石粒	良	口縁部は無文。横状把手。胴部は条線が垂下する。
125	有孔罍付土器	にぶい橙	7.5YR	φ1~3mmの軽石粒	普通	無文。器面が荒れている。頸部に罍を持ちφ7mmの孔が開けられる。
126	深鉢	灰黄褐色	10YR	φ1~5mmの小石	良	横位のナデ、指頭状。
127	有孔罍付小壺	にぶい黄褐色	10YR	細かい砂粒	普通	口縁部に罍を持ち、φ2mmの孔を持つ。
128	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	無文底部に焼成後φ9mmの孔。
129	耳輪り	にぶい橙	5YR	細かい砂粒	普通	無文。φ6mmの孔。
130	深鉢	赤褐色	5YR	φ1~2mmの小石	普通	大き12mmの隆線に刻みを付け円形に施文。
131	土製円盤	にぶい褐色	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	LR縦位施文。大き3mmの沈線による横円区画。

II 地区グリッド出土石器観察表(121~129回 PL08~09)

番号	種類	材質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
132	多孔石	粗粒輝石安山岩	一部欠損	29.3	15.2	16.8	9250	一定形の自然石を使用。表面の頂部には、大小数多くの孔が穿たれており、側面の一部にも孔がある。
133	多孔石	粗粒輝石安山岩	完存	27.9	17.1	14.8	8350	不定形の自然石を使用。表面は中央部に集中し、裏面は側縁部に沿って緩やかな凹みの孔が多く穿たれている。
134	多孔石	粗粒輝石安山岩	完存	30.6	19.5	14.3	9890	削れた自然石を使用。表面の全面に大小の孔が15個穿たれている。
135	石皿	粗粒輝石安山岩	破片	21.9	17.2	7.8	2430	木目の粗い石を使用。裏面とも使用され、表面は縁が高く裏面はわずかに縁が残る。裏面3個、側縁部に2個の孔がある。

2節 発見された遺構と遺物

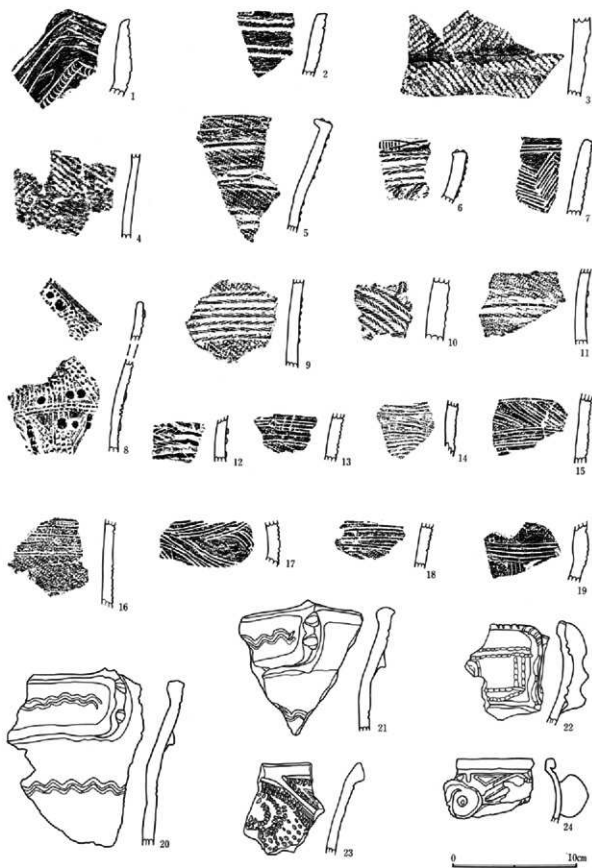
番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
136	台石	粗粒輝石安山岩	一部欠損	31.0	24.8	12.2	10600	不定形の自然石を使用。表面は凹状をなし、表面は平坦でわずかに磨れている。表面の側縁部寄りに2個の孔がある。
137	多孔石	粗粒輝石安山岩	破片	27.0	16.8	15.9	6200	表面と側面に大小の数多くの孔が穿たれており、裏面は少ない。特に小さく孔が密集する所がある。
138	台石	粗粒輝石安山岩	完存	21.1	18.0	6.5	4900	扁平な河原石を使用。表面は平坦でやや磨れている。
139	台石	粗粒輝石安山岩	完存	29.1	19.5	9.0	7600	扁平な河原石を使用。表面は凹状に凹みや磨れている。
140	台石	粗粒輝石安山岩	完存	17.5	13.6	6.8	2300	扁平で不定形の自然石を使用。表裏面とも平坦で使用していると思われる。表面に3個の孔がある。
141	多孔石	粗粒輝石安山岩	完存	12.6	12.7	10.3	1150	不定形の河原石を使用。上面から右側面にかけて比較的大きな孔が密集して穿たれ、左側面にも2孔ある。
142	磨石	粗粒輝石安山岩	破片	11.7	11.8	11.9	1860	やや大型の河原石を使用。全面が磨れており、側縁部に沿って敲打痕が集中している。
143	多孔石	粗粒輝石安山岩	破片	16.2	20.3	11.6	4200	表面中央に2個の孔が穿たれている。人為的に磨らされている。
144	多孔石	粗粒輝石安山岩	破片	12.7	10.9	10.0	1640	表面に10個、裏面に2個の孔が穿たれている。
145	多孔石	黒見石	破片	13.1	11.0	10.8	1810	表面と側面に一列をなして孔が穿たれている。
146	凹石	粗粒輝石安山岩	破片	19.8	14.0	10.0	4010	長楕円形の自然石を使用。表面に8個の凹み、裏面には敲打痕。
147	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	14.9	7.7	6.9	1160	不整形円形をなす河原石を使用。全面磨かれており、一部に敲打痕がある。
148	磨石	粗粒輝石安山岩	破片	8.1	6.2	6.2	400	長楕円形と思われる河原石を使用。全面が磨れており、端部や側縁部に敲打痕があり、一部打撃により剥離している。
149	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	9.1	8.1	6.2	640	楕円形の河原石を使用。表裏面とも良く磨れており、表面中央に敲打による凹みがある。側縁部には多くの敲打痕がある。
150	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	13.7	7.5	4.3	700	長楕円形の河原石を使用。表裏面と側縁部が非常に良く磨れている。両端部や側縁部に敲打痕がある。
151	磨石	粗粒輝石安山岩	破片	6.9	6.8	4.1	290	楕円形と思われる河原石を使用。表裏面とも良く磨れており、中央部に敲打痕がある。上端部には敲打痕が集中している。
152	凹石	粗粒輝石安山岩	完存	10.1	8.2	4.8	530	自然石を使用。表面に凹みを4つ、裏面に2つ持つ。側面に敲打痕。
153	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	12.6	6.9	5.0	670	長楕円形の河原石を使用。表裏面は良く磨れており、敲打痕が散在する。両端部や側縁部には多くの敲打痕がある。
154	凹石	石英閃緑岩	一部欠損	9.3	6.0	3.1	220	楕円形の河原石を使用。表裏面はやや磨れており、中央に1・2個の凹みがある。上端部は敲打痕により磨れており、側縁部や下端部にも敲打痕がある。
155	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	12.0	9.6	9.4	1440	やや扁球形の河原石を使用。全面が磨れており、部分的に敲打痕が集中している。
156	敲石	粗粒輝石安山岩	完存	8.0	5.2	3.4	204	楕円の側面に敲打痕。表裏面は磨面になる。
157	敲石	粗粒輝石安山岩	完存	6.4	5.6	4.2	184	表面に敲打痕。
158	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	11.0	11.1	4.3	805	円形の河原石を使用。表裏面は磨れており、側面に敲打痕を持つ。
159	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	6.1	5.8	4.2	210	円形の河原石を使用。表裏は非常に良く磨れており、側縁部にはわずかに敲打痕がある。
160	磨石	粗粒輝石安山岩	破片	5.5	8.1	3.8	215	扁平な河原石を使用。表裏面とも非常に良く磨れている。表面中央と側縁部全面に敲打痕がある。

第2章 白川笹塚遺跡の調査

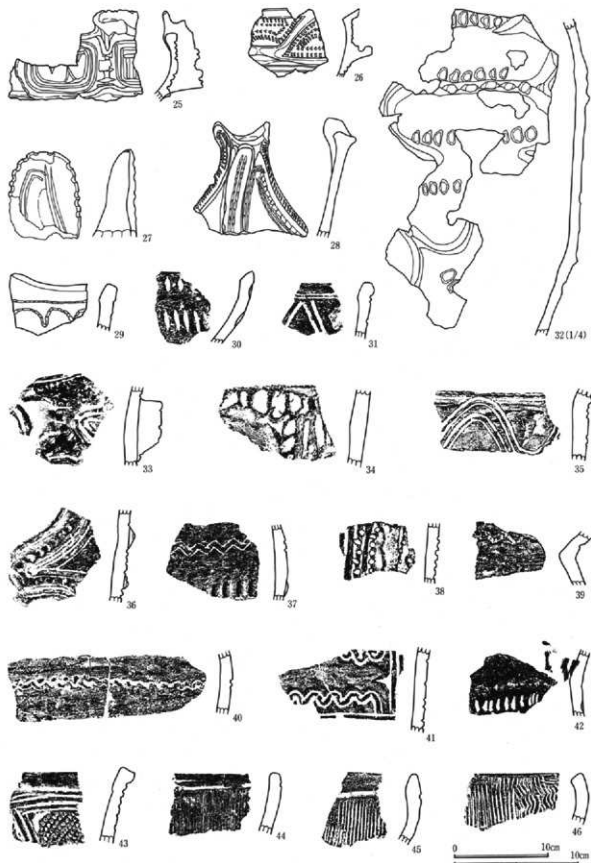
番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
161	凹石	石英閃緑岩	完存	9.7	6.0	3.5	300	楕円形の河原石を使用。表面面とも、やや磨れており、中央に3・4個の凹みがある。両端部や側縁部には敲打痕がある。
162	凹石	粗粒輝石安山岩	一部欠損	8.4	8.2	5.0	520	楕円形と思われる河原石を使用。表裏面はやや磨れており、中央に2個ずつの孔がある。側縁部には敲打痕がある。
163	凹石	石英閃緑岩	完存	10.3	8.9	6.0	610	楕円形の河原石を使用。表面面はやや磨れており、中央2個ずつ凹みを持ち、両端部や側縁部には敲打痕がある。
164	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	5.2	4.9	5.3	200	不整形の河原石を使用。全面が磨れているが特に下面は非常に良く磨れており、平砥となっている。
165	凹石	石英閃緑岩	一部欠損	11.2	8.0	5.2	560	不定形の自然石を使用。表面に4個、裏面と側縁部に1個ずつの凹みを持つ。
166	磨石	珪質安山岩	完存	6.6	4.1	2.2	74.9	小型で楕円形の河原石を使用。表裏面とも非常に良く磨かれている。表面の一部と両端部に敲打痕がある。
167	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	7.2	6.0	3.0	170	楕円形の河原石を使用。表面面はわずかに磨れており、表面や側縁部に敲打痕がある。
168	凹石	石英閃緑岩	一部欠損	10.9	6.2	4.0	490	長楕円形の河原石を使用。表裏面は良く磨かれており、中央に2〜4個の凹みがある。側縁部もやや磨れており、わずかに敲打痕がある。端部は敲打痕が集中している。
169	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	6.3	5.5	3.9	180	楕円形の河原石を使用。全面がやや磨れており、側縁部の一部に敲打痕がある。
170	打製石片	緑色片岩	両部欠損	12.1	5.6	2.0	150	分断形をなし、側縁部中央に緩やかな盛り込みがある。
171	打製石片	硬質頁岩	完存	10.9	5.5	3.3	180	短楕形で刃部・基部ともに平ら。
172	打製石片	粗粒輝石安山岩	刃部欠損	12.4	5	1.4	120	短楕形をなし表面に自然面を大きく残す。刃部は丸く基部は斜め。
173	打製石片	頁岩	刃部欠損	7.6	4.0	1.5	32.6	短楕形か楕形と考えられ、薄身で基部はやや丸い。
174	打製石片	玄武武岩	完存	10.6	4.2	2.3	110	短楕形で刃部・基部とも丸い。
175	打製石片	黒色頁岩	完存	15.1	5.4	2.6	220	短楕形であるが基部寄り側縁部にやや決り込みがある。刃部・基部ともやや丸く、刃部は使用により摩滅している。表面にわずかに自然面を残す。
176	打製石片	珪質頁岩	完存	13.4	5.9	1.8	140	やや楕形をなし、身部に比べ刃部が巾広となっている。刃部は丸く非常に良く摩滅している。基部は斜めでやや摩滅している。
177	打製石片	粗粒輝石安山岩	刃部欠損	10.1	5.5	2.0	140	短楕形と考えられ、一部に自然面を残す。基部は平ら。
178	打製石片	珪質頁岩	基部欠損	11.2	5.1	1.7	100	薄身の短楕形で刃部が丸い。
179	打製石片	黒色頁岩	完存	10.0	4.9	2.2	110	やや楕形をなし、わずかに自然面を残す。刃部は丸く基部は平ら。刃部・基部と身部中央がわずかに摩滅している。
180	打製石片	黒色頁岩	完存	9.7	4.6	1.6	60	異形の短楕形をなし、一部に自然面を残す。刃部は丸く基部は尖っている。
181	打製石片	頁岩	ほぼ完存	9.8	4.4	2.8	120	短楕形で表面に自然面を残す。刃部・基部ともに平ら。刃部は使用により割れている。
182	打製石片	粗粒輝石安山岩	完存	10.0	4.0	1.8	60	短楕形で刃部・基部とも丸い。刃部がやや摩滅している。
183	打製石片	粗粒輝石安山岩	基部欠損	8.2	5.1	2.4	100	一部に自然面を残す。短楕形で刃部は平ら。
184	打製石片	黒色頁岩	刃部欠損	9.8	4.4	2.3	110	短楕形をなし基部は丸い。刃部寄り両側縁部が摩滅している。
185	打製石片	粗粒輝石安山岩	基部欠損	7.1	5.8	1.3	64.2	表面に大きく自然面を残す。楕形をなし刃部はやや丸い。

2 節 発見された遺構と遺物

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
186	打製石斧	頁岩	基部欠損	7.5	5.0	1.1	51.7	短冊形と考えられ、表面に大きく自然面を残す。薄身で刃部やや丸い。
187	打製石斧	頁岩	刃部欠損	7.8	3.1	1.8	49.7	細身の短冊形で、一部に自然面を残す。基部は平ら。
188	打製石斧	黒色頁岩	完存	9.7	3.6	1.6	50	短冊形をなし刃部・基部とも丸い。やや粗い作りである。
189	剥片石器	珪質頁岩	完存	7.8	2.6	1.6	27.7	尖頭状の剥片を使用。一部に自然面を残す。V字状をなす2個縁部に粗い刻離を加え刃部としている。
190	剥片石器	珪質頁岩	完存	4.1	3.6	0.8	9.5	三角形をなす剥片で、V字状の2個縁部に粗い刻離を加え刃部としている。
191	剥片石器	黒色頁岩	完存	8.3	3.6	1.8	38	尖頭器状の剥片で側縁部の全局に細かい刻離が加えられている。一部に自然面を残す。
192	剥片石器	珪質頁岩	完存	6.2	7.3	1.6	81.2	不整形をなす剥片で、表面に大きく自然面を残す。すべての個縁部に粗い刻離を加え刃部としている。
193	剥片石器	黒色安山岩	完存	5.1	4.1	1.6	30.6	不整形の剥片で、一部に自然面を残す。弧状をなす1個縁部に片面より細かい刻離を加え刃部としている。
194	剥片石器	黒色頁岩	完存	3.8	5.9	1.0	20.4	やや長方形をなす剥片を使用。一部に自然面を残す。側縁部全局に細かい刻離がみられる。
195	剥片石器	硬質砂岩	完存	3.5	5.0	1.5	31	台形をなす剥片を使用。3個縁部に主に片面から粗い刻離を加え刃部としている。
196	剥片石器	黒色頁岩	完存	3.7	4.8	1.0	14.2	不整形の剥片で、弧状をなす1個縁部に片面より細かい刻離を加え刃部としている。
197	剥片石器	黒色安山岩	完存	4.8	7.9	1.2	57.6	不整形の剥片を使用。一部に自然面を残す。2個縁部に粗い刻離を加え刃部としている。
198	剥片石器	チャート	完存	3.5	3.9	1.1	15	一定形の剥片で、一部に自然面を残す。1個縁部に両面より刻離を加え刃部としている。
199	剥片石器	黒色頁岩	完存	4.2	4.1	1.1	20.1	不整形の剥片を使用。一部に自然面を残す。2個縁部に片面より細かい刻離を加え刃部としている。
200	打製石斧	頁岩	基部欠損	7.0	5.1	1.2	64.7	形態は不明であるが丸い刃部を持つ。刃部は使用により非常に良く摩滅している。
201	転用磨石	変玄武岩	刃部・基部欠損	8.0	6.9	2.9	270	基部を欠損する定角式磨製石斧を使用。表面面中央に敲打痕が集中し、刃部は大きく割れている。全身面には製作時と使用時の擦痕が残る。
202	磨製石斧	変玄武岩	刃部・基部欠損	11.5	5.1	3.1	260	乳房状をなし、全面に製作時の細かい研磨痕と敲打痕が残る。
203	砥石	軽石	ほぼ完存	7.0	3.6	1.3	23.6	軟質の砥石と思われ、全面が磨かれている。
204	石棒	デイスait	破片	6.4	10.8	9.0	720	先端部の破片で、先端部よりは一回り太くなっている。断面円形。
205	石鏃未製品	黒曜石	完存	2.5	2.3	0.9	4.8	石鏃の未製品と考えられ、一部に自然面を残す。
206	石鏃	黒曜石	脚部欠損	1.7	1.2	0.3	0.4	無茎の石鏃で二等辺三角形をなし、基部が深く再入。
207	石鏃	細粒輝石安山岩	先端部欠損	1.7	1.8	0.3	1.0	三角鏃で二等辺三角形をなし、基部がわずかに再入。



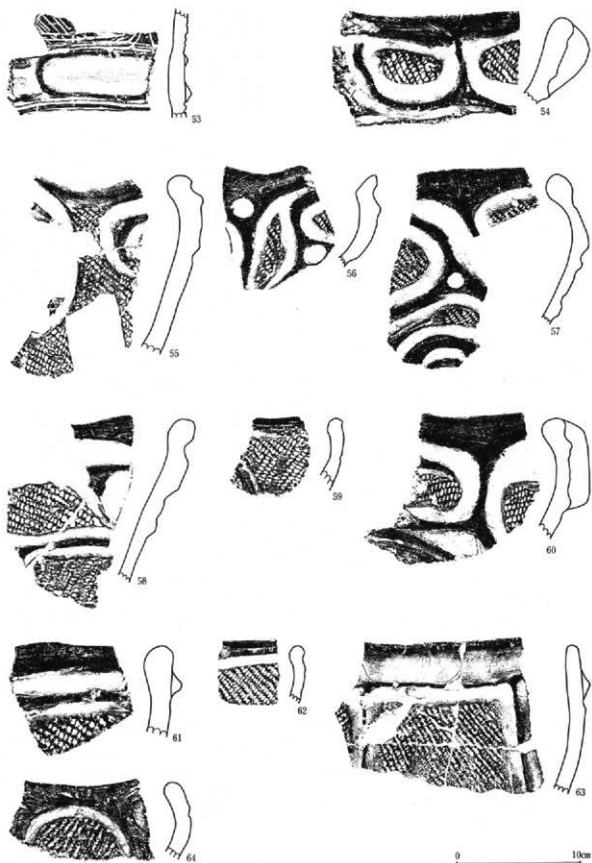
第112図 II地区グリッド出土遺物-1



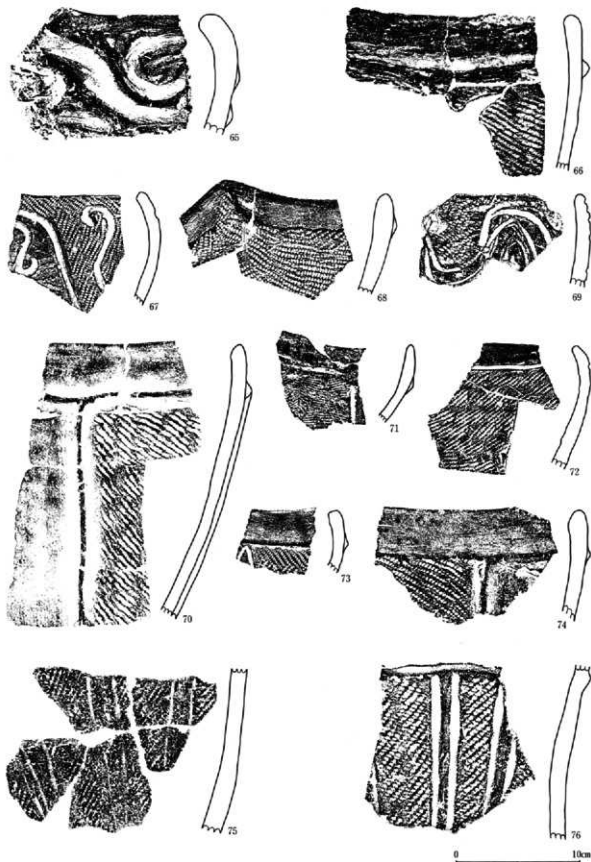
第113図 II地区グリッド出土遺物-2



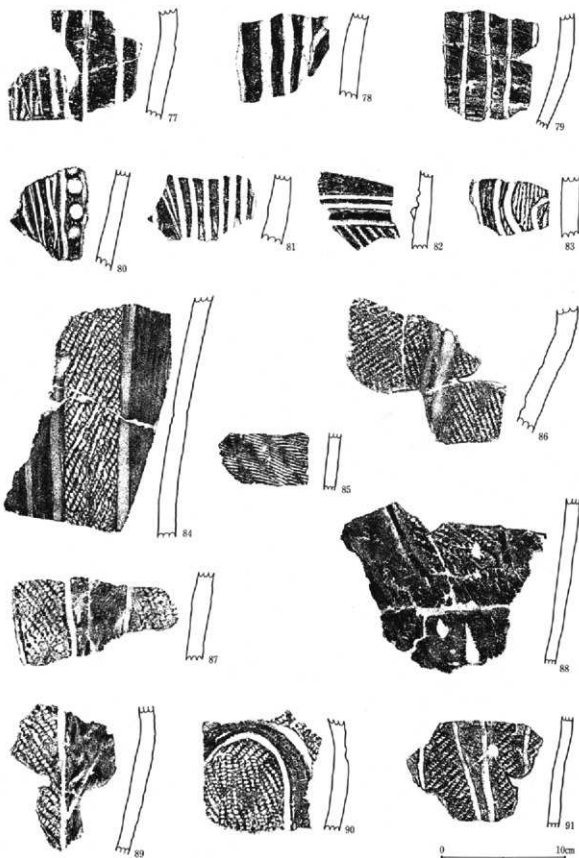
第114図 II地区グリッド出土遺物-3



第115図 II地区グリッド出土遺物-4

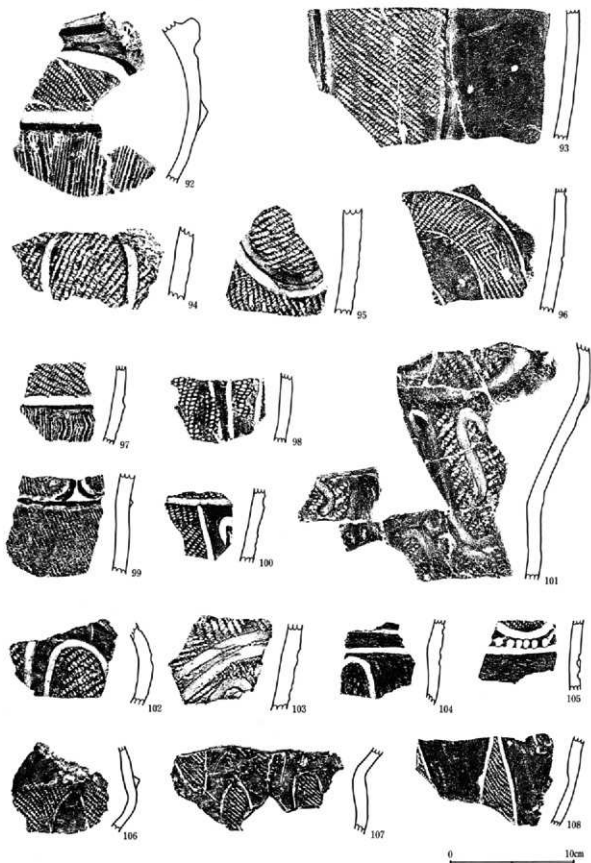


第116図 II地区グリッド出土物-5



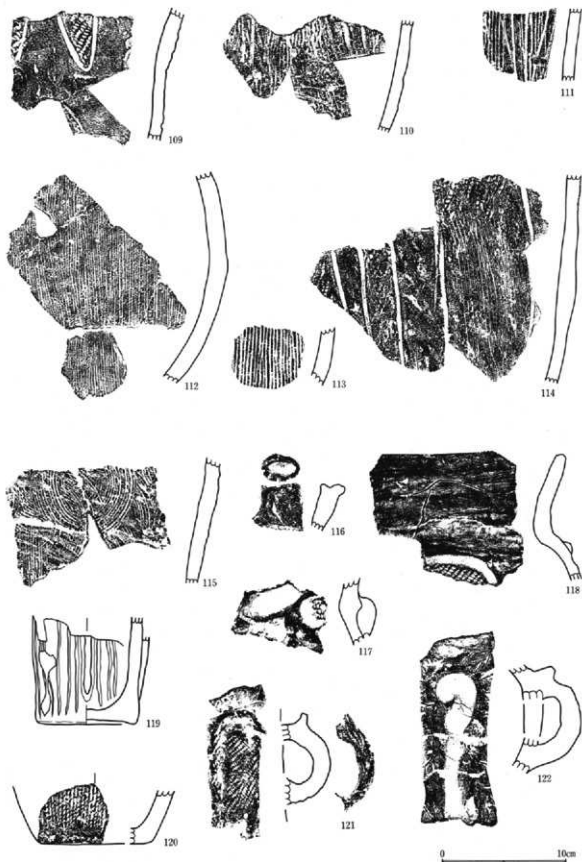
第117図 II地区グリッド出土遺物-6

第2章 白川笹塚遺跡の調査



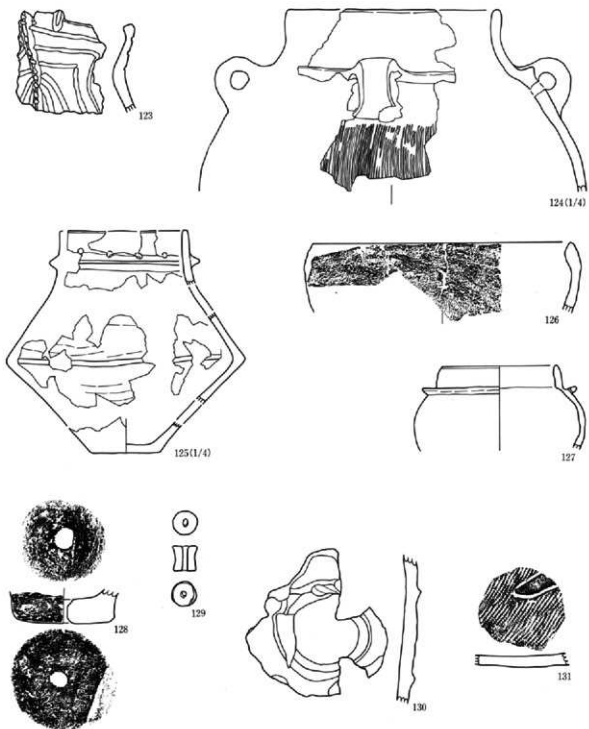
第118図 II地区グリッド出土遺物-7

2節 発見された遺構と遺物



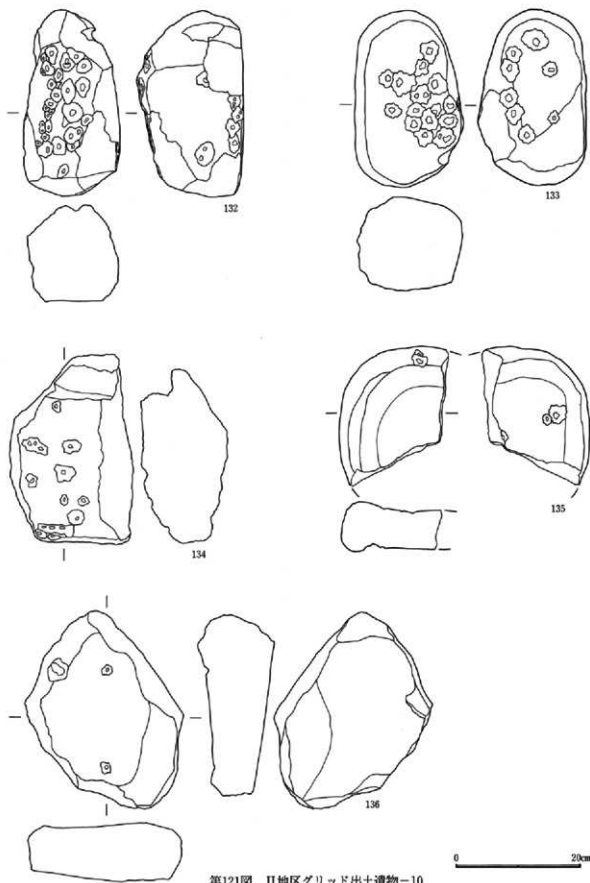
第119図 II地区グリッド出土遺物-8

第2章 白川笹塚遺跡の調査

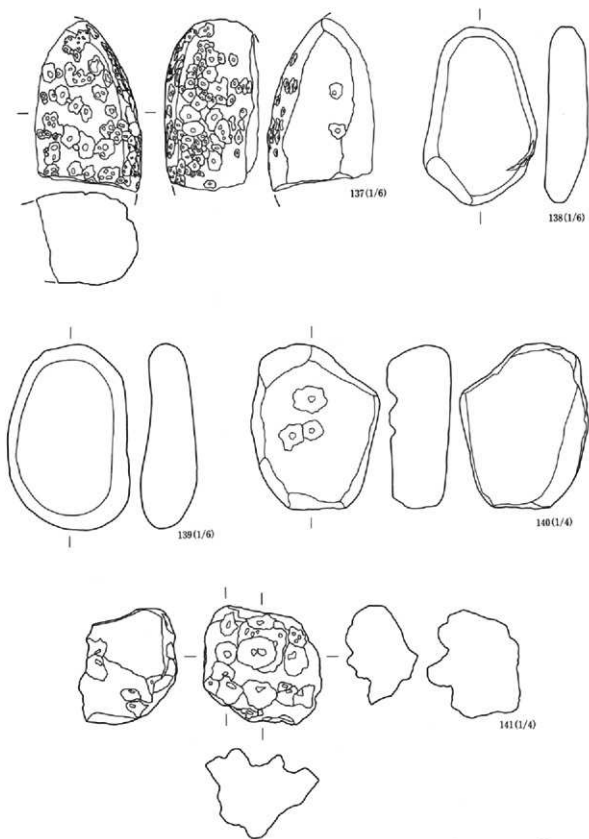


0 10cm 10cm

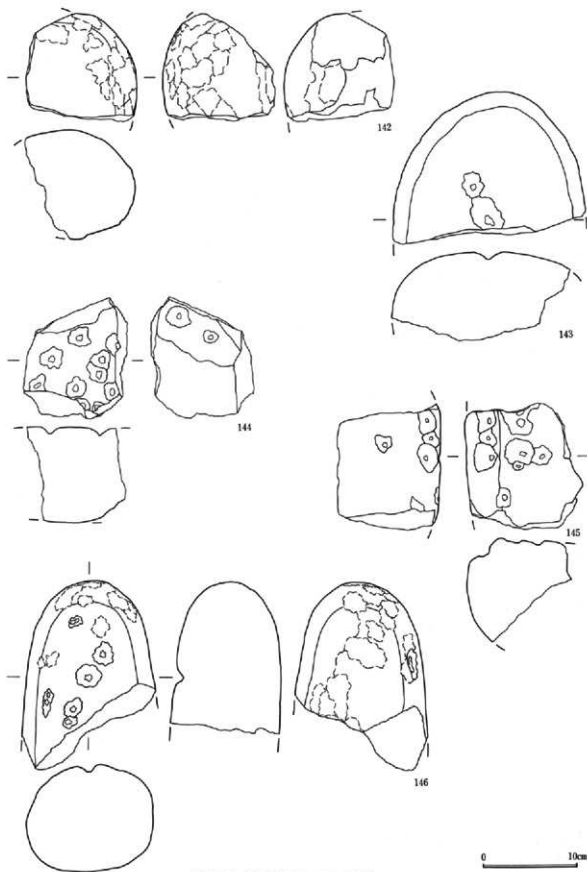
第120図 II地区グリッド出土遺物-9



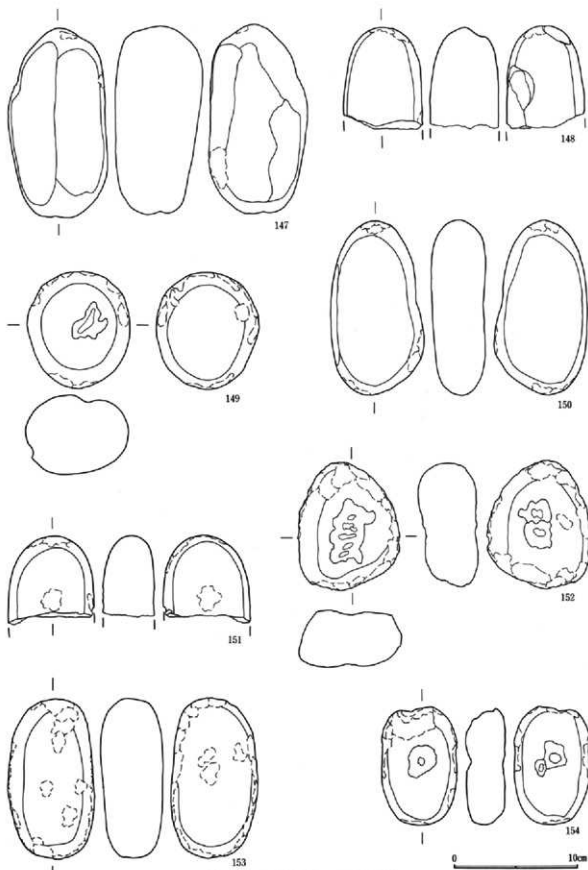
第121図 II地区グリッド出土遺物-10



第122図 II地区グリッド出土遺物-11

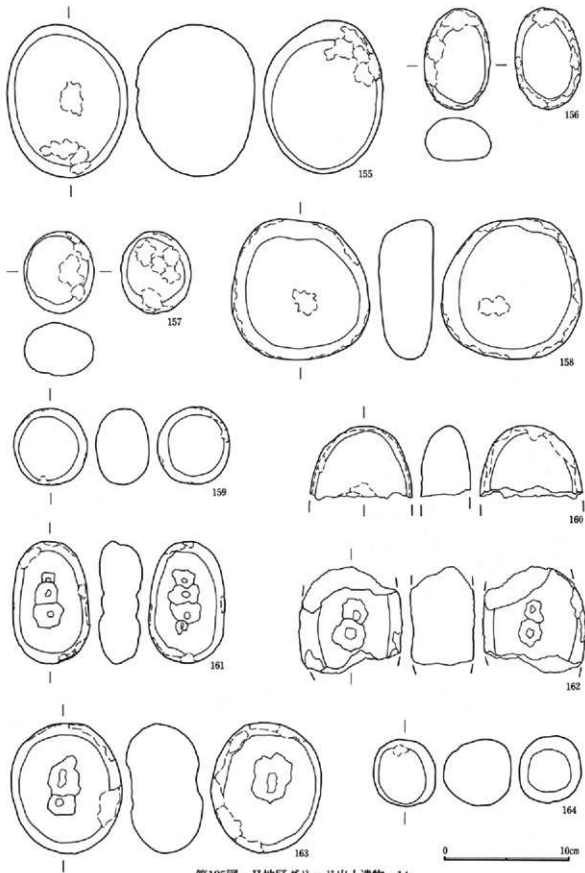


第123図 II地区グリッド出土遺物-12

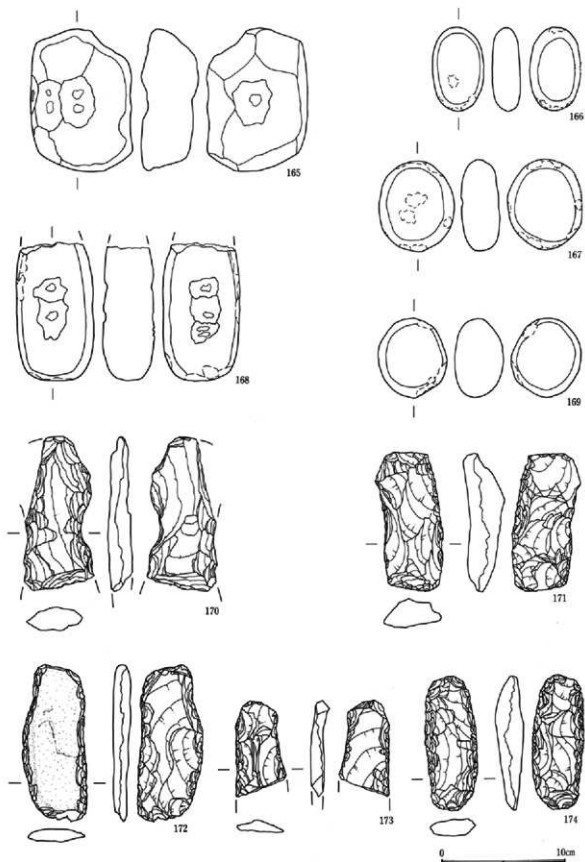


第124図 II地区グリッド出土遺物-13

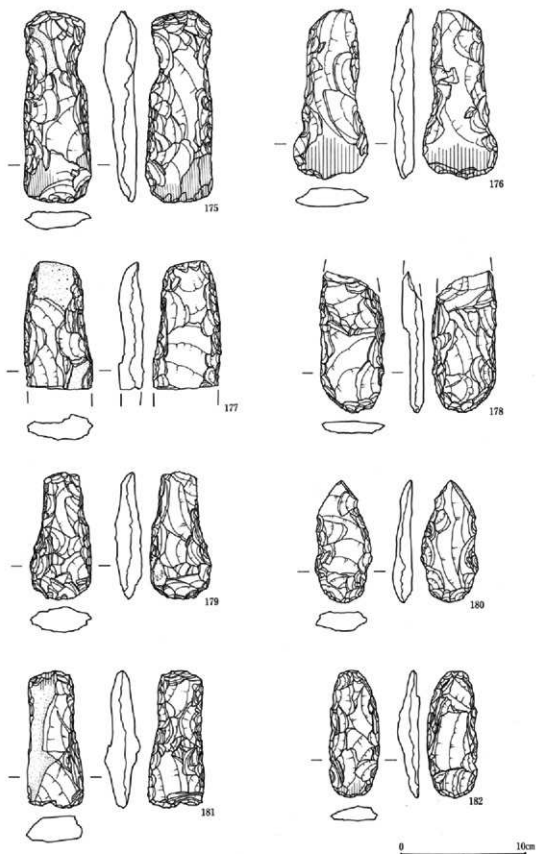
2節 発見された遺構と遺物



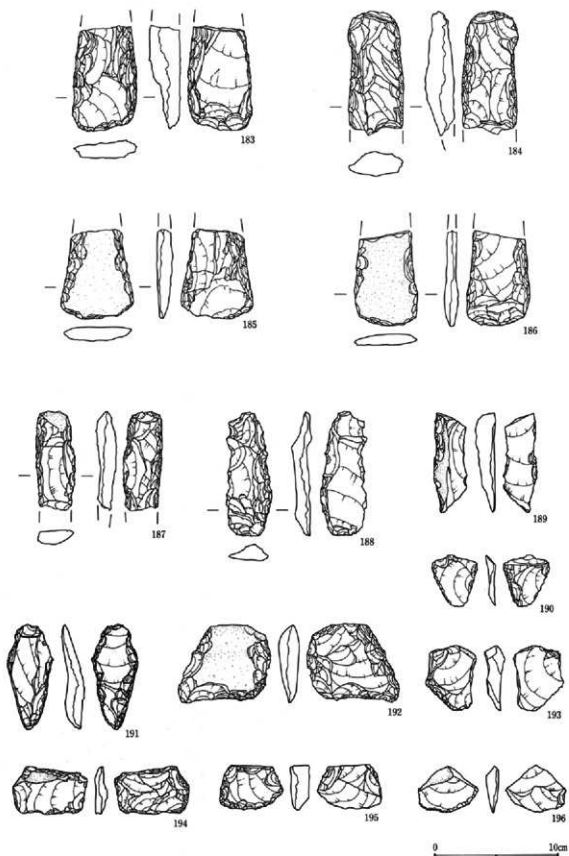
第125図 II地区グリッド出土遺物-14



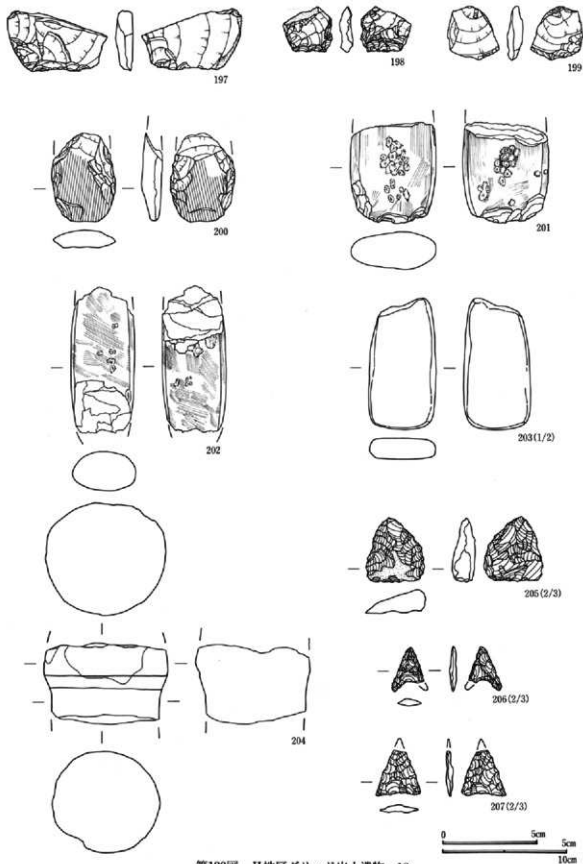
第126図 II地区グリッド出土遺物-15



第127図 II地区グリッド出土遺物-16



第128図 II地区グリッド出土遺物-17



第129図 II地区グリッド出土遺物-18

町道関係出土土器観察表(130・131図) PL.91・92)

番号	種類	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
1	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾8mmの半軟竹管による平行沈線と爪形文。
2	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾10mmの爪形文。
3	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾6mmの平行沈線による格子状の文様。
4	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾7mmの半軟竹管による平行沈線と爪形文。
5	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~3mmの小石、繊維	普通	LRの縄文と巾7mmの爪形文。
6	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾10mmの爪形文を横位に施文。
7	深鉢	灰黄褐	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾9mmの爪形文。RL・LRの羽状縄文。
8	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾8mmの平行沈線。
9	深鉢	暗灰黄	2.5YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾9mmの平行沈線で菱形を作る。
10	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	LRの縄文。巾10mmの平行沈線。
11	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、繊維	普通	巾11mmの平行沈線。
12	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	巾10mmの平行沈線で菱形を作る。
13	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒、繊維	良	RL横位施文。口縁部にφ6mmの補修孔。
14	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒、繊維	良	LRとRLの羽状縄文。
15	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒、繊維	良	RL横位施文。
16	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~3mmの軽石、繊維	普通	RLと段多条のLRの羽状縄文。
17	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~2mmの小石、繊維	普通	RLと段多条のLRの羽状縄文。
18	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	Lr横位施文。
19	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒、繊維	普通	RL横位施文。
20	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒、繊維	不良	RL・LRの羽状縄文。
21	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~3mmの小石、繊維	普通	RL横位施文。
22	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、金雲母	良	口縁部に無文帯を持つ。胴部には巾9mmのキャピラ文とベン先状の刺突文。
23	深鉢	にぶい褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	巾6mmの平行沈線と丸棒状の工具による刺突。
24	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	細かい砂粒、雲母	良	巾8mmの押し引きの爪形文と平行沈線。
25	深鉢	灰灰	10YR	細かい砂粒、雲母	良	口唇部に刻み。巾8mmの平行沈線施文。
26	深鉢	褐	5Y	細かい砂粒、繊維	普通	凹形。
27	深鉢	にぶい赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、雲母、軽石粒	普通	巾3mmの沈線を縦位に施文。
28	深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	良	横位のナデ。
29	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	太い四線で弧線を描く。陶器。
30	天目茶碗	灰白	5Y			

町道関係出土土器観察表(131・132図) PL.91・92)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
31	凹石	石英閃緑岩	完存	13.2	7.6	5.2	660	長楕円形の河原石を使用。表裏面とも敲打による凹み。両端部は敲打痕がある。
32	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	8.5	8.1	7.7	670	球形の河原石を使用。全面がやや磨れており、数多くの敲打痕がある。
33	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	12.5	5.7	4.1	460	長楕円形の河原石を使用。全面が良く磨れており、敲打痕が散在している。
34	凹石	石英閃緑岩	完存	9.6	5.9	4.5	400	楕円形の河原石を使用。表裏面とも磨れており、中央に2個ずつの凹みがある。側縁部にも浅い凹み。両端部に敲打痕が集中している。
35	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	6.2	5.5	5.2	130	球形をなす河原石を使用。表面の粒子が砥石状に突く。一部に敲打痕がある。
36	凹石	石英閃緑岩	完存	9.1	6.2	4.5	310	楕円形の河原石を使用。表裏面ともやや磨れている。表面中央に2個の凹みがあり、裏面は敲打痕がある。両端部に多くの敲打痕がある。
37	凹石	石英閃緑岩	完存	10.6	6.5	4.7	470	楕円形の河原石を使用。表裏面とも良く磨れており、中央部に浅い凹みが2・3個ある。両端部と側縁部に敲打痕がある。
38	剥片石器	黒色頁岩	完存	7.2	2.7	1.3	24.9	尖頭状の剥片を使用。V字状をなす2個縁に主に片面から細かい刻線を加えている。
39	剥片石器	黒色頁岩	完存	9.2	2.8	0.9	14.4	長方形をなす剥片で一部に自然面を残す。平行する2個縁に粗い刻線を加えた刃部。

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
40	剥片石器	黒色頁岩	完存	5.3	5.6	1.6	36	不定形の剥片で、3個縁部に細かい刻痕を加え刃部としている。
41	剥片石器	黒色頁岩	完存	4.5	4.3	1.5	22.9	不定形の剥片で一部に自然面を残す。2個縁に片面より細かい刻痕を加え刃部としている。
42	砥石	砥沢石	破片	6.1	3.0	1.8	45.3	4側面とも使用され、各面とも片減りする。
43	砥石	流紋岩	破片	4.1	3.7	2.5	57.6	4側面とも使用されており、線状の痕跡が部分的に残る。
44	石鏃	黒色頁岩	完存	4.4	14.2	1.6	80	横長の石鏃で、自然面を残す。抓み部は斜め上方に小さく作り出され、刃部は丁寧に剥離されている。

表採出土土器観察表(133図 PL92)

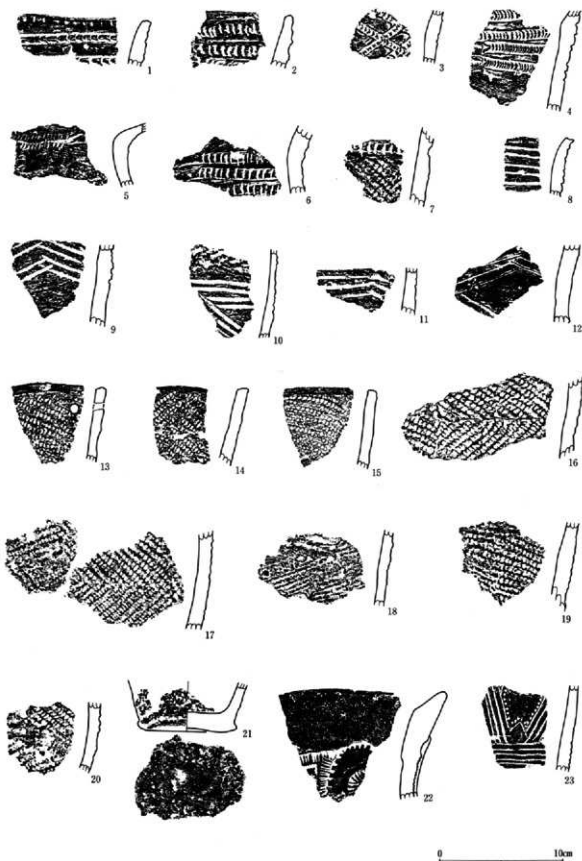
番号	種類/器種	色調	色調記号	胎土	焼成	特徴・その他
1	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	RL横位施文。口縁部文様帯に縦線と沈線で渦巻き弧状を描く。
2	深鉢	黒	7.5YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	頸部に沈線で区画する無文帯。胴部は携水LRの右巻き。
3	深鉢	にぶい赤褐	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	良	口縁に横位の沈線が走る。胴部は縦位の条線。縦位の条線と押し引きの沈線。
4	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、雲母	良	
5	深鉢	赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、砂粒	普通	LR縦位施文。太さ8mmの沈線で縦位の区画と無文帯。
6	深鉢	黒褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、軽石粒、雲母	普通	LR縦位施文。太さ4mmの沈線で縦位の区画と無文帯を作る。
7	深鉢	灰褐	7.5YR	細かい砂粒、雲母	普通	RL縦位とLRRを縦位に施文。太さ8mmの沈線で縦位の区画。
8	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~2mmの小石	良	太さ4mmの沈線による弧線文。文様間に結節の刺突が施文される。
9	弥生深鉢	にぶい黄橙	10YR	細かい砂粒	良	口唇に段を持ち刻みが増えられる。口縁部はハケ目。
10	深鉢	黄橙	10YR	細かい砂粒	普通	φ12mmの粘土團を貼付する。これに連結するように爪形文と弧線が施文される。内面スス付着。
11	深鉢	赤褐	5YR	細かい砂粒、雲母	良	RL横位施文。巾6mmの平行沈線による横位の区画と縦位・斜位の施文。横位区画内に三角の印刺が施文される。
12	深鉢	赤褐	5YR	φ1~2mmの小石	普通	太さ3mmの沈線による横位区画。区画内にベン先状の刺突文。
13	深鉢	褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、雲母	普通	RL縦位施文と波状文。縦位区画の沈線。

表採出土土器観察表(134図 PL93)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
14	多孔石	粗粒輝石安山岩	完存	16.7	17.4	11.3	3490	不整形の自然石を使用。表裏面の中央部寄りに多くの孔がある。
15	凹石	粗粒輝石安山岩	一部欠損	9.8	8.5	7.6	715	わずかに扁球形の河原石を使用。全面がやや磨れており、表面中央部に2個の凹みがある。
16	打製石斧	黒色頁岩	完存	11.2	3.9	1.2	50	薄身の短筒形で一部に自然面を残す。刃部は丸く基部は斜めとなっている。
17	剥片石器	黒色頁岩	完存	4.8	5.0	1.2	15.1	三角形をなす剥片でわずかに自然面を残す。2個縁に細かい刻痕を加え刃部としている。
18	石鏃	黒色安山岩	脚部欠損	3.3	1.4	0.4	1.4	無茎の石鏃で長身の二等辺三角形をなし、基部は狭く薄入。
19	石鏃	黒曜石	一部欠損	4.1	1.3	0.9	4	先端部への移行部に挟り込みがあり、先端部は断面三角形。

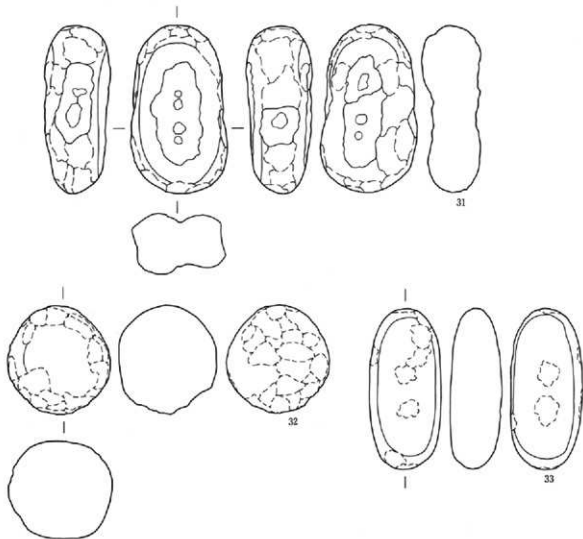
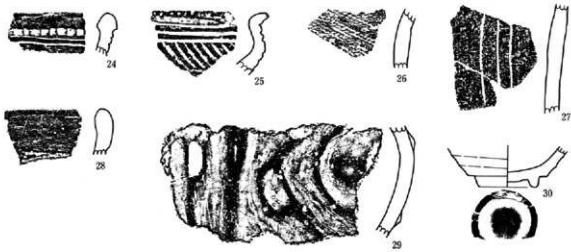
表採出土鉄製品 (134図 PL93)

番号	種類	重量	特徴
20	不明鉄製品	21	不定形の板状を呈する。全体に錆が多い。
21	不明鉄製品	16	弧を描く棒状を呈する。全体に錆が多い。
22	不明鉄製品	15	不定形の板状を呈する。全体に錆が多い。
23	不明鉄製品	12	形状は、コイン状を呈する。片面の縁が高くなる。



第130図 町道関係出土遺物-1

2節 発見された遺構と遺物



0 10cm

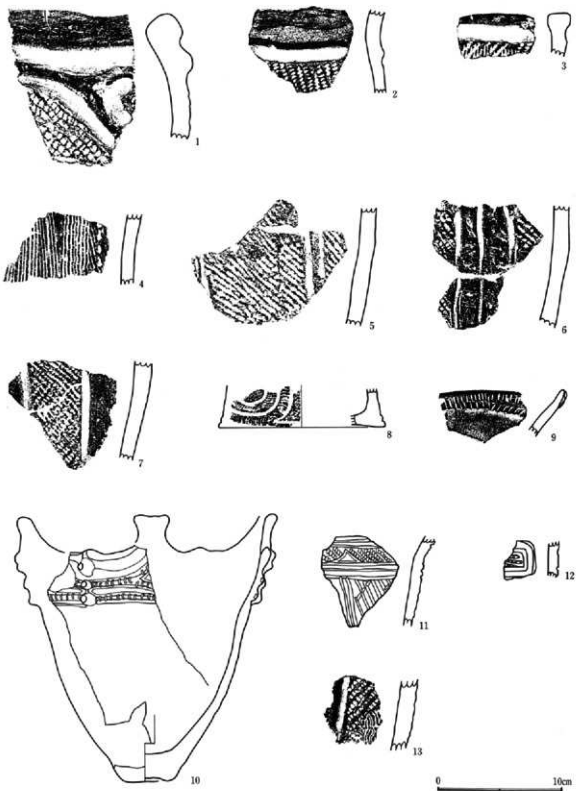
第131図 町道関係出土遺物-2



0 10cm

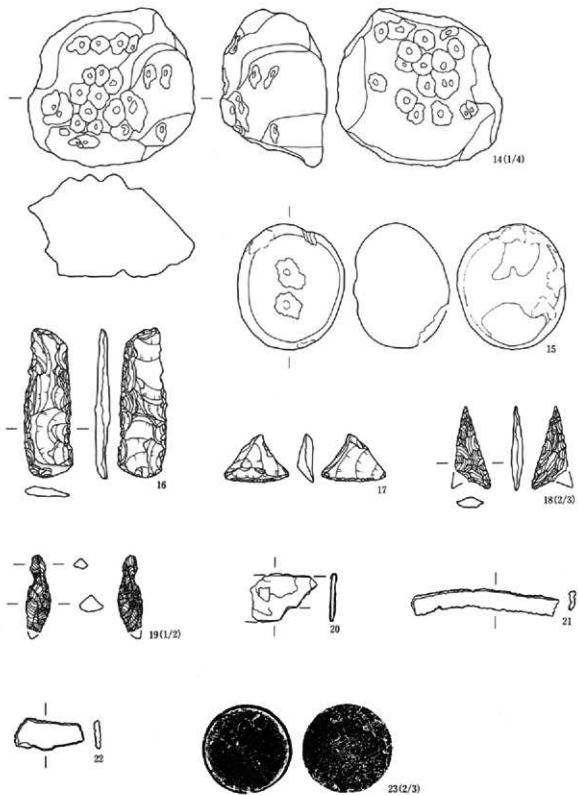
第132図 町道関係出土遺物-3

2節 発見された遺構と遺物



第133図 表探出土遺物-1

第2章 白川笹塚遺跡の調査



第134図 表採出土遺物-2

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

1 節 遺跡の環境と調査の概要

1 遺跡の立地 (3・135図)

白岩浦久保遺跡は、榛名山南西麓にある東西を開折谷に挟まれた舌状台地上に位置する。この台地は、当遺跡付近で標高183m前後を測り、南側に緩やかに傾斜している。遺跡の東側は、比較的緩やかに傾斜し谷地を形成する。この谷地を境にして白川笹塚遺跡と接する。西側には、榛名山麓を源流とする小堀川が南流し小渓谷を作る。小堀川を挟んで西側には、白岩民部遺跡がある。遺跡の現地地形では、一つの舌上台地形を示すが、間に浅い小谷が南北方向に入り込み遺跡を分断している。この谷は、As-b、As-Aを含む土で埋められている。谷は、埋土中から陶磁器片等が出土しており、昭和の初期頃に埋めて畑地になっていることが確認出来た。

2 調査の概要 (136図)

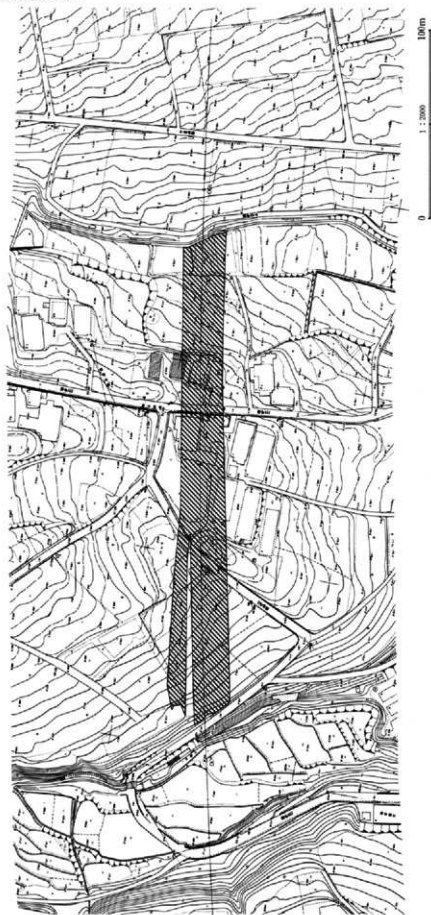
土層の堆積状況 本遺跡では、現地表から遺構の確認面までの堆積層が薄いため、現代の耕作による攪乱を多く受けている。そのため、縄文時代土坑、古墳時代・平安時代住居址などの遺構確認面は現表土から比較的浅い位置のローム層上面からである。台地中央部においては、浅間A・B軽石層は、混じり合った状態で確認されている。遺跡東西の傾斜面においても同様の状況を示している。僅かに東側の谷部において浅間A、B、C軽石層及び、黒褐色土が検出されている。この付近の溝覆土は、浅間A軽石が堆積している。

遺構分布 本遺跡からは、縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世の遺構が検出されている。縄文時代では、住居址は検出されず土坑が約30基検出されている。縄文時代の土坑は、前期諸磯b式土器を伴う土坑が7基ほど遺跡西側の南斜面で検出されている。それ以外の土坑については、遺跡東側の南傾斜面に疎らに分布する。出土遺物がなく、形態も判然としませんが、土層堆積状況から縄文時代と推定した。

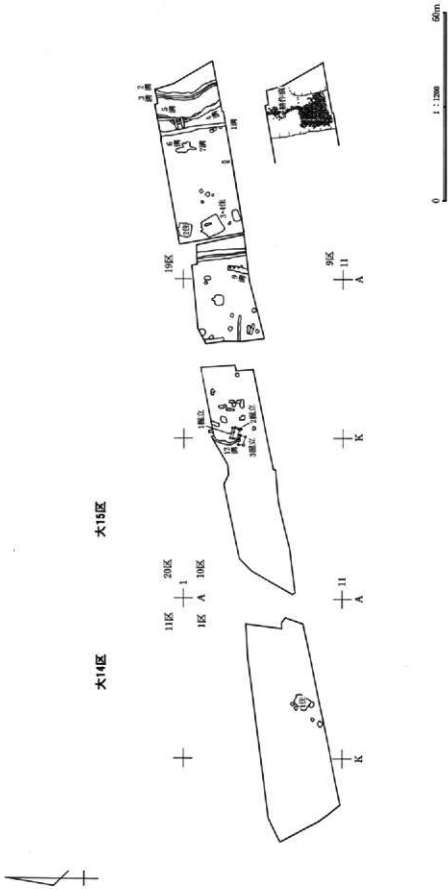
古墳時代後半から平安時代の住居址が5検出されている。古墳時代の住居址は、4軒で遺跡東側の台地上に位置する。平安時代の住居址については、遺跡を分断する小谷の西側に位置し単独で検出された。

その他、掘立柱建物址や溝などについては、遺跡の東側に多く分布している。特に溝については、白川笹塚遺跡と接する東側傾斜面に並行するように南北走行の溝が作られている。地境を兼ねた水路の可能性も考えられる。

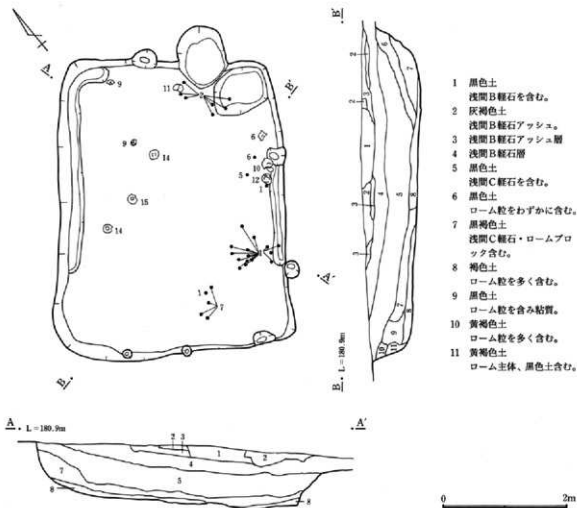
遺物の出土状況 縄文時代については、遺跡の立地する台地東側の南傾斜面に比較的厚い土層堆積が認められこれの中に縄文時代の包含層が確認された。主として中期の土器が出土している。遺跡西側では、土層の堆積も薄く遺構についても稀薄である。僅かに縄文前期の土坑に伴って諸磯b式土器の深鉢等が検出されている。古墳時代以降については、遺物包含層といえるほどの土層堆積は認められず、比較的深い掘り込みの住居址から遺物が出土している。近世の陶磁器については、遺跡東側の白川笹塚遺跡と接する付近にある溝から多く出土している。



第135図 白岩浦久保遺跡調査区と周辺の地形



第136図 白岩村久保遺跡遺構図



第137図 1号住居址

2節 発見された遺構と遺物

1 住居址

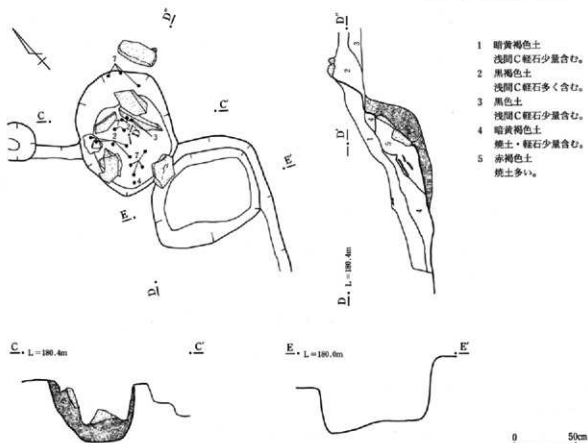
1号住居址 (137・138図 P L94・95)

住居址は長方形を呈するが、北東壁が南西壁に対してやや短くなっており、台形気味となる。南東壁については、北より約3分の1付近で内側に傾斜しているため、直線とはならない。なお、南側コーナー部は隅丸となっている。

床面に貼り床はみられない。地山ロームを掘り込んだ面をそのまま床面としている。北コーナー部から北西壁の大部分にかけて、東南壁の中央部分には壁周溝がある。壁周溝の幅は約20cm、床面からの深さ約4cmで、底面に凹凸は少ない。

柱穴については、住居址対角線付近の床面には存在しないものの、壁に接して6基の柱穴と考えられるピットが存在する。これらの柱穴は、西南壁に3基、南東壁に2基、北東壁に1基存在するが、北西壁には存

2節 発見された遺構と遺物



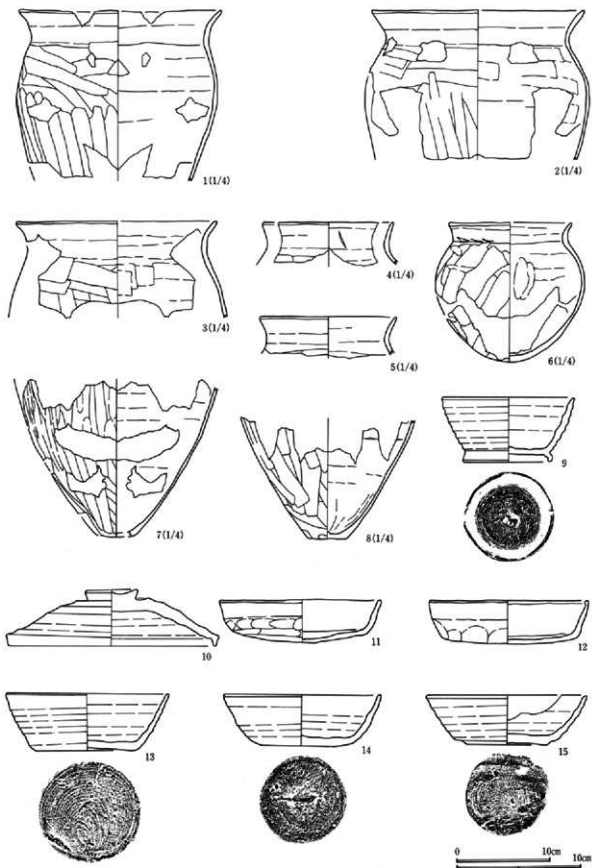
第138図 1号住居址カマド

在しない。南西壁西端のピットは直径14cmで、壁からの深さ30cm、床面からは19cm高い。南西壁中央のpitは、直径14cm、壁からの深さ15cmで、床面より15cmほど高い。西南壁東端のpitは、長径34cm、短径20cmで、壁からの深さ31cm、床面からは1cmほど高い。東南壁に存在する2基のpitのうち南端のものについては、直径約20cm、壁からの深さ53cm、床面からの深さ21cmである。東南壁北端のpitは径約30cm、壁からの深さ42cm、床面からの深さ29cmである。北東壁に存在するpitは、長径40cm、短径30cmで、壁からの深さ60cm、床面からの深さ9cmである。柱穴と考えられるこれらのpitのうち、西南壁に存在するものについては床面より掘り方が浅く、東南壁および東北壁に存在するpitは床面より深いという特徴がある。

貯蔵穴は北東コーナー部分に発見された。貯蔵穴の規模は、長辺約85cm、短辺約70cmの隅丸長方形で、床面からの深さは約25cmである。貯蔵穴の床面については平坦であるが、中央部が僅かに高くなっている。

カマドは北東壁の中央よりやや東寄りに存在する。カマド焚き口は床面を僅かに掘り凹めて造られており、燃焼部床面には多くの焼土が残されていた。また燃焼部及び周辺には砂岩の割石が散乱しており、赤く焼けているものが少ないことから、カマドの構築材であったものと考えられる。

第3章 白岩瀬久保遺跡の調査



第139図 1号住居址出土遺物

1号住居址出土遺物観察表(139図 PL120)

番号	種類器種	色調	記号	口径	器高	底径	胎土	焼成	特徴・その他
1	土師器壺	にぶい橙	5YR	21.6	(17.6)		砂粒を多く含む。	良好	口縁部はややコの字状をなす。胴部は上半に最大径をもつ。口縁部内外面横ナデ。胴部外面斜・横位の寛ケズリ、内面横ナデ。
2	土師器壺	橙	5YR	22.6	(15.8)		細砂粒を含む。	良好	口縁部はわずかにコの字状をなす。胴部は上半に最大径をもつ。口縁部内外面横ナデ。胴部外面斜・横位の寛ケズリ、内面横ナデ。
3	土師器壺	赤褐	5YR	21.4	(10.2)		細砂粒を含む。	良好	口縁部は緩やかなコの字状をなし、胴部は緩やかに外湾する。口縁部内外面横ナデ。胴部外面横・斜位の寛ケズリ、内面横位の寛ナデ。
4	土師器壺	にぶい黄橙	10YR	7.0	(4.6)		細砂粒を含む。	良好	口縁部は緩やかに外反する。口縁部内外面横ナデ。胴部外面寛ケズリ、内面横ナデ。
5	土師器壺	にぶい褐	7.5YR	14.6	(4.2)		細砂粒を含む。	良好	口縁部は外反して開く。口縁部内外面横ナデ。胴部外面寛ケズリ、内面横ナデ。
6	土師器小型壺	にぶい赤褐	2.5YR	13.2	14.8		砂粒を多く含む。	良好	口縁部下半は直立し、上半は短く外反する。胴部はやや上半に最大径をもつ。底部丸底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面斜位の寛ケズリ。
7	土師器壺	橙	2.5YR		(16.6)	4.6	砂粒を多く含む。	良好	胴部下半は底部に向かってやや直線的に窄む。底部は小さい平底。胴部外面斜・斜位の寛ケズリ、一部ナデ、内面横ナデ。
8	土師器壺	明赤褐	5YR		(12.7)	4.0	細砂粒を多く含む。	良好	胴部は底部に向かってやや直線的に窄む。底部は小さい平底。胴部外面は緩・斜位の寛ケズリ、内面横・横位のナデ。内面に輪積み痕あり。体部はわずかに外湾して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。ロクロ成形。底部回転衝切り後付高台。
9	須恵器高台付碗	灰	N	10.6	5.2	7.0	砂粒を多く含む。	硬質	天井部は浅くボタ状掴みが付く。口縁部はわずかに内反して短く垂直に掴み出されている。ロクロ成形。天井部外面回転衝切り。
10	須恵器蓋	灰	5Y	16.5	4.5	掴み径 4.2	砂粒を多く含む。	硬質	口縁部下半はやや内湾して立ち上がり、上半はわずかに外反する。底部平底。口縁部内外面横ナデ。底部外面寛ケズリ、内面ナデ。
11	土師器環	にぶい黄橙	10YR	12.8	3.4	10.8	砂粒を多く含む。	良好	口縁部はわずかに内湾して立ち上がり、胴部はわずかに内反し玉縁状となる。底部平底。口縁部内外面横ナデ。底部外面寛ケズリ、内面ナデ。
12	土師器環	橙	7.5YR	12.7	3.4	10.7	砂粒を多く含む。	良好	口縁部はわずかに内湾して立ち上がり、胴部はわずかに内反し玉縁状となる。底部平底。口縁部内外面横ナデ。底部外面寛ケズリ、内面ナデ。
13	須恵器環	灰黄	2.5Y	13.0	4.6	7.8	砂粒を多く含む。	軟質	体部は外湾して立ち上がり、口縁部はそのまま開く。ロクロ成形。底部右回転衝切り。
14	須恵器環	灰	5Y	12.5	4.0	6.5	砂粒を多く含む。	軟質	体部は外湾して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。ロクロ成形。底部回転衝切り。
15	須恵器環	灰白	5Y	12.8	4.0	6.5	砂粒を含む。	軟質	体部は外湾して立ち上がり、口縁部は外傾して開く。ロクロ成形。底部右回転衝切り後、一部ナデ調整。

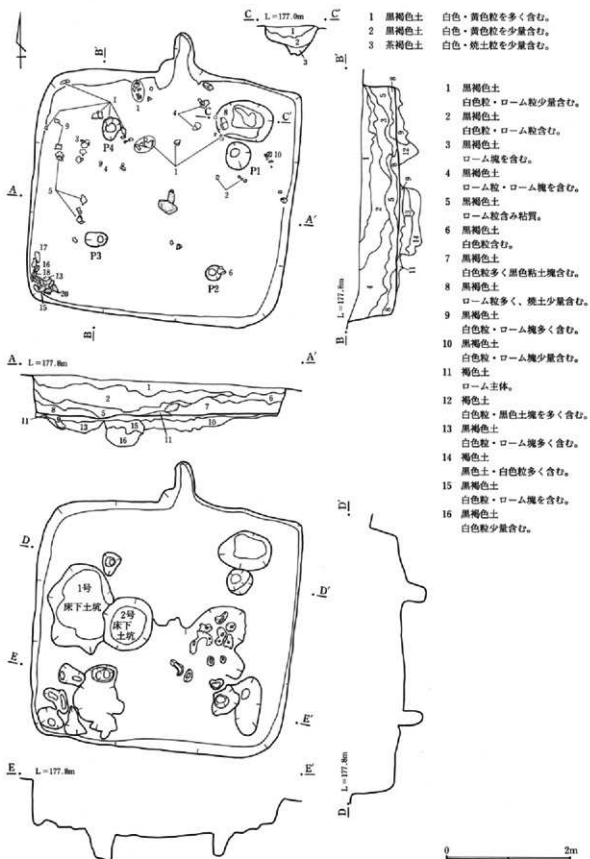
2号住居址(140・141図 PL95~97)

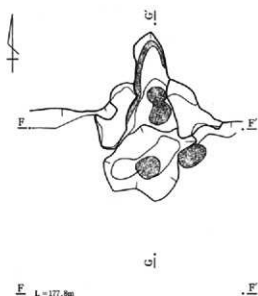
住居址は隅丸方形を呈するが、東西壁に対して南北壁が僅かに短くなっている。また西北及び東北コーナーの一部については、やや鈍角となっておりカマドに接する部分の壁が僅かに突出する形となる。床面はほぼ平坦で、黄褐色ロームブロックを多く含んだ黒褐色土で貼り床をしており、比較的しっかりしている。

柱穴は、4カ所確認された。しかし柱穴の位置は、住居址の対角線上からは若干外れている。貯蔵穴は北東コーナー付近に発見されており、深さ約30cmで楕円形を呈する。掘り方は凹凸があり、深い部分で床面下約30cm、浅い部分で床面下約4cmである。なお、床下には2基の床下土坑があり、1号床下土坑は長径1.3m、短径1mの楕円形で、深さ35cmの規模をもつ。

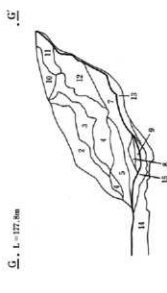
カマドは、北壁のほぼ中央に設けられている。カマド袖部分は、黄褐色ロームで構築されている。焚き口部は、カマド庇絶段階で周囲より約7cm凹んでおり、底面には焼土が厚く堆積していた。また袖内面は焼土化しており、煙道部には灰が遺存していた。カマド掘り方は、使用面より2~5cm下方であるが、この間にはロームブロックを多く含んだ黒褐色土で埋められていた。

第3章 白岩浦久保遺跡の調査





F L=177.8mm



G L=177.8mm



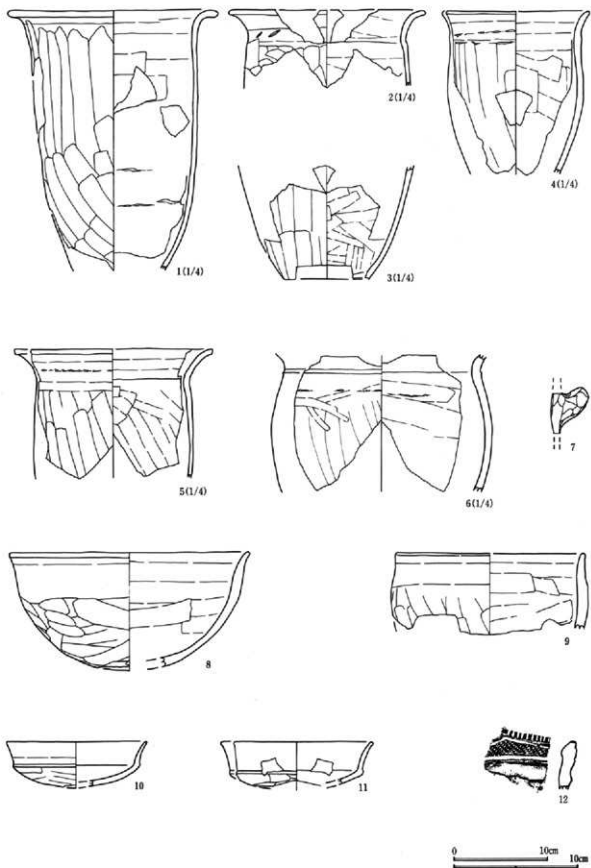
- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒多く含む。
 2 黒褐色土 焼土粒を多く含む。
 3 褐色土 ローム主体。焼土をブロック状に含む。

- 4 黒褐色土 ローム粒・焼土粒非常に多い。
 5 黒褐色土 焼土ブロック・灰を多く含む。
 6 黒褐色土 ローム粒多い。焼土粒少ない。
 7 黒褐色土 焼土ブロック・灰を多く含む。
 8 灰黄褐色土 灰主体。焼土粒少量含む。
 9 暗赤褐色土 焼土を主体として灰を少量含む。
 10 黒褐色土 ロームブロック・焼土粒多い。
 11 暗赤褐色土 焼土ブロック・ローム粒多い。
 12 黒褐色土 ローム粒・焼土粒多い。
 13 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・白色粒多い。
 14 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
 15 暗赤褐色土 焼土主体。白色粒・黒色土粒少量含む。
 16 焼土ブロック
 17 ローム土(カマド袖) 白色粒を少量含む。

0 50cm

第141図 2号住居址カマド

第3章 白岩浦久保遺跡の調査



第142図 2号住居址出土遺物-1

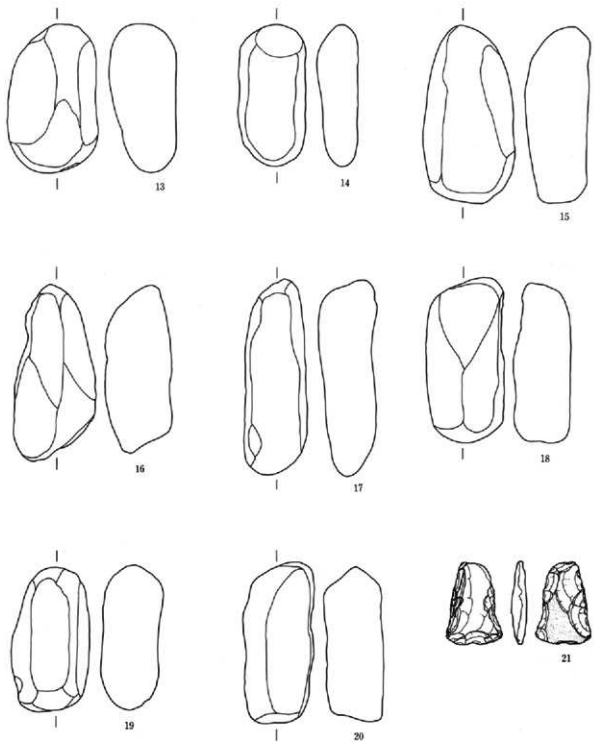
2号住居址出土遺物観察表(142図 PL120)

番号	種類器種	色調	記号	口径	器高	底径	胎土	焼成	特徴・その他
1	土師器甕	にぶい黄 橙	10YR	22.4	26.5		砂粒・小 礫を含 む。	良好	口縁部は強く外反し、胴部は外湾せず長胴。口 縁部内外面横ナデ。胴部外面縦・斜位の寛ケズ リ、内面横ナデ。胴部内面一部に輪積み痕あり。
2	土師器甕	橙	7.5YR	20.3	8.3		砂粒を多 く含む。	良好	口縁部は強く外反し、胴部はほとんど外湾しな い。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦・斜位の 寛ケズリ、内面横ナデ。胴部外面に輪積み痕あり。
3	土師器甕	橙	2.5YR		12.0	孔径 9.1	砂粒を多 く含む。	良好	胴部はほとんど外湾しない。底部は単孔で筒抜 けとなっている。胴部外面縦位の寛ケズリ。
4	土師器甕	橙	5YR	15.8	17.2		砂粒を多 く含む。	良好	口縁部はやや外反し、胴部はわずかに外湾する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位のケズリと ナデ、内面横ナデ。口縁部と胴部上半の外面に 輪積み痕あり。
5	土師器甕	橙	7.5YR	21.2	13.6		砂粒を多 く含む。	良好	口縁部は強く外反し、端部内面に凹縁状となっ ている。胴部はほとんど外湾しない長胴。口縁 部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内 面横・斜位のナデ。口縁部外面に輪積み痕あり。
6	土師器甕	明赤褐	2.5YR		14.4		砂粒を多 く含む。	良好	頸部に小袋をもち、胴部はやや外湾する。胴部 外面斜位の寛ケズリ部ナデ、内面斜位のナデ。 胴部内外面に輪積み痕あり。
7	土師器甕	橙	5YR				砂粒含む	良好	斜め上方に突起する把手。ナデ調整。
8	土師器鉢 (大型坏)	橙	5YR	19.2	9.0		砂粒を含 む。	良好	口縁部下半はわずかに外傾して開き、上半は短 く外反する。わずかに腰をもち、底面部は深く 丸い。口縁部内外面横ナデ。底面部外面寛ケ ズリ、内面ナデ。
9	土師器小 型甕	明赤褐	2.5YR	15.0	6.4		砂粒を多 く含む。	良好	口縁部はほぼ直立し、上半がわずかに外反する。 胴部はほとんど外湾しない。口縁部内外面横ナ デ。胴部外面斜位の寛ケズリ、内面横ナデ。
10	土師器坏	橙	5YR	11.2	3.6		砂粒・小 礫を含 む。	良好	口縁部は外反し、腹はやや突出する。底面部は 丸く浅い。口縁部内外面横ナデ。底面部外面 寛ケズリ、内面ナデ。
11	土師器坏	橙	7.5YR	12.0	3.4		砂粒を含 む。	良好	口縁部は外反して開き、腹は丸く突出する。底 面部は丸く浅い。口縁部内外面横ナデ。底面部 外面寛ケズリ、内面ナデ。
12	縄文深鉢	明赤褐	2.5YR				細かい砂 粒、雲母	良	R-L横位施文。太さ3mmの沈線による口唇の刻み と横位区画。内面に三角の印刻を持つ。

2号住居址出土石器観察表(143図 PL121)

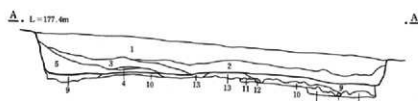
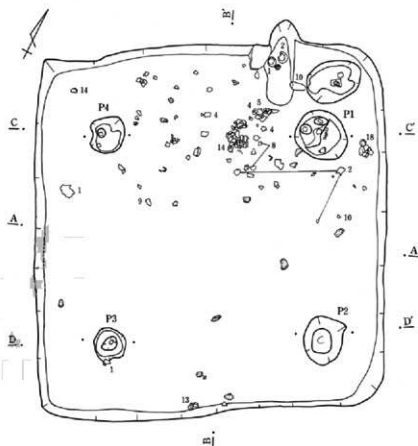
番号	種類	石質	残存 状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
13	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	11.9	7.1	5.4	620	長楕円形の河原石を使用。両端部に敲打痕あり。
14	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	11.2	5.4	3.2	280	長楕円形の河原石を使用。両端部に敲打痕あり。
15	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	14.0	7.3	5.2	720	長楕円形の河原石を使用。両端部・側面に敲打 痕あり。
16	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	13.9	6.6	5.3	530	不整長楕円形の河原石を使用。
17	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	15.4	5.0	4.7	490	長楕円形の河原石を使用。
18	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	13.0	6.1	4.4	590	長楕円形の河原石を使用。
19	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	11.4	6.2	5.0	480	長楕円形の河原石を使用。両端部・側面に敲打痕あ り。
20	磨盤石	粗粒輝石安山岩	完存	12.8	5.7	4.8	520	不整長楕円形の河原石を使用。
21	打製石片	黒色安山岩	完存	5.5	4.5	1.7	33	膽形を呈する。自然面を残す。

第3章 白岩浦久保遺跡の調査



0 10cm

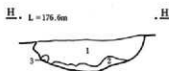
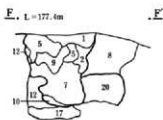
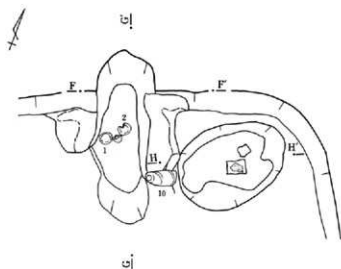
第143図 2号住居址出土遺物-2



- 1 黒褐色土
浅層C軽石多く赤褐色粒少ない。
- 2 黒褐色土
1層よりも粘性有り。
- 3 黒褐色土
斑状粒が部分的に集中。
- 4 黒褐色土
赤褐色粒・炭化物少量含む。
- 5 黒褐色土
斑状粒を少量含む、粘質。
- 6 黒色土
炭化物を少量含む。
- 7 黒褐色土
赤褐色粒を少量含む。
- 8 黒色土
赤褐色粒・軽石を少量含む。
- 9 褐色土
白色粒・黒色土少量含む。
- 10 暗褐色土
ローム主体。
- 11 黒褐色土
白色粒を少量含む。
- 12 暗褐色土
8層と10層の漸移層。
- 13 黒褐色土
白色粒・ローム塊多く含む。
- 14 黒褐色土
白色パミスを多く含む。

0 2m

第144図 3号住居址

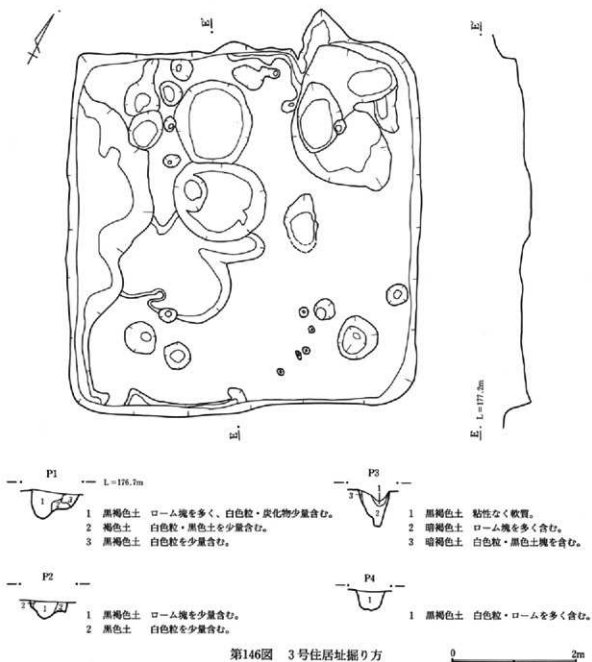


- 1 黒褐色土
白色粒多く焼土粒少量含む。
- 2 暗褐色土
ローム主体。焼土粒少量含む。
- 3 黒褐色土
1層とほぼ同じ。
- 4 黒褐色土
2層に類似するが焼土粒が多い。
- 5 黒褐色土
白色粒・ローム粒多い。
- 6 褐色土
ローム粒と焼土の混合層。
- 7 暗赤褐色土
焼土粒を非常に多く含む。
- 8 黒褐色土
白色粒を多く焼土粒少量含む。
- 9 黒褐色土
焼土粒を少量含む。
- 10 灰褐色灰層
焼土粒を多く含む。

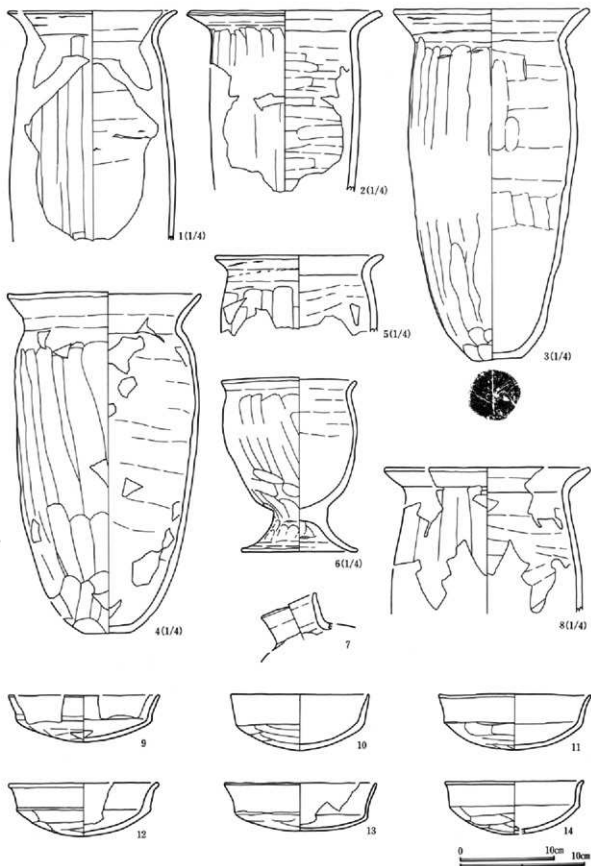
- 11 黒褐色土
焼土粒多くローム粒少量含む。
- 12 黒褐色土
焼土粒多く含む。
- 13 褐色土
ロームを主として焼土粒多く含む。
- 14 黒褐色土
焼土粒を多く含む。
- 15 暗赤褐色土
焼土粒を非常に多く含む。
- 16 黒褐色土
ローム粒多く焼土粒少量含む。
- 17 黒褐色土
16層に類似焼土粒を含まない。
- 18 褐色土
ロームを主として、黒色土少量含む。
- 19 黒褐色土
16層に類似よりローム粒を多く含む。
- 20 黄褐色ローム
カマド袖で固くしまっている。

0 50cm

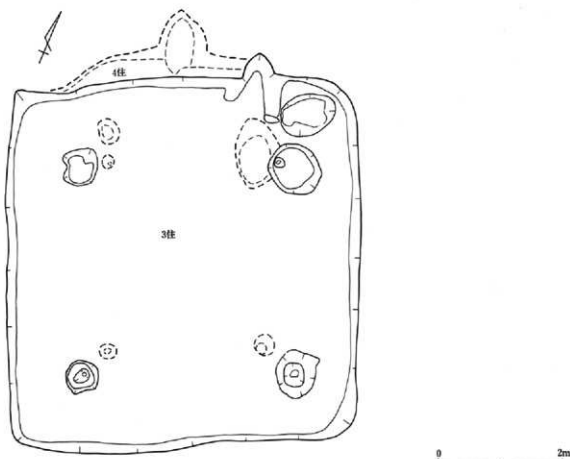
第145図 3号住居址カマド・貯蔵穴



第146図 3号住居址掘り方



第147図 3号住居址出土遺物



第148図 3・4号住居址関係図

3号住居址 (144~146・148図 P L98・99)

本住居址は、4号住居址の埋没後に4号住居址の壁の大部分を削るか、あるいは壁の大部分を利用して造られている。なお床面については、4号住居址の床面を若干削り込んでいるものと考えられる。

住居址の平面形は正方形に近い。しかし僅かではあるが、東西壁よりも南北壁の方が長くなっている。また東北コーナーおよび東南コーナーが隅丸であるのに対して、西北コーナーと南西コーナーは隅丸とはならない。また、北壁の西寄りと南壁のほぼ中央付近で、壁の掘り方に若干の段違いがみられる。

床面はほぼ平坦であり、黒色土を含んだロームによって貼り床されている。柱穴は住居址のほぼ対角線上に発見された。貯蔵穴は楕円形で、東北コーナー付近に存在する。貯蔵穴の規模は、長径90cm・短径65cmで、床面からの深さは約25cmである。

掘り方は床面下6cm前後でかなりの凹凸がある。床下には床下土坑およびピットが複数存在するが、床下土坑については、床面下10cm前後でいずれも浅い。

カマドは北壁の東寄りに存在する。カマドの袖は、黄褐色ロームを固めて造られている。右袖については袖の一部と考えられる倒立した長壺とともに比較的残存しているものの、左袖については残存状況が極めて悪い。カマド廃絶時の焚き口は、床面より約6cm下方である。焚き口の底面には、灰及び約15cmの厚さに焼土を多量に含んだ褐色土が残されていた。

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

3号住居 (147図 P L121)

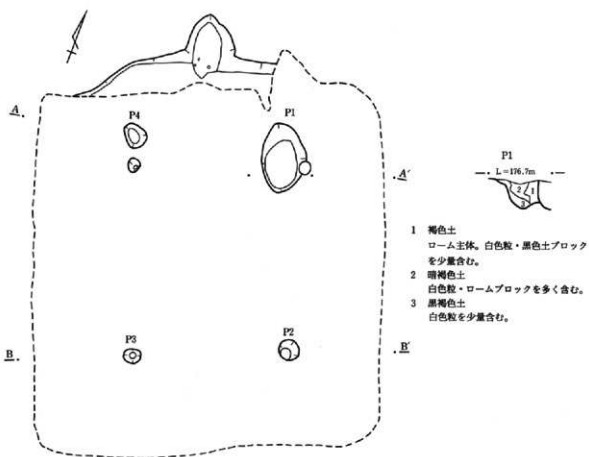
番号	種類器種	色調	記号	口径	器高	底径	胎土	焼成	特徴・その他
1	土師器甕	明褐色	7.5YR	18.0	24.3		砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は外反して開き、頸部は緩やかに屈曲。胴部は外湾せず長胴。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面ナデ。輪積み痕あり。
2	土師器甕	にぶい赤褐色	5YR	20.8	19.2		小礫を多く含む。	良好	口縁部は外傾して開き、頸部は緩やかに屈曲する。胴部は外湾せず長胴。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横ナデ。
3	土師器甕	橙	7.5YR	20.8	37.4	5.2	砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は外傾して開き、頸部はくの字に屈曲。胴部は外湾せず長胴。底部は小さい平底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横・縦位のナデ。口縁部外面に輪積み痕あり。
4	土師器甕	明赤褐色	5YR	20.5	36.0	5.0	砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は外反して開き、頸部はやや折れる。胴部は外湾せず長胴。底部は小さい平底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横ナデ。
5	土師器甕	にぶい橙	7.5YR	18.0	8.5		砂粒を多く含む。	良好	口縁部は強く外反し、胴部は外湾しない。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横のナデ。口縁部外面に輪積み痕あり。
6	土師器台付甕	橙	5YR	14.4	18.5	12.4	砂粒を多く含む。	良好	口縁部は短く外反し、胴部はわずかに外湾する。胴部は内反して開く。口縁部内外面横ナデ。胴部外面斜位の寛ケズリ、内面横ナデ。胴部外面上半ナデ、下半横ナデ。内面横ナデ。胴部内外面に輪積み痕あり。
7	須恵器平瓶	灰白	7.5Y	4.8	3.2		砂粒を含む。	硬質	小さい口縁部片で、直線的に外傾して開く。ロクロ成形。
8	土師器甕	赤	10R	22.0	15.3		小礫を多く含む。	良好	口縁部は外傾して開き、頸部はくの字に屈曲。胴部はわずかに外湾する長胴。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横ナデ。外面やや摩滅。
9	土師器坏	橙	2.5YR	12.0	3.7		砂粒を含む。	良好	口縁部は外傾して開き、縁は短く屈曲。底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
10	土師器坏	橙	5YR	11.6	4.5		砂粒を多く含む。	良好	口縁部はわずかに外傾して開き、縁は鈍く屈曲。底体部はやや浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
11	土師器坏	橙	5YR	12.0	4.4		砂粒を含む。	良好	口縁部はやや外反して開き、縁は鈍く屈曲。底体部は丸くやや浅い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
12	土師器坏	橙	7.5YR	12.0	4.5		砂粒を含む。	良好	口縁部はやや外反して開き、端部は外傾し肥厚する。縁はわずかに突出して屈曲。底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。
13	土師器坏	橙	5YR	12.2	3.8		砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は外反し、縁は丸く、底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
14	土師器坏	橙	2.5YR	11.0	(4.2)		砂粒を多く含む。	良好	口縁部はわずかに外反して開き、端部は外傾し玉縁状となる。縁は鈍く屈曲。底体部はやや浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。

4号住居 (148～150図 P L99)

本住居址は、北壁のカマド付近と柱穴部分を除いて残存していない。平面形状については不明であるが、柱穴の位置関係からすると正方形に近い形であった可能性がある。また本住居址の柱穴と3号住居址の壁との位置関係について、1軒の住居址と考えると不自然さがみられないことから、3号住居址を造る際に4号住居址の壁を意識して掘り込んでいるか、あるいは利用している可能性も残されている。

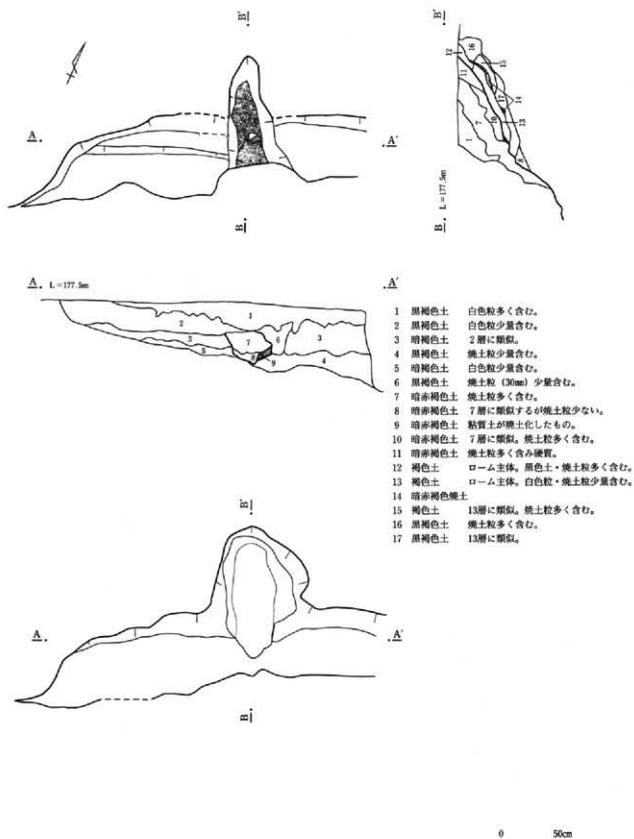
カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの袖については、はっきりしない。焚き口から煙道にかけては焼土層が残されていたが、この焼土層はカマド廃棄時点及びそれ以前のものもある。

2節 発見された遺構と遺物



0 2m

第149図 4号住居址



第150図 4号住居址カマド・カマド掘り方

5号住居址(151~153図 P L100・101)

隅丸長方形を呈する小規模な住居址である。なお北西コーナー部はやや鈍角で、北東及び東南コーナーは鋭角気味となる。

床面は暗褐色土で貼り床をしているが、かなりの凹凸がある。柱穴については4ヶ所確認されているが、北壁近くの2ヶ所については住居址対角線上に位置するものの、南側の2ヶ所については対角線上より外れている。また各壁に対して、柱穴の並びはいずれも平行しない。貯蔵穴は確認されなかった。

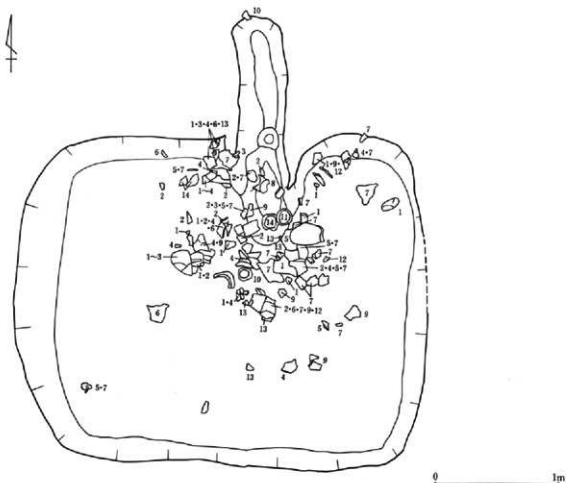
掘り方は床面下3~12cmで、かなり凹凸がある。床下には2基の床下土坑がある。このうち住居址西北コーナー寄りのやや大規模な土坑は、長径約1m、深さ約6cmの楕円形となる。また住居址中央やや東寄りの土坑は、直径約40cm、深さ約15cmの円形である。

カマドは、北壁の中央よりやや東寄りに位置する。カマドの遺存状況は悪いが、袖の一部が残存しており、黄褐色粒質土で構築されていたものと考えられる。焚口は床面を皿状に掘り凹めて造られており、煙道は大きく突出する。カマド焚口内には焼土・灰は殆んど残されていなかった。

5号住居址出土土器観察表(154・155図 P L122)

番号	種類器種	色調	記号	口径	器高	底径	胎土	焼成	特徴・その他
1	土師器壺	橙	7.5YR	21.6	42.0	4.4	小礫を多く含む。	良好	口縁部は強く外反して開き、頸部は緩やかに屈曲。胴部は外湾せず長胴。底部は小さい平底。口縁部外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横ナデ。胴部外面に輪積み痕あり。底部木葉痕。
2	土師器壺	橙	5YR	20.6	37.5	4.1	砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は強く外反し、頸部は玉縁状となる。頸部は緩やかに屈曲し、胴部は外湾せず長胴。底部は小さい平底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横ナデ。口縁部外面に輪積み痕あり。
3	土師器小型壺	橙	2.5YR	13.9	20.5	5.5	砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は短く外反し、胴部はほとんど外湾せず。底部は平底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ後一部縦位のナデ、内面横ナデ。
4	土師器壺	明赤褐	5YR	22.3	34.2	4.3	小礫を多く含む。	良好	口縁部は強く外反し、頸部はやや肥厚する。頸部は緩やかに屈曲し、胴部は外湾せず長胴。底部は小さい平底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横・斜位のナデ。
5	土師器壺	にょい黄褐	10YR	20.2	22.0		小礫を多く含む。	良好	口縁部は強く外反し、頸部は緩やかに屈曲する。胴部は外湾せず長胴。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横ナデ。
6	土師器壺	赤褐	2.5YR	20.8	24.7		砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は強く外反し、頸部は緩やかに屈曲する。胴部は外湾せず長胴。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面斜位のナデ。
7	土師器壺	明赤褐	5YR	22.1	27.5		砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部は外反し、頸部はやや肥厚する。頸部は緩やかに屈曲し、胴部はわずかに外湾する。底部は筒抜きの単孔。口縁部外面横ナデ、内面横ナデ後粗いミガキ。胴部外面縦・斜位の寛ケズリ、内面横ナデ後粗い磨き。
8	土師器小型壺	橙	5YR	14.1	16.4	7.0	砂粒・小礫を含む。	良好	口縁部はやや外反し、頸部に小段を有す。胴部はやや外湾し、底部は平底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ後ナデ、内面ナデ。底部木葉痕。
9	土師器小型壺	にょい赤褐	5YR	16.5	16.3	5.0	小礫を多く含む。	良好	口縁部は短く外反し、頸部は緩やかに屈曲する。胴部はほとんど外湾せず。底部は平底。口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦位の寛ケズリ、内面横ナデ。口縁部内面に輪積み痕あり。
10	土師器杯	橙	2.5YR	12.2	4.0		砂粒を含む。	良好	口縁部はやや外反して開き、縁は鈍い。底底部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底底部外面寛ケズリ、内面ナデ。

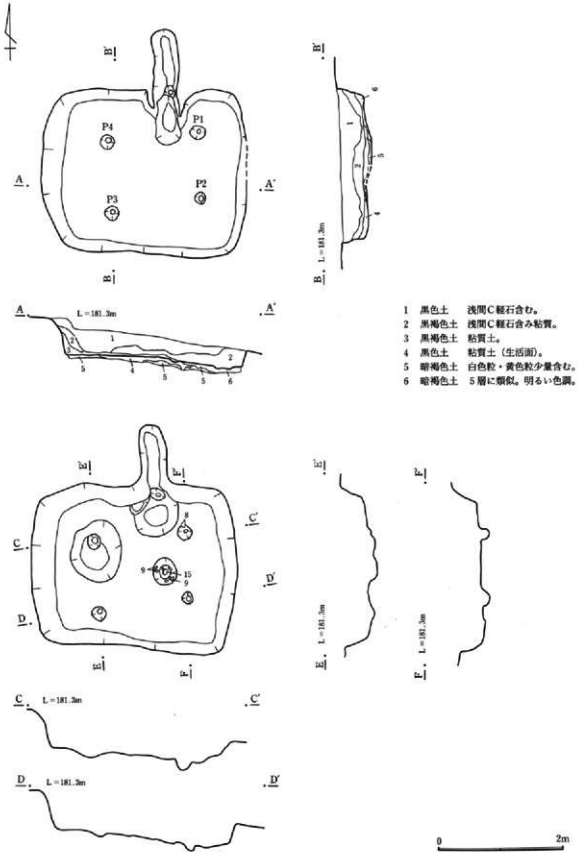
第3章 白岩浦久保遺跡の調査



第151図 5号住居址遺物出土状況

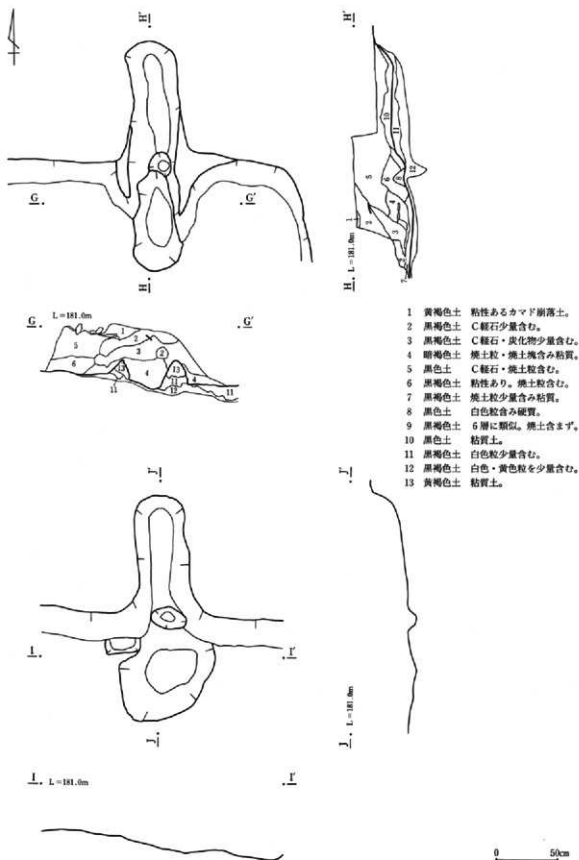
5号住居址出土土器観察表 (154・155図 PL122)

番号	種類・形状	色調	記号	口径	器高	底径	胎土	焼成	特徴・その他
11	土師器 杯	橙	5YR	12.4	4.1		砂粒を含む。	良好	口縁部はやや外反して開き、縁は鈍い。底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
12	土師器 杯	灰褐	5YR	12.8	4.0		砂粒・小礫を含む。	不良	口縁部は外傾して開き中に鋭い稜をもつ。縁はわずかに突出し、底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
13	土師器 杯	橙	5YR	12.7	3.9		砂粒を含む。	良好	口縁部はわずかに外反して開き、縁はわずかに突出。底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
14	土師器 杯	橙	5YR	12.5	4.6		砂粒を含む。	良好	口縁部はやや外反して開き、縁はわずかに突出。底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。
15	土師器 杯	橙	5YR	13.4	(3.4)		砂粒を含む。	良好	口縁部はわずかに外反して開き、縁はわずかに突出する。底体部は浅く丸い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面寛ケズリ、内面ナデ。

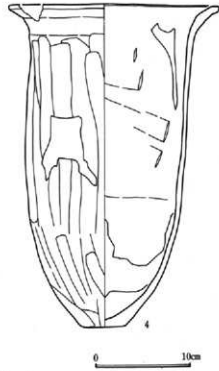
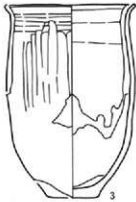
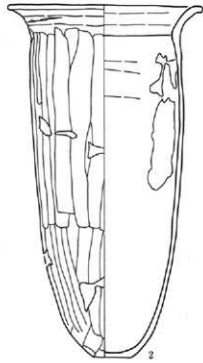
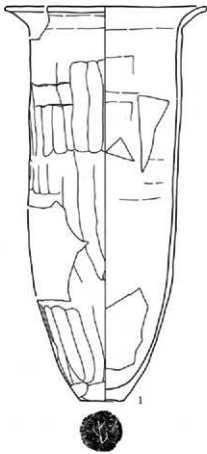


第152図 5号住居址

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

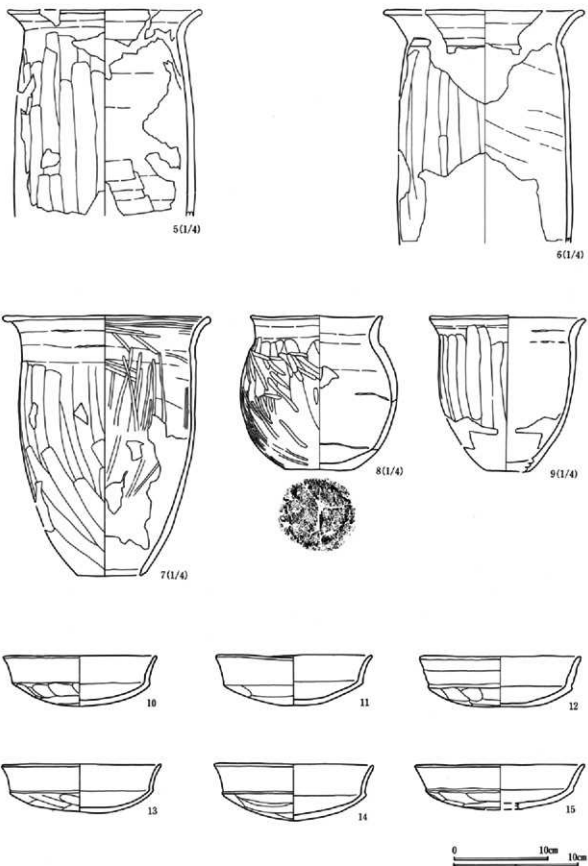


第153図 5号住居址カマド・カマド掘り方



第154図 5号住居址出土遺物-1

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

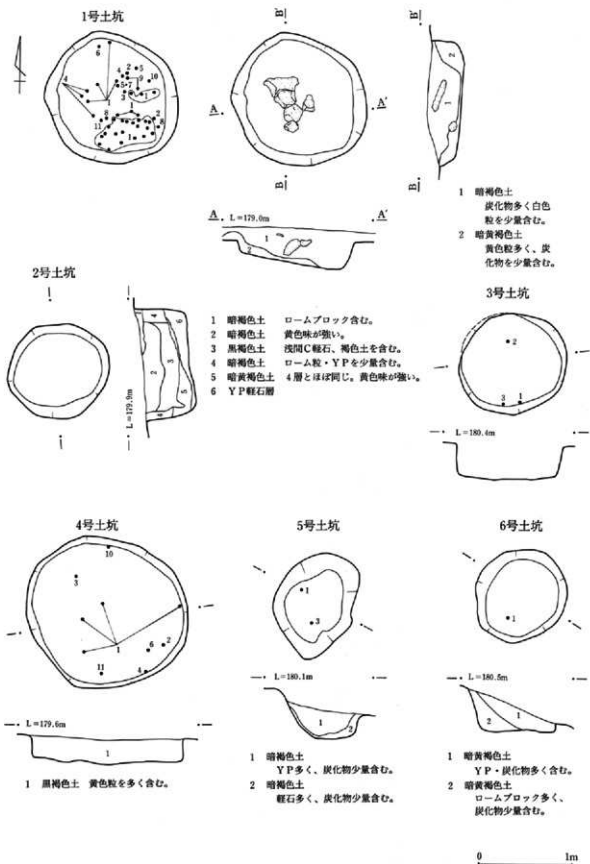


第155図 5号住居址出土遺物-2

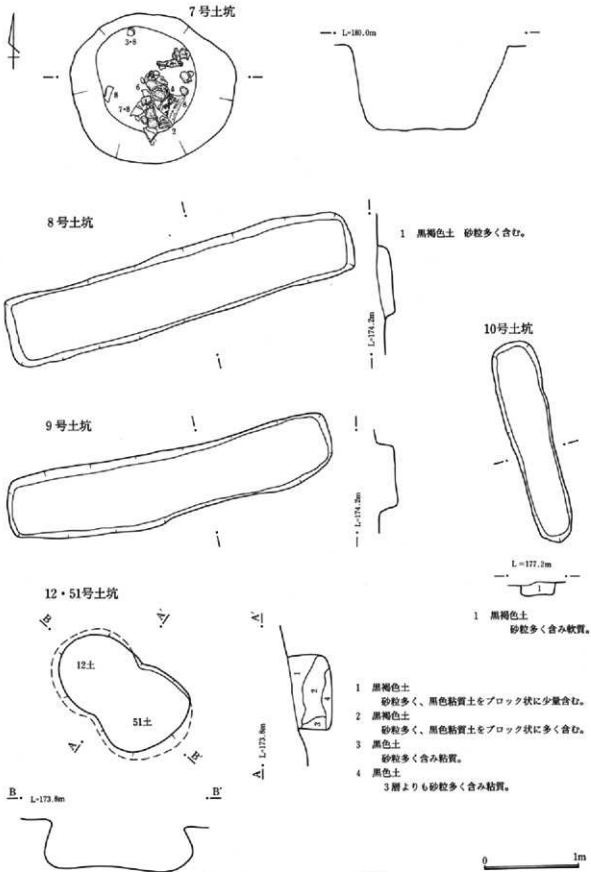
2 土坑 (156~163図 P L102~110)

本遺跡からは、51基の土坑が検出された。そのほとんどが縄文時代である。それ以外では、古墳時代から平安時代にかけての土坑、近現代の耕作に伴う長方形の土坑が検出されている。

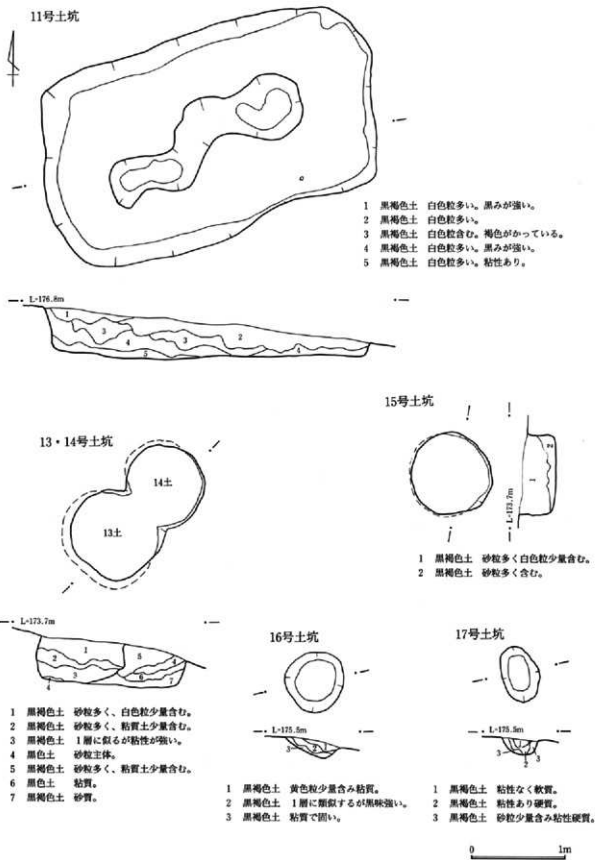
土坑	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物	備考	グリッド
1	円形	1.38	1.41	0.30	縄文時代前期	縄文土器・石器		H-13
2	円形	1.00	1.07	0.50	縄文時代前期	縄文土器		H-13
3	円形	1.08	1.06	0.36	縄文時代前期	縄文土器・石器		H-14
4	円形	1.60	1.73	0.25	縄文時代前期	縄文土器・石器		H-13
5	円形	1.09	0.86	0.38	縄文時代前期	縄文土器・石器		I-13
6	円形	0.95	0.90	0.30	縄文時代前期	縄文土器		H-14
7	円形	1.56	1.76	0.85	縄文時代前期	縄文土器・石器		I-12
8	長方形	3.80	0.76	0.06	近・現代		耕作用貯蔵穴	K-1
9	長方形	3.52	0.78	0.19	近・現代		耕作用貯蔵穴	K-1
10	長方形	2.18	0.52	0.10	近・現代		耕作用貯蔵穴	R-20
11	長方形	3.57	2.19	0.40	古墳時代	土師器環	底面に小ピット	Q-18
12	円形	0.71	0.80	0.49	縄文時代		断面袋状	K-18
13	円形	0.97	0.93	0.44	縄文時代			K-19
14	円形	0.77	0.88	0.36	縄文時代			K-19
15	円形	0.86	0.84	0.35	縄文時代		断面袋状	K-19
16	円形	0.63	0.62	0.14	縄文時代			P-19
17	楕円形	0.58	0.41	0.16	縄文時代			O-19
18	楕円形	1.38	1.29	0.25	縄文時代			O-19
19	楕丸方形	0.95	0.73	0.52	縄文時代			O-19
20	長方形	2.26	0.49	0.46	近・現代		耕作用貯蔵穴	H-18
21	不整形	0.97	0.52	0.41	縄文時代			Q-18
22	円形	1.14	1.17	0.55	近・現代	陶磁器		C-18
23	円形	1.23	1.23	0.38	近・現代			B-16
24	長方形	2.67	0.60	0.16	近・現代		耕作用貯蔵穴	C・D-17
25	長方形	2.53	0.86	0.53	近・現代		耕作用貯蔵穴	C・D-17
26	長方形	1.43	0.63	0.42	近・現代		耕作用貯蔵穴	C・D-17
27	円形	0.90	1.00	0.55	縄文時代			C-16
28	長方形	5.71	1.22	0.34	近・現代	陶磁器・鉄	耕作用貯蔵穴	D-19
29	不整形円形	1.88	2.31	0.42	近・現代	陶磁器・火鉢・磁石		D-19
30	楕円形	1.53	1.12	0.27	不明			D-19
31	楕丸長方形	1.96	1.16	0.18	古墳時代		As-C含む	T・A-19
32	長方形	2.52	0.76	0.24	近・現代		耕作用貯蔵穴	I-18
33	長方形	1.62	0.87	0.18	古墳時代		As-C含む	I-17
34	長楕円形	1.90	0.81	0.04	古墳時代		As-C含む	I-17
35	長方形	2.61	1.00	0.06	古墳時代		As-C含む	H・I-17
36	長方形	1.54	0.91	0.26	古墳時代		As-C含む	H・I-17
37	楕丸長方形	0.94	0.64	0.49	縄文時代			K-17
38	不整形円形	1.94	1.98	0.57	縄文時代			J-18
39	円形	0.96	1.06	0.59	縄文時代			G-17
40	長楕円形	1.72	0.84	0.19	縄文時代		灰・焼土含む	I-18
41	円形	0.83	0.86	0.22	縄文時代		灰・焼土含む	I-18
42	不整形	1.22	0.86	0.20	近・現代	陶磁器		J-16
43	不整形	0.69	0.78	0.18	縄文時代		焼土含む	I-17
44	不整形	1.45	1.21	0.16	縄文時代		焼土含む	I-17
45	円形	0.96	0.87	0.10	縄文時代		灰・焼土含む	H-18
46	不整形	1.29	0.99	0.11	縄文時代		灰・焼土含む	H-18・19
47	長方形	2.64	1.05	0.59	平安時代		As-B含む	J-18・19
48	長方形	1.09	0.86	0.13	縄文時代			C-17
49	円形	0.78	0.70	0.18	縄文時代			C-17
50	円形	1.01	1.03	0.93	縄文時代		底面二段	A-19
51	円形	0.90	0.73	0.49	縄文時代		断面袋状	K-18



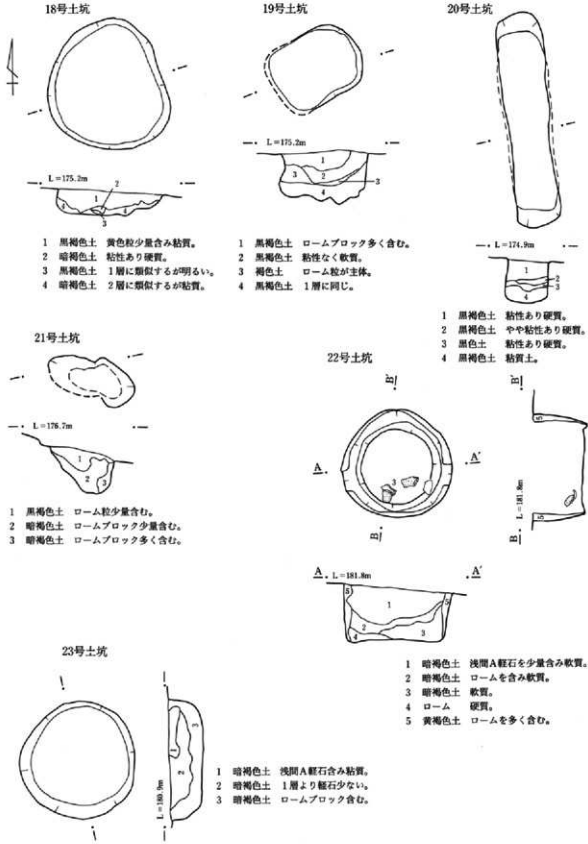
第156図 1～6号土坑



第157図 7～10・12・51号土坑



第158図 11・13～17号土坑

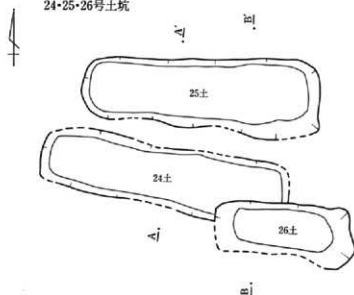


第159図 18～23号土坑

0 1m

第3章 白岩瀬久保遺跡の調査

24・25・26号土坑



A. L = 181.7m

B. L = 181.7m

- 1 暗褐色土 浅間A軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。

27号土坑

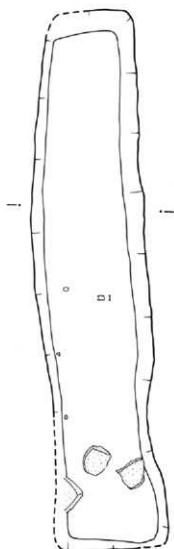


L = 181.7m



- 1 暗褐色土 ローム含む。
- 2 暗褐色土 ローム多く含む。
- 3 暗褐色土 2層よりも暗い。
- 4 暗褐色土 ローム多く含む。
- 5 暗褐色土 4層よりも暗い。
- 6 暗褐色土 ローム多く含む。

28号土坑



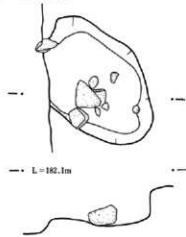
L = 182.1m

0 1m

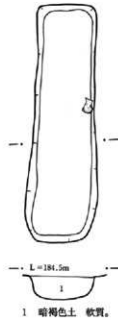
第160図 24～28号土坑

2節 発見された遺構と遺物

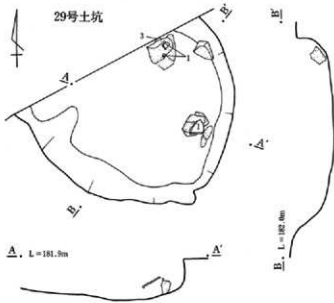
30号土坑



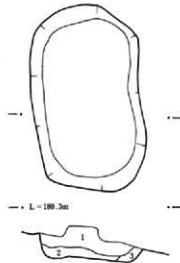
32号土坑



1 暗褐色土 軟質。

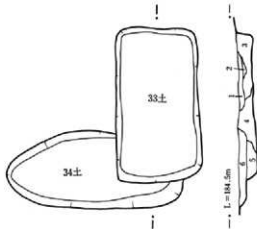


31号土坑



- 1 暗褐色土
浅間C軽石多く、炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土
浅間C軽石少量、炭化物多く含む。
- 3 暗褐色土
ローム粒・焼土粒を含む。

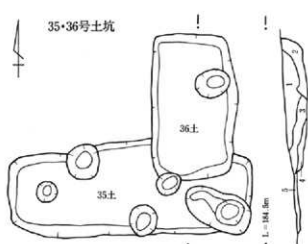
33・34号土坑



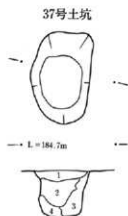
- 1 暗褐色土 ローム・浅間C軽石少量含む。
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 ローム含む。
- 4 暗褐色土 3層より明るい。
- 5 暗褐色土 浅間C軽石含む。
- 6 暗褐色土 浅間C軽石含む軟質。



第161図 29~34号土坑

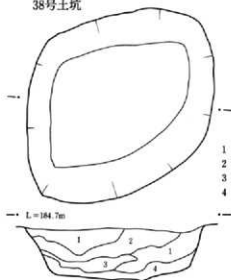


- 1 暗褐色土 ローム・洗間C軽石を含む。
- 2 暗褐色土 1層に類似するが暗い。
- 3 褐色土 ローム粒を多く含む。
- 4 褐色土 ローム粒を多く含む。
- 5 暗褐色土 ローム含む軟質土。



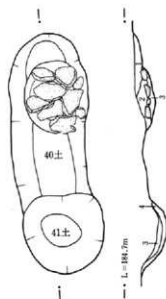
- 1 暗褐色土 ローム粒を含み軟質。
- 2 暗褐色土 軟質。
- 3 暗褐色土 1層よりも暗い。
- 4 褐色土

38号土坑



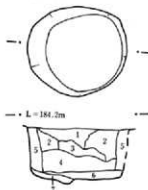
- 1 暗褐色土 ローム含む。
- 2 暗褐色土 1層よりやや明るい。
- 3 暗褐色土 ロームを含む。
- 4 暗褐色土 ロームを少量含む。

40・41号土坑



- 1 暗褐色土 灰を含む。
- 2 灰層
- 3 雑土
- 4 暗褐色土 焼土粒・ローム粒を含む。

39号土坑



- 1 暗褐色土 ローム含み軟質。
- 2 暗褐色土 ローム多く含む。
- 3 暗褐色土 1層よりも暗い。
- 4 暗褐色土 ローム多く含む。
- 5 黄褐色土
- 6 灰褐色土 粘質。
- 7 暗褐色土 ローム粒を含む。

第162図 35～41号土坑

0 1m

2節 発見された遺構と遺物

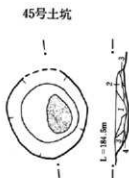


42号土坑



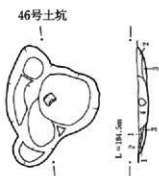
43・44号土坑

- 1 暗褐色土 ローム・炭化物含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒含む。
- 4 焼土



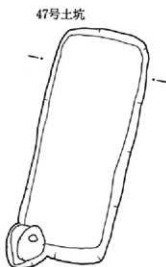
45号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒を含む。
- 2 灰層
- 3 灰層 暗褐色土を少量含む。
- 4 焼土



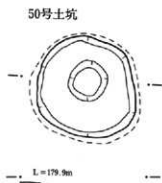
46号土坑

- 1 暗褐色土 ロームを含む。
- 2 灰層
- 3 焼土
- 4 覆土



47号土坑

- 1 ローム主体。残間日輝石含む。
- 2 褐色土と黒色土の混合層。



50号土坑

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 粘質土を斑状に少量含む。
- 3 黒褐色土 砂質ローム。
- 4 黄褐色土 粘質。
- 5 黒色土 砂を多く含む。
- 6 黒色土 ローム・砂を含む。

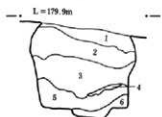


48・49号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒少量含む粘質。
- 2 黒褐色土 黄色粒少量含む。
- 3 灰黄褐色土 粘質土。



L=184.6m



L=179.9m

0 1m

第163図 42～50号土坑

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

土坑出土土器観察表(164~173図 PL123~126)

土坑	番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
1土	1	深鉢	明赤褐	2.5YR	φ1~5mmの小石	普通	RL横位施文。巾10mmの平行沈線と爪形文で文様を描く。口縁部文様帯を二段に区画し、弧線を波状に施文。
1土	2	深鉢	暗赤褐	5YR	φ1~3mmの小石、 軽石粒	良	巾9mmの平行沈線と爪形文。内面赤色塗彩。
1土	3	深鉢	黒褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾7mmの平行沈線と爪形文。内面スス付着。
1土	4	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~5mmの小石	普通	RL横位施文。外面スス付着。
1土	5	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	RL横位施文。巾7mmの平行沈線と爪形文。文様間に斜位の刻みを持つ。
1土	6	深鉢	褐灰	7.5YR	細かい砂粒	良	巾4mmの平行沈線と太さ2mmの単沈線で格子目を作る。
1土	7	深鉢	にぶい黄褐	10YR	細かい砂粒	良	太さ3mmの単沈線を斜位に並行させる。
1土	8	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	良	巾9mmの平行沈線。
2土	1	深鉢	オリーブ黒	5Y	φ1~3mmの小石、 軽石粒	普通	RL横位施文。巾8mmの半軟竹管による平行沈線と爪形文を横位に施文。
3土	1	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~3mmの小石	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文。
3土	2	深鉢	褐	7.5YR	φ1~3mmの小石、 軽石粒	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文の間に斜位の沈線が施文される。
3土	3	深鉢	灰褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾5mmの平行沈線。
4土	1	深鉢	灰黄褐	10YR	φ1~3mmの小石	良	RL横位施文。巾8mmの沈線と爪形文による弧線と渦巻き文。
4土	2	深鉢	赤褐	2.5YR	細かい砂粒	良	巾8mmの平行沈線と爪形文。爪形文は垂直に近い角度で施文。
4土	3	深鉢	赤褐	10R	φ1~2mmの小石、 雲母、繊維	良	巾10mmの平行沈線と爪形文。
4土	4	深鉢	暗赤褐	2.5YR	φ1~2mmの小石、 雲母	普通	LR横位施文。
4土	5	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	φ1~2mmの小石	良	RL横位施文。
4土	6	深鉢	にぶい赤褐	5YR	細かい砂粒	良	RL横位施文。
4土	7	深鉢	にぶい黄褐	10YR	φ1~3mmの小石、 繊維	良	表裏に条痕。表に三角の刺突を縦列に加える。
4土	8	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、 繊維	良	表裏に条痕。三角の刺突を縦列に加える。
4土	9	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1~2mmの小石、 繊維	良	表裏条痕。
4土	10	深鉢	にぶい褐	7.5YR	φ1~2mmの小石、 繊維	普通	横位の貝殻条痕。早期末。
5土	1	深鉢	橙	7.5YR	φ1~3mmの小石、 軽石	普通	巾8mmの平行沈線に爪形文。口縁部文様の爪形文間には斜位の刻みが施文される。
5土	2	深鉢	明赤褐	5YR	細かい砂粒	良	刻みを持った縁線で曲線を描く。
5土	3	深鉢	明黄褐	10YR	φ1~2mmの小石	不良	LR横位施文。
5土	4	深鉢	橙	7.5YR	φ1~2mmの小石	不良	LR横位施文。
6土	1	深鉢	赤褐	2.5YR	φ1~3mmの小石、 軽石粒	普通	巾10mmの平行沈線と爪形文。爪形文は縦角に施文される。
7土	1	深鉢	暗褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	良	LR横位施文。巾6mmに5本の沈線で波状に施文。
7土	2	深鉢	にぶい黄褐色	10YR	φ1~3mmの小石	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文。
7土	3	深鉢	にぶい黄褐	5YR	φ1~3mmの小石	良	口唇部に刻みを持つ粘土紐が貼付される。口縁部巾6mmの平行沈線と爪形文。間に斜位の刻み。

2 節 発見された遺構と遺物

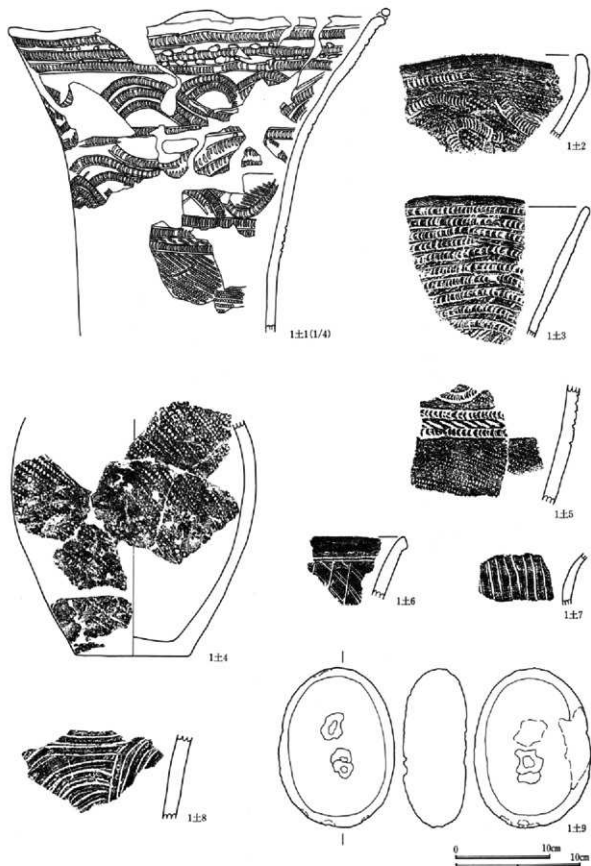
土坑	番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
7土	4	深鉢	黒褐	10YR	細かい砂粒	黄	巾8mmの平行沈線と爪形文。爪形文間には斜位の刻みが施文される。
7土	5	深鉢	褐	7.5YR	φ1～3mmの小石、雷母	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文。
7土	6	深鉢	にぶい赤褐	5YR	φ1～3mmの小石	普通	RL横位施文。内面スス付着。
7土	7	深鉢	橙	5YR	φ1～2mmの小石	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文。文様帯を二段に区画し、弧線を重ねて波状に施文。弧線の中に縦位の線や円形刺突を加える。
7土	8	深鉢	にぶい橙	5YR	φ1～3mmの小石	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文。口縁部を横位区画し、弧線を波状に施文する。弧線の中に縦位の線や木葉文を变形させた文様を描く。
11土	1	土師器環	橙	5YR	砂粒をやや含む。	普通	口縁部はやや外反して開き、稜はやや鈍く屈曲。底体部は浅い。口縁部内外面横ナデ。底体部外面横ケズリ、内面ナデ。
22土	1	摺り鉢	灰褐	7.5YR			
22土	2	陶器皿					
22土	3	磁器燗り鉢	淡黄	2.5Y			瀬戸・美濃陶器。内面から体部外面下位灰釉。口縁部外面に刷毛釉を流す。底部内面に大きい目録1ヶ所残る。江戸以降。
28土	1	陶器植木鉢	灰白	2.5Y			瀬戸・美濃陶器? 体部外面噴鳴色(呉須)の釉。底部水抜き穴と高台部の挟り共に1ヶ所。19世紀前半以降。
28土	2	須恵器鉢	灰白	5Y			
28土	3	陶器灯明受け皿	灰黄褐	10YR			製作地不詳。口縁部から内面灰釉。底部内面目録3ヶ所残る。体部外面塗付着。明治以降。
28土	4	陶器土版	にぶい黄褐	10YR			益子・笠間系。内面釉色の鉄釉。外面煤付着。明治以降。
28土	5	磁器平鉢					肥前磁器? 重呉須と緑色2色の型紙刷り。明治以降。
28土	6	軟質陶器焙烙	にぶい橙	5YR			
28土	7	焼締陶器壺	灰赤	7.5R			知多窯。中世以降。
28土	8	磁器皿					肥前磁器? 型紙刷り。明治以降。
28土	9	磁器鉢	灰白	N			型紙刷り。明治以降。
28土	10	磁器蓋					製作地不詳。小蓋の蓋か? 天井部に人造呉須で染め付け。明治以降。
28土	11	銅銭					寛永通宝
29土	1	埴戸	にぶい橙	7.5YR			三河土器。角形。内部の筒状部と外部の方形部宛形。空気穴の扉欠損。空気窓部に押印があるが、摩滅のため判読不可能。天井部は筒型部周縁から2・3cmの間隔をおいて煤付着。蓋輪の使用痕であろう。明治以降。
29土	2	磁器皿	灰白	10Y			肥前磁器? 蛇の目凹型高台。型紙刷り。明治以降。
29土	3	陶器皿	内面明黄褐 外面浅黄褐	10YR			自性寺系? 内面から口縁部外面黄釉。口縁部以下回転磨削り。胎土は益子に似る。安中市の自性寺焼で少量であるが製品を認め、胎土も区別がつかない。明治以降。
29土	4	陶器摺り鉢	灰赤	2.5YR			瀬戸・美濃陶器。体部下葉小片。江戸時代。
29土	5	軟質陶器	内面灰 外面にぶい橙	5Y 7.5YR			在地土器。器種不詳。底部平底で平盤。内外面の器壁も丁寧な横ナデ。明治以降。
42土	1	陶器 碗	浅黄褐	10YR			緑灰色の釉薬に貫入。江戸時代。
42土	2	陶器 碗	内面灰	5Y			肥前系、暗灰色の釉薬に貫入。18世紀。
42土	3	陶器 碗	内面灰	5YR			瀬戸・美濃。外面に鉄釉。

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

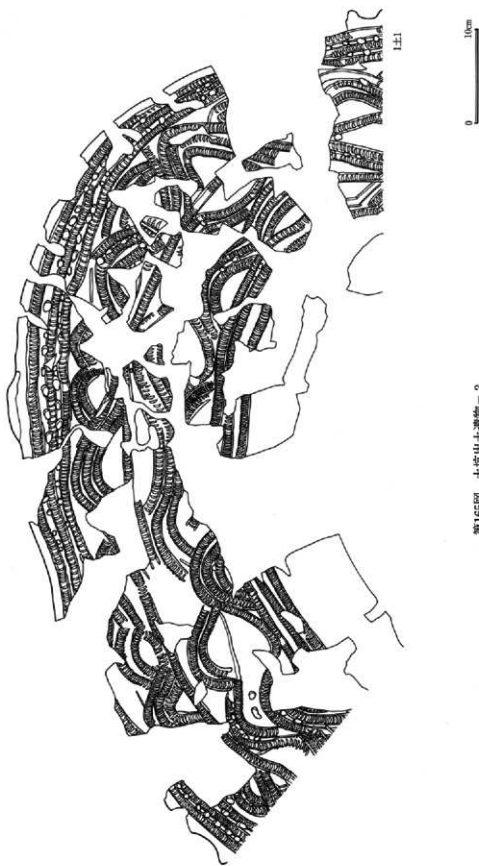
土坑出土石器観察表(164~173図 PL123~126)

土坑	番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
1土	9	西石	粗粒輝石安山岩	完存	12.0	9.1	5.1	700	楕円形の河原石を使用。表裏面に2~3個の凹みを持ち、両端に敲打痕を持つ。
1土	10	西石	粗粒輝石安山岩	完存	9.1	7.5	5.0	430	楕円形の河原石を使用。表裏面とも磨れており、2~3個の凹みを持つ。側縁部は多くの敲打痕を持つ。
1土	11	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	11.7	6.8	4.7	620	楕円形の河原石を使用。表裏面とも良く磨かれており、側縁部も含め多くの敲打痕がある。
1土	12	スクレイパー	珪質頁岩	完存	5.9	5.4	1.5	34	縦長削片の側縁部と下部に細かい刻線を加え刃部としている。
3土	4	スクレイパー	黒色頁岩	完存	5.4	4.9	1.8	36	縦長削片の下端に細かい刻線を加え刃部としている。
4土	11	西石	黒色片岩	完存	22.1	5.0	2.8	490	棒状の河原石を使用。表裏面と同端部が良く磨かれ、表裏面に2個ずつの凹みを持つ。側縁部に敲打痕を持つ。
5土	5	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	8.4	6.6	4.4	340	楕円形の河原石を使用。表裏面はやや磨れており側縁部とともに多くの敲打痕を持つ。
7土	9	打製石斧	硬質頁岩	完存	9.8	5.3	2.2	100	扇形を呈する。刃部先端部に使用による摩滅が見られる。
7土	10	石皿	粗粒輝石安山岩	破片	10.8	11.4	6.7	1149	扁平な河原石を使用。凹み面は浅い。裏面に円錐形の凹みを持つ。
7土	11	西石	粗粒輝石安山岩	完存	9.9	8.2	5.1	550	楕円形の河原石を使用。表裏面ともやや寬れ、表面に大きな凹みを2個持つ。裏面は浅い凹み。側縁部には多くの敲打痕を持つ。
7土	12	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	9.9	8.2	5.5	620	楕円形の河原石を使用。表裏面とも良く磨かれ、表裏・側縁に敲打痕を持つ。
22土	4	砥石	砥沢石	両端欠損	2.2	2.5	2.4	20	角柱状で4側面を使用している。擦痕状の使用痕が残る。
29土	6	砥石	流紋岩	下端欠損	9.0	4.0	3.2	160	長方形で4側面及び上端を使用している。表裏面は磨れを生じており、側面とともに擦痕が残る。
29土	7	砥石	流紋岩	下端欠損	10.0	2.2	2.1	55	不整長方形で4側面及び上端を使用。
29土	8	砥石	流紋岩	完存	5.7	4.1	2.2	70	破損品を再利用し6側面を使用。

2節 発見された遺構と遺物

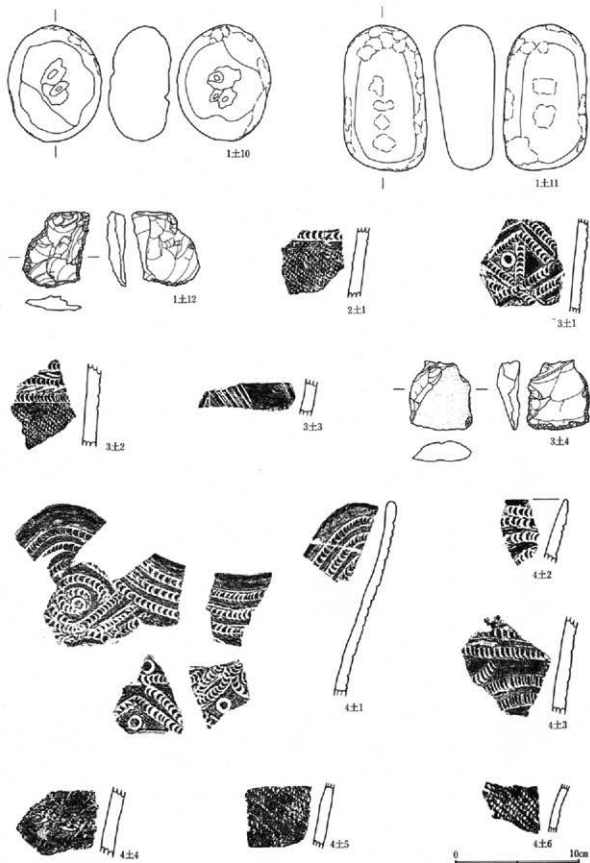


第164図 土坑出土遺物-1



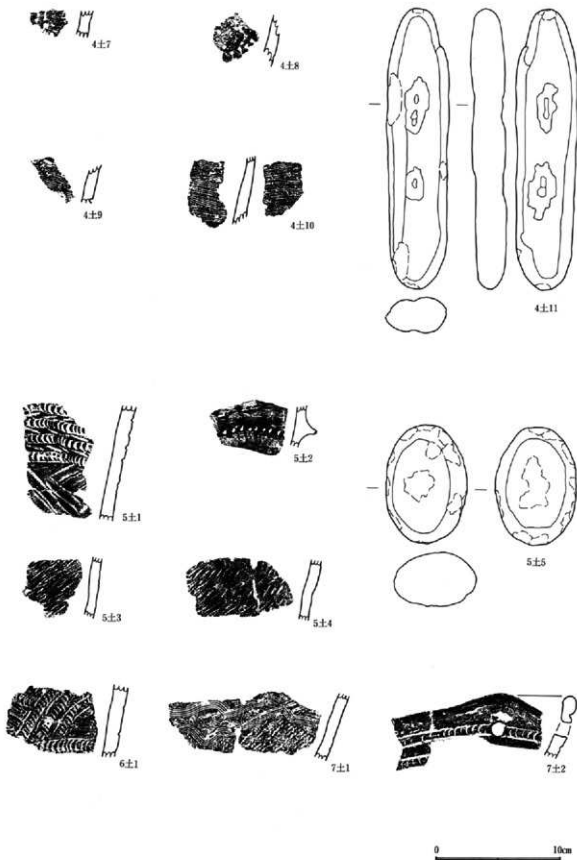
第165図 土坑出土遺物-2

2節 発見された遺構と遺物



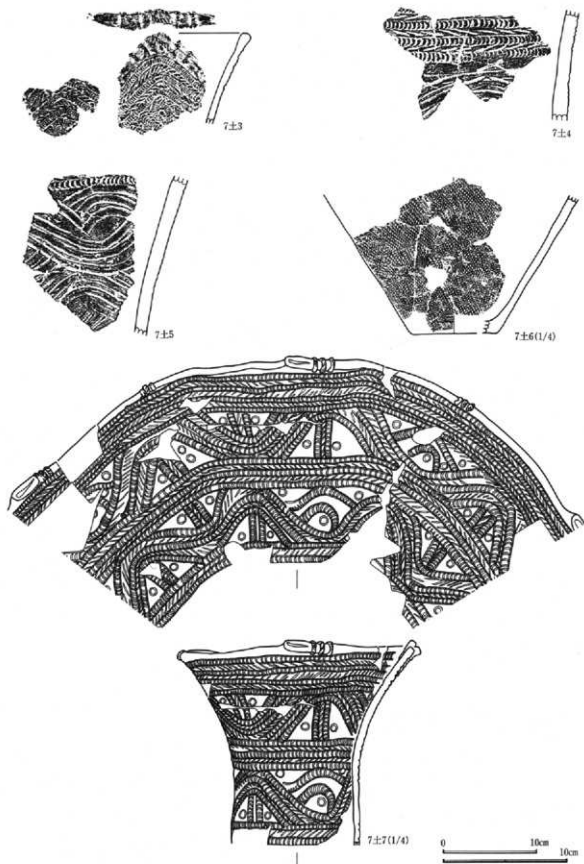
第166図 土坑出土遺物-3

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

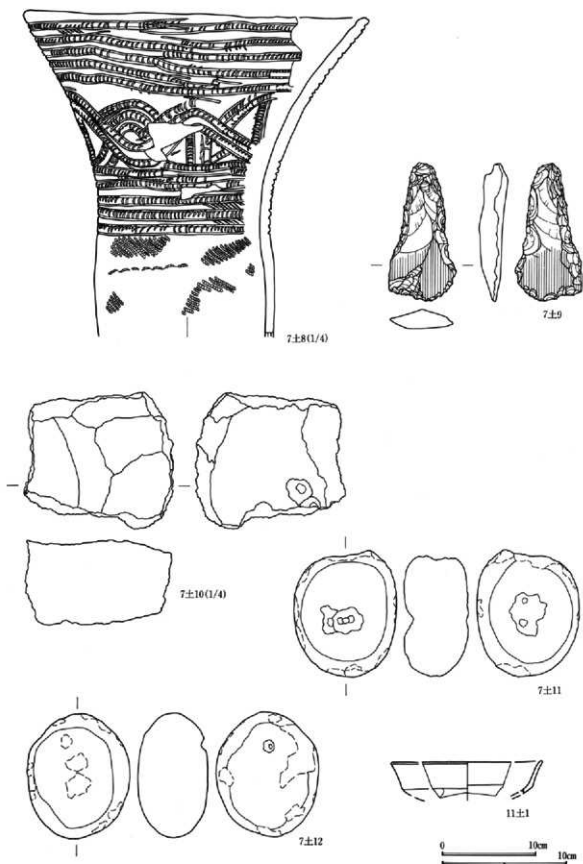


第167図 土坑出土遺物-4

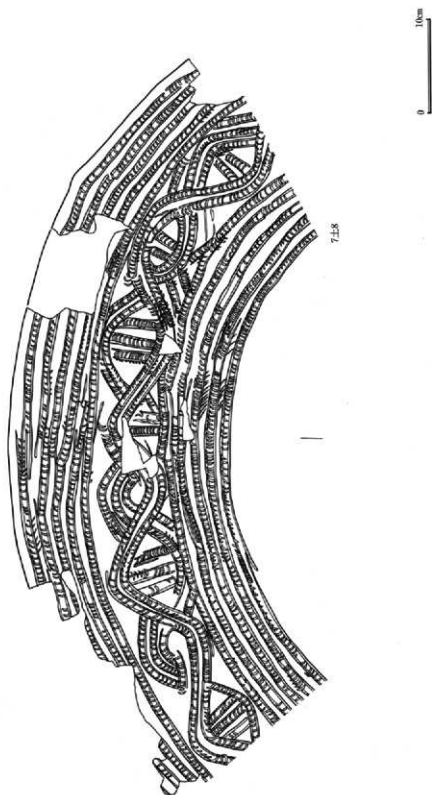
2節 発見された遺構と遺物



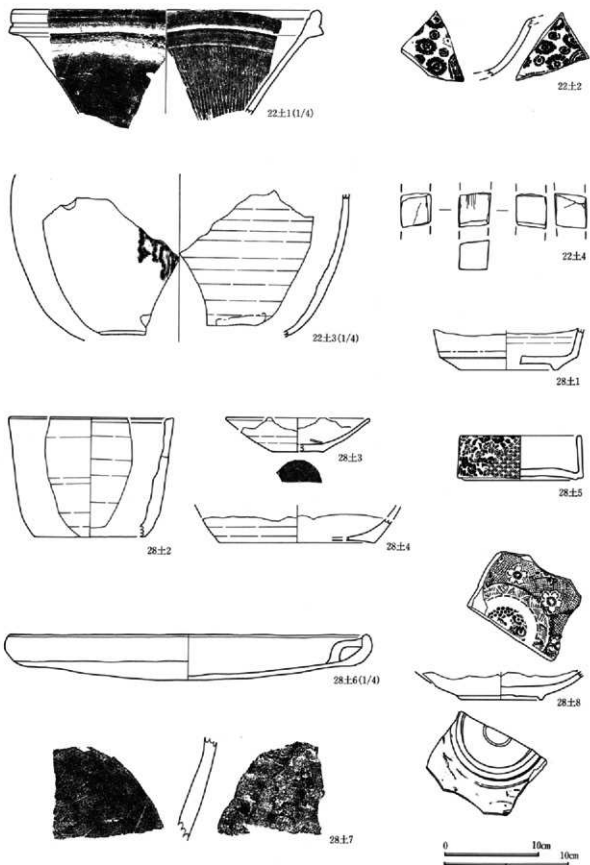
第168図 土坑出土遺物-5



第169図 土坑出土遺物-6

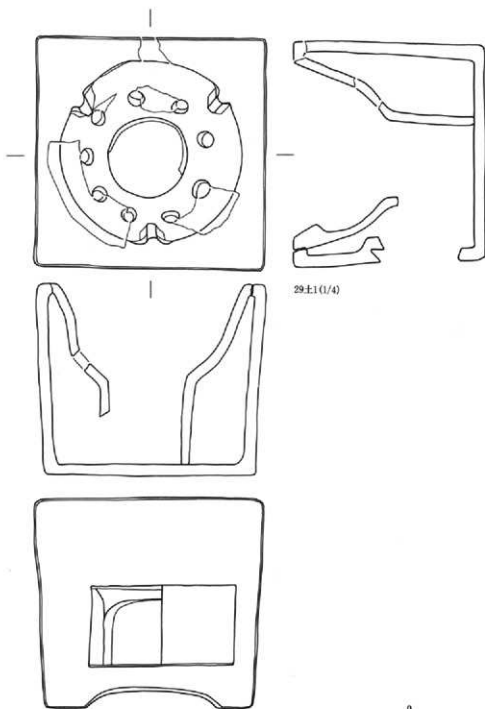


第170図 土坑出土遺物-7



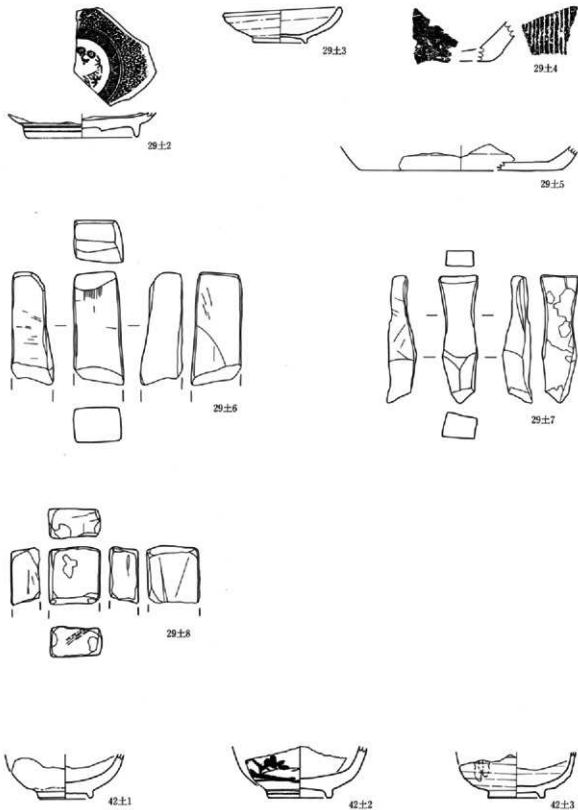
第171図 土坑出土遺物-8

2節 発見された遺構と遺物



第172図 土坑出土遺物-9

第3章 白岩浦久保遺跡の調査



0 10cm

第173図 土坑出土遺物-10

3 その他の遺構

掘立柱建物址 (174図 P L111)

1号掘立柱建物址2号掘立柱建物址と重複している。東西に約3.5mの間、南北に2.1m一間の規模である。柱穴の掘り方形状は、方形を呈する。柱穴は比較的浅いものが多く平均的な深さは20cm前後である。北西の柱穴には、偏平な石が礎石として据え置かれている。

2号掘立柱建物址1号掘立柱建物址と重複している。東西3.4m南北1.9m。柱穴の形状は方形を呈し、柱穴の掘り込みは浅い。平均20cm前後である。

3号掘立柱建物址1・2号掘立柱建物址の南西に東側を接するようである。規模は、東西2.9m、南北1.8mを測る。柱穴は、楕円形や隅丸方形を呈する。南西隅の柱穴は他の柱穴に比べ大きく深い掘り方となっているが、土坑との重複によるものである。深さは、他の掘立柱建物址と同様に20cm前後である。

これらの建物址の時期については、出土遺物がなく判然としないうが、柱穴に含まれる覆土が浅間B軽石混じりであることと、柱穴の形状が方形を呈することから、掘立柱建物址の構築時期は、中世以降と考えられる。

耕作痕 (175図 P L112)

耕作痕が検出されたのは、周囲より一段低くなっているところからである。耕作痕の東側の境界は、現在の畑の地割りと共通している。耕作痕の中に含まれる土は、浅間A・B軽石を含む土地で近世以降に位置づけられる。耕作痕一つの大きさは、20~40cm、深さ10cm程のものが規則的に連続している。

1号溝 (176図・P L113) 巾1.6m、深さ60cm、覆土中に浅間A軽石が含まれることから近世以降に作られたと考えられる。

2号・3号溝 (177・178図 P L114) 巾1.6~2m、深さ60~70cm、遺跡の東側谷部にある。笹塚遺跡との境になっている。堆積土の様子から近世以降に地境を兼ねた溝として作られたと考えられ、掘り返しがあつたために2条の溝になった。

4号・5号溝 (179図 P L115) 巾1.2~2m、深さ20cm、4号と5号溝は重複している5号溝は覆土中に浅間C軽石を含むことから古墳時代以降に作られ、4号溝は、それを踏襲した形で作られている。

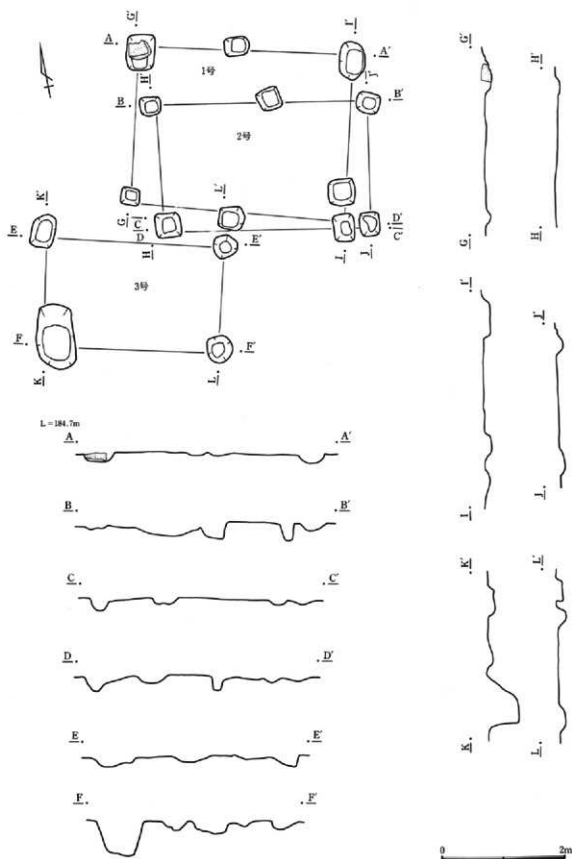
6号・7号溝 (180図 P L116) 溝として取り上げたが、不定形の土坑状のものである。覆土中にロームブロックを含む。性格は不明である。

8号溝 (180図 P L116) 遺跡のほぼ中央に東西方向に作られている。巾40cm、深さ40cm、長さ8.4m。

9号溝 (180図 P L116) 巾1.6m、深さ15cm。底断面は、平坦な溝である。

10号・11号溝 (181図 P L117) 巾1~1.8m、深さ40cm前後の重複した溝である。

12号溝 (181図 P L117図) 遺跡中央部の高まりに掘立柱建物址に接して、弧を描くように作られている。50~80cm、深さ30cmを測る。

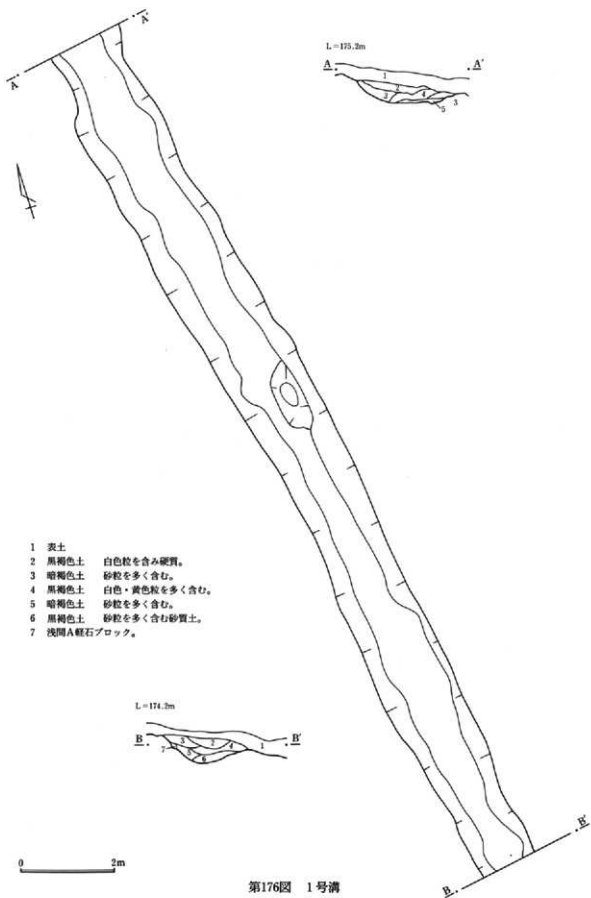


第174図 1～3号獨立柱建物址



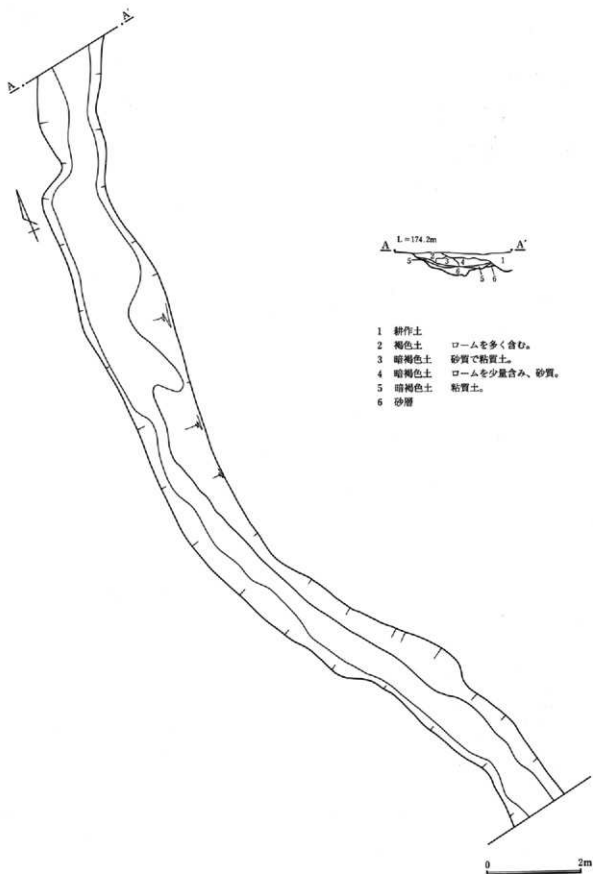
第175図 耕作痕

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

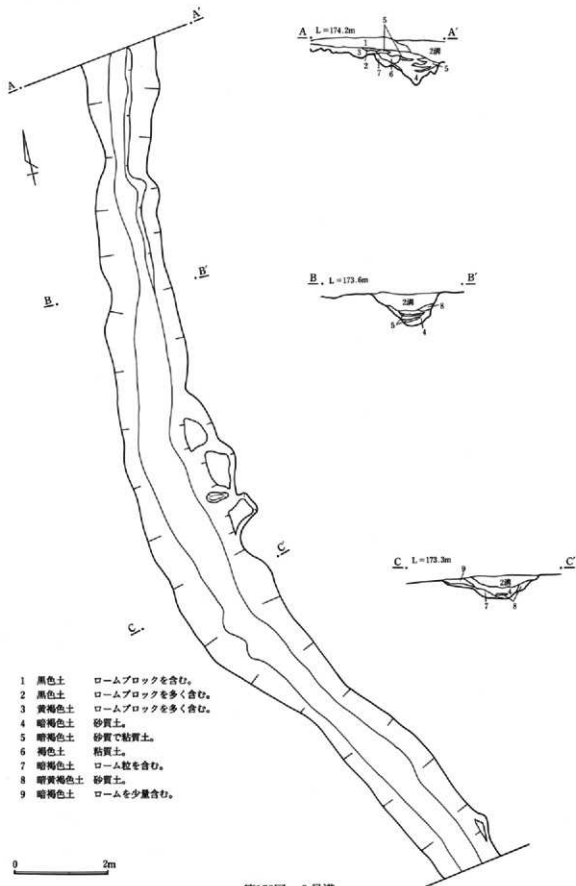


- 1 表土
- 2 黒褐色土 白色粒を含み硬質。
- 3 暗褐色土 砂粒を多く含む。
- 4 黒褐色土 白色・黄色粒を多く含む。
- 5 暗褐色土 砂粒を多く含む。
- 6 黒褐色土 砂粒を多く含む砂質土。
- 7 浅間A軽石ブロック。

第176図 1号溝

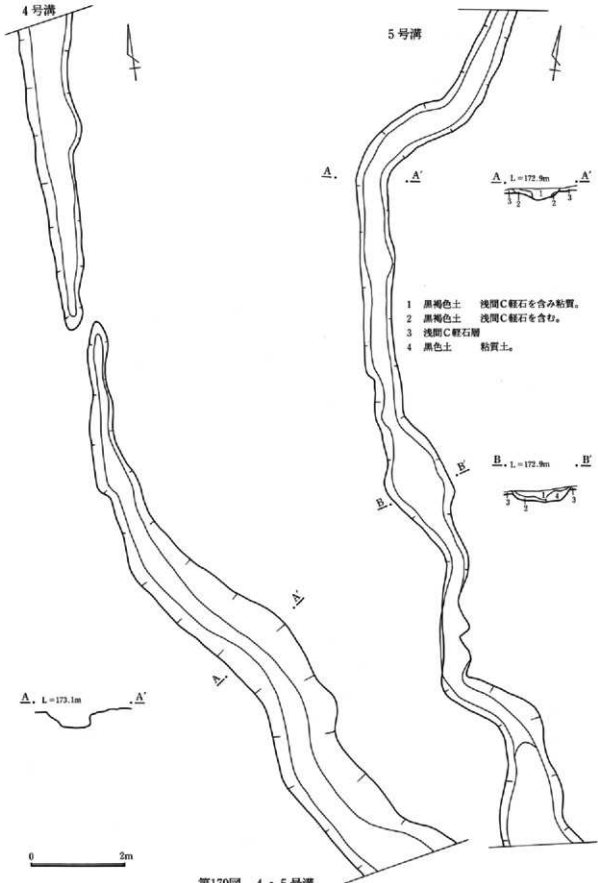


第177図 2号溝



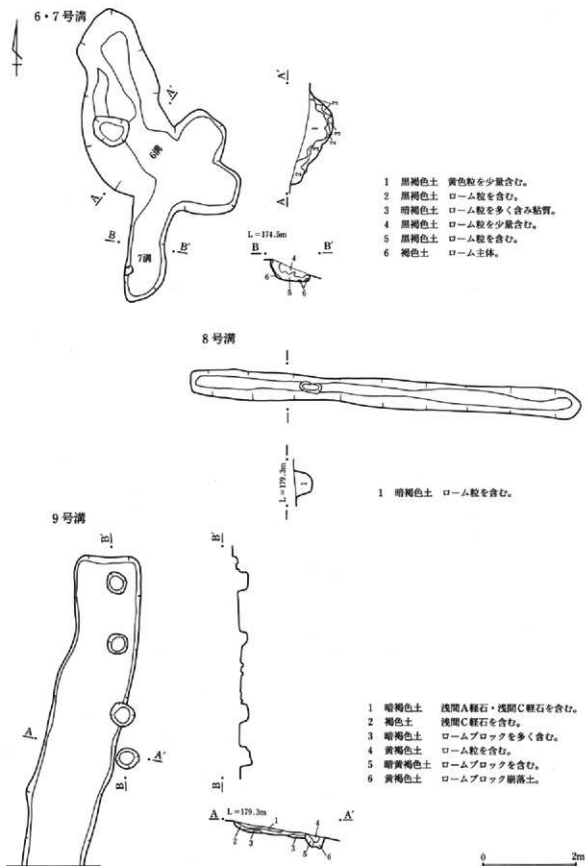
第178図 3号溝

2節 発見された遺構と遺物

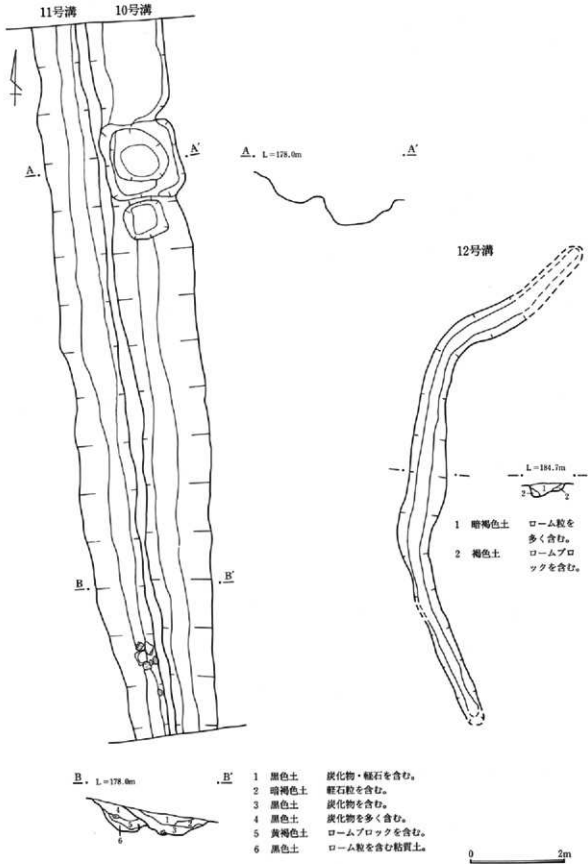


第179図 4・5号溝

第3章 白岩洞久保遺跡の調査



第180図 6～9号溝



第181図 10~12号溝

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

溝出土土器観察表(182~184図 PL127・128)

溝	番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
1溝	1	陶器碗	暗赤褐	5YR			瀬戸・美濃陶器。高台端部を除き胎土。江戸時代。
1溝	2	陶器天目 碗	灰白(藍輪 部分)	5Y			瀬戸・美濃陶器。体部下位片。外面高台縁と体部下 端回転彫り、下端は軸を掻き取る。江戸時代か。
1溝	3	陶器碗					肥前陶器。陶胎染付口縁部片。江戸時代。
1溝	4	軟質土器 すり鉢	灰	7.5Y			口縁部片。内面表剥離。
1溝	5	在地土器 鉢形鍋	黒褐	10YR			器表青灰色。中世。 体部下端片。外面彫付着。近世。
1溝	6	軟質陶器 すり鉢	灰	10Y			片口部片。器表青灰色。中世。
3溝	1	軟質陶器 すり鉢	灰	N			断面・器壁共に青灰色。底部外面回転糸切り無調整。 底部内面表剥離。中世。
5溝	1	土師器坏	にぶい褐	7.5YR		砂粒を多く含む。	口縁部はやや外傾して開き、椀は鈍く底体部は浅い。 口縁内外面ナデ。底体部外面寛ケズリ。内面ナデ。
5溝	2	土師器坏	明赤褐	5YR		砂粒多く含む。	口縁部はやや外傾して開き、椀は鈍く、底体部は浅い。 器面厚減。
5溝	3	土師器坏	にぶい橙	7.5YR		砂粒含む。	口縁部は僅かに外傾して開き、椀は鈍く底体部は浅い。 口縁部内外面ナデ。底体部外面寛ケズリ。内 面ナデ。
5溝	4	土師器坏	明赤褐	5YR		砂粒やや多い。	口縁部は外反して開き、椀はやや鈍く屈曲。底体部 は浅い。器面厚減。
6溝	1	灰胎陶器 皿	灰白	5Y			瀬戸・美濃陶器。内面から高台縁に灰胎。底部内面 に重ね焼き時の高台痕。17世紀。
8溝	1	在地土器 焙烙	灰黄褐	10YR			底部丸底。体部も丸みを帯びる。体部・底部彫付着。 体部外面下位置彫り後ナデ。19世紀中頃に降。
10・ 11溝	1	在地土器 焙烙	浅黄	2.5Y			平底。体部直線的。江戸時代。
10・ 11溝	2	在地土器 焙烙	橙	5YR			丸底。器高やや高く、体部は直立気味。19世紀中頃 から後半。
10・ 11溝	3	在地土器 焙烙	にぶい黄	10YR			平底。体部直立。体部に補修穴1ヵ所残る。18世紀 から19世紀前半。
10・ 11溝	4	在地土器 焙烙	灰黄	2.5YR			底部片。平底。取っ手1ヵ所残存。江戸時代。
10・ 11溝	5	在地土器 甕?	橙	7.5YR			空気窓周辺の破片か?江戸時代以降。
10・ 11溝	6	在地土器 焙烙	にぶい褐	7.5YR			平底。器高低い。明治以降。
10・ 11溝	7	陶器灯明 受け皿	暗赤褐	5YR			瀬戸・美濃陶器。磨胎。外面の軸を拭い取る。内外 面油付着。江戸時代。
10・ 11溝	8	陶器	褐灰	10YR			瀬戸・美濃陶器。器種不詳。内外面貫入のある軸。 焼成不良のため軸縁は不明。体部外面に鉄線が一部 認められる。江戸時代。
10・ 11溝	9	陶器 盛り鉢	淡黄	5Y			瀬戸・美濃陶器。内面から高台縁灰胎。貫入入る。 底部内面大きい目鉢3ヵ所残る。江戸時代。
10・ 11溝	10	陶器皿	灰白	7.5Y			肥前磁器。淡色見采。胎土灰白色。18世紀。
10・ 11溝	11	陶器皿	明青灰	5B			瀬戸・美濃陶器。高台高い。底部内面から高台縁灰 胎。底部内面蛇の目軸刺す。口縁部外傾し、端部は 面取り。18世紀。
10・ 11溝	12	陶器碗					
10・ 11溝	13	陶器碗	暗オリー ブ	5Y			瀬戸・美濃陶器。内面から高台縁胎土。高台径小さ い。18世紀。

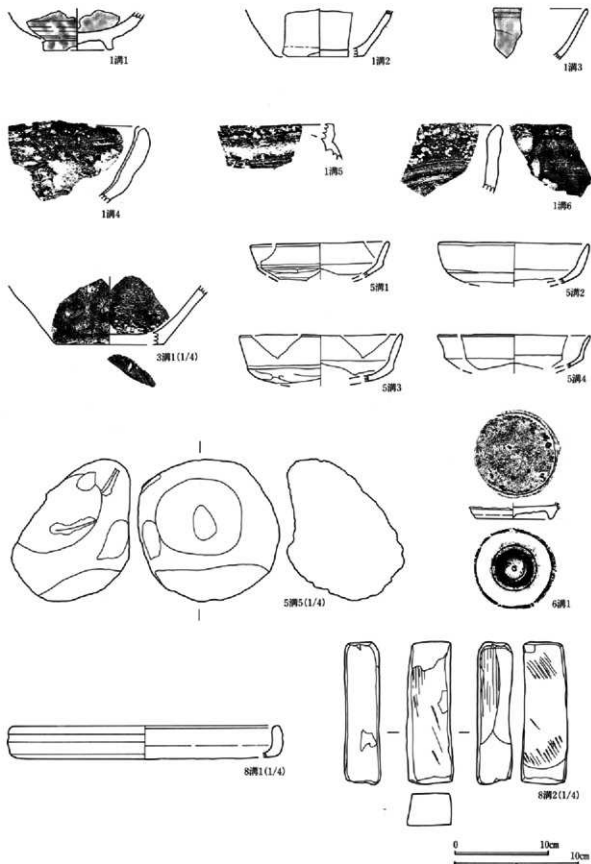
2節 発見された遺構と遺物

溝	番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
10・11溝	14	陶器碗					瀬戸・美濃陶器。内面から高台隆灰釉。外面に1ヵ所鉄絵具で線を描く。いわゆる抹茶碗。19世紀前半から中頃。
10・11溝	15	焼締陶器壺	灰	5YR			知多窯。口縁部片。18世紀。
10・11溝	16	磁器碗	明オリーブ灰	2.5GY			肥前磁器。波佐見系。胎土灰白色。高台内不明跡。18世紀。
10・11溝	17	陶器すり鉢	暗褐	7.5YR			瀬戸・美濃陶器。錆釉。18世紀後半。
10・11溝	18	陶器平割壺	灰白	7.5Y			瀬戸・美濃陶器。内面から高台隆鉄釉。底部内面目跡1ヵ所。江戸時代。
10・11溝	19	陶器すり鉢					瀬戸・美濃陶器。錆釉。18世紀後半。
10・11溝	20	陶器すり鉢	灰褐	5YR			瀬戸・美濃陶器。底部。錆釉。江戸時代。
10・11溝	21	軟質陶器すり鉢	暗赤褐	5YR			瀬戸・美濃陶器。錆釉。口縁部内面に「㊦」の押印二つ。19世紀前半から中頃。
10・11溝	22	焼締陶器壺	灰褐	7.5YR			知多窯。底部。底部内面平滑にすり減る。中世。

溝出土石器観察表(182図 PL127)

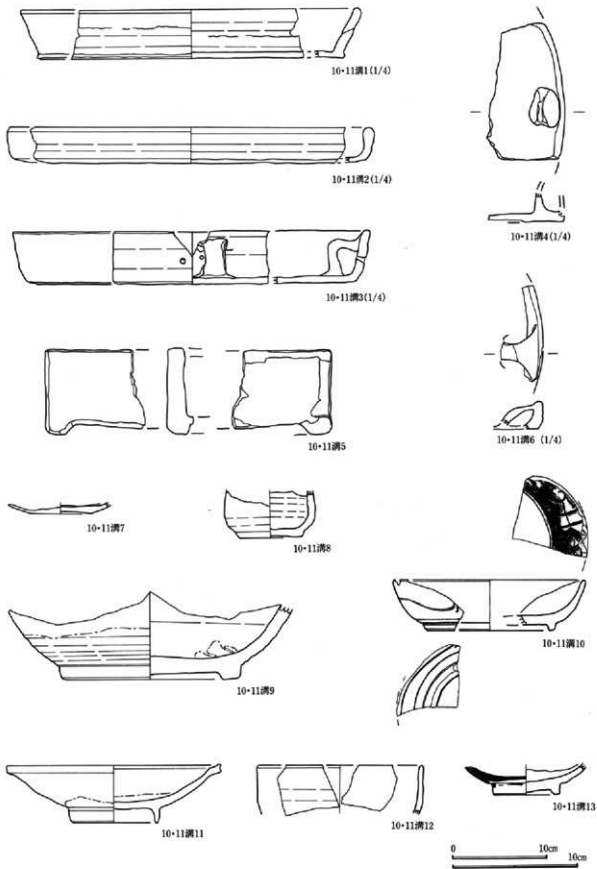
溝	番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
5溝	5	臼状石製品	二ツ岳軽石	完存	15.0	15.0	12.4	1160	楕円形の軽石を使用。上端面に臼状の凹み。側面に切り込みと削り面が2ヶ所ある。
8溝	2	砥石	砥沢石	下端欠損	11.2	3.6	2.8	210	長方形で4側面を使用している。使用面には、磨痕が残る。

第3章 白岩浦久保遺跡の調査



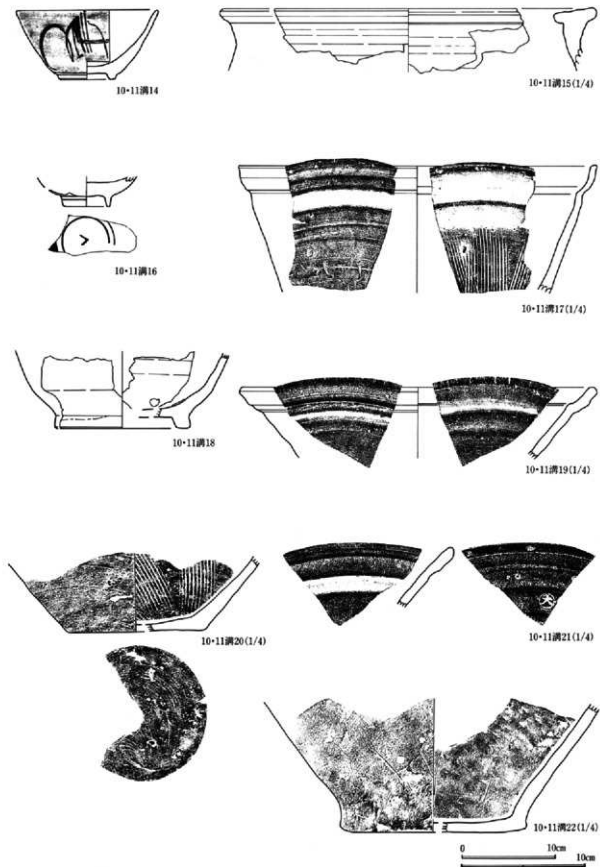
第182図 溝出土遺物-1

2節 発見された遺構と遺物



第183図 溝出土遺物- 2

第3章 白岩浦久保遺跡の調査



第184図 溝出土遺物-3

グリッド出土遺物観察表(185~189図 PL128~130)

番号	種類器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
1	深鉢	明黄褐色	10YR	φ1~3mmの小石、 軽石	普通	巾7mmの平行沈線と爪形文。文様間の隆線に刻みを持つ。
2	深鉢	橙	5YR	繊維含む。		LR織文。
3	深鉢	にぶい 黄橙	10YR	φ1~3mmの小石	普通	巾6mmの半截竹管による平行沈線と爪形文で文様を描く。RLの織文を胴部に施文。
4	深鉢	橙	7.5YR	φ1~3mmの小石	良	RL横位施文。胴体の端末の結び目が付く。
5	深鉢	にぶい 赤褐色	5YR	細かい砂粒	良	太さ3mmの押し引きの沈線。
6	深鉢	にぶい 黄橙	10YR	φ1~3mmの小石	良	巾9mmの平行沈線。
7	深鉢	橙	7.5YR	φ1~3mmの小石、 繊維		0段多条のLRとRLの羽状施文。
8	深鉢	オリーブ 黒	7.5Y	φ1~3mmの小石	普通	巾10mmの平行沈線と爪形文。
9	深鉢	橙	5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾10mmの平行沈線と爪形文。間に斜位の刻みを持つ。
10	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	細かい砂粒、雲母	良	巾8mmの平行沈線と爪形文間に斜位の刻み。LRの附加条織文。
11	深鉢	赤褐色	5YR	φ1~3mmの小石	良	巾8mmの平行沈線と爪形文。間に斜位の刻み。
12	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~2mmの小石	普通	巾8mmの平行沈線と爪形文。文様間に刻みを持つ隆線。
13	深鉢	暗灰黄	2.5Y	φ1~2mmの小石、 雲母	普通	RL横位施文。巾8mmの平行沈線と爪形文。文様間に刻みを持つ隆線。
14	深鉢	黒褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石	良	巾9mmの平行沈線が横位に施文される。
15	深鉢	にぶい橙	7.5YR	細かい砂粒	普通	巾5mmの平行沈線で鋸歯状に描く。
16	深鉢	にぶい 黄褐色	10YR	細かい砂粒、雲母	良	巾7mmの平行沈線による弧線文。
17	深鉢	にぶい 黄橙	10YR	φ1~3mmの小石	普通	太さ3mmの刻みを持つ浮線。
18	深鉢	灰黄褐色	10YR	細かい砂粒	良	太さ4mmの刻みを持つ粘土紐による弧線。LRとRLの羽状織文。
19	深鉢	にぶい 黄橙	10YR	細かい砂粒	良	LR横位施文。太さ3mmの浮線に刻みを持つ。
20	浅鉢	褐色	7.5YR	細かい砂粒、繊維	良	LR施文。
21	深鉢	黒褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	LRの裏筋を施文。
22	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~2mmの小石、 軽石	不良	浮線に矢羽根状の刻み。
23	深鉢	にぶい 黄褐色	10YR	細かい砂粒	普通	直前段合割り。複数RLと無筋Lになる。
24	深鉢	暗赤褐色	5YR	細かい砂粒	良	三角印刻を持つ。地にRLの織文。
25	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	細かい砂粒	良	太さ3mmの押し引きによる沈線と交互刺突文。
26	深鉢	橙	5YR	細かい砂粒	良	太さ3mmの沈線と刺突文。連続交互刺突を加える。
27	深鉢	赤褐色	5YR	細かい砂粒	良	RL横位施文。太さ3mmの沈線と口唇部に刻みを持つ。
28	深鉢	灰黄褐色	10YR	φ1~3mmの小石、 金雲母	良	隆線を弧線状に貼り付ける。
29	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	細かい砂粒	普通	巾4mmの平行沈線による弧線・斜線。
30	深鉢	にぶい 黄褐色	10YR	細かい砂粒	良	太さ3mmの沈線と刺突。太さ5mmの刻みのある隆線。
31	深鉢	にぶい褐色	7.5YR	φ1~3mmの小石、 金雲母	普通	太さ3mmの沈線による文様区画と連続刺突文。
32	深鉢	灰黄	2.5Y	細かい砂粒、雲母	良	巾8mmの平行沈線と隆線による横位区画。胴部は平行沈線による区画。
33	深鉢	にぶい赤 褐色	5YR	細かい砂粒、金雲母	良	φ3mmの刺突が列点状に施文。

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

番号	種類・器種	色調	記号	胎土	焼成	特徴・その他
34	深鉢	褐	7.5YR	φ1~3mmの小石	普通	巾6mmの爪形文。
35	深鉢	灰褐	5YR	φ1~3mmの小石、金雲母	良	波状口縁頂部から隆線が傾下する。
36	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~5mmの小石	普通	口唇部に輪状の把手。太さ8mmの沈線による文様区画。0段多条のLR縦位施文。
37	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石	普通	LR縦位施文。太さ7mmの沈線で縦位区画。
38	深鉢	にぶい橙	7.5YR	φ1~3mmの小石、軽石	良	LR縦位施文。太さ3mmの沈線による縦位区画。
39	深鉢	灰褐	5YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	太さ8mmの沈線と隆線による文様施文。
40	深鉢	にぶい黄橙	10YR	φ1~3mmの小石、雲母	普通	RL横位施文。太さ8mmの沈線で文様を区画する。
41	深鉢	明赤褐	2.5YR	φ2~3mmの小石	普通	粘土粗により、双隆状の突起を作る。粘土粗には沈線による印刷が施文される。
42	樽式土器 壺	褐灰	10YR			頸部に波状文と薫状文、胴部に波状文を施す。内面ナデ。
43	樽式土器 壺	にぶい褐	7.5YR	砂粒を含む。	普通	波状文が施されている。内面ナデ後、ミガキ。42と同一個体か?
44	樽式土器 壺	にぶい褐	7.5YR	砂粒を含む。	普通	頸部に薫状文、肩部に波状文が施されている。内面ナデ後、ミガキ。
45	土師器 甕	にぶい黄橙	10YR	砂粒・小礫を含む。	良好	胴部は球形をなし中位に最大径をもつ。底部平底。外面ミガキ、内面ナデ。
46	樽式土器 片口鉢	にぶい褐	7.5YR	砂粒を多く含む。	良好	碗形をなし、口縁部は小段をもち肥厚する。内外面ナデ、一部ミガキ。
47	土師器 小型丸底土器	にぶい橙	5YR	砂粒を多く含む。	普通	底面は丸くやや深い。内外面ともミガキ。
48	土師器 甕	にぶい黄橙	10YR	砂粒を多く含む。	普通	胴部はやや扁球形をなし、中位に最大径をもつ。底部平底。外面ミガキ、内面横ナデ。
49	土師器 高坏	にぶい橙	5YR	砂粒を多く含む。	普通	坏部はわずかに内湾して開く。内外面ともミガキ。
50	樽式土器 台付壺か高坏	にぶい橙	7.5YR	砂粒を多く含む。	良好	小型の脚部でハの字に開く。内外面ともナデ後ミガキ。
51	土師器 坏	橙	5YR	砂粒を含む。	普通	口縁部はほぼ直立し、底面は浅い。口縁部内外面横ナデ。底面外周部ケズリ、内面ナデ。
52	土師器 坏	明赤褐	5YR	砂粒を含む。	良好	口縁部はやや外傾して開き、縁は鈍く突出して屈曲。底面は浅く丸い。
53	土師器 壺	橙	5YR	砂粒を多く含む。	良好	口縁部は強く外反する。口縁部内外面横ナデ。胴部外面斜位の翼ケズリ、内面横ナデ。
54	土師器 壺	赤褐	5YR	砂粒を多く含む。	普通	胴部はやや球形をなし、中位に最大径をもつ。底部平底。胴部外面ケズリ後一部ナデ、内面横ナデ。
55	土師器 壺	にぶい橙	5YR	砂粒を多く含む。	普通	口縁部はわずかにコの字状をなす。口縁部内外面横ナデ。胴部外面ケズリ後一部ナデ、内面横ナデ。
56	在地土器 烙烙	にぶい褐	7.5YR			底部丸底。体部も丸みを帯びる。体部・底部煤付着。19世紀中頃以降。
57	土人形	にぶい橙	5YR			大黒。両面を型で作り、表裏を合わせる。小型で幕末以降の製品であろう。高さ2.8cm。刃部は欠損。握り部。
58	刀子					寛永通宝
59	銅銭					寛永通宝
60	銅銭					寛永通宝
61	銅銭					寛永通宝
62	銅銭					寛永通宝
63	五円硬貨					昭和19年製
68	土製紡錘車	にぶい黄橙	10YR	砂粒を多く含む。	良好	円形で薄く、全面ナデ調整。

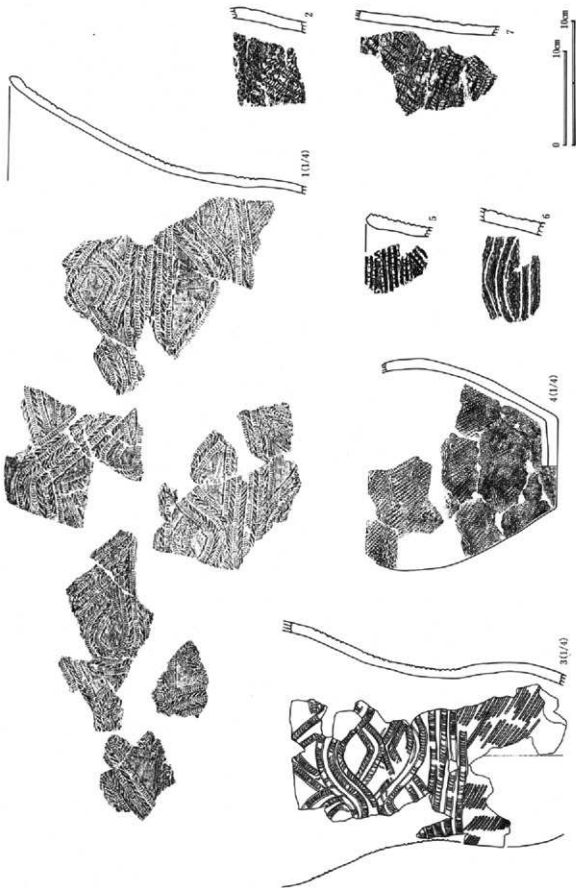
グリッド出土石器観察表(189~192国 PL130~132)

番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
64	多孔石	粗粒輝石安山岩	破片	20.5	22.5	6.4	3740	表裏面の扁平な自然石を使用。表裏面に円錐状の凹みを持つ。
65	石皿	粗粒輝石安山岩	破片	15.2	15.3	6.9	1330	表面はすり鉢状に磨かれ、裏面は平坦に磨かれている。側縁部と裏面に円錐状の凹みを持つ。
66	多孔石	粗粒輝石安山岩	完存	17.8	14.8	11.5	4500	丸みを持った長方形の自然石を使用。表裏面にすり鉢状の大きな凹みが多数ある。側面にも浅い凹みを持つ。
67	刻書石塔	粗粒輝石安山岩	破片	34.5	27.4	6.5	9700	やや浅めの凹みによる刻書。
69	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	14.8	8.3	6.1	910	大型で長楕円形の河原石を使用。表裏面とも磨かれ、小さい敲打痕がある。上部部に敲打痕が集中している。
70	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	9.7	5.0	3.9	290	小型で長楕円形の自然石を使用。表裏面を良く磨き、表面と両端部に敲打痕を持つ。
71	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	10.8	8.0	4.5	600	楕円形の自然石を使用。表裏面に磨面を持ち、側縁部に細かい敲打痕を持つ。
72	磨石	粗粒輝石安山岩	完存	11.6	10.6	6.1	1060	楕円形の自然石を使用。表裏面に磨面を持ち、側縁部に細かい敲打痕を持つ。
73	凹石	粗粒輝石安山岩	完存	11.7	6.4	5.8	592	縦長の自然石を使用。表裏面に円錐形の凹みを1個持つ。
74	凹石	粗粒輝石安山岩	完存	8.9	8.0	4.9	410	楕円形の自然石を使用。表裏面に円錐形の凹みを1個持つ。
75	凹石	粗粒輝石安山岩	破片	8.2	8.4	4.3	250	楕円形の山石を使用。表裏面に2個以上の大きな凹みを持つ。
76	凹石	粗粒輝石安山岩	破片	7.0	6.0	4.5	280	長楕円形の河原石を使用。表裏面とも複数の浅い凹みがあり、端部と側縁部に多くの敲打痕を持つ。
77	打製石斧	黒色頁岩	完存	12.2	7.9	1.8	165	楕形をなし刃部・基部とも山形をなす。
78	打製石斧	粗粒輝石安山岩	基部欠損	9.0	5.1	2.6	160	短冊形。表裏面に自然面を残す。刃部は斜めに付く。
79	打製石斧	黒色頁岩	完存	9.6	5.4	2.7	155	短身の短冊形で一部に自然面を残す。粗い作りで刃部は斜め基部は平ら。
80	打製石斧	灰色安山岩	基部欠損	9.3	7.1	3.8	310	大型の短冊形と考えられ、表面に大きく自然面を残す。刃部は平ら。
81	打製石斧	黒色頁岩	基部欠損	6.0	4.5	1.6	60	短冊形をなし刃部は丸く摩滅している。
82	打製石斧	変玄武岩	基部欠損	7.4	5.1	2.7	80	やや楕形をなし、刃部は丸く片面が摩滅している。
83	打製石斧	黒色頁岩	完存	7.0	3.4	1.5	37	小型の短冊形で刃部・基部ともに丸い。片面の刃部が摩滅している。
84	打製石斧	粗粒輝石安山岩	基部欠損	7.1	5.2	1.5	65	やや楕形をなし、一部に自然面を残す。刃部は平ら。
85	磨製石斧	変玄武岩	基部欠損	5.9	5.0	2.1	110	乳房状をなし、刃部は丸く先端部に使用時の割れがある。全面に製作時の細かい研磨痕が残る。
86	剥片石器	黒色頁岩	完存	5.8	3.8	1.7	40	長方形をなす剥片で、平行する2個縁部に粗い剝離を加え刃部としている。
87	剥片石器	黒色頁岩	完存	3.6	5.6	1.8	44	横長の方形をなす剥片で、下部部に両面より細かい剝離を加え刃部とする。
88	剥片石器	黒色安山岩	完存	6.1	7.5	2.2	105	半円形をなす剥片で表面に大きく自然面を残す。弧状をなす側縁部に主に片面より粗い剝離を加え刃部としている。
89	剥片石器	黒色安山岩	完存	5.3	5.5	1.8	43	台形をなす剥片で、下部部に片面より粗い剝離を加え刃部とする。

第3章 白岩浦久保遺跡の調査

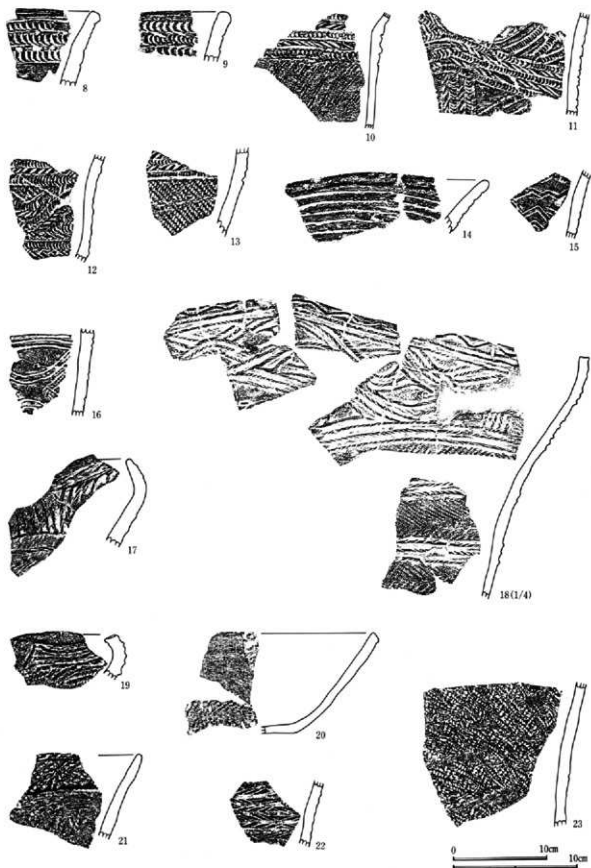
番号	種類	石質	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・その他
90	剥片石器	黒色頁岩	完存	7.0	9.7	2.1	140	三角形をなす剥片で、2側縁部には片面より細かい刻離を加え刃部とし、1側縁部は粗い刻離が加えられている。
91	剥片石器	黒色安山岩	完存	6.7	5.7	1.1	42	楕円形の剥片で、下端部を片面より細かい刻離を加え刃部とする。
92	剥片石器	黒色頁岩	完存	5.9	8.6	2.2	63	台形をなす剥片で、下端部に片面より細かい刻離を加え刃部とする。
93	剥片石器	黒色頁岩	完存	5.1	8.0	1.6	50	半円形をなす剥片で、弧状をなす側縁部に片面より細かい刻離を加え刃部としている。
94	剥片石器	黒色頁岩	一部欠損	6.1	8.5	2.7	120	不定形の剥片で一部に自然面を残す。3側縁部に粗い刻離を加え鈍角の刃部を作している。
95	剥片石器	黒色頁岩	完存	6.5	10.5	2.8	132	三角形をなす剥片で、下端部に片面より細かい刻離を加え刃部とする。
96	剥片石器	黒色頁岩	完存	5.1	6.5	1.0	45	半円形の剥片で一部に自然面を残す。側縁部のほぼ全周に細かい刻離を加え刃部としている。
97	剥片石器	黒色安山岩	完存	5.9	8.5	2.0	85	不定形の剥片で、側縁部のほぼ全周に細かい刻離を加え刃部としている。
98	坎状耳飾	滑石	完存	3.6	4.0	0.7	14.2	断面偏平の円形に近い形。表裏面に研磨痕が見られる。
99	剥片石器	黒色頁岩	完存	1.6	9.0	1.3	15	横長の剥片で、下端部の縁に細かい刻離を加え刃部としている。
100	石鏃	黒色頁岩	完存	3.9	2.9	0.9	10	丸みを持つ三角形の剥片を使用。
101	石匙	黒色頁岩	完存	3.2	4.6	0.5	6	横長の小型石匙で丁寧な作りである。
102	石鏃	細粒輝石安山岩	先端欠損	2.8	1.8	0.3	1	三角鏃で長身の二等辺三角形をなし、基部は僅かに再入する。

2節 発見された遺構と遺物



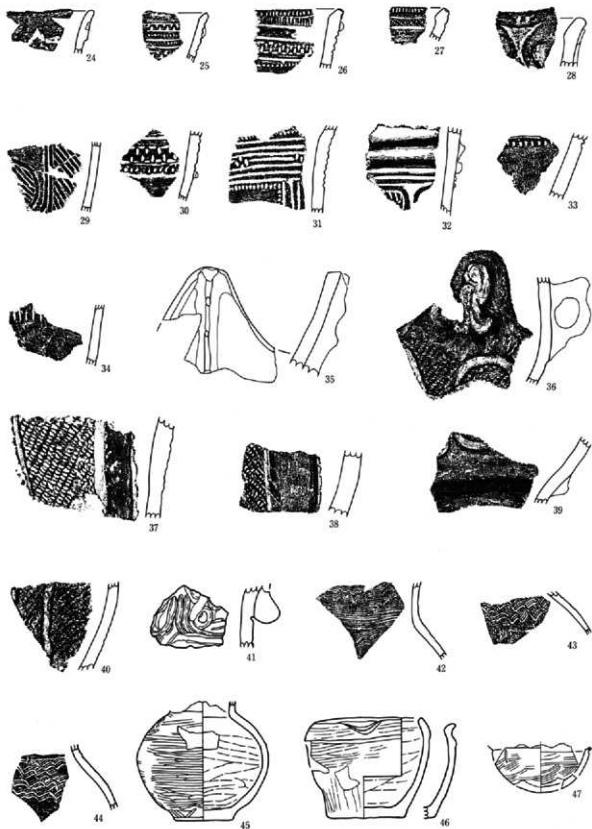
第185図 グリッド出土遺物-1

第3章 白岩浦久保遺跡の調査



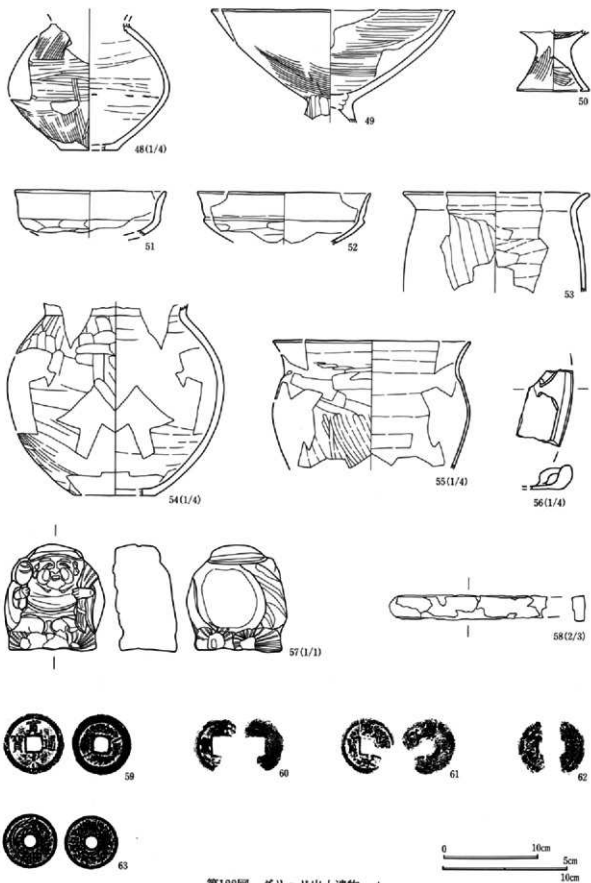
第186図 グリッド出土遺物-2

2節 発見された遺構と遺物



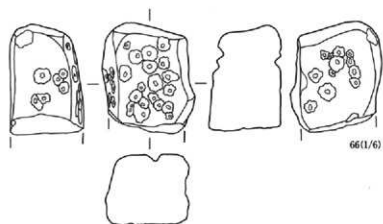
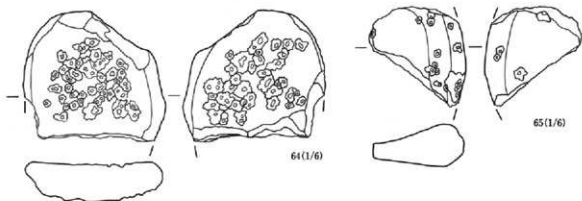
0 10cm

第187図 グリッド出土遺物-3

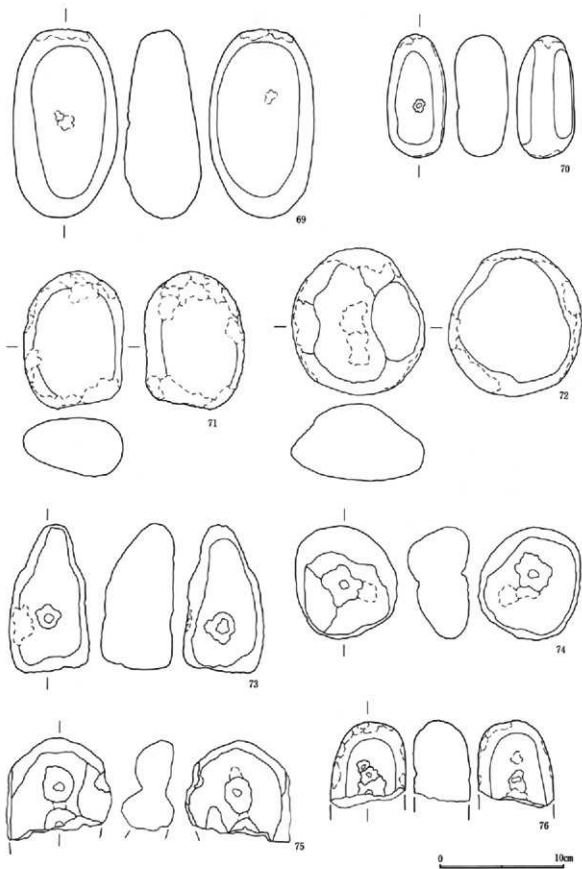


第188図 グリッド出土遺物-4

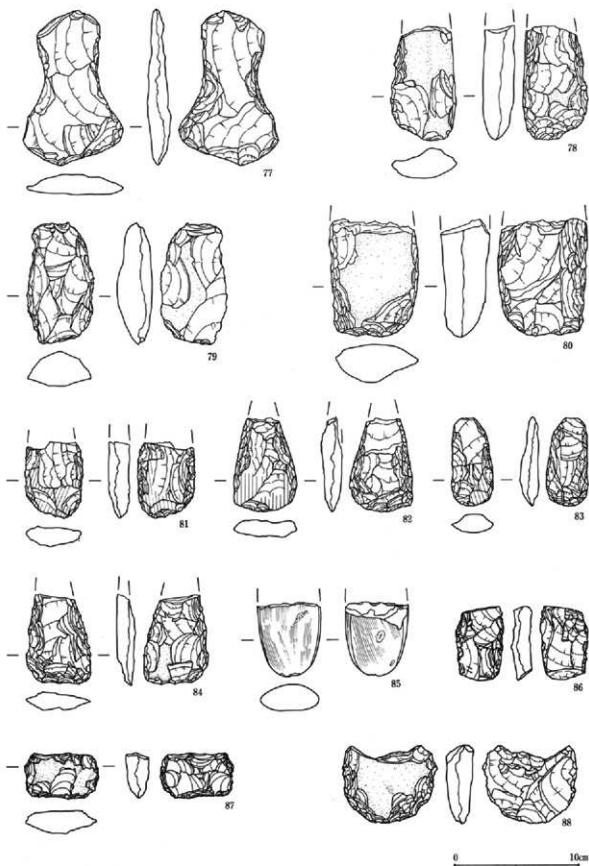
2節 発見された遺構と遺物



第189図 グリッド出土遺物-5

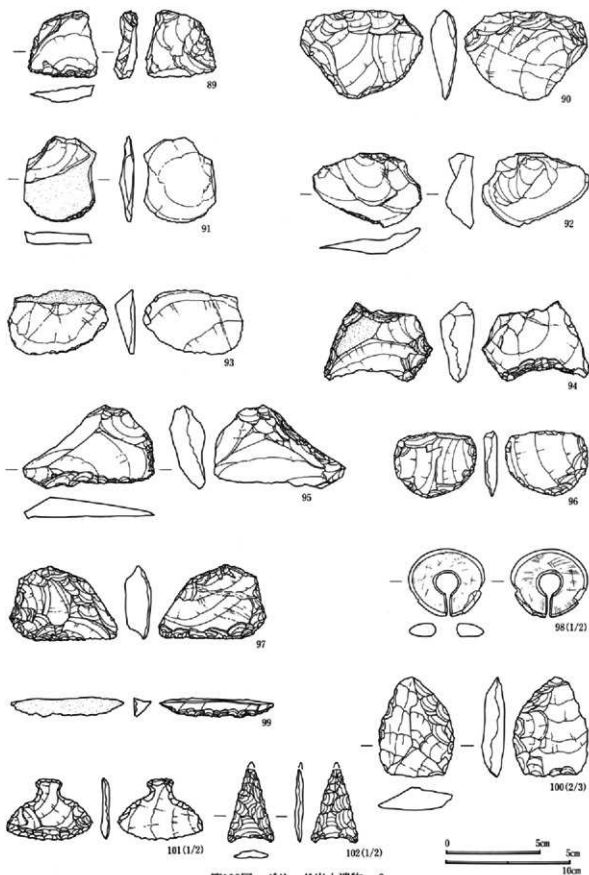


第190図 グリッド出土遺物-6



第191図 グリッド出土遺物-7

第3章 白岩浦久保遺跡の調査



第192図 グリッド出土遺物-8

第4章 白岩民部遺跡の調査

1 節 遺跡の環境と調査の概要

1 遺跡の立地 (3・193図)

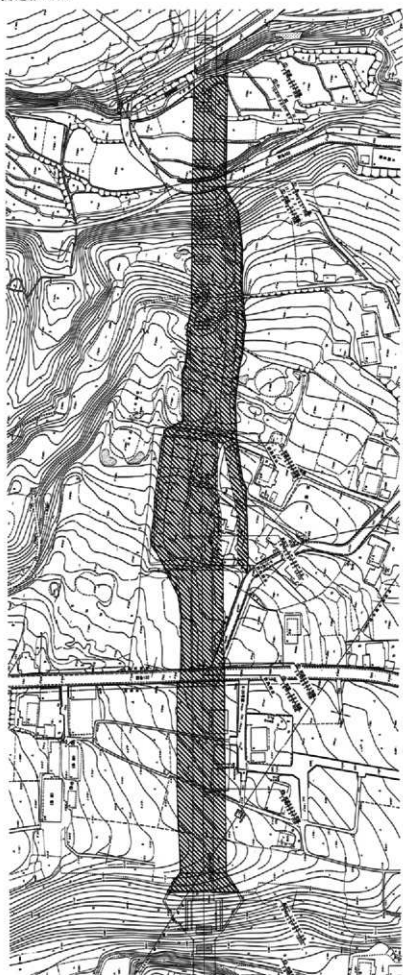
榛名山南麓は、小河川による開析谷と舌状の丘陵が多く発達している。北陸新幹線はその開析谷と丘陵を東西に縦断するため、多くの遺跡にかかっている。白岩民部遺跡もその一つである。遺跡の東は、白岩浦久保遺跡との境である小堀川左岸の開析谷の底部から、緩やかな東斜面を経て丘陵部へ至り、丘陵頂部に平坦面を持つ。西は、再び榛名山を源流とする小河川の見立川によって形成された開析谷へと下り、谷を挟んで高浜広神遺跡へと続く変化に富んだ地形上に立地する。標高は、開析谷の底部で170m程、丘陵部で200m前後である。東側谷地部では、浅間A・B軽石を含んだ堆積上によって埋没し、谷底の平坦部で水田遺構が確認された。丘陵頂部では、耕作土層の堆積が薄く遺構の保存状態は良いものではなかった。ローム層については、比較的しっかりした堆積をしており、南に傾斜する面で旧石器が確認された。西側の谷は、傾斜面かきつく、谷底の平坦面は認められず、遺構は確認されなかった。

2 調査の概要 (194図)

土層の堆積状況 東西の谷地部においては、浅間A軽石混じりの土が厚く堆積している。東側の谷地部では、浅間B軽石の堆積層が見られた。台地上では、部分的に浅間A・B軽石層が見られたか、近世の耕作による攪乱が多い。浅間C軽石についても黒色土と混じり合った形で確認された。ローム層は厚く堆積しており、板鼻黄色軽石層や板鼻褐色軽石層、室田軽石層等の鍵層がはっきりした状態で確認された。

遺構分布 本遺跡から検出された遺構は、次の通りである。遺跡の台地上からは、上面が削平され、柱穴の並びから縄文時代の住居址と推定されるもの1基、縄文、古墳時代の土坑26基、中・近世の溝5条が疎らに見られている。他に近世の道が4号溝に並行して作られている。この道は、和銅年間開基の白岩観音と呼ばれている長谷寺がありこれに繋がる道と考えられる。東側の谷地部分では、浅間B軽石下の水田が発見されている。この地域では、谷地部に水田が形成される。旧石器については、二つの文化層が発見されている。第1文化層は、板鼻褐色軽石層と室田軽石層に挟まれた部分から黒曜石製のエンドスクレイパー1点が発見されている。第2文化層は室田軽石層より下位の暗色集中から合計726点出土している。

遺物の出土状況 本遺跡からの出土遺物ば、遺構数に比例して少ないものとなっている。縄文時代遺物では、中期の土器と石器。弥生時代の土器壺1点以外は近世の陶磁器である。



第193図 白岩民部遺跡と周辺の地形



11
A



(ZK)

(YK)

3K 2K
1
93区 A 92区

11
A

11
A

(DK)

(CK)

(BK)

(AK)

大19区
1
A

5区 4区
1
95区 A 94区

11
A

11
A

11
A

245

I跡 遺跡の環境と調査の概観



第194図 白岩民部遺跡遺構図

第4章 白岩民部遺跡の調査

2節 発見された遺構と遺物

1 1号住居址 (195図 P L135)

床面から上を削平されているため平面形状は、はっきりしない。埋設土器を囲むように柱穴5基検出されたことから住居址とした。中央部の埋設土器は205図13の土器で中期後葉曾利E3期である。

2 土坑 (196～199図 P L133～135)

土坑	形状	長軸	短軸	深さ	時代	出土遺物	備考	グリッド
1	不整形円形	2.04	1.31	0.41	弥生以前			3-D-16
2	楕円形	1.31	1.04	0.31	弥生以前			93-S-3
3	楕円形	0.96	0.66	0.13	弥生以前			93-T-18
4	長楕円形	1.33	0.54	0.70	弥生以前			93-Q-19
5	円形	0.36	0.31	0.55	弥生以前			4-A-1
6	円形	0.38	0.29	0.72	弥生以前			4-A-1
7	長楕円形	0.40	0.36	0.36	弥生以前			4-A-1
8	長楕円形	0.55	0.27	0.42	弥生以前			4-A-1
9	長楕円形	0.49	0.30	0.78	弥生以前			4-A-1
10	不整形円形	1.46	1.25	0.34	弥生以前			4-D-3
11	円形	1.48	1.35	0.65	弥生以前			94-O-4
12	不整形	2.20	1.27	0.71	弥生以前			4-D-5
13	円形	0.43	0.29	0.16	弥生以前			4-A-5
14	円形	0.65	0.55	0.24	弥生以前			4-D-6
15	長楕円形	1.22	0.91	0.27	弥生以前			4-A-6
16	楕円形	0.57	0.51	0.10	弥生以前			4-A-6
17	楕円形	0.55	0.42	0.48	弥生以前			4-D-7
18	楕円形	0.62	0.50	0.14	弥生以前			4-B-7
19	楕円形	0.58	0.52	0.14	弥生以前			4-A-7
20	楕円形	2.35	1.50	0.39	弥生以前			94-Q-7
21	楕円形	0.93	0.85	0.11	弥生以前			4-C-9
22	長楕円形	1.45	0.82	0.29	古墳時代		A※-C混入	94-S-13
23	円形	0.58	0.54	0.39	弥生以前			95-N-19
24	円形	0.32	0.27	0.10	弥生以前			95-K-15
25	円形	0.67	0.61	0.20	弥生以前			95-O-17
26	円形	0.42	0.35	0.17	弥生以前			95-N-18

3 水田 (200・201図 P L136～138)

遺跡東側の谷地部で、浅間B軽石に覆われた水田が検出された。水田は、一辺7m程で畦畔水口が良好な状態で残存している。

4 溝・道遺構 (202～204図 P L135～136)

1号溝は、巾2m深さ40cmを測り、遺跡を南北に横断している。断面形は、V字状になる。2・3号溝は、浅く断面形が箱形をしている。4号溝は3号道に沿って作られている。溝断面形はV字状になる。3号道は硬化面が二面ある。第一面は浅間C軽石を含む土を道路硬化面としている。第二面は、浅間A軽石混じりの土を硬化面としている。4号溝は、この第二面から3道を掘り込むようにして造られている。5号溝は、調査区を南北に横断するように作られている。巾1.8m、深さ80cmを測る。断面形はV字状になる。4号道は、遺跡の中央部に南北方向にある。中央部がやや凹む。浅間A軽石を踏み固めて硬化面としていることから、浅間A軽石降下道以降の道と考えられる。



L=204.2m

A, A'



- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 茶褐色土 YPを含む。
- 3 褐色土 YPを多く含む。
- 4 暗茶褐色土 YP・ロームブロックを含む。

L=204.2m



P4



P5

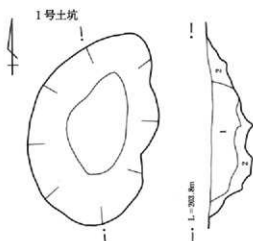


- 1 暗褐色土 YP粒を少量含む。
- 2 黄暗褐色土 YP粒を多く含む。
- 3 暗茶褐色土 YPブロックを含み、しまりがない。
- 4 明茶褐色土 YPを非常に多く含む。
- 5 暗褐色土 1層に類似するが、しまりがない。
- 6 茶褐色土 YP粒を多く含む。

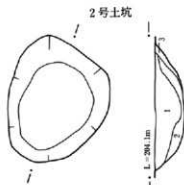
0 1m

第195図 1号住居址

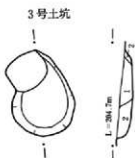
第4章 白岩民部遺跡の調査



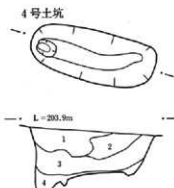
- 1 黒褐色土 白色粒・YPを含む。砂質。
2 暗褐色土 ロームブロックを含む。



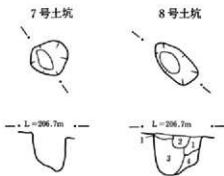
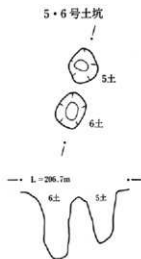
- 1 黒褐色土 白色粒・YPを少量含む。
2 黄褐色土 YPを少量含む。
3 黄色土 YPを多く含む。



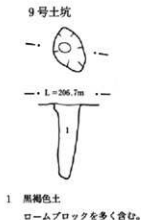
- 1 暗褐色土 YPを少量含む。
2 暗黄褐色土 YPを多く含む。



- 1 黒褐色土 YPを少量含む。
2 黒褐色土 YP・白色粒を多く含む。
3 暗褐色土 YPを多く含む。
4 茶褐色土 ローム粒を多く含む。



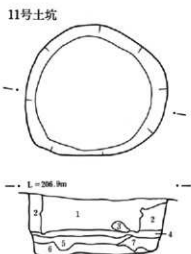
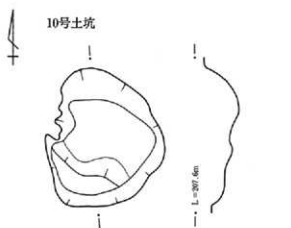
- 1 暗褐色土 YP粒を多く含む。
2 暗褐色土 ロームブロック多くYP粒少量含む。
3 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
4 黒褐色土 ロームブロックモザイク状に含む。



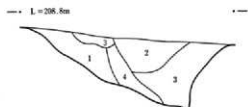
- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 1m

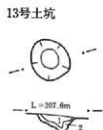
第196図 1～9号土坑



- | | |
|--------|---------------|
| 1 暗褐色土 | 褐色粘土小ブロックを含む。 |
| 2 橙褐色土 | |
| 3 茶褐色土 | |
| 4 黒褐色土 | YPを含む。 |
| 5 茶褐色土 | YPを含む。 |
| 6 黒褐色土 | YP・白色粒子を含む。 |
| 7 褐色土 | YP・白色粒子を含む。 |



- | | |
|--------|------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロック・YPを少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | 白色粒子を僅かに含む。砂質。 |
| 3 黒褐色土 | 白色粒子・YPを含む。砂質。 |
| 4 黒褐色土 | ロームブロックを多く含む。 |



- | | |
|----------|----------------|
| 1 暗褐色砂質土 | ロームブロック・YP少ない。 |
| 2 暗褐色砂質土 | ロームブロック・YP多い。 |



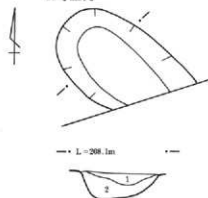
- | | |
|--------|------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロック・YPを少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | 白色粒子を少量含む。砂質。 |

0 1m

第197図 10~14号土坑

第4章 白岩民部遺跡の調査

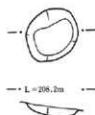
15号土坑



→ L = 208.1m ←

- 1 暗褐色土 白色土少量含む。砂質。
2 黒褐色土 ロームブロック・YP少量含む。

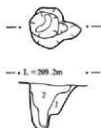
16号土坑



→ L = 208.2m ←

- 1 暗褐色土
ロームブロック・YPを少量含む。

17号土坑



→ L = 209.2m ←

- 1 黄色ローム 地山
2 褐色土
ロームブロック・白色軽石少量含む。

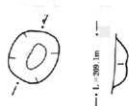
18号土坑



→ L = 209.1m ←

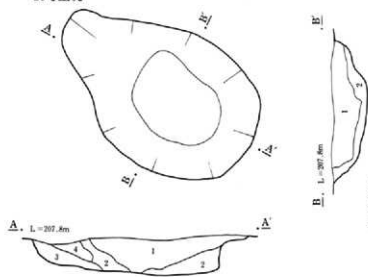
- 1 暗褐色土
ロームブロック・YPを少量含む。

19号土坑



- 1 暗褐色土
ロームブロック・YPを少量含む。

20号土坑



A. L = 207.8m

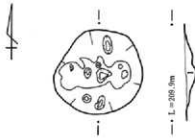
B. L = 207.8m

- 1 濃い黄褐色土 YPを少量含む。
2 濃い黄褐色土 ロームブロックを含む。
3 黄褐色土 YPを含む。
4 濃い黄褐色土 ロームブロックが混じる。

0 1m

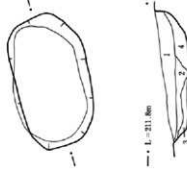
第198図 15～20号土坑

21号土坑



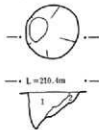
- 1 黒褐色土 YPを多く含む。

22号土坑



- 1 黒褐色土 浅間C軽石を含む。
 2 褐色土 YPを含む。
 3 暗褐色土 YPを含む。
 4 褐色土 ロームブロックを含む。

23号土坑

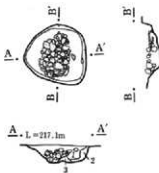


- 1 暗褐色土
 ロームブロック・YPを含む。
 2 黒褐色土
 白色粒子を僅かに含む。

24号土坑

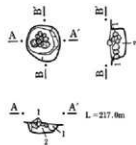


25号土坑



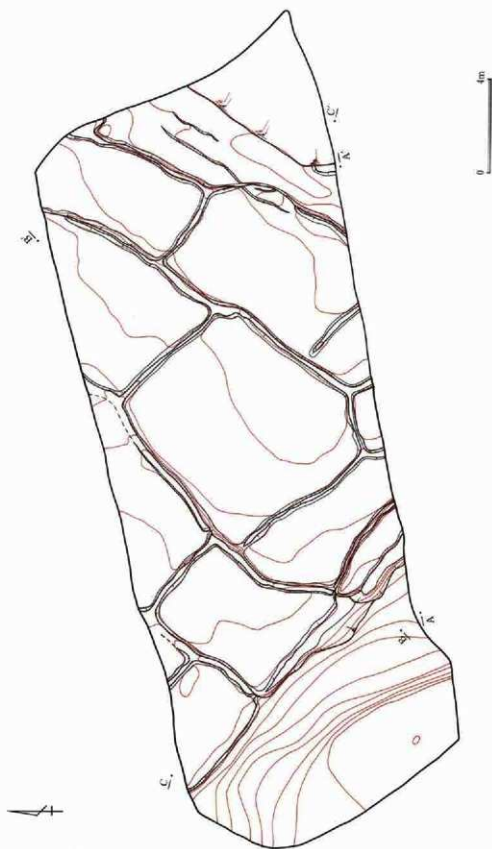
- 1 暗褐色土
 砂粒を含む砂質土。
 2 暗褐色土
 ロームブロックを含む。
 3 褐色土
 ロームを少量含む。

26号土坑

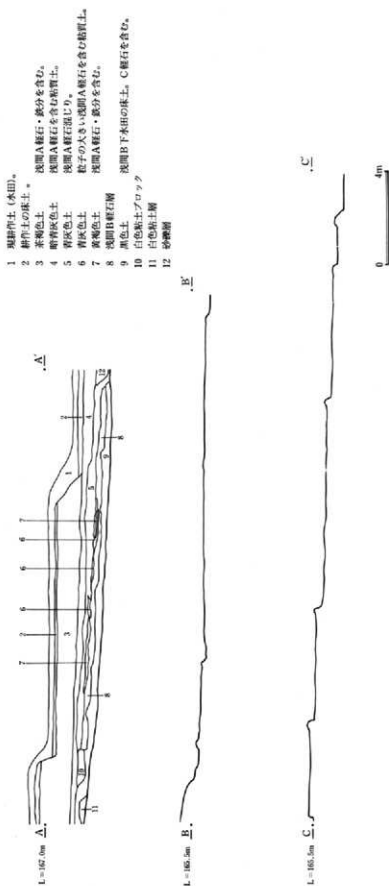


- 1 茶褐色土 軟質土。
 2 暗褐色土 ロームを少量含む。

0 1m

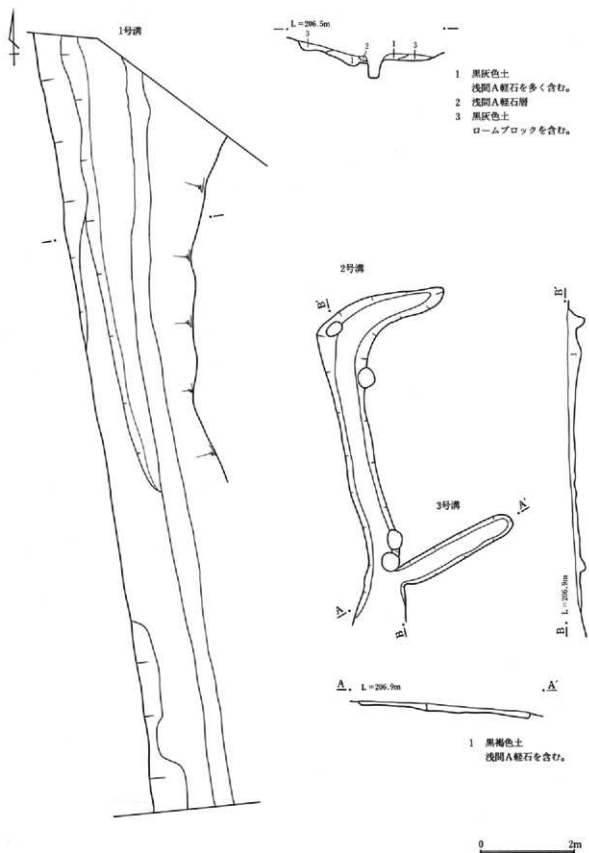


第200図 B 軽石下水田

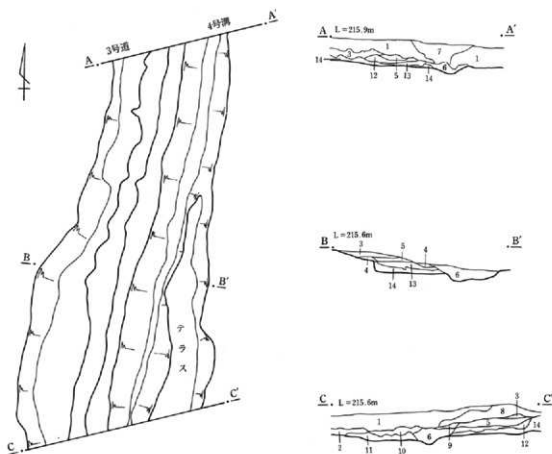


第201図 B 軽石下水田セクション・エレベーション図

第4章 白岩民部遺跡の調査

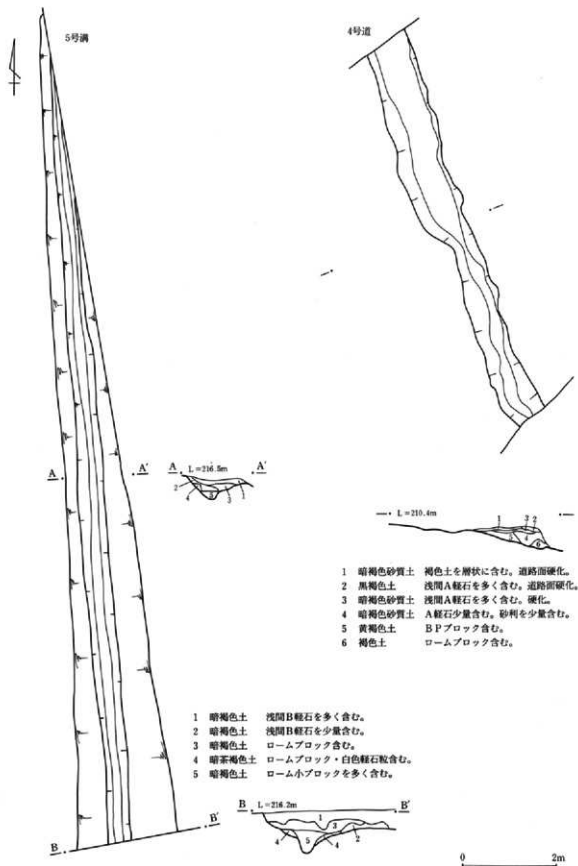


第202図 1～3号溝



- | | | |
|----|--------|-----------------------------|
| 1 | 暗灰色土 | 浅間A軽石を含む砂質土。耕作土。 |
| 2 | 暗灰色土 | 浅間A軽石を含む砂質土。黒色ブロックを含む耕作土。 |
| 3 | 灰褐色砂質土 | 浅間A灰を多く含み、色調明るい。 |
| 4 | 灰褐色砂質土 | 浅間A軽石少量含む。 |
| 5 | 浅間A軽石層 | |
| 6 | 暗褐色土 | 浅間A軽石少量含む。褐色土ブロック含む。 |
| 7 | 砂礫 | 水性堆積。 |
| 8 | 暗灰色砂質土 | 砂礫をラミナ状に含む。 |
| 9 | 暗灰色砂質土 | 浅間A灰を多く、浅間A軽石二次堆積ブロックを含む。 |
| 10 | 黒暗褐色土 | 浅間A軽石を少量含み、黒褐色土ブロックを含む。 |
| 11 | 黒暗褐色土 | 浅間A軽石を少量含み、褐色土ブロックを含む。 |
| 12 | 黒褐色土 | 浅間C軽石を少量含む。灰色アッシュを含んで色調明るい。 |
| 13 | 黒褐色土 | 浅間C軽石を含む。IV層主体。道路硬化面（第2面）。 |
| 14 | 黒褐色土 | 粘質土。 |

0 2m



第204図 5号溝・4号道